

リポジトリ・コンテンツの管理

10g リリース 3 (10.1.3.3.0)

部品番号 : B51302-01

2008 年 11 月

リポジトリ・コンテンツの管理, 10g リリース 3 (10.1.3.3.0)

部品番号: B51302-01

原本名: Managing Repository Content, 10g Release 3 (10.1.3.3.0)

原本協力者: Deanna Burke, Jean Wilson, Sandra Christiansen

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありえます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第1章：はじめに

概要	1-1
このガイドについて	1-1
対象読者	1-2
表記規則	1-2
新機能	1-3
その他の管理者ガイド	1-4
システムの概要	1-5
目的	1-5
ユーザー	1-6
管理アプリケーション	1-6
アプレットとしての管理アプリケーションの実行	1-7
スタンドアロン・モードでの管理アプリケーションの実行	1-8
Windows システムの場合	1-8
UNIX システムの場合	1-9
Configuration Manager アプリケーション	1-10
多目的画面	1-12
「Content Item View」画面	1-12
「User View」画面	1-14
「Define Filter」画面	1-15
「Show Columns」画面	1-21

第2章：コンテンツ・タイプの作成

概要	2-1
コンテンツ・タイプ	2-2
コンテンツ・タイプの処理	2-2
新規コンテンツ・タイプの作成	2-3
コンテンツ・タイプの編集	2-3
コンテンツ・タイプの削除	2-4

コンテンツ・タイプのインタフェース画面	2-4
「Content Types」画面	2-4
「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面	2-6

第3章：ネイティブ・コンテンツの変換

概要	3-1
ネイティブ・ファイルの変換	3-2
MIME タイプの識別	3-2
ネイティブ・アプリケーションとコンテンツの変換	3-3
ファイル・タイプと変換プログラムとの関連付け	3-4
ネイティブ・ファイル形式のインタフェース画面	3-5
「File Formats」画面	3-5
「Add New File Format」 / 「Edit File Format」画面	3-7
「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」画面	3-8

第4章：コンテンツ・フィールドの管理

概要	4-1
カスタム・フィールド	4-2
アプリケーション・フィールド	4-2
メタデータ・フィールド	4-3
事前定義のメタデータ・フィールド	4-4
カスタム・フィールドの管理	4-6
メタデータ・フィールドの追加	4-7
メタデータ・フィールドの編集	4-7
アプリケーション・フィールドの追加または編集	4-8
オプション・リストの定義	4-8
データベースの更新	4-9
検索索引の再構築	4-9
カスタム・フィールドのインタフェース画面	4-10
「Configuration Manager」：「Information Field」タブ	4-11
「Add Metadata Field Name」画面	4-13
「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面	4-14
カスタム情報フィールドの追加 / 編集：「Configure Option List」画面	4-16
「Option List Storage」画面	4-18
「Edit View Values」画面	4-20
「Option List」画面	4-21
「Edit Tree Definition」画面	4-22
「Update Database Design」画面	4-23
「Configuration Manager」：「Application Fields」タブ	4-25

「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」 画面	4-26
---	------

第 5 章：コンテンツ・リビジョンの管理

概要	5-1
Repository Manager	5-3
リビジョンの管理	5-3
リビジョンの表示	5-3
フィルタを使用したリビジョンの表示	5-4
最初の間合せのデフォルト・ソート順の変更	5-5
Repository Manager のインタフェース画面	5-6
Repository Manager のメイン画面	5-6
「Repository Manager」：「Content」タブ画面	5-8
コンテンツの管理	5-10
新規コンテンツ・アイテムの追加	5-10
コンテンツ・メタデータの表示	5-11
コンテンツ・メタデータの更新	5-11
Repository Manager からの期限切れコンテンツの確認	5-12
期限切れ通知の自動化	5-12
NotificationQuery	5-13
NotifyExtras	5-14
NotificationIntervalInDays	5-14
NotifyTime	5-14
NotificationMaximum	5-14
コンテンツのインタフェース画面	5-15
「Information」画面	5-15
「Add New Content Item」画面	5-16
「Update Content Info」画面	5-17
リビジョンの管理	5-18
新規リビジョンの追加	5-18
リビジョンのチェックアウト	5-19
リビジョン・チェックアウトの取消し	5-19
変換のためのリビジョンの再送信	5-20
リビジョンの削除	5-20
コンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンの削除	5-21
リビジョンのインタフェース画面	5-21
「Add New Revision」画面	5-22
「Check Out Item」画面	5-23
「Undo Check Out」画面	5-24
「Resubmit Revision」画面	5-25
「Delete Revision」画面	5-26

「Delete All Revisions」画面	5-27
ワークフロー・リビジョンの管理	5-28
ワークフローでのリビジョンの承認	5-28
ワークフローでのリビジョンの却下	5-29
ワークフロー・リビジョンのインタフェース画面	5-30
「Approve Revision」画面	5-30
「Reject Revision」画面	5-31

第6章：ユーザーに対するコンテンツのサブスクライブ

概要	6-1
サブスクリプション	6-2
サブスクリプションの方法	6-3
サブスクリプションの割当て	6-3
サブスクリプションの管理	6-3
基準サブスクリプションの追加	6-4
サブスクリプション基準の指定	6-4
サブスクリプションへのユーザーの追加	6-5
コンテンツ・リビジョンからのユーザーのサブスクライブ解除	6-5
基準サブスクリプションの編集	6-6
サブスクリプション情報の表示	6-6
基準サブスクリプションの削除	6-7
サブスクリプションのインタフェース画面	6-7
「Repository Manager」：「Subscriptions」タブ	6-8
「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」画面	6-9
「Fields」画面	6-10
「Users Subscribed」画面	6-11
「Define Filter」画面	6-12
「Content Item Subscribed」画面	6-13
「Add Subscription」画面	6-14
「Select User」画面	6-15
「Select Alias」画面	6-16
「Subscribers」画面	6-17
「Subscription Detail」画面	6-19

第7章：メタデータをカスタマイズするためのスキーマの使用方法

概要	7-1
DCL とメタデータ・スキーマ	7-3
スキーマの階層構造	7-4
スキーマの要素	7-5

表	7-5
ビュー	7-6
関係	7-7
スキーマベースのオプション・リストの例	7-8
スキーマのディレクトリ構造	7-8
スキーマの作成	7-9
基本スキーマの作成	7-10
公開サイクルの間隔の変更	7-12
スキーマのインタフェース画面	7-13
「Configuration Manager」: 「Tables」タブ	7-14
「Select Table」画面	7-15
「Create Table」/ 「Edit Table "name"」画面	7-16
「Add Column」/ 「Edit Column」画面	7-17
「Configuration Manager」: 「Views」タブ	7-18
「Add View」画面: 表の選択	7-19
「Add View」画面: 列の選択	7-20
「Add View」/ 「Edit View」画面: 「Info」タブ	7-21
「Add View」/ 「Edit View」画面: 列の変更	7-22
「Add View」/ 「Edit View」画面: 「Display」タブ	7-23
「Add View」/ 「Edit View」画面: 「Display」タブ: 「Edit Display Rule」	7-24
「Add View」/ 「Edit View」画面: 「Options」タブ	7-24
「Add View」/ 「Edit View」画面: 「Security」タブ	7-26
「Edit Values For View」画面	7-27
「Add Value」/ 「Edit Value」画面	7-28
Edit Values: Edit Batch	7-29
「Configuration Manager」: 「Relations」タブ	7-30
「Add Relationship」/ 「Edit Relationship」画面	7-31
「Edit Tree」画面	7-32
スキーマの例: 動的オプション・リスト	7-33

第 8 章: コンテンツ画面のカスタマイズでのプロファイルの使用方法

概要	8-1
コンテンツ・プロファイル	8-4
コンテンツ・プロファイルの要素	8-4
ルール	8-5
トリガー	8-5
プロファイルのリンク	8-5
コンテンツ・プロファイル・ルール	8-6
プロファイル・ルール	8-6
グローバル・ルール	8-7

ルール内のメタデータ・フィールドと属性	8-8
ルールでのアクティブ化条件	8-9
定義済オプシオン・リストを変更するための制限付きリスト	8-10
正規表現	8-10
一般的に使用される Java 正規表現の要素	8-11
制限付きリストの定義の例	8-12
コンテンツ・プロファイルとメタデータ編成	8-15
メタデータ・フィールドのグループ化でのルールの使用方法	8-15
解決ルール	8-17
再編成されたメタデータ・フィールドの結果の表示	8-19
メタデータ・フィールドの位置指定	8-19
メタデータ・フィールドの移動	8-25
ルールの管理	8-26
新規ルールの作成	8-27
既存ルールの編集	8-27
既存ルールの削除	8-28
新規グローバル・ルールの作成	8-28
既存グローバル・ルールの編集	8-28
既存グローバル・ルールの削除	8-29
ルールへのメタデータ・フィールドの追加	8-29
メタデータ・フィールドのグループ化	8-30
メタデータ・フィールド・グループへのヘッダーの追加	8-30
新規アクティブ化条件の定義	8-31
既存アクティブ化条件の編集	8-32
既存アクティブ化条件の削除	8-32
メタデータ・フィールドの属性の定義	8-33
メタデータ・フィールドの属性の編集	8-37
必須フィールドの表示の設定	8-39
プロファイル・ルールのインタフェース画面	8-39
「Configuration Manager」：「Rules」タブ	8-40
「Add Rule " <i>name</i> "」 / 「Edit Rule " <i>name</i> "」画面：	
「General」タブ	8-41
「Edit Group Header」画面	8-44
「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ	8-46
「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面	8-47
「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ /	
「General」タブ	8-48
「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ /	
「Clauses」タブ	8-52
「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ	8-54
「Edit Activation Condition」：「Side Effects」タブ	8-55
「Add Rule " <i>name</i> "」 / 「Edit Rule " <i>name</i> "」画面：	
「Fields」タブ	8-57
「Add Rule Field」画面	8-59
「Add Rule Field " <i>name</i> "」 / 「Edit Rule Field " <i>name</i> "」画面 ...	8-61

「Edit Default Value」：「Conditions」タブ	8-65
「Edit Default Value」：「Add Condition」画面	8-68
「Edit Default Value」：「Select Field」画面	8-69
「Edit Default Value」：「Custom」タブ	8-70
「Edit Derived Value」：「Conditions」タブ	8-70
「Edit Derived Value」：「Add Condition」画面	8-70
「Edit Derived Value」：「Select Field」画面	8-71
「Edit Derived Value」：「Custom」タブ	8-71
「Edit Restricted List」画面	8-72
コンテンツ・プロファイル・トリガー	8-73
トリガー	8-73
プロファイル・トリガー・フィールドの選択	8-74
プロファイル・トリガー・フィールドの無効化	8-74
「Edit Trigger Field」画面	8-75
コンテンツ・プロファイルの管理	8-76
新規プロファイルの作成および定義	8-76
既存プロファイルの編集	8-77
既存プロファイルの削除	8-77
プロファイルでのルールの管理	8-77
既存プロファイルへのルールの追加	8-78
既存プロファイルでのルールの優先順位付け	8-78
既存プロファイルからのルールの削除	8-78
プロファイルのプレビュー	8-79
プレビューするプロファイルのトラブルシューティング	8-79
what-If 分析を実行するための入力およびフィルタの使用	8-80
方法	8-80
ダイアログでのスクリプト文字列としての結果の評価	8-80
ブラウザでのシミュレートされたページとしての結果の評価	8-81
コンテンツ・プロファイルのインタフェース画面	8-82
「Configuration Manager」：「Profiles」タブ	8-82
「Add Profile」画面	8-84
「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面	8-84
「Profile Links」画面	8-87
「Check In Link」 / 「Search Link」画面：「Conditions」タブ	8-88
「Check In Link」 / 「Search Link」：「Add Condition」画面	8-90
「Check In Link」 / 「Search Link」画面：「Custom」タブ	8-90
「Add Rule」画面	8-91
「Preview Profile」画面	8-92
「Preview Results」画面	8-94
コンテンツ・プロファイルの例	8-95
部門ベースのコンテンツ・プロファイル	8-95
グローバル・ルールの作成	8-96
プロファイル・ルールの作成	8-98
部門ベースのプロファイルの作成	8-100

履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロファイル	8-101
非表示メタデータ・フィールドのプロファイル・ルールの作成	8-103
可視メタデータ・フィールドのプロファイル・ルールの作成	8-109
履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロファイルの作成	8-110
ユーザー・ロールに基づくコンテンツ・チェックインを制限するグローバル・ルール	8-111
Content Server でのグローバル・ルール違反に対する致命的エラー発行の有効化	8-112
コンテンツ・タイプのチェックインを制限するグローバル・ルールの作成	8-112
コンテンツ・タイプ・メタデータの変更を制限するグローバル・ルール	8-114
Content Server でのグローバル・ルール違反に対する致命的エラー発行の有効化	8-114
コンテンツ・タイプの変更を制限するグローバル・ルールの作成	8-114

付録 A: Link Manager によるリンク付きコンテンツの管理

概要	A-1
管理対象リンク	A-3
リンク抽出プロセス	A-3
ファイル形式と変換	A-4
リンク・ステータス	A-5
リンクの管理	A-5
LinkManagerPatterns 表	A-6
リンク・パターンとカスタマイズの例	A-8
Link Manager データベース表	A-9
ManagedLinks 表	A-9
LinkReferenceCount 表	A-10
Link Manager のフィルタ	A-10
extractLinks フィルタ	A-11
linkParseService フィルタ	A-11
sortAndDecodeLinks フィルタ	A-11
Site Studio の統合	A-12
Site Studio で管理されるリンクのタイプ	A-13
リンク管理	A-14
「Managed Links Administration」 ページ	A-14
リフレッシュ・アクティビティのステータス	A-16
リフレッシュの代替方法	A-16
ManagedLinks 表のリンクの再計算	A-17
ManagedLinks 表のリンクのリフレッシュ	A-17

参照カウントのリフレッシュ	A-17
リフレッシュ・アクティビティの中断	A-18

索引

1

はじめに

概要

この項では、このガイドの内容について紹介します。内容は次のとおりです。

- ❖ [このガイドについて](#) (1-1 ページ)
- ❖ [新機能](#) (1-3 ページ)
- ❖ [その他の管理者ガイド](#) (1-4 ページ)
- ❖ [システムの概要](#) (1-5 ページ)
- ❖ [管理アプリケーション](#) (1-6 ページ)
- ❖ [Configuration Manager アプリケーション](#) (1-10 ページ)
- ❖ [多目的画面](#) (1-12 ページ)

このガイドについて

このガイドでは、カスタマイズされたコンテンツ・タイプの作成、スキーマおよびコンテンツ・プロファイルの処理、サブスクリプションの処理、リビジョンの管理など、コンテンツの表示や処理に影響を与える作業について説明します。





- ❖ [対象読者](#) (1-2 ページ)
- ❖ [システムの概要](#) (1-5 ページ)

対象読者

このガイドは、Content Server に対するコンテンツの管理担当者を対象としています。

表記規則

- ❖ `<install_dir>/` の表記は、システム上で Content Server がインストールされている場所を指すために使用します。
- ❖ スラッシュ (/) は、パス名のディレクトリ・レベルを区切るために使用します。これは、Windows ファイル・システムまたは UNIX システム上のファイルを指す場合に当てはまります。ディレクトリ名の後ろには必ずスラッシュが付きます。
- ❖ 注意、技術ヒント、重要な通知、警告では、次の表記を使用します。

記号	説明
	注意 ：情報に対する特別な注意を促します。
	技術ヒント ：作業を容易にするために使用できる情報を示します。
	重要 ：必須の手順または必須の情報を示します。
	警告 ：データの損失または重大なシステム問題の原因となる可能性のある情報を示します。

新機能

- ❖ **アプリケーション・フィールド**は、カスタム・コンポーネント、HCSP ファイルおよび HCSF ファイルで使用するために作成できるカスタム・フィールドです。アプリケーション・フィールドにより、フォームで依存選択リストなどの **Content Server** 機能を使用できます。デフォルトでは、これらのフィールドは標準のチェックイン・フォームや検索フォームでは表示されませんが、カスタム・テンプレートでは使用されます。アプリケーション・フィールドに関する新しい情報は、[第4章「コンテンツ・フィールドの管理」](#)に追加されています。概念情報は、4-2 ページの「[アプリケーション・フィールド](#)」を参照してください。
- ❖ **スキーマの変更**が、スキーマ・インタフェースに加えられました。これらの変更については、[第7章「メタデータをカスタマイズするためのスキーマの使用法」](#)に記述されています。
- ❖ **プロファイルの変更**は、プロファイルの実装における柔軟性が高まるように加えられました。たとえば、次のような変更が加わりました。
 - フィールドのグループ全体を表示するか非表示にすることができるよう、グループ・ヘッダーが調整されました。8-44 ページの「[「Edit Group Header」画面](#)」を参照してください。
 - 新しい Side Effects 機能により、ページの表示やルールのアクティブ化を簡単に制御できます。次のことを含め、できることの詳細は、8-55 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Side Effects」タブ](#)」を参照してください。
 - プロファイル・ルールで新しい値を設定することにより、プロファイルに含まれるメタデータ・フィールドのデフォルト・ラベルを簡単に置き換えます。8-55 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Side Effects」タブ](#)」を参照してください。
 - アクティブ化条件が当てはまる場合、Idoc スクリプトを使用するローカル・データに送信される名前: 値ペアを Idoc スクリプト変数として簡単に追加します。8-61 ページの「[「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面](#)」を参照してください。
 - アクティブ化条件が当てはまる場合のみ評価されるカスタム Idoc スクリプトをルールに追加し、ルールで他のルールのアクティブ化を制御できるようにします。8-55 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Side Effects」タブ](#)」を参照してください。
- ❖ **Link Manager** は、Content Server 付属のオプション・コンポーネントです。インストールされると、索引付きコンテンツ・アイテムの URL リンクを、データベース表 (ManagedLinks) への格納のために抽出する前に、評価、フィルタ処理および解析します。詳細は、[付録 A「Link Manager によるリンク付きコンテンツの管理」](#)を参照してください。

その他の管理者ガイド

管理者は、コンテンツ・サーバーのユーザー、コンテンツおよびシステム構成の設定、維持および管理を行います。管理者の一般的な作業には、ファイルの管理および索引付けを行うためのシステムの構成、情報のアーカイブおよびレプリケート、コンテンツ・サーバー・セキュリティに関する処理、システム・プロパティの調整、ログ・ファイルの確認などがあります。

Content Server ソフトウェアの管理者および副管理者向けのガイドには、次のものがあります。

❖ **Getting Started (PDF および HTML)**

このガイドでは、製品の Oracle スイートの概要、およびそれらの設定や実装に関する一般的なガイドラインを説明します。

❖ **セキュリティおよびユーザー・アクセスの管理 (PDF および HTML)**

このガイドでは、セキュリティ・モデルの計画や実装、ユーザーの追加や削除およびアカウントの実装など、ユーザー管理に関する作業について説明します。また、外部ユーザー・ベースを Content Server と統合方法も説明します。最も一般的なセキュリティ統合である Active Directory および LDAP についても詳細に説明しています。

❖ **リポジトリ・コンテンツの管理 (PDF および HTML)**

このガイドでは、カスタマイズされたコンテンツ・タイプの作成、スキーマの使用、Web サイトの構築、ワークフローでのコンテンツの移動など、コンテンツの表示や処理に影響を与える作業について説明します。

❖ **システム設定およびプロセスの管理 (PDF および HTML)**

このガイドでは、リビジョンや索引付けの管理、プロバイダの構成、システム・プロパティに関する作業など、継続的にシステム構成に影響を与える作業について説明します。

❖ **管理チュートリアル (PDF および HTML)**

このガイドには、Oracle ベースのコンテンツ管理ソリューション（の一部）を管理する必要があるユーザー向けの管理チュートリアルが含まれています。

❖ **Enterprise Search Administration and User Guide (PDF および HTML)**

このガイドでは、エンタープライズ検索の管理情報を提供します。これにより、複数のコンテンツ・サーバー・インスタンスを、単一のインスタンスであるかのように検索できます。

❖ Troubleshooting Guide (PDF および HTML)

このガイドには、Content Server 環境のトラブルシューティングに関する一般情報や問題の診断方法が含まれており、特定領域のトラブルシューティングに関するより詳細な情報が提供されています。

❖ リリース・ノート (印刷および PDF)

Content Server ソフトウェアには、リリース・ノートが同梱されています。リリース・ノートには各ソフトウェアの新規リリースの新機能や拡張機能が記載されており、ソフトウェアのインストールおよび使用方法に関する固有で最新の考慮事項も記載されています。リリース・ノートは重要なドキュメントです。Oracle ソフトウェアのインストールまたは更新前には、必ずリリース・ノートをお読みください。



注意：Content Server に対するオプションのアドオンには通常、それぞれ独自の管理ガイドがあり、アドオンの配布メディア上に PDF ファイルとして（通常は /documentation ディレクトリに）含まれています。

システムの概要

この項の内容は次のとおりです。

❖ [目的](#) (1-5 ページ)

❖ [ユーザー](#) (1-6 ページ)

目的

Content Server は、低コストのアクセス・ポイントとして Web サイトを使用して、ビジネス情報を共有、管理および配布するために使用します。

Web 用に設計されたこのソフトウェアは、中規模から大規模までの企業を対象とした、コンテンツのチェックイン、チェックアウト、リビジョンの管理および Web 対応形式での自動公開機能を持つセキュアなビジネス・ライブラリを構築するための他に類のないソリューションと考えられます。認可されたユーザーは、時間や場所を選ばずに最新情報を参照できます。1 つの強力なナレッジ配布システムで、手紙、レポート、製品図面、スプレッドシート、マニュアル、販売文献など、ほとんどあらゆるタイプのファイルをリンクできます。

ユーザー

Content Server は、2 つのタイプのユーザーおよび管理者向けに設計されています。

- ❖ **コンシューマ**：ファイルの検索、表示および印刷のみが必要なユーザー
- ❖ **コントリビュータ**：ファイルの作成および変更が必要なユーザー
- ❖ **管理者**：インスタンス全体を監視する管理者
- ❖ **副管理者**：インスタンスのサブセットを監視する管理者

一般的なシステムでは、大部分のユーザーはコンシューマです。ファイルがセキュリティで保護されている場合を除き、これらのユーザーには、コンテンツ・サーバー・システムへのアクセスにユーザー名やパスワードは必要ありません。ファイルの整合性を保護するため、コントリビュータがシステムのファイルをチェックインおよびチェックアウトするには、ユーザー名とパスワードが必要です。

通常、大部分の管理者は副管理者です。システム管理者によって割り当てられた権限に対応するソフトウェアの一部を管理します。

管理アプリケーション

システムには、Content Server のユーザー・アクセスを構成および維持する管理アプリケーションが備わっています。



注意：ブラウザから Java アプレット（Content Server 管理アプレットまたは複数ファイル・アップロード・アプレットなど）を開くときには、Sun 社の JDK バージョン 1.4 または 1.5 Java プラグインを使用することをお勧めします。

「Administration」ページからは、管理アプレットや構成ツールのページにアクセスできます。このページにアクセスするには、管理者または副管理者としてログインし、ポータル・ナビゲーション・バーで「Administration」トレイをクリックします。次に、「Admin Applets」をクリックします。

図 1-1 管理アプレットのメニュー



多くのアプリケーションは、サーバーではスタンドアロン・アプリケーションとして、ブラウザからはアプレットとして、または各ツールのアプリケーション・メニューから起動できます。

アプレットとしての管理アプリケーションの実行

Content Server 管理アプリケーションのいくつかは、コンテンツ・サーバーにアクセスできるブラウザからアプレットとして実行できます。アプレットは、リモート管理に便利です。

バッチ・ローダー、コンポーネント・ウィザード、システム・プロパティおよび Content Server アナライザの各ユーティリティは、アプレットとして実行できません。セキュリティ上の理由から、これらのユーティリティは、コンテンツ・サーバーがインストールされているコンピュータからスタンドアロン・モードで実行する必要があります。1-8 ページの「[スタンドアロン・モードでの管理アプリケーションの実行](#)」を参照してください。

アプリケーションのスタンドアロン・バージョンで使用可能ないくつかの機能は、アプレット・バージョンでは使用できません。詳細は、各アプリケーションのドキュメントを参照してください。

管理アプリケーションを Java 対応ブラウザ内の Java アプレットとして実行するには、次のようにします。

1. ブラウザ・ウィンドウを開きます。
2. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
3. ポータル・ナビゲーション・バーで「**Administration**」トレイ・リンクをクリックします。
4. 「**Admin Applets**」リンクをクリックします。

スタンドアロン・モードでの管理アプリケーションの実行

Content Server の管理アプリケーションはすべて、Content Server がインストールされているコンピュータからスタンドアロン・モードで実行できます。これらのプログラムの起動に必要な方法は、Windows と UNIX のインストールでは多少異なります。

アプリケーションのスタンドアロン・バージョンを実行すると、セキュリティはブラウザ・アプレットより強力になり、パスワードを Web またはネットワークから取得あるいはコピーされることなく送信できます。

Windows システムの場合

Windows オペレーティング・システムでスタンドアロンの管理アプリケーションを実行するには、次のようにします。

1. Windows の「スタート」メニューからアプリケーションを選択します。
 - 構成アプリケーションの 1 つを実行するには、「スタート」→「プログラム」→「Content Server」→「*instance*」→「*application*」を選択します。
 - 管理ユーティリティの 1 つを実行するには、「スタート」→「プログラム」→「Content Server」→「*instance*」→「Utilities」→「*utility*」を選択します。

コンポーネント・ウィザードとシステム・プロパティ以外のすべてのアプリケーションでは、ログイン画面が表示されます。コンポーネント・ウィザードとシステム・プロパティでは、アプリケーションのメイン画面が表示されます。



技術ヒント: ログイン画面またはアプリケーション画面が表示されるまでに数秒かかり、画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。

2. 管理者ログイン名およびパスワードを入力します。
3. 「OK」をクリックします。

アプリケーションのメイン画面が表示されます。

UNIX システムの場合

UNIX オペレーティング・システムでスタンドアロンの管理アプリケーションを実行するには、次のようにします。

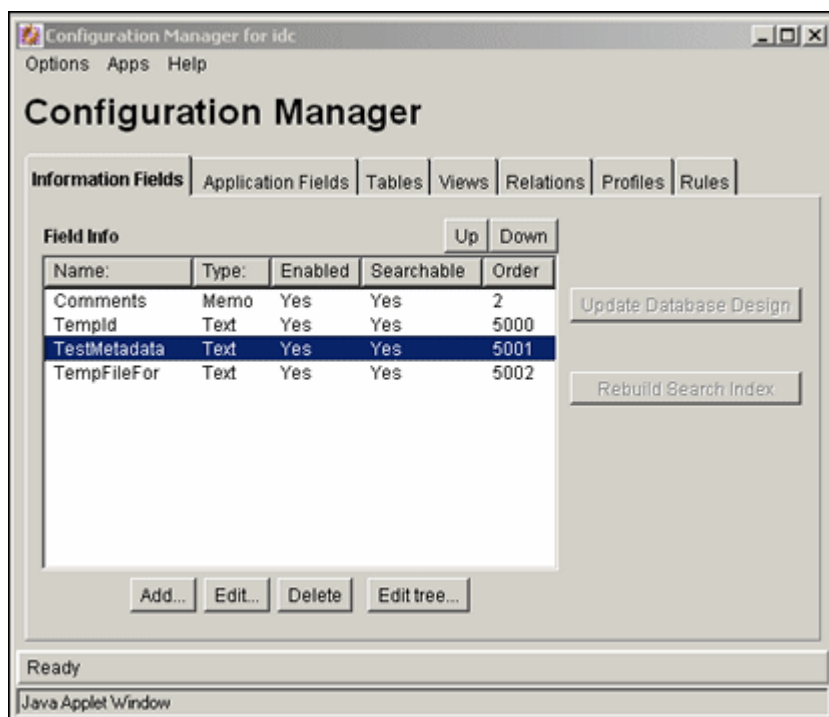
1. `<install_dir>/bin/` ディレクトリに移動します。
2. 実行可能なアプリケーションが表示されます。**`/application_name`** を入力します。
application_name は 1 つの実行可能ファイルの名前です。アプリケーションが表示されていない場合は、次の例のように、**IntradocApp** アプリケーションに対するパラメータとして入力できます。

```
%<install_dir>%/bin/intradocApp workflow
```
3. **[Enter]** を押します。

コンポーネント・ウィザードとシステム・プロパティ以外のすべてのアプリケーションでは、ログイン画面が表示されます。コンポーネント・ウィザードとシステム・プロパティでは、アプリケーションのメイン画面が表示されます。
4. 管理者ログイン名およびパスワードを入力します。
5. **「OK」** をクリックします。

アプリケーションのメイン画面が表示されます。

CONFIGURATION MANAGER アプリケーション



Configuration Manager アプリケーションは、コンテンツ・タイプ、ファイル形式およびカスタム・メタデータ・フィールドの管理に使用される管理アプリケーションです。この画面にアクセスするには、1-6 ページの「[管理アプリケーション](#)」を参照してください。



注意： Configuration Manager で作業できるのは管理者のみです。副管理者は、このアプリケーションにアクセスできません。

機能	説明
「Options」メニュー	情報フィールドとファイル形式を管理するための追加アプリケーションを開きます。スキーマの再公開、トレース・プログラムの設定および Configuration Manager アプリケーションの終了を行うオプションもあります。これらのオプションの多くは、ポータル・ナビゲーション・バーの「 Administration 」トレイ・リンクの下にある「 Actions 」ショートカット・メニューでも使用できます。

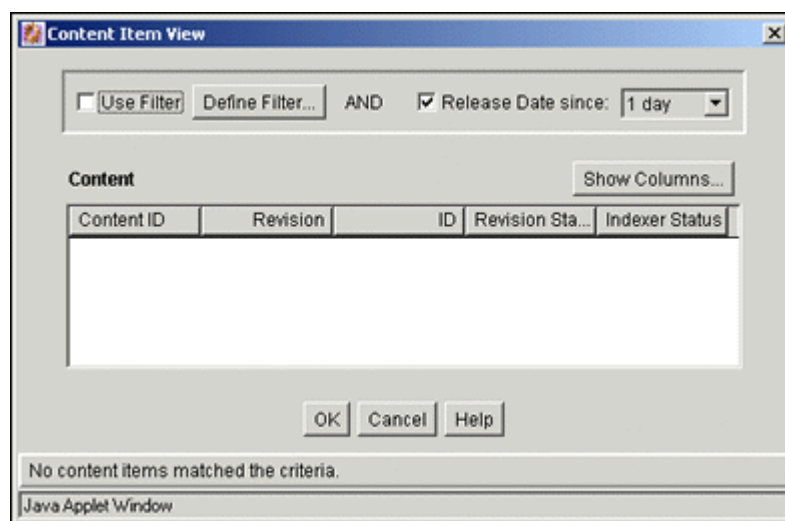
機能	説明
「Apps」メニュー	他の管理アプリケーションを開くときに使用します。他のアプリケーションは、現行アプリケーションと同じモード（アプレットまたはスタンドアロン）で開きます。
「Help」メニュー	<p>「Contents」：コンテンツ・サーバー・オンライン・ヘルプを表示します。</p> <p>「About Content Server」：コンテンツ・サーバーのバージョン、ビルドおよび著作権情報を表示します。</p>
「Information Fields」タブ	カスタム・メタデータ・フィールドを追加、編集および削除するときに使用します。詳細は、4-11 ページの「 Configuration Manager 」：「 Information Field 」タブを参照してください。
「Application Fields」タブ	Content Server フォームのカスタマイズに使用されるフィールドを追加、編集および削除するときに使用します。詳細は、4-2 ページの「 アプリケーション・フィールド 」を参照してください。
「Tables」タブ	スキーマ用の表を追加および定義するときに使用します。7-14 ページの「 Configuration Manager 」：「 Tables 」タブを参照してください。
「Views」タブ	スキーマ用のビューを追加および定義するときに使用します。7-18 ページの「 Configuration Manager 」：「 Views 」タブを参照してください。
「Relations」タブ	表と列の関係を追加および定義するときに使用します。7-30 ページの「 Configuration Manager 」：「 Relations 」タブを参照してください。
「Profiles」タブ	コンテンツ・プロファイルを作成および定義するときに使用します。8-82 ページの「 Configuration Manager 」：「 Profiles 」タブを参照してください。
「Rules」タブ	プロファイルに含めるルールを作成および定義するときに使用します。8-40 ページの「 Configuration Manager 」：「 Rules 」タブを参照してください。

多目的画面

次の画面は、多くの管理アプリケーションで各種の詳細な目的のために使用されます。ただし、基本的な使用方法は同じです。

- ❖ 「[Content Item View](#)」画面 (1-12 ページ)
- ❖ 「[User View](#)」画面 (1-14 ページ)
- ❖ 「[Define Filter](#)」画面 (1-15 ページ)
- ❖ 「[Show Columns](#)」画面 (1-21 ページ)

「Content Item View」画面

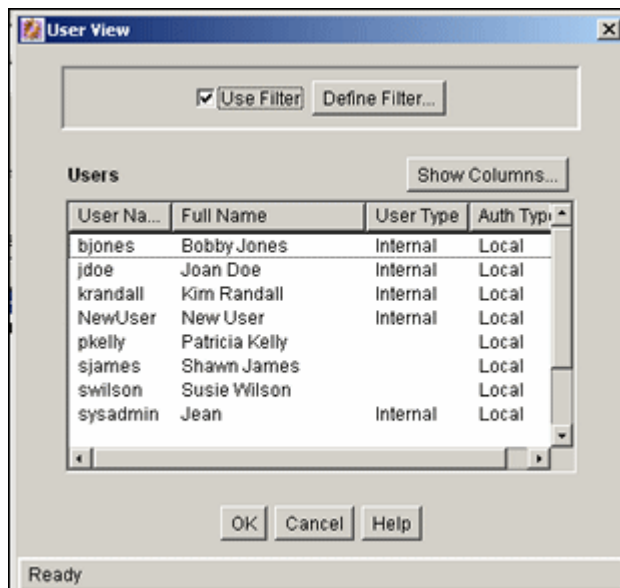


「Content Item View」画面は、様々なコンテンツ・プロファイル・シナリオのプレビュー時に使用するコンテンツを選択するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Preview Profile](#)」画面 (8-92 ページ) の「Content ID」フィールドに対応する「**Select**」ボタンをクリックします。「Content Item View」画面には、次のコンテンツ・プロファイル画面からもアクセスできます。

- ❖ Edit Activation Condition: 8-46 ページの「[Edit Activation Condition](#)」 : 「[Conditions](#)」タブを参照してください。
- ❖ Edit Default Value: 8-65 ページの「[Edit Default Value](#)」 : 「[Conditions](#)」タブを参照してください。
- ❖ Edit Derived Value: 8-70 ページの「[Edit Derived Value](#)」 : 「[Conditions](#)」タブを参照してください。

機能	説明
「Use Filter」 チェック・ボック クス	<p>「Content」 ペインに含まれるコンテンツ・アイテムのリストを絞るときに使用します。</p> <p>選択: 選択および定義された任意のフィルタ・フィールドや、フィルタ処理（指定されている場合）以後のリリース日に基づいた、リスト内のコンテンツ・アイテムのフィルタ処理を有効にします。</p> <p>選択解除: リスト内のコンテンツ・アイテムのフィルタ処理を無効にします。</p>
「Define Filter」 ボタン	<p>「Define Filter」 画面（1-15 ページ）を表示し、ここからフィルタを選択できます。アイテムを選択すると、それらのフィルタ・フィールドがアクティブになります。</p>
「Release Date since」 チェッ ク・ボックス / 日付リスト	<p>選択: 指定した経過時間（1 日、1 週間または 4 週間）以後の各々のリリース日に基づいた、リスト内のコンテンツ・アイテムのフィルタ処理を有効にします。</p> <p>選択解除: リスト内のコンテンツ・アイテムのフィルタ処理を無効にします。</p>
「Show Columns」 ボタン	<p>「Show Columns」 画面（1-21 ページ）を表示します。この画面は、「Content」 リストに含まれるコンテンツ・アイテムごとに表示されるプロパティ列を選択するときに使用します。アイテムを選択すると、それらのプロパティ列がアクティブになります。</p>
「Content」 ペイン	<p>「Content」 アイテム・リストに含まれるコンテンツ・アイテムごとに、選択した表示列の適切な値が表示されます。</p>

「User View」画面



「User View」画面は、プロフィール・シナリオのプレビュー時に含めるユーザーを選択するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Preview Profile](#)」画面（8-92 ページ）の「User Name」フィールドに対応する「**Select**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Use Filter」 チェック・ボックス	<p>「Users」ペインに含まれるユーザーのリストを絞るときに使用します。</p> <p>選択: 選択した基準に基づいたリスト内のユーザーのフィルタ処理を有効にします。</p> <p>選択解除: リスト内のユーザーのフィルタ処理を無効にします。</p>
「Define Filter」 ボタン	<p>「Define Filter」画面（1-15 ページ）を表示し、ここからフィルタを選択できます。アイテムを選択すると、それらのフィルタ・フィールドがアクティブになります。</p>
「Show Columns」 ボタン	<p>「Show Columns」画面（1-21 ページ）を表示します。この画面は、「Users」リストに含まれるユーザーごとに表示されるプロパティ列を選択するときに使用します。アイテムを選択すると、それらのプロパティ列がアクティブになります。</p>
「Users」 ペイン	<p>「Users」リストに含まれるユーザーごとに、選択した表示列の適切な値が表示されます。</p>

「Define Filter」画面

The 'Define Filter' dialog box is a Java Applet Window. It contains a list of filter criteria, each with a checkbox and an input field or dropdown menu. The criteria are:

- ☐ Content ID
- ☐ Title
- ☐ Author
- ☐ Type
- ☐ Security Group
- ☐ Account
- ☐ Checked out
- ☐ Checked out by
- ☐ Revision Status
- ☐ Indexer Status
- ☐ Conversion Status
- ☐ Indexer Cycle
- ☐ Workflow State
- ☐ Revision Rank >=
- ☐ Revision Rank <
- ☐ Publish Type
- ☐ Publish Status
- ☐ Latest Revision
- ☐ Check In Date >=
- ☐ Check In Date <
- ☐ Indexed Date >=
- ☐ Indexed Date <
- ☐ Release Date >=
- ☐ Release Date <
- ☐ Expiration Date >=
- ☐ Expiration Date <
- ☐ Comments

Legend: % = Match Many _ = Match One


Buttons: OK, Cancel, Help

「Define Filter」画面は、いくつかの管理アプリケーションの画面で表示されるリビジョン、ユーザーなどのリストを絞るときに使用します。フィルタ・フィールドをアクティブにするために、1つ以上のチェック・ボックスを選択します。

表示されるアイテムは、入力した基準に基づいてフィルタ処理されます。次のワイルドカードは、これらのフィールドで使用できます。

- ❖ MS Access または MSDE では、* は 1 つ以上の文字、? は 1 つの文字を表します。
- ❖ その他のすべてのデータベースでは、% は 1 つ以上の文字、_ は 1 つの文字を表します。

フィールド	説明
「Content ID」 フィールド	コンテンツ・アイテムの一意のコンテンツ ID。
「Title」 フィールド	リビジョンのタイトル。
「Author」 フィールド	リビジョンをチェックインしたユーザー。
「Type」 フィールド	リビジョンのコンテンツ・タイプ。
「Security Group」 フィールド	リビジョンに割り当てられたセキュリティ・グループ。
「Account」 フィールド	リビジョンに割り当てられたアカウント。このフィールドは、アカウントが有効な場合のみ表示されます。
「Checked out」 フィールド	リビジョンがチェックアウトされているかどうかを指定します。
「Checked out by」 フィールド	リビジョンをチェックアウトしたユーザー。

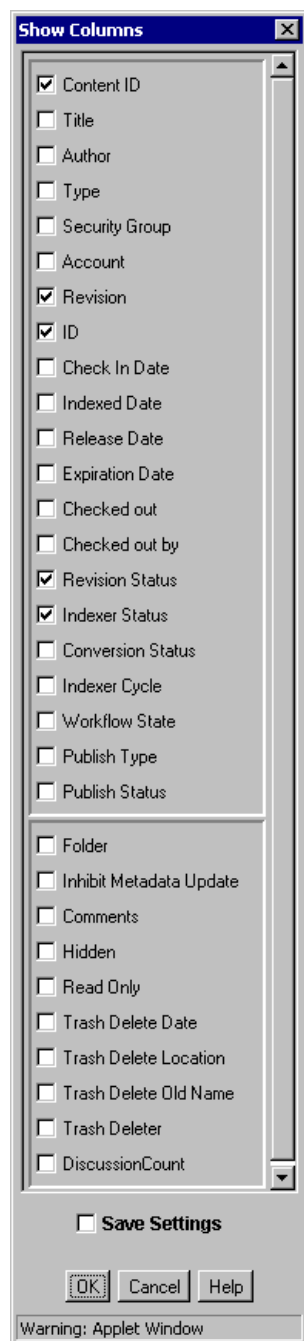
フィールド	説明
「Revision Status」 フィールド	<p>リビジョンのステータス。</p> <p>Done: リビジョンは、指定したリリース日にリリースされるまで待機しています。</p> <p>Edit: リビジョンは、ワークフローの最初のコントリビューション・ステップです。</p> <p>GenWWW: リビジョンは、Web で表示可能な形式に変換中か、索引付け中か、さもなければ変換または索引付けに失敗しています。</p> <p>Review: リビジョンはワークフロー内にあり、確認中です。</p> <p>Pending: リビジョンは、基本ワークフローにあり、ワークフローですべてのリビジョンが承認待ちです。</p> <p>Released: リビジョンは、コンテンツ・サーバーで使用可能です。</p> <p>Expired: リビジョンは、コンテンツ・サーバーで検索や表示に使用できなくなっています。リビジョンは削除されていませんが、期限切れ通知を使用していない場合、管理者しかアクセスできません。詳細は、5-12 ページの「期限切れ通知の自動化」を参照してください。</p> <p>Deleted: リビジョンは、削除されており、次の索引付けサイクル中にコンテンツ・サーバーから完全に削除されるのを待っています。</p>
「Indexer Status」 フィールド	<p>リビジョンの索引付けステータス。</p> <p>New: リビジョンはチェックインされていますが、索引付けはされていません。</p> <p>Current: リビジョンは最新リビジョンです。</p> <p>Old: リビジョンは、最新リビジョンではありません。</p> <p>Workflow: リビジョンは、ワークフロー内にあります。</p> <p>Processing: リビジョンは、索引付けの準備中です。</p> <p>Update: リビジョンのメタデータは更新されていますが、リビジョンは索引付けされていません。</p> <p>Indexing: リビジョンは索引付け中です。</p> <p> 注意： どのコンテンツ・アイテムも一度に 1 つのリビジョンのみが「Current」、「Indexing」または「Update」のいずれかのステータスになります。</p>

フィールド	説明
「Conversion Status」フィールド	<p>リビジョンの変換ステータス。</p> <p>Converted: リビジョンは変換に成功し、Web で表示可能なファイルが使用可能です。</p> <p>Processing: リビジョンは、Inbound Refinery によって変換中です。</p> <p>Failed: リビジョンは、削除またはロックされたか、破損したか、さもなければ検証エラーが発生しました。</p> <p>MetaData Only: 全文索引付けが省略され、リビジョンのメタデータのみが索引付けされました。</p> <p>Refinery PassThru: Inbound Refinery ではリビジョンの変換に失敗し、ネイティブ・ファイルを Web にパススルーしました。</p> <p>Incomplete Conversion: 有効な Web 表示可能ファイルが作成され、全文検索付けされた後、変換でエラーが発生しました。</p>
「Indexer Cycle」フィールド	<p>インデクサ・サイクルでのリビジョンの状態。考えられる値は、次のとおりです。</p> <p>Idle: リビジョンは、インデクサ・サイクル内にはありません。</p> <p>Loading for Active: リビジョンは、更新サイクルのためにロード中です。</p> <p>Indexed for Active: リビジョンは、更新サイクル中に索引付けされています。</p> <p>Loading for Rebuild: リビジョンは、再構築サイクルのためにロード中です。</p> <p>Indexed for Rebuild: リビジョンは、再構築サイクル中に索引付けされています。</p> <p>Rebuilt: リビジョンは、再構築サイクルにより処理されました。</p> <p>Updated: リビジョンは、更新サイクルにより処理されました。</p>


フィールド	説明
「Workflow State」フィールド	<p>リビジョンのワークフローの状態。考えられる値は、次のとおりです。</p> <p>Reviewer/Contributor: リビジョンは、割り当てられたユーザーがリビジョンを編集および確認できるワークフロー・ステップにあります。</p> <p>Contributor: リビジョンは、割り当てられたユーザーがリビジョンの編集しかできないワークフロー・ステップにあります。</p> <p>Reviewer: リビジョンは、割り当てられたユーザーがリビジョンの確認しかできないワークフロー・ステップにあります。</p> <p>Pending: リビジョンは、基本ワークフローにあり、すべてのステップが完了しています。ただし、ワークフローを完了し、終了するには、基本ワークフロー内のすべてのコンテンツ・アイテムで、すべてのステップを完了する必要があります。</p>
Revision Rank >= および Revision Rank <	<p>リビジョンが特定の数以上か、または未満かを指定するときに使用します。</p>
「Publish Type」フィールド	<p>コンテンツ・パブリッシャで使用するリビジョンのコンテンツ・タイプ。</p>
「Publish Status」フィールド	<p>コンテンツ・パブリッシャで使用するリビジョンの公開ステータス。</p> <p>Content: リビジョンは、ステージングまたは公開されていないか、ワークローにありません。</p> <p>Published: リビジョンは、コンテンツ・パブリッシャにより公開されています。</p> <p>Staging: リビジョンは、コンテンツ・パブリッシャのステージング・プロセスにあります。</p> <p>Workflow: リビジョンは、ワークフロー内にあります。</p>
「Latest Revision」フィールド	<p>ファイルの最新リビジョンのみを表示します。</p>

フィールド	説明
指定日のフィールド	<p>特定の日付の当日またはその後か、それより前のコンテンツを指定するときに使用します。考えられる日付のフィールドは次のとおりです。</p> <p>Check In Date: リビジョンがコンテンツ・サーバーにチェックインされた日。</p> <p>Indexed Date: リビジョンが最後に索引付けされた日。</p> <p>Release Date: リビジョンが最後にリリースされた日。</p> <p>Expiration Date: リビジョンの有効期限。</p>
カスタム・フィールド	フィルタ・フィールドとして任意のカスタム・メタデータ・フィールドが使用できます。

「Show Columns」画面



「Show Columns」画面は、いくつかの管理アプリケーションの画面で表示される列を選択するときに使用します。

機能	説明
チェック・ボックス	<p>選択: フィールドは、フィルタを使用したリビジョンの表示（5-4 ページ）または「Content Item Subscribed」画面（6-13 ページ）に表示されます。</p> <p>選択解除: フィールドは、「Repository Manager」画面または「Content Item Subscribed」画面では表示されません。</p> <p> 注意: フィールドの説明は、1-15 ページの「Define Filter」画面」を参照してください。</p>
「Save Settings」 チェック・ボックス	<p>選択: 列の設定は、「Repository Manager」画面または「Content Item Subscribed」画面の「Content」タブが表示されるたびに適用されます。</p> <p>選択解除: 列の設定は、「Repository Manager」画面または「Content Item Subscribed」画面の「Content」タブが閉じられるまでしか適用されません。</p>

2

コンテンツ・タイプの作成

概要

この章の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [コンテンツ・タイプ](#) (2-2 ページ)

作業

- ❖ [新規コンテンツ・タイプの作成](#) (2-3 ページ)
- ❖ [コンテンツ・タイプの編集](#) (2-3 ページ)
- ❖ [コンテンツ・タイプの削除](#) (2-4 ページ)

インターフェース

- ❖ [「Content Types」画面](#) (2-4 ページ)
- ❖ [「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面](#) (2-6 ページ)

コンテンツ・タイプ

ファイルは、コンテンツ・サーバー内で、コンテンツ・タイプ別に指定されたディレクトリにグループ化されています。

- ❖ コンテンツ・タイプは、ドキュメントが **weblayout** ディレクトリと **vault** ディレクトリに格納されているサブディレクトリの名前になります。
- ❖ コンテンツ・タイプは、部門（ENG、MKTG および HR）、ドキュメント・タイプ（MEMO、FORM および SPREADSHEET など）、または使用を希望するその他のモデルに対応させることができます。
- ❖ **Content Server** ではデフォルトでいくつかの部門のコンテンツ・タイプ（ADACCT、ADCORP など）が定義されていますが、これらは編集や削除ができます。
- ❖ 各コンテンツ・タイプには GIF イメージが割り当てられており、ユーザーは検索結果ページでコンテンツ・タイプを識別するのに役立ちます。**Content Server** にはいくつかの GIF イメージが用意されていますが、独自のイメージを作成し、割り当てることもできます。
- ❖ 管理可能な数のコンテンツ・タイプ（通常は 50 未満）を作成します。コンテンツ・タイプが多すぎると、システムの維持に必要な作業量が増え、コントリビュータが正しいコンテンツ・タイプをそれぞれのファイルに割り当てにくくなります。
- ❖ コンテンツ・タイプの構成時には、類似情報をグループ化する際に 1 つのコンテンツ・タイプに同じ接頭辞を使用することを検討してください。たとえば、接頭辞 MEMO は、MEMO_INT、MEMO_EXT、MEMO_EXEC というコンテンツ・タイプに使用されます。

コンテンツ・タイプの処理

コンテンツ・タイプを処理する際に行う標準的な作業は次のとおりです。

- ❖ [新規コンテンツ・タイプの作成](#) (2-3 ページ)
- ❖ [コンテンツ・タイプの編集](#) (2-3 ページ)
- ❖ [コンテンツ・タイプの削除](#) (2-4 ページ)

新規コンテンツ・タイプの作成

新規コンテンツ・タイプを作成するには、次のようにします。

1. [Configuration Manager アプリケーション](#) (1-10 ページ) の「Options」メニューから「Content Types」を選択します。
「Content Types」画面 (2-4 ページ) が表示されます。
2. 「Add」をクリックします。
「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面 (2-6 ページ) が表示されます。
3. 「Name」と「Description」に名前と説明を入力します。
4. 「GIF」リストからイメージを選択します。
5. 「OK」をクリックします。



注意: 新規のコンテンツ・タイプを追加すると、スキーマを更新して、メタデータ・フィールドまたはオプション・リストの値を確認する必要があります。スキーマの詳細は、7-3 ページの「[DCL とメタデータ・スキーマ](#)」を参照してください。

コンテンツ・タイプの編集

コンテンツ・タイプを編集するには、次のようにします。

1. [Configuration Manager アプリケーション](#) (1-10 ページ) の「Options」メニューから「Content Types」を選択します。
「Content Types」画面 (2-4 ページ) が表示されます。
2. 「Edit」をクリックします。
「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面 (2-6 ページ) が表示されます。
3. 変更を行い、「OK」をクリックします。

コンテンツ・タイプの削除

コンテンツ・タイプを削除するには、次のようにします。

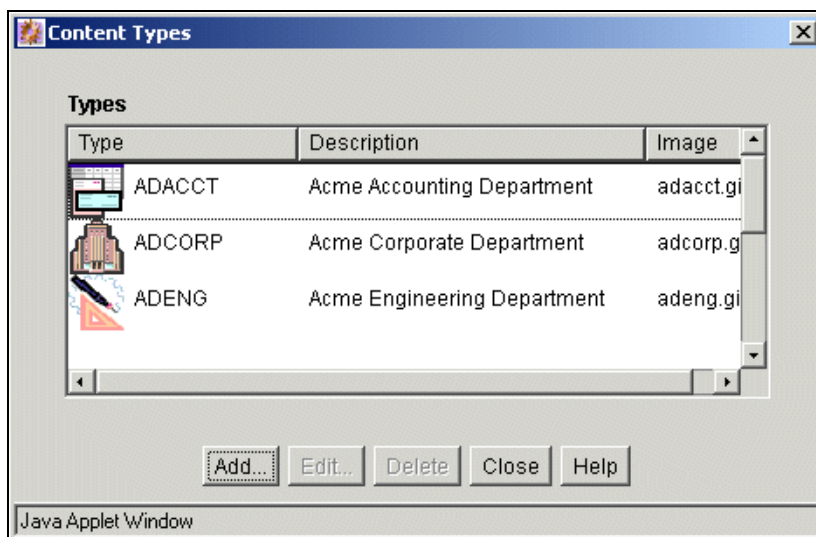
1. 削除するコンテンツ・タイプにコンテンツ・アイテムが割り当てられていないことを確認します。(コンテンツ・タイプにまだコンテンツが存在している場合、そのタイプは削除できません。)
2. 「[Content Types](#)」画面 (2-4 ページ) で、削除するコンテンツ・タイプを選択します。
3. 「Delete」をクリックします。
確認画面が表示されます。
4. 「Yes」をクリックします。

コンテンツ・タイプのインタフェース画面

コンテンツ・タイプを処理するときに使用する画面は次のとおりです。

- ❖ 「[Content Types](#)」画面 (2-4 ページ)
- ❖ 「[Add New Content Type](#)」 / 「[Edit Content Type](#)」画面 (2-6 ページ)

「Content Types」画面



「Content Types」画面は、コンテンツ・タイプを追加、編集および削除するときに使用します。画面は、既存のコンテンツ・タイプの名前、説明および関連付けられた GIF の表示、対応するイメージの管理にも使用できます。この画面にアクセスするには、[Configuration Manager アプリケーション](#) (1-10 ページ) の「Options」メニューから「Content Types」を選択します。

機能	説明
「Type」列	各コンテンツ・タイプの名前と、そのタイプに関連付けられている GIF イメージが表示されます。
「Description」列	各コンテンツ・タイプの説明が表示されます。
「Image」列	各コンテンツ・タイプに関連付けられた GIF イメージのファイル名が表示されます。
「Add」ボタン	「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面 (2-6 ページ) を表示します。
「Edit」ボタン	「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面 (2-6 ページ) を表示します。
「Delete」ボタン	選択したコンテンツ・タイプを削除できます。(同じタイプのコンテンツがある場合、そのコンテンツ・タイプは削除できません。)

「Add New Content Type」 / 「Edit Content Type」画面

「Add New Content Type」画面または「Edit Content Type」画面は、コンテンツ・タイプを追加または編集するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Content Types」画面](#)（2-4 ページ）で「Add」または「Edit」をクリックします。

機能	説明
「Name」フィールド	コンテンツ・タイプの名前。30 文字まで。
「Description」フィールド	コンテンツ・タイプの説明。80 文字まで。
「GIF」リスト	コンテンツ・サーバーのページ（「Search Results」ページなど）でコンテンツ・タイプを表すために表示されるイメージ。

3

ネイティブ・コンテンツの変換

概要

この章の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [ネイティブ・ファイルの変換](#) (3-2 ページ)

作業

- ❖ [MIME タイプの識別](#) (3-2 ページ)
- ❖ [ネイティブ・アプリケーションとコンテンツの変換](#) (3-3 ページ)
- ❖ [ファイル・タイプと変換プログラムとの関連付け](#) (3-4 ページ)

インタフェース

- ❖ [「File Formats」画面](#) (3-5 ページ)
- ❖ [「Add New File Format」 / 「Edit File Format」画面](#) (3-7 ページ)
- ❖ [「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」画面](#) (3-8 ページ)



注意：Inbound Refinery を使用している場合、そこでの設定がネイティブ・ファイルの変換の動作に影響を与える可能性があります。詳細は、『Inbound Refinery 管理ガイド』を参照してください。

ネイティブ・ファイルの変換



注意: アドオン変換モジュールがない場合、ネイティブ・ファイルの変換方法を指定する必要はありません。ファイルはすべて、ネイティブ形式のまま Web サイトにパースルーされます。

システムでは、ユーザーがアドオン・モジュールの **Inbound Refinery** で異なるファイル形式をどのように変換することを望んでいるか認識する必要があります。ユーザーはこの情報を、「**File Formats**」オプションを使用して、ファイル拡張子（.doc、.txt など）をファイル形式にマップすることにより伝えます。ファイル形式により、ファイルを Web で表示可能な形式に変換するために使用するネイティブ・アプリケーション（Word、Excel、Visio など）または変換が定義されます。ファイル形式は、インストール中に自動的に構成されますが、必要に応じて追加または変更できます。

ファイルがチェックインされると、**Inbound Refinery** ではファイルを指定した変換プログラムにより処理します。

MIME タイプの識別

新しいファイル形式には、ファイル拡張子に対応する MIME（Multipurpose Internet Mail Extensions）タイプ（たとえば、doc ファイル拡張子にマップされる形式は、application/msword になります）により名前を付けることをお勧めします。

コンテンツ・アイテムが **Content Server** にチェックインされると、そのコンテンツ・アイテムの形式が、ネイティブ・ファイルのファイル拡張子にマップされている形式に応じて割り当てられます。ネイティブ・ファイルが変換されない場合、**Content Server** では、コンテンツ・アイテムをクライアントに配信する際にこの形式を含めます。この形式の MIME タイプを使用すると、クライアントにとっては、そのファイルのデータがどのタイプか、どのヘルパー・アプリケーションを使用すべきかなどの判断に役立ちます。

MIME タイプは、<http://www.iana.org/assignments/media-types/index.html> で登録済 MIME タイプのリストをチェックすることにより識別できます。MIME タイプのリストがあるサイトには、他に <http://filext.com/> と <http://www.webmaster-toolkit.com/mime-types.shtml> があります。



重要: IIS 6.0 では、拡張子が Web サイトの MIME タイプとして登録されていない場合、そのファイルは処理されません。したがって、IIS 6.0 を使用する場合は、サーバー・レベルのオブジェクトの「**Properties**」ダイアログで、サーバー全体の MIME タイプを設定できます。

ネイティブ・アプリケーションとコンテンツの変換

変換プログラムが確実に正しく動作するようにするには、コンテンツの変換に使用するネイティブ・アプリケーションに対して、次の設定手順を実行します。

ネイティブ・アプリケーション	要件
MS Word MS Project Lotus Freelance MS Excel Lotus 123 Corel WordPerfect MS PowerPoint Lotus WordPro MS Visio iGrafx Designer	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネイティブ・アプリケーションがインストールされていることを確認します。 2. 「File Formats」タブで、ファイル・タイプを変換プロセスに関連付けます。 3. Word と PowerPoint の場合、「Local Inbound Refinery Configuration」画面の「Native Options」タブを使用して、ハイパーリンクを処理するかどうかを指定します。
MS Publisher FrameMaker* PhotoShop PageMaker	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネイティブ・アプリケーションがインストールされていることを確認します。 2. Inbound Refinery でファイル・パスを構成します。 3. 「File Formats」タブで、ファイル・タイプを変換プロセスに関連付けます。
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネイティブ・アプリケーションがインストールされていることを確認します（必要な場合）。 2. Inbound Refinery にカスタム変換プログラムをインストールします。 3. Inbound Refinery でファイル・パスを構成します。 4. 「File Formats」タブで、ファイル・タイプを変換プロセスに関連付けます。
*FrameMaker のブック・ファイルをチェックインするには、「Upload Multiple Files」オプションを使用します。このオプションは「System Properties」で有効にしておく必要があります。	

ファイル・タイプと変換プログラムとの関連付け

ファイル・タイプと変換プログラムを関連付けるには、次のようにします。

1. 「[File Formats](#)」画面（3-5 ページ）の「File Formats」ペインで、「**Add**」をクリックします。

[「Add New File Format」 / 「Edit File Format」画面](#)（3-7 ページ）が表示されます。

2. 形式名を変換プログラムと関連付けるための情報を入力します。変換には次の選択があります。
 - **Passthru:** PASSTHRU にマップされた拡張子の付いたドキュメントは変換されませんが、Web サイトではネイティブ・ファイル形式で表示されます（クライアント・マシンにネイティブ・アプリケーションが必要）。
 - **Custom:** CUSTOM に拡張子をマップすると、標準の変換セットに含まれていない変換プログラムが実行されます。

3. 「**OK**」をクリックします。

4. 「[File Formats](#)」画面（3-5 ページ）の「File Extensions」ペインで、「**Add**」をクリックします。

[「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」画面](#)（3-8 ページ）が表示されます。

5. 新しい拡張子を入力し、それを形式名にマップします。次のフィールドの説明に注意してください。
 - **Extension:** この拡張子のファイルは、「Map to Format」フィールドで指定した変換プログラムにより変換されます。
 - **Map to Format:** このリストには、変換を指定した使用可能な形式（「Document Formats」ペインで定義）が表示されます。形式のディレクトリを選択すると、その拡張子を持つすべてのファイルが、特定の変換プログラムに関連付けられます。

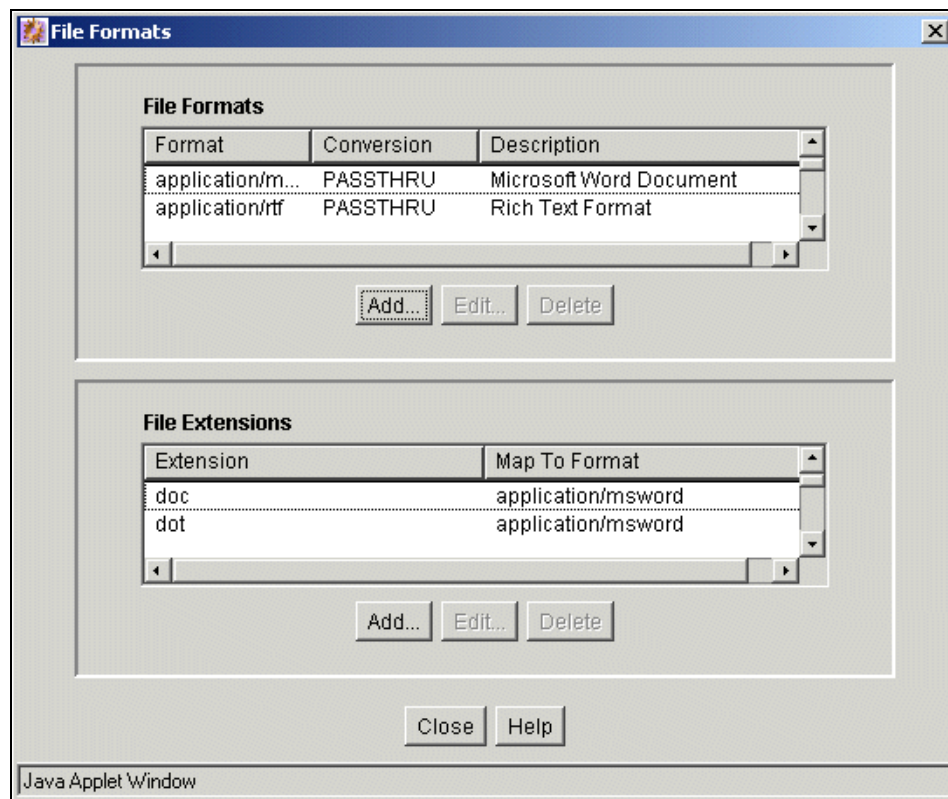
6. 「**OK**」をクリックします。

ネイティブ・ファイル形式のインタフェース画面

この項では次の画面について説明します。

- ❖ 「File Formats」画面 (3-5 ページ)
- ❖ 「Add New File Format」 / 「Edit File Format」画面 (3-7 ページ)
- ❖ 「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」画面 (3-8 ページ)

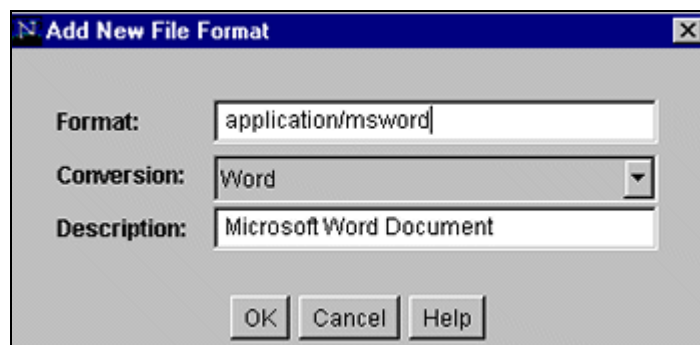
「File Formats」画面



「File Formats」画面は、[Configuration Manager](#) アプレットの一部で、ファイル変換のためのファイル形式とファイル拡張子を設定するときに使用します。このオプションにアクセスするには、「Options」メニューから「File Formats」を選択します。

機能	説明
「File Formats」 ペイン	
「Format」 列	これは、一般に MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions) タイプです。
「Conversion」 列	ファイルを変換するための方法。
「Description」 列	ファイル形式の説明。
「Add」 ボタン	「Add New File Format」 / 「Edit File Format」 画面 (3-7 ページ) を表示します。
「Edit」 ボタン	「Add New File Format」 / 「Edit File Format」 画面 (3-7 ページ) を表示します。
「Delete」 ボタン	選択したファイル形式を削除できます。
「File Extensions」 ペイン	
「Extension」 列	ファイル形式にマップされているファイル拡張子。
「Map to Format」 列	指定したファイル拡張子を持つファイルを変換するために参照されるファイル形式。
「Add」 ボタン	「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」 画面 (3-8 ページ) を表示します。
「Edit」 ボタン	「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」 画面 (3-8 ページ) を表示します。
「Delete」 ボタン	選択したファイル拡張子を削除できます。

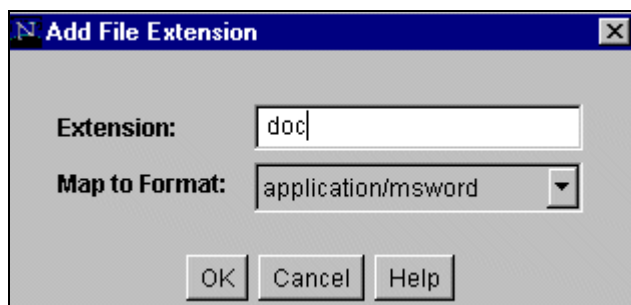
「Add New File Format」 / 「Edit File Format」画面



「Add New File Format」画面または「Edit File Format」画面は、特定のファイル形式の変換方法を設定するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「File Formats」画面](#)（3-5 ページ）の「File Formats」ペインで「Add」または「Edit」をクリックします。

機能	説明
「Format」フィールド	これは、一般に MIME（Multipurpose Internet Mail Extensions）タイプです。
「Conversion」フィールド	ファイルを変換するための方法。このファイル・タイプを変換しないようにするには、「Passthru」を選択します。カスタム変換方法を使用するには、「Custom」を選択します。
「Description」フィールド	ファイル形式の説明。

「Add File Extension」 / 「Edit File Extension」画面



「Add File Extensions」画面または「Edit File Extension」画面は、ファイル拡張子を特定のファイル形式にマップするときに使用します。この画面にアクセスするには、「[File Formats](#)」画面（3-5 ページ）の「File Extensions」ペインで「Add」または「Edit」をクリックします。

機能	説明
「Extension」フィールド	変換されるファイルのファイル拡張子。
「Map to Format」フィールド	指定したファイル拡張子を持つファイルを変換するために参照されるファイル形式。

4

コンテンツ・フィールドの管理

概要

ユーザーが作成できるカスタム・フィールドには、索引付きで検索可能なメタデータ・フィールドと、Content Server フォームのカスタマイズに使用されるアプリケーション・フィールドの2つのタイプがあります。

この章の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [カスタム・フィールド](#) (4-2 ページ)
- ❖ [アプリケーション・フィールド](#) (4-2 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールド](#) (4-3 ページ)

作業

- ❖ [メタデータ・フィールドの追加](#) (4-7 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの編集](#) (4-7 ページ)
- ❖ [アプリケーション・フィールドの追加または編集](#) (4-8 ページ)
- ❖ [オプション・リストの定義](#) (4-8 ページ)
- ❖ [データベースの更新](#) (4-9 ページ)
- ❖ [検索索引の再構築](#) (4-9 ページ)

インタフェース

- ❖ 「Configuration Manager」：「Information Field」タブ (4-11 ページ)
- ❖ 「Add Metadata Field Name」画面 (4-13 ページ)
- ❖ 「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面 (4-14 ページ)
- ❖ カスタム情報フィールドの追加 / 編集：「Configure Option List」画面 (4-16 ページ)
- ❖ 「Edit View Values」画面 (4-20 ページ)
- ❖ 「Option List」画面 (4-21 ページ)
- ❖ 「Update Database Design」画面 (4-23 ページ)
- ❖ 「Configuration Manager」：「Application Fields」タブ (4-25 ページ)
- ❖ 「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」画面 (4-26 ページ)

カスタム・フィールド

使用するコンテンツ・サーバー環境用に 2 つのタイプのカスタム・フィールドを作成できます。

- ❖ アプリケーション・フィールド: 索引付けされていませんが、Content Server のフォームや画面のカスタマイズに使用します。4-2 ページの「[アプリケーション・フィールド](#)」を参照してください。
- ❖ メタデータ・フィールド: 索引付けされており、検索可能です。4-3 ページの「[メタデータ・フィールド](#)」を参照してください。

アプリケーション・フィールド

アプリケーション・フィールドは、カスタム・コンポーネント、HCSP ファイルおよび HCSF ファイルで使用するために作成できるカスタム・フィールドです。アプリケーション・フィールドにより、フォームで依存選択リストなどの Content Server 機能を使用できます。デフォルトでは、これらのフィールドは標準のチェックイン・フォームや検索フォームでは表示されませんが、カスタム・テンプレートでは使用されます。

アプリケーション・フィールドには、値は格納されておらず、索引付けもされていません。アプリケーション・フィールドは、プレースホルダとして使用できる他、関連付けられたメタデータ・フィールドを作成せずに、依存選択リストを有効にするために、スキーマ・ビューとともに使用できます。スキーマの詳細は、[第 7 章「メタデータをカスタマイズするためのスキーマの使用法」](#)を参照してください。



注意: アプリケーション・フィールドは、「[Add Rule Field](#)」画面 (8-59 ページ) を使用してコンテンツ・プロファイルで設定すれば、チェックイン・フォームや検索フォーム上で表示できます。

メタデータ・フィールド

コンテンツ・アイテムごとに、システムではコンテンツに関する情報のセット、つまりメタデータを保持します。メタデータが図書館のカード目録にあるカードのようなものであるのに対し、実際のファイルは図書館の本のようなものです。カード目録と同様に、メタデータは1つのファイルに関する情報（タイトル、参照番号、作成者、サブジェクト、公開日、ブックの場所など）で構成されています。

全文検索ではファイルのコンテンツ全体がスキャンされるのに対し、メタデータ検索を実行すると、メタデータのみが検索されます。


コンテンツ・サーバーにはいくつかの標準メタデータ・フィールドが事前に定義されており、変更や削除ができません。これらの事前定義フィールドに加え、機能を高め、サイトの設計上の要件に対応するために、新規のフィールドを作成できます。ファイルの検索を支援するために必要な追加のメタデータ・フィールドは、必要な量のみ作成することが重要です。


一般的に、**Configuration Manager** アプリケーションを使用してメタデータを設定し、**Repository Manager** アプリケーションを使用して特定のリビジョンのメタデータを処理します。次の操作については、[第5章「コンテンツ・リビジョンの管理」](#)を参照してください。

- ❖ [コンテンツ・メタデータの表示](#) (5-11 ページ)
- ❖ [コンテンツ・メタデータの更新](#) (5-11 ページ)

事前定義のメタデータ・フィールド

編集や削除ができない事前定義の標準フィールドは次のとおりです。

フィールドの キャプション	入力方法	必須	定義
Content ID	テキスト入力 または自動生成	○	<p>各コンテンツ・アイテムの一意の識別子。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重複する名前は使用できません。 最大フィールド長は 30 文字です。 空白、タブ、ラインフィード、キャリッジ・リターンおよび ; ^ ? : @ & + " # % < * ~ [] / \ の記号は使用できません。 コンテンツ ID は、コンテンツ・サーバーにより自動的に生成できます。システム・プロパティ・ユーティリティの「General Options」タブを参照してください。 <p> 注意: Oracle、DB2、Sybase または Informix データベースを使用する場合、すべてのコンテンツ ID は、自動的に大文字に変換されます。</p>
Type	オプション・リスト	○	<p>コンテンツをグループ化するために使用される識別子。</p> <ul style="list-style-type: none"> タイプは、<i>weblayout</i> ディレクトリのサブディレクトリになります。第 2 章「コンテンツ・タイプの作成」を参照してください。 最大フィールド長は 30 文字です。 空白、タブ、ラインフィード、キャリッジ・リターンおよび ; ^ ? : @ & + " # % < * ~ の記号は使用できません。
Title	テキスト入力	○	<p>コンテンツ・アイテムの説明的タイトル。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大フィールド長は 80 文字です。
Author	オプション・リストまたは テキスト入力	○	<p>コンテンツ・アイテムをチェックインしたユーザー。</p>
Security Group	オプション・リスト	○	<p>ユーザーがコンテンツ・アイテムにアクセスする権限を持つ必要のあるセキュリティ・グループ。</p>

フィールドの キャプション	入力方法	必須	定義
Account	オプション・ リストまたは テキスト入力	×	ユーザーがコンテンツ・アイテムにアクセスする権限 を持つ必要のあるアカウント。 このフィールドは、アカウントが有効な場合のみ使用 可能です。
Primary File	テキスト入力 またはファイ ル参照	○	チェックインされるネイティブ・ファイルへの完全パ ス。 ファイル名の最大長は、ディレクトリ・パスとファイ ル拡張子を含め 80 文字です。 ファイル拡張子の最大長は 8 文字です。  注意: Collaboration Manager と Folders のイン ストール時には、このファイル名の最大長が 255 文字に変更されます。
Alternate File	テキスト入力 またはファイ ル参照	×	ネイティブ・ドキュメントの Web で表示可能な別の ファイル形式、つまり Web で表示可能な形式に変換で きるファイル形式へのパス名。 たとえば、複数のファイルで構成される FrameMaker または Quark ドキュメントをチェックインする場合、 zip ファイルをネイティブ形式 (Primary File) として、 Postscript、PDF または表示可能なファイルをその Alternate File としてチェックインします。zip ファイ ルは Web 上では表示できませんが、Inbound Refinery では Postscript ファイルをその Web 表示可能形式であ る PDF に変換します。 ファイル名の最大長は 80 文字で、ファイル名拡張子は 8 文字までです。
Revision	自動生成また はテキスト入 力	○	コンテンツ・アイテムがそのライフ・サイクルを経た 回数 (リビジョン数) を表すラベル (1、2、3... または A、B、C... など)。「Revision」ラベルは、自分のリビ ジョン・スキームに合うようにカスタマイズできます。
Comments (オプション)	ユーザー・テ キスト・エン トリ	×	ファイルに関する追加情報のためのフィールド。最大 フィールド長は 255 文字です。 このフィールドは、カスタム・フィールドと考えられ るため、削除できます。

フィールドの キャプション	入力方法	必須	定義
Release Date	自動生成またはテキスト入力	○	ファイルが Content Server にリリースされ、その結果、検索や表示に使用できるようになる日付。「 Release Date 」はデフォルトで、ファイルがチェックインされる日時になります。
Expiration Date	テキスト入力	×	ファイルが、 Content Server 内で検索または表示に使用できなくなる日付。コンテンツ・アイテムのリビジョンはすべて、現行リビジョンが期限切れになると同時に期限切れになります。期限切れになってもリビジョンは削除されませんが、期限切れ通知を使用していなければ、管理者が Repository Manager からしかアクセスできません。

カスタム・フィールドの管理

カスタム・メタデータ・フィールドとアプリケーション・フィールドの管理に必要な作業は似ています。この項では、次の作業について説明します。

カスタム・メタデータ・フィールドに対する変更は、データベース（メタデータ・フィールドに関する情報の格納場所）または検索索引（メタデータ値の格納場所）に影響を与える可能性があることを覚えておいてください。アプリケーション・フィールドに対する変更は、データベースや索引に影響を及ぼしません。

- ❖ [メタデータ・フィールドの追加](#) (4-7 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの編集](#) (4-7 ページ)
- ❖ [アプリケーション・フィールドの追加または編集](#) (4-8 ページ)
- ❖ [オプション・リストの定義](#) (4-8 ページ)
- ❖ [データベースの更新](#) (4-9 ページ)
- ❖ [検索索引の再構築](#) (4-9 ページ)



注意: カスタム・メタデータ・フィールドを追加すると、システムでは自動的に名前に **x** の接頭辞が付けられ、必ずどの予約名とも競合しない一意の名前になるようにします。同様に、カスタム・ユーザー情報（メタデータ）フィールドを定義すると、システムでは自動的に名前に **u** の接頭辞が付けられ、必ずどの予約名とも競合しない一意の名前になるようにします。カスタム・ユーザー情報フィールドの追加の詳細は、『セキュリティおよびユーザー・アクセスの管理』を参照してください。

メタデータ・フィールドの追加

新規メタデータ・フィールドを追加するには、次のようにします。

1. Configuration Manager の「Information Fields」タブで、「Add」をクリックします。
「Add Metadata Field Name」画面（4-13 ページ）が表示されます。
2. 新規フィールド名を入力します。重複する名前は使用できません。最大フィールド長は 29 文字です。空白、タブ、ラインフィード、キャリッジ・リターンおよび ; ^ ? : @ & + " # % < * ~ の記号は使用できません。
3. 「OK」をクリックします。
「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面（4-14 ページ）が表示されます。
4. フィールドのプロパティを構成し、「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. データベース設計を更新し、索引付けツールとして Verity または FAST を使用している場合、検索索引を再構築します。

メタデータ・フィールドの編集

メタデータ・フィールドを編集するには、次のようにします。

1. フィールド名をダブルクリックするか、フィールドを選択して「Edit」をクリックします。
「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面（4-14 ページ）が表示されます。
2. フィールドと付随するオプション・リストまたはビューを編集します。
3. 「OK」をクリックします。

アプリケーション・フィールドの追加または編集

新規のアプリケーション・フィールドを追加するか、既存のアプリケーション・フィールドを編集するには、次の手順を実行します。

1. 新規フィールドを追加するには、Configuration Manager の「Application Fields」タブで「Add」をクリックします。既存のフィールドを編集するには、「Field Info」領域でフィールドを選択し、「Edit」をクリックします。「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」画面（4-26 ページ）が表示されます。
2. 新規のフィールド名を入力するか、以前入力したフィールドを選択して編集します。新規の名前を入力する場合、重複する名前は使用できません。最大フィールド長は 29 文字です。空白、タブ、ラインフィード、キャリッジ・リターンおよび ; ^ ? : @ & + " # % < * ~ の記号は使用できません。
3. 「OK」をクリックします。「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面（4-14 ページ）が表示されます。
4. フィールドのプロパティを構成し、「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

オプション・リストの定義

オプション・リストを定義するには、次のようにします。

1. 「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面（4-14 ページ）または「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」画面（4-26 ページ）で、「Enable Option List」チェック・ボックスをクリックします。「Configure」をクリックします。
カスタム情報フィールドの追加 / 編集：「Configure Option List」画面（4-16 ページ）が表示されます。
2. プルダウン・メニューからオプション・リストのタイプを選択します。
3. オプション・リストの値にアクセスする方法を選択します。リスト用に新しい値を作成するか、ビューの値を使用するか、またはツリー階層の値を使用することができます。
4. オプション・リストの依存性を定義します。
5. 終了したら、「OK」をクリックします。

データベースの更新

データベースに保存する必要がある変更を加えた場合、「Update Database Design」ボタンがアクティブになります。

データベースを更新するには、次のようにします。

1. 「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面（4-14 ページ）で、「Update Database Design」をクリックします。
「Update Database Design」画面（4-23 ページ）が表示されます。
2. フィールドを削除する場合、削除するフィールドを選択し、「OK」をクリックします。追加および編集されたフィールドは表示されますが、選択または選択解除はできません。
3. 「OK」をクリックします。

検索索引の再構築

検索索引の再構築が必要な変更を加えた場合、「Rebuild Search Index」ボタンがアクティブになります。

検索索引を再構築するには、次のようにします。

1. 「Rebuild Search Index」をクリックします。
2. 検索索引を再構築する前にデータベース設計を更新するように求めるメッセージが表示された場合、「Update Database Design」をクリックして、先に進む前に変更をデータベースに保存します。
3. 「Rebuild initiated」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。



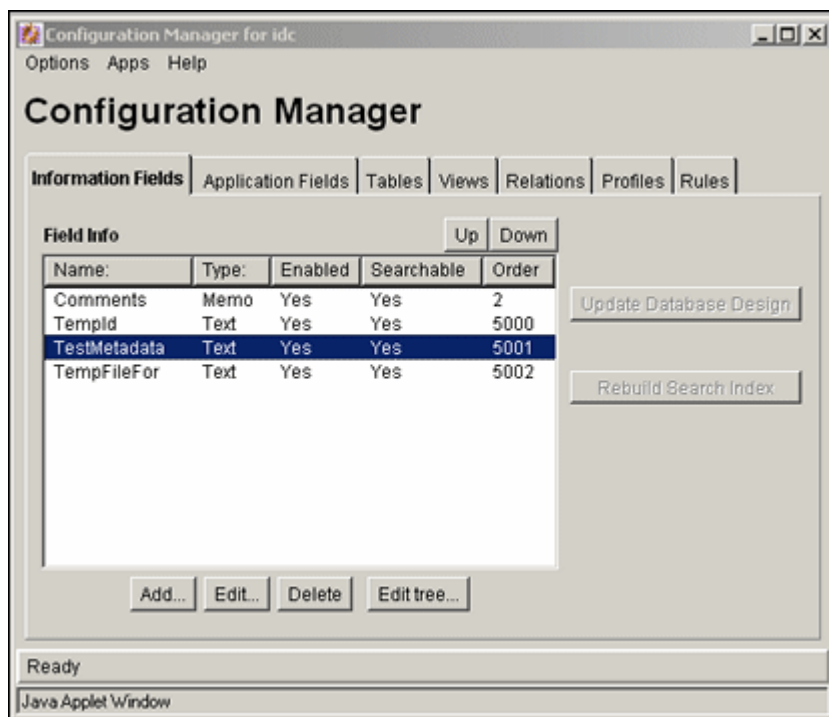
警告： 検索索引のサイズや使用可能なシステム・リソースに応じて、検索索引再構築プロセスには2～3日かかる可能性があります。再構築が必要な場合は、システム使用のピーク時でないときに行ってください。

カスタム・フィールドのインタフェース画面

メタデータ・フィールドやアプリケーション・フィールドを追加するときには、次の画面を使用します。


- ❖ 「Configuration Manager」：「Information Field」タブ (4-11 ページ)
- ❖ 「Add Metadata Field Name」画面 (4-13 ページ)
- ❖ 「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面 (4-14 ページ)
- ❖ カスタム情報フィールドの追加 / 編集：「Configure Option List」画面 (4-16 ページ)
- ❖ 「Option List Storage」画面 (4-18 ページ)
- ❖ 「Edit View Values」画面 (4-20 ページ)
- ❖ 「Option List」画面 (4-21 ページ)
- ❖ 「Edit Tree Definition」画面 (4-22 ページ)
- ❖ 「Update Database Design」画面 (4-23 ページ)
- ❖ 「Configuration Manager」：「Application Fields」タブ (4-25 ページ)
- ❖ 「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」画面 (4-26 ページ)

「Configuration Manager」：「Information Field」タブ



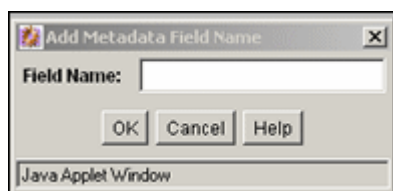
Configuration Manager の「Information Fields」タブは、カスタム・メタデータ・フィールドを追加、編集および削除するときに使用します。この画面の他のタブは、スキーマやプロファイルとともに使用します。

このタブにアクセスするには、[Configuration Manager アプリケーション](#) (1-10 ページ) で「**Information Fields**」をクリックします。


機能	説明
「Name」列	カスタム・メタデータ・フィールドの名前が表示されます。
「Type」列	各フィールドのタイプが表示されます。 Text: 30 文字。 Long Text: 100 文字。 Date: 日付書式 (英語 - 米国ロケールの場合、 <i>dd/mm/yyyy</i> または <i>dd/mm/yy</i> など)。 Memo: 255 文字。 Integer: $-2^{31} \sim 2^{31}$ (-20 億 ~ +20 億)。定義により、整数は自然数であるため、小数値やカンマは使用できません。  注意: 示したサイズは文字入力の長さで、フィールドを格納するために必要な実際のバイト数ではありません。
「Enabled」列	コンテンツ・サーバーのページにフィールドを表示するかどうかが表示されます。
「Searchable」列	フィールドが索引付けされ、検索に使用可能かどうかが表示されます。
「Order」列	フィールドがソート順で占める位置が表示されます。
「Up」ボタンと 「Down」ボタン	ソート用にフィールドの順序を並べ替えるときに使用します。使用するには、フィールドを選択し、適切なボタンをクリックします。ソート順序でのフィールドの位置は、それに応じて変わります。
「Update Database Design」ボタン	データベース表に変更を保存します。このボタンは、更新が必要なときにアクティブになります。 詳細は、4-3 ページの「 メタデータ・フィールド 」を参照してください。
「Rebuild Search Index」ボタン	検索索引を再構築します。このボタンは、再構築が必要なときにアクティブになります。 詳細は、4-3 ページの「 メタデータ・フィールド 」を参照してください。

機能	説明
「Add」 ボタン	「Add Metadata Field Name」 画面（4-13 ページ）を表示します。
「Edit」 ボタン	「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」 画面（4-14 ページ）を表示します。
「Delete」 ボタン	選択したカスタム・メタデータ・フィールドを削除します。
Edit Tree	フィールドがスキーマ関係に関連付けられている場合、選択した表でのエントリの親 / 子（ツリーとノード）構造を表示します。このオプションは、フィールドが追加され、データベース設計が更新された後にアクティブになります。詳細は、7-32 ページの「Edit Tree」画面を参照してください。

「Add Metadata Field Name」 画面



この画面は、新規のカスタム・メタデータ・フィールドの名前を定義するときに使用します。この画面にアクセスするには、「Configuration Manager」：「Information Field」タブ（4-11 ページ）で「Add」をクリックします。

機能	説明
「Field Name」フィールド	<p>重複する名前は使用できません。最大フィールド長は 29 文字です。空白、タブ、ラインフィード、キャリッジ・リターンおよび ; ^ ? : @ & + " # % < * ~ の記号は使用できません。</p> <p> 注意： カスタム・メタデータ・フィールドを追加すると、システムでは自動的に名前に x の接頭辞が付けられ、必ずどの予約名とも競合しない一意の名前になるようにします。同様に、カスタム・ユーザー情報（メタデータ）フィールドを定義すると、システムでは自動的に名前に u の接頭辞が付けられ、必ずどの予約名とも競合しない一意の名前になるようにします。</p>

「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面

この画面は、カスタム・メタデータ・フィールドを定義するときに使用します。この画面にアクセスするには、次のいずれかを行います。

- ❖ 「[Add Metadata Field Name](#)」画面（4-13 ページ）でフィールド名を入力し、「OK」をクリックします。
- ❖ 「[Configuration Manager](#)」: 「[Information Field](#)」タブ（4-11 ページ）でフィールドを選択し、「Edit」をクリックします。

機能	説明
「Field Caption」フィールド	コンテンツ・サーバーのページに表示されるフィールドのラベル。
「Field Type」リスト	<p>Text: 30 文字。</p> <p>Long Text: 100 文字。</p> <p>Date: 日付書式（英語 - 米国ロケールの場合、<i>dd/mm/yyyy</i> または <i>dd/mm/yy</i> など）。</p> <p>Memo: 255 文字。</p> <p>Integer: $-2^{31} \sim 2^{31}$（-20 億～+20 億）。定義により、整数は自然数であるため、小数値やカンマは使用できません。</p>

機能	説明
「Field Order」フィールド	コンテンツ・サーバーのページにフィールドを表示する順序。数値は2から始まり、新しいフィールドが追加されるのに応じて、自動的に増えます。ただし、数値は15、20、25というように、5ずつ手動で増やすことをお勧めします。こうすれば、将来追加されるフィールドに対応できます。たとえば、1つのフィールドの「Field Order」を16に指定すると、15と20の間にフィールドを挿入できます。
「Default Value」フィールド	作成するメタデータ・フィールドのデフォルト値。
「Require Value」チェック・ボックス	フィールドに値がない場合、ファイルがチェックインされないようにします。
「Placeholder」チェック・ボックス	選択すると、このフィールドは、格納も索引付けもされないフィールドになります。プレースホルダは多くの場合、依存選択リストの親レベルに使用されます。
「Enable on User Interface」チェック・ボックス	<p>選択: フィールドは、コンテンツ・サーバーのページ（チェックイン、検索、コンテンツ情報など）に表示されます。</p> <p>選択解除: フィールドは、コンテンツ・サーバーのページに表示されません。</p>
「Enable for Search Index」チェック・ボックス	<p>選択: フィールドには索引が付けられるため、検索基準として使用できます。</p> <p>選択解除: フィールドには索引が付けられません。フィールドは検索基準として使用できないため、検索ページには表示されません。</p>
「Enable Option List」チェック・ボックス	コンテンツ・サーバーのページに、ユーザーが選択可能なオプション・リストを作成します。このチェック・ボックスを有効にし、「 Configure 」をクリックすると、 カスタム情報フィールドの追加 / 編集: 「Configure Option List」画面 (4-16 ページ) が表示されます。

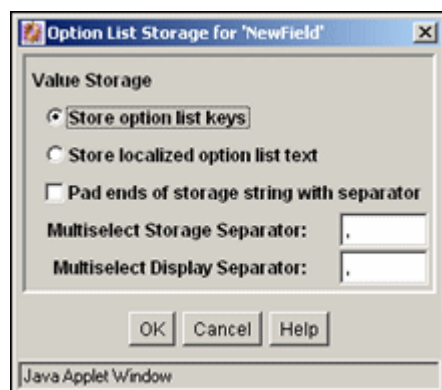
カスタム情報フィールドの追加 / 編集 : 「Configure Option List」画面

「Configure Option List」画面は、オプション・リストのタイプ、オプション・リストの値、オプション・リストに関連付けられる依存性を指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面](#)（4-14 ページ）または [「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」画面](#)（4-26 ページ）で、「Enable Option List」をクリックしてから、「**Configure**」をクリックします。

機能	説明
Option List Type	<p>オプション・リストのタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Select List Validated: バッチ・ロードとアーカイバの場合、このオプションにより、このフィールドの現行オプションの値が指定されているファイルのみがチェックインされます。 • Select List Not Validated: バッチ・ロードとアーカイバの場合、このオプションにより、現行オプションの値が指定されていないファイルのチェックインを許可します。 • Edit and Select List: テキスト・フィールドとコンボ・ボックスの両方を提供します。コントリビュータは、オプション・リストにない値を入力できます。 • Edit and Multiselect List: テキスト・フィールドとコンボ・ボックスの両方を提供します。コントリビュータは、オプション・リストにない値を入力できます。さらに、複数の値を選択または入力できます。 • Multiselect List: コントリビュータは、リストから複数の選択肢を選択できます。
「Advanced」 ボタン	オプション・リストをどのように格納し、表示するかを指定するときに使用する「 Option List Storage 」画面（4-18 ページ）を表示します。
Use option list	新規オプション・リストの作成に使用します。新規リストの名前がフィールドに挿入されます。
「Edit」 ボタン	メタデータ・フィールドに関連付けられたリストで選択肢を追加または変更するときに使用する「 Option List 」画面（4-21 ページ）を表示します。
Use view	作成されたオプション・リストではなく、ビューで値を選択するときに使用します。
「Edit Values」 ボタン	選択したビューのタイプに応じて、「 Edit View Values 」画面（4-20 ページ）または「 Option List 」画面（4-21 ページ）を表示します。
Use tree	オプション・リストまたはビューではなく、ツリーで値を選択するときに使用します。

機能	説明
「Edit Definition」 ボタン	ツリーの定義および表示を変更するときに使用する「 Edit Tree Definition 」画面（4-22 ページ）を表示します。
「Dependent field」 チェック・ボックス	このメタデータ・フィールドが、別のメタデータ・フィールドに属しているかどうかを指定します。これは、ビューを使用するときのみ使用可能です。依存性を有効にするには、このチェック・ボックスをクリックします。
「Depends on field」 リスト	フィールド名を入力するか、依存性の設定に使用できるメタデータのリストから選択します。
Relationship	ビューに対して関係がすでに定義されている場合、ドロップダウン・リストから使用できます。関係の詳細は、7-30 ページの「 Configuration Manager 」：「 Relations 」タブを参照してください。 関係が定義されていないオプション・リストまたはビューを使用するために選択すると、「<no relationship defined>」が表示されます。

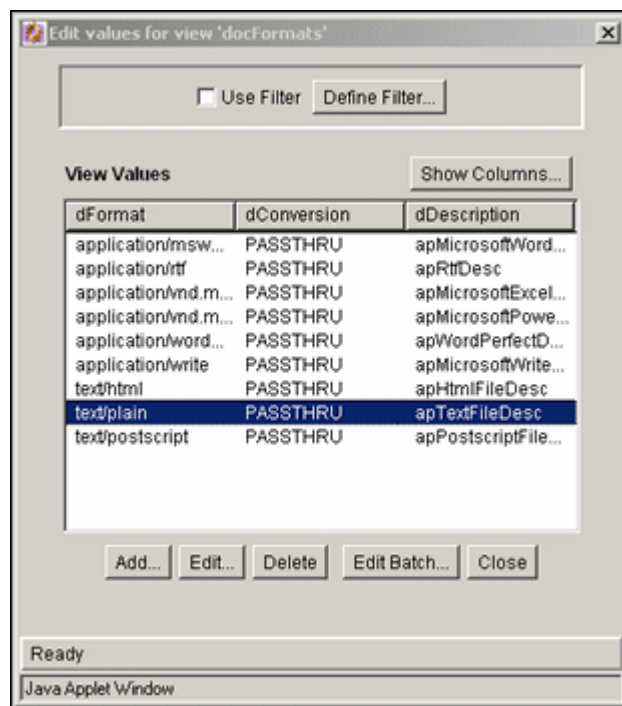
「Option List Storage」画面



「Option List Storage」画面は、オプション・リストをどのように表示し、格納するかを指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、[カスタム情報フィールドの追加 / 編集](#)：「[Configure Option List](#)」画面（4-16 ページ）で、オプション・リスト・タイプのプルダウンの隣にある「Advanced」ボタンをクリックします。

機能	説明
Store option list keys	オプション・リスト・キーを永続的に格納するには、このオプションを選択します。キーまたはローカライズ・オプション・リスト・テキストを格納できます。
Store localized option list text	オプション・リストのローカライズ・バージョンを格納するには、このオプションを選択します。キーまたはローカライズ・オプション・リスト・テキストを格納できます。
Pad ends of storage string with separator	カスタム情報フィールドの追加 / 編集: 「Configure Option List」画面 (4-16 ページ) で、複数選択のオプションの1つを選択した場合のみアクティブになります。複数選択の値を格納するために使用されるセパレータの長さを埋め込むには、このオプションを使用します。
Multiselect Storage Separator	カスタム情報フィールドの追加 / 編集: 「Configure Option List」画面 (4-16 ページ) で、複数選択のオプションの1つを選択した場合のみアクティブになります。複数選択の値を格納するために使用されるセパレータを変更するには、このオプションを使用します。
Multiselect Display Separator	カスタム情報フィールドの追加 / 編集: 「Configure Option List」画面 (4-16 ページ) で、複数選択のオプションの1つを選択した場合のみアクティブになります。複数選択の値を表示するために使用されるセパレータを変更するには、このオプションを使用します。

「Edit View Values」画面



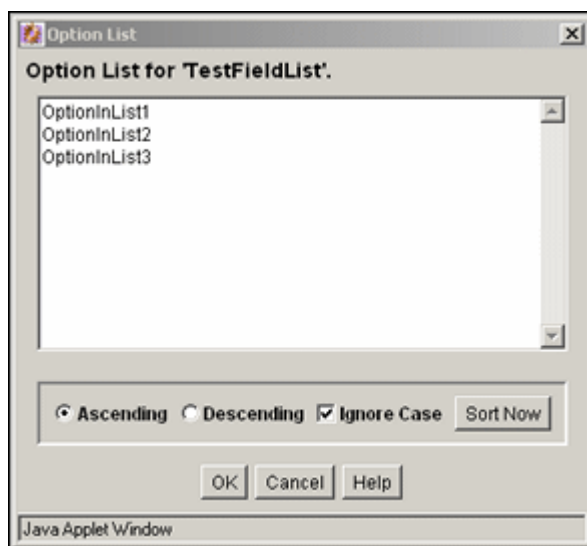
「Edit View Values」画面は、ビューで定義されている値を編集するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Add Metadata Field](#)」 / 「[Edit Metadata Field](#)」画面（4-14 ページ）で「Use View」の隣にある「**Edit Value**」をクリックします。

この画面上のフィールドの列は、選択したビューのタイプによって異なります。

機能	説明
Use Filter/Define Filter	選択した列に表示される値を変更するときに使用します。
Show Columns	ビューで表示される列の数を制限します。「 Show Columns 」画面（1-21 ページ）を参照してください。
Add	ビュー内の値を編集するときに使用する「 Add Value 」 / 「 Edit Value 」画面（7-28 ページ）を表示します。
Edit	列内の値を変更できる「 Add Value 」 / 「 Edit Value 」画面（7-28 ページ）を表示します。
Delete	表から値を削除するときに使用します。削除の確認を求められます。

機能	説明
Edit Batch	値を変更するために大量の情報をコピー・アンド・ペーストするときに使用する Edit Values: Edit Batch (7-29 ページ) 画面を表示します。

「Option List」画面

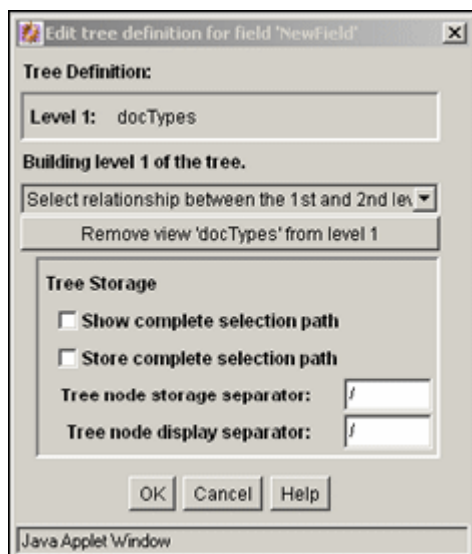


「Option List」画面は、カスタム・フィールド用のオプション・リストを作成するときに使用します。この画面にアクセスするには、[カスタム情報フィールドの追加 / 編集：「Configure Option List」画面](#) (4-16 ページ) で「Use Option List」の隣にある「Edit」をクリックします。

機能	説明
Option list	カスタム・メタデータ・フィールドに対して選択できる値を入力します。各値は、値と値の間にキャリッジ・リターンを入れて、別々の行に入力する必要があります。
「Ascending」オプション	リストを英数字の順に、大文字を小文字に優先させてソートします。たとえば、「Ignore Case」を無効にした昇順リストでは、ABCDEF は abcde の前に表示されます。
「Descending」オプション	リストを逆の英数字の順に、小文字を大文字に優先させてソートします。たとえば、「Ignore Case」を無効にした降順リストでは、abcde は ABCDD の前に表示されます。

機能	説明
「Ignore Case」 チェック・ボックス	昇順または降順でリストをソートし、リスト・アイテムの大文字小文字を無視します。
「Sort Now」 ボタン	「Ascending」、「Descending」および「Ignore Case」オプションで指定したようにリストをソートします。

「Edit Tree Definition」画面



「Edit Tree Definition」画面は、オプション・リストで使用するツリーをどのように格納し、表示するかを定義するときに使用します。この画面にアクセスするには、[カスタム情報フィールドの追加 / 編集: 「Configure Option List」画面](#) (4-16 ページ) で「Use Tree」の隣にある「Edit Definition」をクリックします。

機能	説明
関係選択プルダウン・メニュー	オプション・リストのレベル間の関係を選択します。詳細は、7-7 ページの「 関係 」を参照してください。
ビュー削除オプション・バー	選択したビューを削除するには、このバーをクリックします。
Show complete selection path	オプションが選択されている場合、完全パスを表示するには、このチェック・ボックスを選択します。
Store complete selection path	オプションが選択されている場合、完全パスを保存するには、このチェック・ボックスを選択します。
Tree node storage separator	値間の異なるセパレータを格納するには、このオプションを使用します。
Tree node display separator	値間のセパレータを変更するには、このオプションを使用します。

「Update Database Design」画面



「Update Database Design」画面は、コンテンツ・サーバー・データベースでメタデータ・フィールドを追加または削除するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」: 「[Information Field](#)」タブ (4-11 ページ) でカスタム・メタデータ・フィールドを追加または削除し、「**Update Database Design**」をクリックします。

次の表では、Verity または FAST 検索エンジンを使用している場合、後からデータベースの更新、または検索索引の再構築が必要になるイベントを示しています。

イベント	必要なアクション
メタデータ・フィールドの追加	データベースの更新
メタデータ・フィールドの編集	データベースの更新 *
メタデータ・フィールドの削除	データベースの更新
メタデータ・フィールドの「Enable for Search Index」の有効化または無効化	検索索引の再構築
「Enable for Search Index」を選択したメタデータ・フィールドの追加	検索索引の再構築

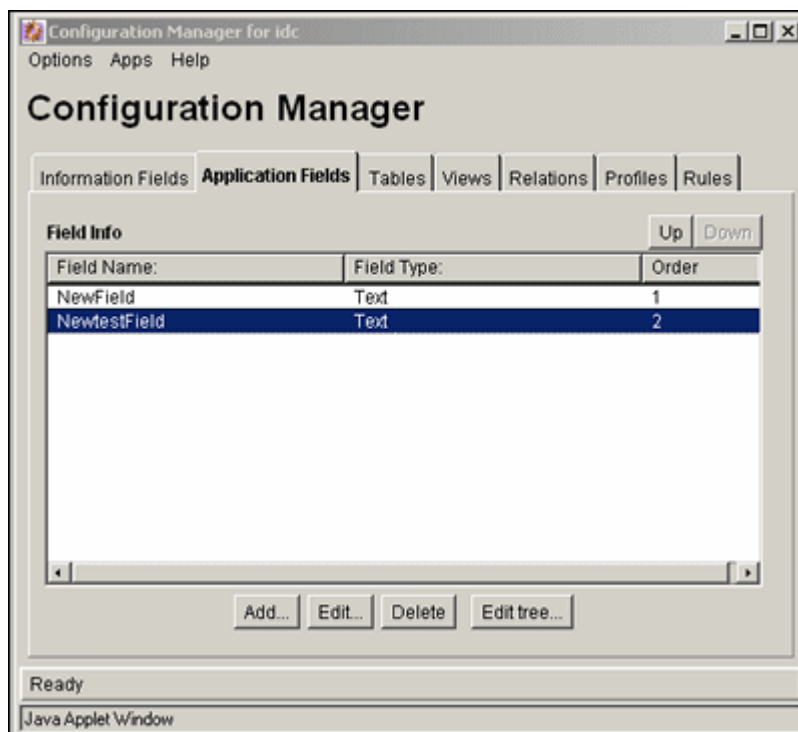
* 「Require Value」、「Option List Default Value」、「Option List Key」および「Option List」の値を変更しても、データベースの更新は必要ありません。



警告： 検索索引のサイズや使用可能なシステム・リソースに応じて、検索索引再構築プロセスには数日かかる可能性があります。再構築が必要な場合は、システム使用のピーク時でないときに行ってください。

機能	説明
Info field(s) that will be added	データベースの最後の更新以降に追加されたメタデータ・フィールドが表示されます。
「Info field(s) to delete」チェック・ボックス	<p>データベースの最後の更新以降に削除されたメタデータ・フィールドが表示されます。</p> <p>選択： そのメタデータ・フィールドは、データベースから削除されます。</p> <p>選択解除： そのメタデータ・フィールドは、データベースから削除されません。フィールドは、「Configuration Manager」画面やチェックインおよび検索のページでは表示されないままですが、データベースにはまだ存在しています。</p>

「Configuration Manager」：「Application Fields」タブ



「Application Fields」タブは、Content Server フォームで使用するカスタム・フィールドを追加、編集および削除するときに使用します。このタブにアクセスするには、[Configuration Manager アプリケーション](#) (1-10 ページ) で「**Application Fields**」をクリックします。

機能	説明
「Field Name」列	カスタム・アプリケーション・フィールドの名前が表示されます。
「Field Type」列	各フィールドのタイプが表示されます。
「Order」列	フィールドがソート順で占める位置が表示されます。
「Up」ボタンと「Down」ボタン	ソート用にフィールドの順序を並べ替えるときに使用します。使用するには、フィールドを選択し、適切なボタンをクリックします。ソート順序でのフィールドの位置は、それに応じて変わります。

機能	説明
「Add」 ボタン	「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」 画面 (4-14 ページ) を表示します。
「Edit」 ボタン	「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」 画面 (4-14 ページ) を表示します。
「Delete」 ボタン	選択したカスタム・メタデータ・フィールドを削除します。
Edit Tree	フィールドがスキーマ関係に関連付けられている場合、選択した表でのエントリの親 / 子 (ツリーとノード) 構造を表示します。このオプションは、フィールドが追加され、データベース設計が更新された後にアクティブになります。詳細は、7-32 ページの「「Edit Tree」 画面」を参照してください。

「Add Application Field」 / 「Edit Application Field」 画面

この画面は、カスタム・アプリケーション・フィールドに必要な情報を追加するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」: 「[Application Fields](#)」 タブ (4-25 ページ) で「Add」をクリックするか、フィールドを選択して「Edit」をクリックします。

機能	説明
「Field Name」フィールド	フィールド名を入力します。重複する名前は使用できません。最大フィールド長は 29 文字です。空白、タブ、ラインフィード、キャリッジ・リターンおよび ; ^ ? : @ & + " # % < * ~ の記号は使用できません。
「Field Type」リスト	Text: 30 文字。 Long Text: 100 文字。 Date: 日付書式（英語 - 米国ロケールの場合、 <i>dd/mm/yyyy</i> または <i>dd/mm/yy</i> など）。 Memo: 255 文字。 Integer: $-2^{31} \sim 2^{31}$ (-20 億～+20 億)。定義により、整数は自然数であるため、小数値やカンマは使用できません。
「Field Caption」フィールド	コンテンツ・サーバーのページに表示されるフィールドのラベル。
「Enable Option List」チェック・ボックス	コンテンツ・サーバーのページに、ユーザーが選択可能なオプション・リストを作成します。このチェック・ボックスを有効にし、「 Configure 」をクリックすると、 カスタム情報フィールドの追加 / 編集: 「Configure Option List」画面 (4-16 ページ) が表示されます。詳細は、4-8 ページの 「オプション・リストの定義」 を参照してください。
「Placeholder」チェック・ボックス	選択すると、このフィールドは、格納も索引付けもされないフィールドになります。プレースホルダは多くの場合、依存選択リストの親レベルに使用されます。
「View Only」チェック・ボックス	選択すると、このフィールドは、スキーマ・ビューでのみ使用されるフィールドになります。詳細は、 第 7 章「メタデータをカスタマイズするためのスキーマの使用法」 を参照してください。

5

コンテンツ・リビジョンの管理

概要

この章の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [Repository Manager](#) (5-3 ページ)
- ❖ [コンテンツの管理](#) (5-10 ページ)
- ❖ [ワークフロー・リビジョンの管理](#) (5-28 ページ)

作業

- ❖ [フィルタを使用したリビジョンの表示](#) (5-4 ページ)
- ❖ [最初の間合せのデフォルト・ソート順の変更](#) (5-5 ページ)
- ❖ [新規コンテンツ・アイテムの追加](#) (5-10 ページ)
- ❖ [コンテンツ・メタデータの表示](#) (5-11 ページ)
- ❖ [コンテンツ・メタデータの更新](#) (5-11 ページ)
- ❖ [Repository Manager からの期限切れコンテンツの確認](#) (5-12 ページ)
- ❖ [新規リビジョンの追加](#) (5-18 ページ)
- ❖ [リビジョンのチェックアウト](#) (5-19 ページ)
- ❖ [リビジョン・チェックアウトの取消し](#) (5-19 ページ)
- ❖ [変換のためのリビジョンの再送信](#) (5-20 ページ)

- ❖ [リビジョンの削除](#) (5-20 ページ)
- ❖ [コンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンの削除](#) (5-21 ページ)
- ❖ [ワークフローでのリビジョンの承認](#) (5-28 ページ)
- ❖ [ワークフローでのリビジョンの却下](#) (5-29 ページ)

インタフェース

- ❖ [Repository Manager のメイン画面](#) (5-6 ページ)
- ❖ 「Repository Manager」：「Content」タブ画面 (5-8 ページ)
- ❖ 「Information」画面 (5-15 ページ)
- ❖ 「Add New Content Item」画面 (5-16 ページ)
- ❖ 「Update Content Info」画面 (5-17 ページ)
- ❖ 「Add New Revision」画面 (5-22 ページ)
- ❖ 「Check Out Item」画面 (5-23 ページ)
- ❖ 「Undo Check Out」画面 (5-24 ページ)
- ❖ 「Resubmit Revision」画面 (5-25 ページ)
- ❖ 「Delete Revision」画面 (5-26 ページ)
- ❖ 「Delete All Revisions」画面 (5-27 ページ)
- ❖ 「Approve Revision」画面 (5-30 ページ)
- ❖ 「Reject Revision」画面 (5-31 ページ)

REPOSITORY MANAGER

Repository Manager は、コンテンツ・アイテムのリビジョン、サブスクリプションおよびインデксаを管理するために使用する管理アプリケーションです。アプレットとしての Repository Manager にアクセスするには、ポータル・ナビゲーション・バーで「Administration」トレイ・リンクをクリックします。「Admin Applets」リンクをクリックします。表示されたアプレットから「Repository Manager」を選択します。

Repository Manager はスタンドアロン・モードでも実行できます。詳細は、1-8 ページの「[スタンドアロン・モードでの管理アプリケーションの実行](#)」を参照してください。

Repository Manager の「[Functions](#)」メニュー（5-7 ページ）を使用すると、特定のリビジョンに対して各種の管理機能を実行できます。たとえば、チェックイン、チェックアウト、メタデータの表示および更新、ワークフローのリビジョンの承認または却下、およびリビジョンの削除ができます。

[フィルタを使用したリビジョンの表示](#)（5-4 ページ）でリビジョンを右クリックすると、「Functions」メニューのオプションをすべて含むショートカット・メニューが表示されます。

リビジョンの管理

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [リビジョンの表示](#)（5-3 ページ）
- ❖ [フィルタを使用したリビジョンの表示](#)（5-4 ページ）
- ❖ [最初の間合せのデフォルト・ソート順の変更](#)（5-5 ページ）

リビジョンの表示

管理者および RepMan 権限を持つ副管理者は、Repository Manager でコンテンツ・アイテムのリビジョンのリストを表示できます。管理者は、すべてのコンテンツ・アイテムを表示できます。RepMan 権限を持つ副管理者は、セキュリティ・グループおよびアカウント（該当する場合）に対する管理権限を持つコンテンツ・アイテムのみを表示できます。メタデータ・フィールドとリビジョン・ステータスをフィルタ基準として指定することで、リビジョン・リストを検索できます。



注意：いくつかのコンテンツ・サーバー管理ツールでは、同じようなコンテンツ・アイテム表示画面が使用されます。詳細は、使用しているアプリケーションのドキュメントを参照してください。

フィルタを使用したリビジョンの表示

「Content」 リストをリビジョンによりフィルタ処理する手順：

1. Repository Manager アプリケーションの「Content」 タブで、「**Use Filter**」 チェック・ボックスを選択し、「**Define Filter**」 をクリックします。

[「Define Filter」 画面](#) (1-15 ページ) が表示されます。

2. 使用するフィルタ基準のチェック・ボックスを選択します。
3. 選択したすべてのフィールドの値を指定します。
4. 「**OK**」 をクリックします。

リリース日によりリビジョンをフィルタ処理する手順：

1. Repository Manager アプリケーションの「Content」 タブで、「**Release Date Since**」 チェック・ボックスを選択します。
2. 事前定義の日付範囲の 1 つを選択します。
3. 「**OK**」 をクリックします。

「Content」 タブで表示される列を変更する手順：

1. Repository Manager アプリケーションの「Content」 タブで、「**Show Columns**」 をクリックします。

[「Show Columns」 画面](#) (1-21 ページ) が表示されます。

2. 表示する列を選択します。(このリストの下部には、すべてのユーザー定義フィールドが表示されています。)
3. 「**OK**」 をクリックします。

最初の間合せのデフォルト・ソート順の変更

Repository Manager アプリケーションを起動すると、データベースに対してデフォルトの間合せが実行され、前日にリリースされたすべてのコンテンツが返ってきます。デフォルトでは、結果が間合せによってコンテンツ・アイテムの ContentID を基準にソートされます。

ContentID での順序付けは、Repository Manager に多数のコンテンツ・アイテムのリストがある場合、順序が予測できるため便利です。ただし、多数のドキュメントがある場合、ContentID でソートすると、間合せの結果が返ってくるまで長時間かかる可能性があります。したがって、予測可能な順序を付けずに、間合せ結果をより速く受け取る方がよい場合もあります。

ContentID によるソートに時間がかかりすぎる場合、DoDocNameOrder 構成設定を無効にして順序付けを変更できます。値をデフォルト値の true に設定すると、コンテンツ・アイテムは ContentID によりソートされます。値を false に設定すると、コンテンツ・アイテムはソートされません。さらに、間合せを最適化するためにソート順序を変更するとき、JDBC 間合せトレースを有効にすると便利です。これにより、トレース情報がコンソール・ログに記録され、そこでデータベース間合せを表示できます。

DoDocNameOrder 構成設定を無効にする手順：

1. テキスト・エディタで、**config.cfg** ファイルを開きます。

```
<install_dir>/config/config.cfg
```

2. 次の構成設定を追加します。

```
DoDocNameOrder=false
```

3. config.cfg ファイルを保存して閉じます。
4. Content Server を再起動します。

JDBC 間合せを有効にする手順：

1. Content Server で、「Administration」トレイの「**System Audit Information**」リンクをクリックします。

「System Audit Information」ページが表示されます。

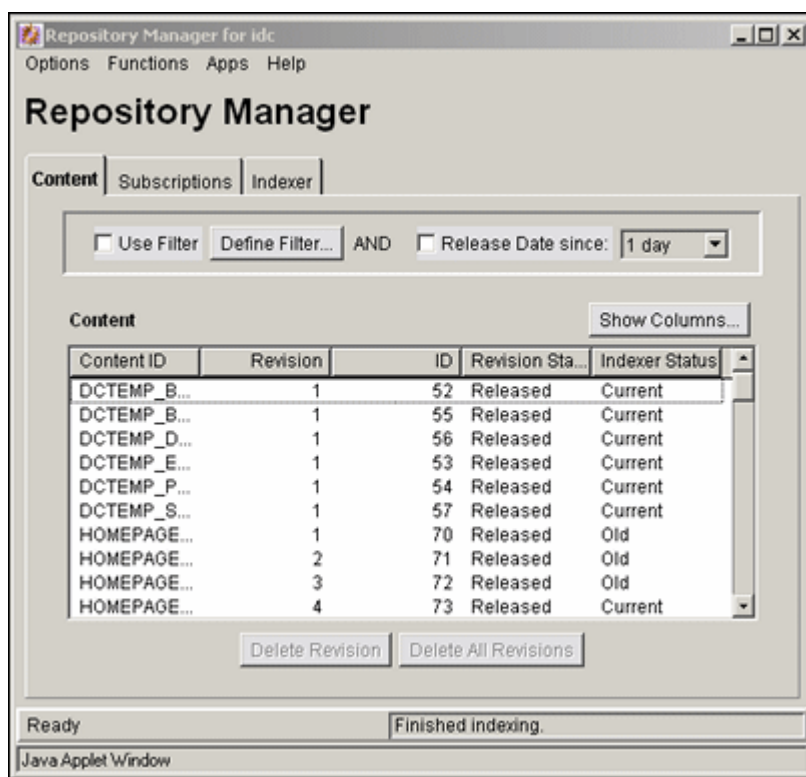
2. 「**Edit Active Console Output Tracing**」のパートの最下部までスクロールします。
3. 「Active Sections」ドロップダウン・リストから「**systemdatabase**」を選択します。
アクティブ・セクションのリストに systemdatabase が追加されます。
4. 「**Update**」をクリックします。
5. Content Server を再起動します。

REPOSITORY MANAGER のインタフェース画面

Repository Manager へのアクセスには、次の画面を使用します。

- ❖ [Repository Manager のメイン画面](#) (5-6 ページ)
- ❖ 「Repository Manager」：「Content」タブ画面 (5-8 ページ)

Repository Manager のメイン画面

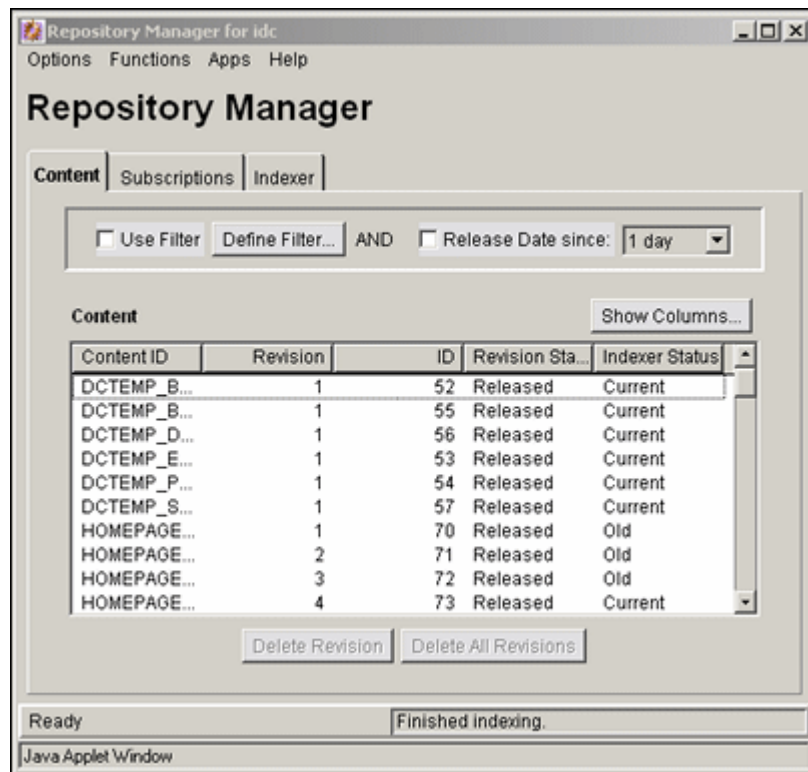


Repository Manager のメイン画面には、Repository Manager で使用できるオプションとタブが表示されます。この画面を表示するには、「Admin Applets」画面で「**Repository Manager**」をクリックするか、Repository Manager をスタンドアロン・モードで起動します。

機能	説明
「Options」メニュー	トレースの開始または終了、および Repository Manager を閉じるためのオプションが含まれています。
「Functions」メニュー	<p>Info: 「Approve Revision」画面 (5-30 ページ) を表示します。</p> <p>Add Revision: ワークフロー・リビジョンの管理 (5-28 ページ) を表示します。このオプションは、スタンドアロンの Repository Manager アプリケーションでのみ使用可能です。</p> <p>Update: 「Update Content Info」画面 (5-17 ページ) を表示します。</p> <p>Subscribers: ワークフロー・リビジョンの管理 (5-28 ページ) を表示します。</p> <p>Check Out: 「Check Out Item」画面 (5-23 ページ) を表示します。</p> <p>Undo Check Out: 「Undo Check Out」画面 (5-24 ページ) を表示します。</p> <p>Approve: 「Approve Revision」画面 (5-30 ページ) を表示します。</p> <p>Reject: 「Reject Revision」画面 (5-31 ページ) を表示します。</p> <p>Resubmit: 「Resubmit Revision」画面 (5-25 ページ) を表示します。</p> <p>Delete Revision: 「Delete Revision」画面 (5-26 ページ) を表示します。</p> <p>Delete All Revisions: 「Delete All Revisions」画面 (5-27 ページ) を表示します。</p> <p> 注意: 「Functions」メニューのオプションはすべて、「Content」リストでリビジョンを右クリックしてアクセスできるショートカット・メニューでも使用できます。</p>
「Apps」メニュー	他の管理アプリケーションを開くときに使用します。他のアプリケーションは、現行アプリケーションと同じモード（アプレットまたはスタンドアロン）で開きます。
「Help」メニュー	<p>Contents: システム管理者向けのオンライン・ヘルプを表示します。</p> <p>「About Content Server」: コンテンツ・サーバーのバージョン、ビルドおよび著作権情報を表示します。</p>

機能	説明
「Content」タブ	5-4 ページの「 フィルタを使用したリビジョンの表示 」を参照してください。
「Subscriptions」タブ	6-4 ページの「 基準サブスクリプションの追加 」を参照してください。
「Indexer」タブ	『システム設定およびプロセスの管理』の Repository Manager の「Indexer」タブに関する項を参照してください。

「Repository Manager」：「Content」タブ画面



Repository Manager の「Content」タブは、コンテンツ・アイテムのリビジョンを表示するときに使用します。このタブにアクセスするには、[Repository Manager のメイン画面](#) (5-6 ページ) を表示し、「Content」をクリックします。

機能	説明
「Use Filter」 チェック・ボックス	「Content」リストを「 Show Columns 」画面（1-21 ページ）で定義したとおりに絞るには、このチェック・ボックスを選択します。
「Define Filter」ボタン	「 Define Filter 」画面（1-15 ページ）を表示します。
「Release Date since」チェック・ボックスおよびリスト	「Content」リストを「Release Date」オプション・リストで定義したとおりに絞るには、このチェック・ボックスを選択します。
「Show Columns」ボタン	「 Show Columns 」画面（1-21 ページ）を表示します。
「Content」リスト	<p>フィルタ設定に一致するコンテンツ・サーバー・リポジトリ内のリビジョンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リストには、1 ページ当たり 50 リビジョンが表示されます。 • リビジョンをダブルクリックすると、そのリビジョンの「Approve Revision」画面（5-30 ページ）が表示されます。 • リビジョンを右クリックすると、「Functions」メニュー（5-7 ページ）から使用できるのと同じオプションを含むショートカット・メニューが表示されます。 • 列の説明は、5-10 ページの「コンテンツの管理」を参照してください。
「Add New」ボタン	<p>「Add New Content Item」画面（5-16 ページ）を表示します。</p> <p>このボタンは、スタンドアロンの Repository Manager アプリケーションでのみ使用可能です。</p>
「Add Revision」ボタン	<p>「Add New Revision」画面（5-22 ページ）を表示します。</p> <p>このボタンは、スタンドアロンの Repository Manager アプリケーションでのみ使用可能です。</p>
「Delete Revision」ボタン	「 Delete Revision 」画面（5-26 ページ）を表示します。

機能	説明
「Delete All Revisions」ボタン	「Delete All Revisions」画面（5-27 ページ）を表示します。

コンテンツの管理

Repository Manager の「[Functions](#)」メニュー（5-7 ページ）を使用すると、特定のコンテンツ・リビジョンに対して各種の管理機能を実行できます。たとえば、チェックイン、チェックアウト、メタデータの表示および更新、ワークフローのリビジョンの承認または却下、およびリビジョンの削除ができます。

「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）でリビジョンを右クリックすると、「[Functions](#)」メニューのオプションをすべて含むショートカット・メニューが表示されます。

コンテンツ管理の一般的な作業は次のとおりです。

- ❖ [新規コンテンツ・アイテムの追加](#)（5-10 ページ）
- ❖ [コンテンツ・メタデータの表示](#)（5-11 ページ）
- ❖ [コンテンツ・メタデータの更新](#)（5-11 ページ）
- ❖ [Repository Manager からの期限切れコンテンツの確認](#)（5-12 ページ）
- ❖ [期限切れ通知の自動化](#)（5-12 ページ）

新規コンテンツ・アイテムの追加

Repository Manager を使用して新規コンテンツ・アイテムを追加するには、次のようにします。



注意：ブラウザから Java アプレットとして起動した Repository Manager を使用すると、新規コンテンツ・アイテムは追加できません。スタンドアロン・アプリケーションを使用する必要があります。

1. スタンドアロン・モードで「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. 「**Add New**」をクリックします。
「[Add New Content Item](#)」画面（5-16 ページ）が表示されます。
3. コンテンツ・アイテムの必須情報およびオプションの情報を入力します。

4. 「OK」をクリックします。

指定したファイルが、新規コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーにチェックインされます。

コンテンツ・メタデータの表示

Repository Manager を使用してリビジョンのメタデータを表示するには、次のようにします。

1. 「Repository Manager」：「Content」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. メタデータを表示するリビジョンを選択します。
3. 「Functions」→「Info」を選択するか、右クリックして「Info」を選択します。
「Approve Revision」画面（5-30 ページ）が表示されます。
4. 「OK」をクリックして、画面を閉じます。

コンテンツ・メタデータの更新

Repository Manager を使用してリビジョンのメタデータを更新するには、次のようにします。

1. 「Repository Manager」：「Content」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. メタデータを更新するリビジョンを選択します。
3. 「Functions」→「Update」を選択するか、右クリックして「Update」を選択します。
「Update Content Info」画面（5-17 ページ）が表示されます。
4. 必要に応じて新しいメタデータを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

メタデータは、新しいリビジョンをチェックインせずに更新されます。

Repository Manager からの期限切れコンテンツの確認

Repository Manager からの期限切れコンテンツを確認するには、次のようにします。

1. [Repository Manager のメイン画面](#) (5-6 ページ) を表示します。
2. 「Content」タブから、「Define Filter」を選択します。
「[Define Filter](#)」画面 (1-15 ページ) が表示されます。
3. 「Revision Status」を有効にして、「Expired」を選択します。
期限切れコンテンツのリストが表示されます。

期限切れ通知の自動化

ユーザーは、期限切れコンテンツを確認できます。コンテンツがまもなく期限切れになるときに、コンテンツの作成者および管理者に電子メールで知らせる自動通知を作成できます。

電子メールで自動的にメッセージを送るには、次の手順に従います。

1. テキスト・エディタで `<install_dir>/config/config.cfg` を編集し、
`EnableExpirationNotifier=1` を入力します。
2. この後の項で説明するように、オプションの構成エントリを調整します。デフォルトでは、コンテンツが期限切れになる 7 日前の午前 0 時に、電子メールのメッセージが管理者に送信されます。そして、作成者とシステム管理者のために、それぞれの「Content Management」トレイに期限切れコンテンツのリンクが追加されます。
3. コンテンツ・サーバーを再起動します。

NotificationQuery

「**NotificationQuery**」設定により、期限切れコンテンツを検索する自動問合せ用の基準を定義します。

NotificationQuery=<query>

❖ <query> の値は、Idoc スクリプト、URL エンコード、またはプレーン・テキストです。

- **Idoc スクリプト問合せ**は、Idoc スクリプトから作成されます。たとえば、データベース索引付けを使用する場合、次の問合せにより、7 日で期限切れになるすべてのドキュメントの電子メール通知を受けられます。

NotificationQuery=dOutDate < '<\$dateCurrent (7)\$>'

または、データベース索引付けを使用する場合、次の問合せにより、すでに期限が切れているすべてのドキュメントの電子メール通知を受けられます。

NotificationQuery=dOutDate<<\$formatDateDatabase(toInteger(dateCurrent()))\$>



注意： 検索エンジンとして Verity または FAST を使用する場合、すでに期限切れになったコンテンツの電子メール通知は受けられません。まもなく期限切れになるコンテンツの電子メール通知のみ受けられます。

- **URL エンコード問合せ**では、Content Server で検索を実行する際に Web ブラウザのアドレス・バーに表示される URL が使用されます。問合せを実行してから、QueryText= で始まる問合せテキストをコピー・アンド・ペーストして、通知問合せを定義できます。たとえば、次の問合せでは、2006 年 8 月 1 日を過ぎてから期限切れになるすべてのコンテンツを返します。

NotificationQuery=QueryText=dOutDate+%3C+%608%2F1%2F06%60&SearchProviders= [...]

- **プレーン・テキスト問合せ**では、プレーン・テキストを使用して、検索変数を定義します。たとえば、次の問合せでは、2006 年 8 月 1 日に期限切れになるすべてのコンテンツを返します。

NotificationQuery=dOutDate=8/1/06

❖ NotificationQuery 設定が定義されていない場合、デフォルト値は、次の 7 日で期限切れになるすべてのコンテンツです。

NotificationQuery=dOutDate < '<\$dateCurrent (7)\$>'

NotifyExtras

NotifyExtras 設定により、(各コンテンツ・アイテムの作成者の他に) 期限切れコンテンツのリストを受信するユーザーを定義します。

```
NotifyExtras=<user1>,<user2>
```

NotifyExtras 設定が `config.cfg` ファイルにない場合、デフォルト値は `sysadmin` です。

```
NotifyExtras=sysadmin
```

NotifyExtras 設定は `config.cfg` ファイルにあるが、値が空白のままである場合、追加通知は送信されません。

NotificationIntervalInDays

NotificationIntervalInDays 設定により、通知問合せが実行される頻度を定義します。

```
NotificationIntervalInDays=<number of days>
```

NotificationIntervalInDays 設定が定義されていない場合、デフォルト値は 1 日です。

```
NotificationIntervalInDays=1
```

NotifyTime

NotifyTime 設定により、通知問合せが実行される日時を 24 時間表記法で定義します。

```
NotifyTime=<hh:mm>
```

たとえば、希望する時刻が午前 11 時 30 分の場合、設定は次のようになります。

```
NotifyTime=11:30
```

しかし、希望する時刻が午後 1 時 30 分の場合、設定は次のようになります。

```
NotifyTime=13:30
```

NotificationIntervalInDays 設定が定義されていない場合、デフォルト値は午前 0 時です。

```
NotifyTime=00:01
```

NotificationMaximum

NotificationMaximum 設定により、通知問合せで返されるコンテンツ・アイテムの最大数を定義します。

```
NotificationMaximum=<maximum # of documents returned>
```

NotificationMaximum 設定が定義されていない場合、デフォルト値は 1,000 です。

```
NotificationMaximum=1000
```

コンテンツ・アイテムは、リリース日でソートされます。最近リリースされたアイテムが返されます。

コンテンツのインタフェース画面

コンテンツの管理に使用する画面は次のとおりです。

- ❖ 「[Information](#)」画面 (5-15 ページ)
- ❖ 「[Add New Content Item](#)」画面 (5-16 ページ)
- ❖ 「[Update Content Info](#)」画面 (5-17 ページ)

「Information」画面

Information for DCTEMP_SNIPPETLAYOUT

Content ID:	DCTEMP_SNIPPETLAYOUT	Author:	sysadmin	Revision:	1
Title:	Snippet DC Layout Template				
Type:	IS	Security Group:	Secure		
Primary File:	snippet_layout.txt				
Release Date:	5/27/04 12:42 PM		Expiration Date:		
Comments:					

OK

Java Applet Window

「Information」画面は、リビジョンのメタデータを表示するときに使用します。この画面にアクセスするには、次のいずれかを行います。

- ❖ 「[Repository Manager](#)」: 「[Content](#)」タブ画面 (5-8 ページ) でリビジョンを選択し、「[Functions](#)」→「[Info](#)」を選択します。
- ❖ 「[Repository Manager](#)」: 「[Content](#)」タブ画面 (5-8 ページ) でリビジョンを右クリックし、「[Info](#)」を選択します。

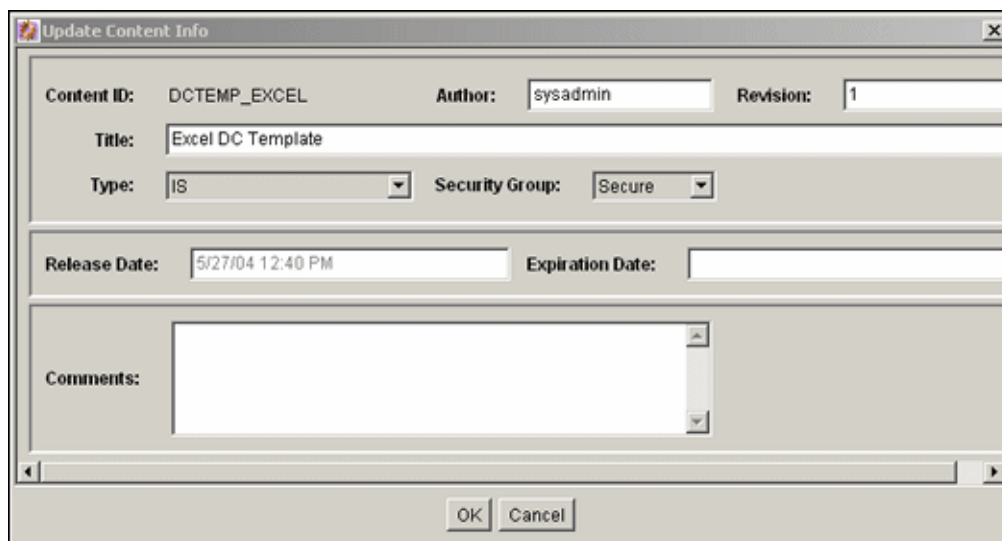
標準のメタデータ・フィールドとカスタム・メタデータ・フィールドがすべてこの画面に表示されます。

「Add New Content Item」画面

「Add New Content Item」画面は、コンテンツ・サーバーのチェックイン・ページを使用せずに、新規のコンテンツ・アイテムをシステムにチェックインするときに使用します。この画面にアクセスするには、スタンドアロンの「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）で「**Add New**」をクリックします。

標準のメタデータ・フィールドとカスタム・メタデータ・フィールドがすべてこの画面に表示されます。標準のメタデータ・フィールドの詳細は、4-4 ページの「[事前定義のメタデータ・フィールド](#)」を参照してください。

「Update Content Info」画面



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "Update Content Info". It contains the following fields and controls:

- Content ID:** DCTEMP_EXCEL
- Author:** sysadmin
- Revision:** 1
- Title:** Excel DC Template
- Type:** IS (dropdown menu)
- Security Group:** Secure (dropdown menu)
- Release Date:** 5/27/04 12:40 PM
- Expiration Date:** (empty field)
- Comments:** (empty text area)
- Buttons:** OK, Cancel

「Update Content Info」画面は、既存のリビジョンのメタデータを変更するときに使用します。この画面にアクセスするには、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Repository Manager」：「Content」タブ画面（5-8 ページ）でリビジョンを選択し、「Functions」→「Update」を選択します。
- ❖ 「Repository Manager」：「Content」タブ画面（5-8 ページ）でリビジョンを右クリックし、「Update」を選択します。

標準のメタデータ・フィールドとカスタム・メタデータ・フィールドがすべてこの画面に表示されます。標準のメタデータ・フィールドの詳細は、4-4 ページの「事前定義のメタデータ・フィールド」を参照してください。

リビジョンの管理

リビジョンとは、新規または改訂されたコンテンツ・アイテムのバージョンです。デフォルトでは、リビジョンにはリビジョン 1 から始まる番号が順次付けられ、コンテンツ・アイテムがチェックアウトされ、再びチェックインされるたびに、リビジョン番号が 1 ずつ増えます。ファイルをチェックアウトし、またチェックインするたびに、Content Server ではそのファイルの新しいリビジョンを作成します。新規リビジョンには、前のリビジョンと同じコンテンツ ID が付きますが、ネイティブ・ファイルとメタデータは同じ場合も異なる場合もあります。システムにはファイルの以前のバージョンが格納されているため、必要に応じて確認できます。

リビジョンを管理するための一般的な作業は次のとおりです。

- ❖ [新規リビジョンの追加](#) (5-18 ページ)
- ❖ [リビジョンのチェックアウト](#) (5-19 ページ)
- ❖ [リビジョン・チェックアウトの取消し](#) (5-19 ページ)
- ❖ [変換のためのリビジョンの再送信](#) (5-20 ページ)
- ❖ [リビジョンの削除](#) (5-20 ページ)
- ❖ [コンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンの削除](#) (5-21 ページ)

新規リビジョンの追加

Repository Manager を使用して既存のコンテンツ・アイテムの新規リビジョンを追加するには、次のようにします。



注意: ブラウザから Java アプレットとして起動した Repository Manager を使用すると、新規リビジョンは追加できません。スタンドアロン・アプリケーションを使用する必要があります。

1. スタンドアロン・モードで [「Repository Manager」: 「Content」 タブ画面](#) (5-8 ページ) を表示します。
2. 新規リビジョンを追加するリビジョンを選択します。
3. **「Add Revision」** をクリックし、**「Functions」** → **「Add Revision」** を選択するか、右クリックして **「Add Revision」** を選択します。
[「Add New Revision」画面](#) (5-22 ページ) が表示されます。
4. リビジョンの必須情報およびオプションの情報を入力します。
5. **「OK」** をクリックします。

指定したファイルが、新規リビジョンとしてコンテンツ・サーバーにチェックインされます。

リビジョンのチェックアウト

Repository Manager を使用してリビジョンをチェックアウトするには、次のようにします。

1. スタンドアロン・モードで「[Repository Manager](#)」:「[Content](#)」タブ画面 (5-8 ページ) を表示します。
2. チェックアウトする 1 つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「**Functions**」→「**Check Out**」を選択するか、右クリックして「**Check Out**」を選択します。

「[Check Out Item](#)」画面 (5-23 ページ) が表示されます。

4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「**OK**」をクリックします。

選択したリビジョンがチェックアウトされます。

リビジョン・チェックアウトの取消し

Repository Manager を使用してコンテンツ・アイテムのチェックアウトを取り消すには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」:「[Content](#)」タブ画面 (5-8 ページ) を表示します。
2. チェックアウトを取り消す 1 つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「**Functions**」→「**Undo Check Out**」を選択するか、右クリックして「**Undo Check Out**」を選択します。

「[Undo Check Out](#)」画面 (5-24 ページ) が表示されます。

4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「**OK**」をクリックします。

選択したリビジョンのチェックアウトが取り消されます。

変換のためのリビジョンの再送信

Repository Manager を使用して変換のためにリビジョンを Inbound Refinery に再送信するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. 変換のために再送信する 1 つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「[Functions](#)」→「[Resubmit](#)」を選択するか、右クリックして「[Resubmit](#)」を選択します。

「[Resubmit Revision](#)」画面（5-25 ページ）が表示されます。

4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「OK」をクリックします。

選択したリビジョンが変換のために Inbound Refinery へ再送信されます。

リビジョンの削除

Repository Manager を使用して特定のリビジョンを削除するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. 削除する 1 つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「[Delete Revision](#)」をクリックし、「[Functions](#)」→「[Delete Revision](#)」を選択するか、右クリックして「[Delete Revision](#)」を選択します。

「[Delete Revision](#)」画面（5-26 ページ）が表示されます。

4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「OK」をクリックします。

選択したリビジョンが削除されます。

コンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンの削除

Repository Manager を使用してコンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンを削除するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. 削除するコンテンツ・アイテムの 1 つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「[Delete All Revisions](#)」をクリックし、「[Functions](#)」→「[Delete All Revisions](#)」を選択するか、右クリックして「[Delete All Revisions](#)」を選択します。

「[Delete All Revisions](#)」画面（5-27 ページ）が表示されます。

4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「OK」をクリックします。

選択したコンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンが削除されます。

リビジョンのインタフェース画面

リビジョンを処理するときに使用する画面は次のとおりです。

- ❖ 「[Add New Revision](#)」画面（5-22 ページ）
- ❖ 「[Check Out Item](#)」画面（5-23 ページ）
- ❖ 「[Undo Check Out](#)」画面（5-24 ページ）
- ❖ 「[Resubmit Revision](#)」画面（5-25 ページ）
- ❖ 「[Delete Revision](#)」画面（5-26 ページ）
- ❖ 「[Delete All Revisions](#)」画面（5-27 ページ）

「Add New Revision」画面

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "Add New Revision for DCTEMP_PPOINT". It contains the following fields and controls:

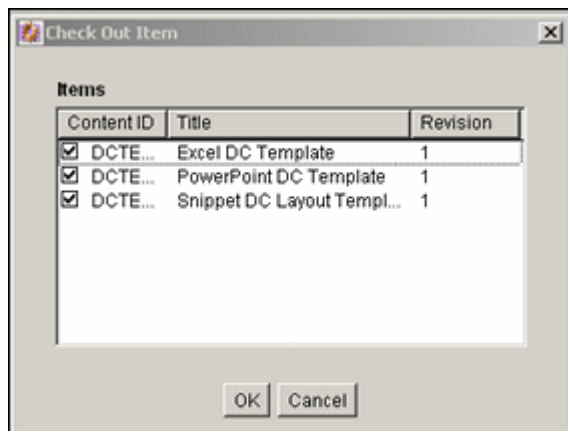
- Content ID:** DCTEMP_PPOINT
- Author:** sysadmin
- Revision:** 2
- Title:** PowerPoint DC Template
- Type:** IS (dropdown menu)
- Security Group:** Secure (dropdown menu)
- Primary File:** (text field with a "Browse..." button)
- Alternate File:** (text field with a "Browse..." button)
- Release Date:** 7/13/06 10:27 AM
- Expiration Date:** (empty text field)
- Comments:** (large text area)
- Buttons:** OK, Cancel, Help

「Add New Revision」画面は、既存のコンテンツ・アイテムのリビジョンをチェックインするときに使用します。この画面にアクセスするには、スタンドアロンの [Repository Manager のメイン画面](#) (5-6 ページ) で次のいずれかを行います。

- ❖ リビジョンを選択して、「Add Revision」をクリックします。
- ❖ リビジョンを選択して、「Functions」→「Add Revision」を選択します。
- ❖ リビジョンを右クリックして「Add Revision」を選択します。

標準のメタデータ・フィールドとカスタム・メタデータ・フィールドがすべてこの画面に表示されます。標準のメタデータ・フィールドの詳細は、4-4 ページの「[事前定義のメタデータ・フィールド](#)」を参照してください。

「Check Out Item」画面

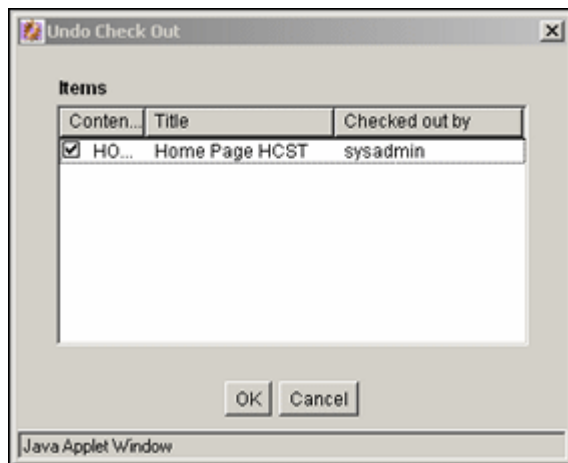


「Check Out Item」画面は、リビジョンをチェックアウトするときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Repository Manager」](#)：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）で1つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Functions」→「Check Out」を選択します。
- ❖ 右クリックして「Check Out」を選択します。

機能	説明
チェック・ボックス	選択: そのリビジョンはチェックアウトされます。 選択解除: そのリビジョンはチェックアウトされません。
「OK」ボタン	選択したリビジョンがチェックアウトされます。

「Undo Check Out」画面

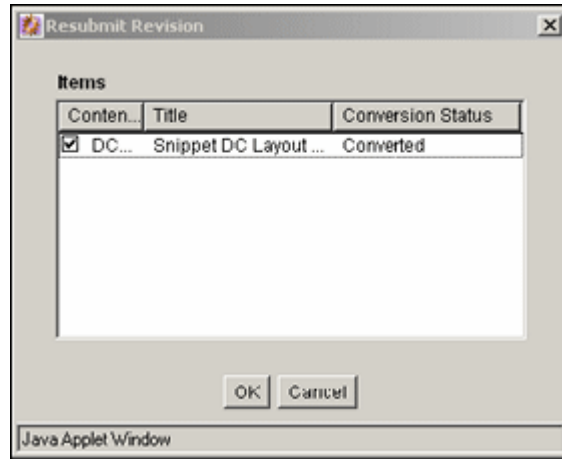


「Undo Check Out」画面は、チェックアウトを取り消すときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）で1つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Functions」 → 「Undo Check Out」を選択します。
- ❖ 右クリックして「Undo Check Out」を選択します。

機能	説明
チェック・ボックス	選択: そのリビジョンのチェックアウトは取り消されます。 選択解除: そのリビジョンはチェックアウトされたままになります。
「OK」ボタン	選択したリビジョンのチェックアウトを取り消します。

「Resubmit Revision」画面



「Resubmit Revision」画面は、変換のためにファイルを Inbound Refinery に送信するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Repository Manager](#)」:「[Content](#)」[タブ画面](#) (5-8 ページ) で 1 つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

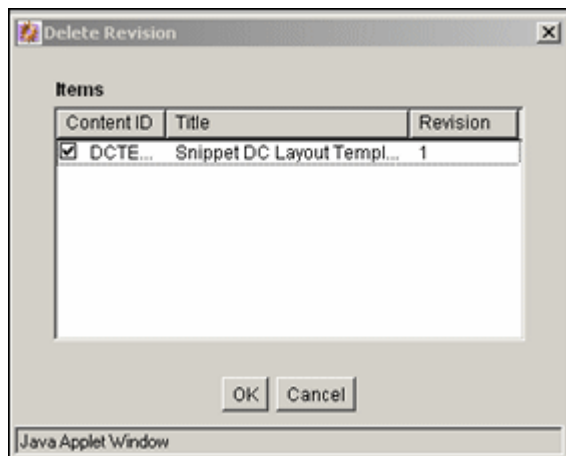
- ❖ 「**Functions**」 → 「**Resubmit**」を選択します。
- ❖ 右クリックして「**Resubmit**」を選択します。



注意: Inbound Refinery キューにあるファイルは再送信できません。

機能	説明
チェック・ボックス	選択: そのリビジョンは、Inbound Refinery に再送信されます。 選択解除: そのリビジョンは、Inbound Refinery に再送信されません。
「OK」ボタン	選択したリビジョンを変換のために Inbound Refinery へ送信します。

「Delete Revision」画面

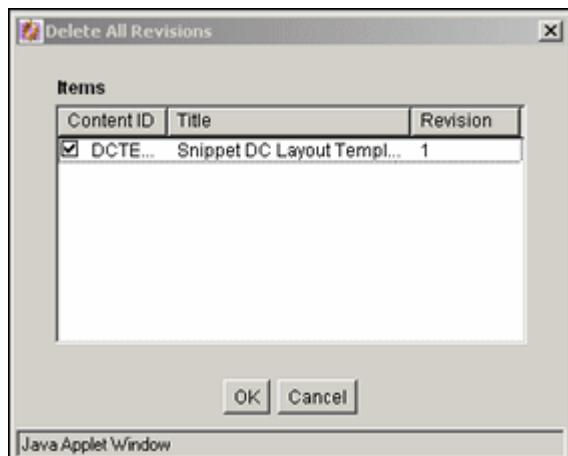


「Delete Revision」画面は、個々のリビジョンを削除するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Repository Manager」](#)：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）で1つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Delete Revision」をクリックします。
- ❖ 「Functions」→「Delete Revision」をクリックします。
- ❖ 右クリックして「Delete Revision」を選択します。

機能	説明
チェック・ボックス	選択 ：そのリビジョンは削除されます。 選択解除 ：そのリビジョンは削除されません。
「OK」ボタン	選択したリビジョンを削除します。

「Delete All Revisions」画面



「Delete All Revisions」画面は、選択したコンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンを削除するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）で1つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Delete All Revisions」をクリックします。
- ❖ 「Functions」 → 「Delete All Revisions」を選択します。
- ❖ 右クリックして「Delete All Revisions」を選択します。

機能	説明
チェック・ボックス	<p>選択：そのコンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンが削除されます。</p> <p>選択解除：そのコンテンツ・アイテムのリビジョンは削除されません。</p>
「OK」ボタン	選択したコンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンを削除します。

ワークフロー・リビジョンの管理

コンテンツがシステムにリリースされる前に、確認および承認のためにどのようにルーティングされるかは、ワークフローによって指定されます。ユーザーは、確認すべきファイルがあるときに、電子メールで通知されます。

ワークフロー参加者から見れば、ワークフローには次の2つのタイプがあります。

- ❖ **基本**ワークフローは、特定のコンテンツ・アイテムの確認プロセスを定義し、手動で開始する必要があります。
- ❖ **基準**ワークフローでは、メタデータが事前定義の基準に一致すれば、ファイルはチェックインと同時に自動的にワークフローに加わります。

ワークフロー・リビジョンを管理するための一般的な作業は次のとおりです。

- ❖ [ワークフローでのリビジョンの承認](#) (5-28 ページ)
- ❖ [ワークフローでのリビジョンの却下](#) (5-29 ページ)

ワークフローでのリビジョンの承認

Repository Manager を使用してワークフローでリビジョンを承認するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」: 「[Content](#)」 [タブ画面](#) (5-8 ページ) を表示します。
2. 承認する1つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「[Functions](#)」 → 「[Approve](#)」を選択するか、右クリックして「[Approve](#)」を選択します。

[「Approve Revision」画面](#) (5-30 ページ) が表示されます。

4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「[OK](#)」をクリックします。

選択したリビジョンが承認されます。

ワークフローでのリビジョンの却下

Repository Manager を使用してワークフローでリビジョンを却下するには、次のようにします。

1. 「Repository Manager」：「Content」タブ画面（5-8 ページ）を表示します。
2. 却下する 1 つ以上のリビジョンを選択します。
3. 「Functions」→「Reject」を選択するか、右クリックして「Reject」を選択します。
「Reject Revision」画面（5-31 ページ）が表示されます。
4. リストからリビジョンを除外するには、そのリビジョンの隣にあるチェック・ボックスの選択を解除します。
5. 却下の理由を説明するメッセージを入力します。
6. 「OK」をクリックします。

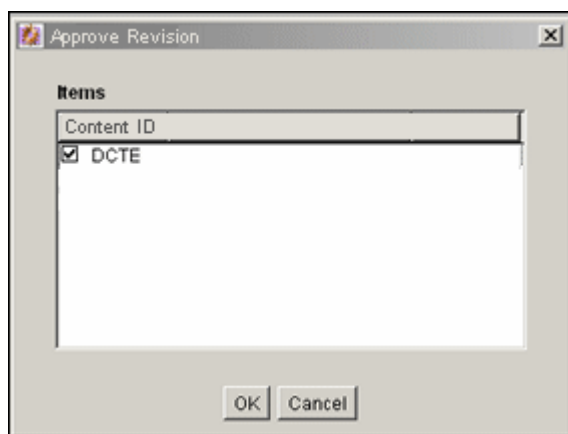
リビジョンは最後のレビューアまたはコントリビュータのステップに戻り、却下の通知電子メールがそのステップのレビューアに送信されます。

ワークフロー・リビジョンのインタフェース画面

ワークフローを処理するときには、次の画面を使用します。

- ❖ 「[Approve Revision](#)」画面（5-30 ページ）
- ❖ 「[Reject Revision](#)」画面（5-31 ページ）

「Approve Revision」画面



「Approve Revision」画面は、ワークフローにあるリビジョンを承認するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Repository Manager](#)」：「[Content](#)」タブ画面（5-8 ページ）でワークフローの1つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

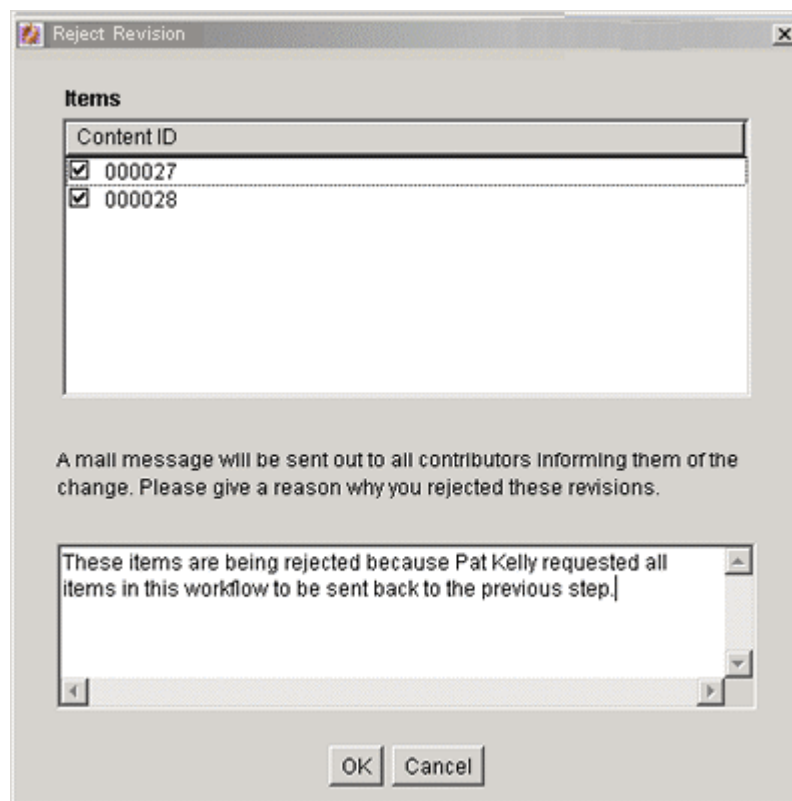
- ❖ 「[Functions](#)」→「[Approve](#)」を選択します。
- ❖ 右クリックして「[Approve](#)」を選択します。

機能	説明
チェック・ボックス	選択: そのリビジョンは承認されます。 選択解除: そのリビジョンは承認されません。
「OK」ボタン	選択したリビジョンを承認します。



注意: この画面には、ワークフローにあるリビジョンのみが表示されます。

「Reject Revision」画面



「Reject Revision」画面は、ワークフローにあるリビジョンを却下するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Repository Manager」](#)：「Content」タブ画面（5-8 ページ）で1つ以上のリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Functions」→「Reject」を選択します。
- ❖ 右クリックして「Reject」を選択します。

機能	説明
チェック・ボックス	選択: そのリビジョンは却下されます。 選択解除: そのリビジョンは却下されません。
却下メッセージ・フィールド	却下通知の電子メールに含めるメッセージを入力します。このメッセージは、却下されたすべてのリビジョンに関して送信されます。
「OK」ボタン	選択したリビジョンを最後のレビューアまたはコントリビュータのステップに返し、却下の通知電子メールをそのステップのレビューアに送信します。



注意: この画面には、ワークフローにあるリビジョンのみが表示されます。

6

ユーザーに対するコンテンツのサブスクライブ

概要

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [サブスクリプション](#) (6-2 ページ)

作業

- ❖ [基準サブスクリプションの追加](#) (6-4 ページ)
- ❖ [サブスクリプション基準の指定](#) (6-4 ページ)
- ❖ [サブスクリプションへのユーザーの追加](#) (6-5 ページ)
- ❖ [コンテンツ・リビジョンからのユーザーのサブスクライブ解除](#) (6-5 ページ)
- ❖ [サブスクリプション情報の表示](#) (6-6 ページ)

インタフェース

- ❖ 「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」画面 (6-9 ページ)
- ❖ 「Fields」画面 (6-10 ページ)
- ❖ 「Users Subscribed」画面 (6-11 ページ)
- ❖ 「Define Filter」画面 (6-12 ページ)
- ❖ 「Content Item Subscribed」画面 (6-13 ページ)
- ❖ 「Add Subscription」画面 (6-14 ページ)
- ❖ 「Select User」画面 (6-15 ページ)
- ❖ 「Select Alias」画面 (6-16 ページ)
- ❖ 「Subscribers」画面 (6-17 ページ)
- ❖ 「Subscription Detail」画面 (6-19 ページ)

サブスクリプション

サブスクリプションとは、特定のコンテンツ・アイテムが改訂されたときに、電子メールでユーザーに通知するコンテンツ・サーバーの機能です。



技術ヒント: サブスクリプション通知メッセージを変更するには、コンポーネント・アーキテクチャを使用して、次のものをカスタマイズできます。

- `subscription_mail_subject` 組込み (`std_page.htm` ファイル)
- `wwwSubscriptionMailSubject` 文字列 (`www_strings.htm` ファイル)
- `subscription_mail.htm` テンプレート



技術ヒント: コンテンツ・サーバーには、20,000 バイトの電子メール・メッセージ・バッファが備わっています。短期間に多数のサブスクリプション電子メール通知がトリガーされると (たとえば、それぞれ 40 のサブスクライバを持つ 40 のコンテンツ・アイテムの場合)、バッファはオーバーロードの状態になる可能性があり、電子メール・メッセージが送信されません。バッファがオーバーロードの状態になったことを示す「Work queue error: Error while collating work queue (Message to append to queue 'CollatedWorkQueue' was too large).」のエラー・メッセージが表示されます。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ サブスクリプションの方法 (6-3 ページ)
- ❖ サブスクリプションの割当て (6-3 ページ)

サブスクリプションの方法

サブスクリプションを作成するには、次の2つの方法があります。

- ❖ **基本サブスクリプション**: ユーザーは、個々のコンテンツ・アイテムに手動でサブスクライブします。このタイプのサブスクリプションは、コンテンツ・サーバーで事前に定義されています。
- ❖ **基準サブスクリプション**: ユーザーは、メタデータの基準に基づいてコンテンツ・アイテムのグループをサブスクライブできます。管理者は、ユーザーまたは別名の2つの方法で、基準サブスクリプションを設定できます。サブスクリプションがユーザーで設定されている場合、ユーザーは希望すればサブスクライブを解除できます。別名が使用されている場合、ユーザーはサブスクライブを解除できません。

サブスクリプションの割当て

ユーザーがコンテンツ・アイテムをサブスクライブできる2つの方法があります。

- ❖ **オープン・サブスクリプション**: ユーザーは、基本または基準サブスクリプションにより、コンテンツ・アイテムを手動でサブスクライブします。
- ❖ **強制サブスクリプション**: 管理者が、特定のサブスクリプションにユーザーまたは別名（あるいはその両方）を割り当てます。個々のユーザーが割り当てられると、各ユーザーは希望すればサブスクライブを解除できます。別名が割り当てられると、その別名のユーザーはサブスクライブを解除できません。

サブスクリプションの管理

サブスクリプションの管理での一般的な作業は次のとおりです。

- ❖ [基準サブスクリプションの追加](#) (6-4 ページ)
- ❖ [サブスクリプション基準の指定](#) (6-4 ページ)
- ❖ [サブスクリプションへのユーザーの追加](#) (6-5 ページ)
- ❖ [コンテンツ・リビジョンからのユーザーのサブスクライブ解除](#) (6-5 ページ)
- ❖ [基準サブスクリプションの編集](#) (6-6 ページ)
- ❖ [サブスクリプション情報の表示](#) (6-6 ページ)
- ❖ [基準サブスクリプションの削除](#) (6-7 ページ)

基準サブスクリプションの追加

基準サブスクリプションを追加するには、次のようにします。

1. サブスクリプション基準を指定します。6-4 ページの「[サブスクリプション基準の指定](#)」を参照してください。
2. ユーザーを追加します。6-5 ページの「[サブスクリプションへのユーザーの追加](#)」を参照してください。



技術ヒント：サブスクリプションに追加されたユーザーが誰も正しい電子メール・アドレスを持っていない場合、通知は失敗します。システムは、ワーク・キュー・ログに 5 つのエラーが発生すると終了し、残りのサブスクライバに通知しません。

サブスクリプション基準の指定

サブスクリプション基準を指定するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」：「[Subscriptions](#)」 [タブ](#)（6-8 ページ）を表示します。
2. 「[Add](#)」をクリックします。
「[Add New Subscription Type](#)」 / 「[Edit Subscription Type](#)」画面（6-9 ページ）が表示されます。
3. サブスクリプションの名前と説明を入力します。
4. 「[Fields](#)」をクリックします。
「[Fields](#)」画面（6-10 ページ）が表示されます。
5. このサブスクリプションに必要なフィールドを指定します。（これらのフィールドの値は、後からユーザーを追加するときに設定します。）
6. 「[OK](#)」をクリックします。
7. サブスクリプションを有効にするか無効にするかを指定します。
8. 「[OK](#)」をクリックします。

サブスクリプションへのユーザーの追加

基準サブスクリプションにユーザーを追加するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」：「[Subscriptions](#)」 [タブ](#) (6-8 ページ) を表示し、ユーザーを追加するサブスクリプションを選択します。
2. 「[Subscribers](#)」をクリックします。
「[Users Subscribed](#)」 [画面](#) (6-11 ページ) が表示されます。
3. 「[Add](#)」をクリックします。
「[Add Subscription](#)」 [画面](#) (6-14 ページ) が表示されます。
4. 「[User](#)」または「[Alias](#)」を選択します。
5. 「[Select](#)」をクリックします。
「[Select User](#)」 [画面](#) (6-15 ページ) または「[Select Alias](#)」 [画面](#) (6-16 ページ) が表示されます。
6. サブスクライブに追加するユーザーまたは別名を選択します。
7. 「[OK](#)」をクリックします。
8. 先に指定した基準フィールドの値を設定します。
9. 「[OK](#)」をクリックします。

コンテンツ・リビジョンからのユーザーのサブスクライブ解除

Repository Manager を使用してコンテンツ・アイテムからユーザーまたは別名のサブスクライブを解除するには、次のようにします。

1. 「[Repository Manager](#)」：「[Subscriptions](#)」 [タブ](#) (6-8 ページ) を表示します。
2. ユーザーまたは別名のサブスクライブを解除するリビジョンを選択します。
3. 「[Functions](#)」 → 「[Subscribers](#)」を選択するか、右クリックして「[Subscribers](#)」を選択します。
「[Subscribers](#)」 [画面](#) (6-17 ページ) が表示されます。
4. サブスクリプションを解除するユーザーまたは別名を選択します。
5. 「[Unsubscribe](#)」をクリックします。
確認画面が表示されます。
6. 「[OK](#)」をクリックします。
ユーザーまたは別名は、サブスクリプション・リストから削除されます。

基準サブスクリプションの編集

基準サブスクリプションを編集するには、次のようにします。

1. 「Repository Manager」：「Subscriptions」タブ（6-8 ページ）を表示します。
2. サブスクリプションを選択します。
3. 「Edit」をクリックします。

「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」画面（6-9 ページ）が表示されます。

4. 必要な設定を変更し、「OK」をクリックします。



重要：基準フィールドを変更すると、現行のサブスクリプションはすべて削除されます。この機能で作業するときには注意してください。

5. 「Subscribers」をクリックします。

「Users Subscribed」画面（6-11 ページ）が表示されます。

6. 必要な設定を変更し、「OK」をクリックします。

サブスクリプション情報の表示

Repository Manager を使用してリビジョンのサブスクリプション情報を表示するには、次のようにします。

1. 「Repository Manager」：「Subscriptions」タブ（6-8 ページ）を表示します。
2. サブスクリプション情報を表示するリビジョンを選択します。
3. 「Functions」→「Subscribers」を選択するか、右クリックして「Subscribers」を選択します。

「Subscribers」画面（6-17 ページ）が表示されます。

4. サブスクリプション・リストを絞るには、次のようにします。

a. 「Use Filter」チェック・ボックスを選択します。

b. 「Define Filter」をクリックします。

「Subscription Detail」画面（6-19 ページ）が表示されます。

c. フィルタ基準を入力します。

d. 「OK」をクリックします。

5. 特定のユーザーまたは別名のサブスクリプション詳細を表示するには、そのユーザーまたは別名を選択して「View Details」をクリックします。

「Subscription Detail」画面（6-19 ページ）が表示されます。

基準サブスクリプションの削除

基準サブスクリプションを削除するには、次のようにします。

1. 「Repository Manager」：「Subscriptions」 [タブ](#) (6-8 ページ) を表示します。
2. サブスクリプションを選択します。
3. 「Delete」をクリックします。
確認画面が表示されます。
4. 「Yes」をクリックします。

サブスクリプションのインタフェース画面

サブスクリプションを管理するときには、次の画面を使用します。

- ❖ 「Repository Manager」：「Subscriptions」 [タブ](#) (6-8 ページ)
- ❖ 「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」 [画面](#) (6-9 ページ)
- ❖ 「Fields」 [画面](#) (6-10 ページ)
- ❖ 「Users Subscribed」 [画面](#) (6-11 ページ)
- ❖ 「Define Filter」 [画面](#) (6-12 ページ)
- ❖ 「Content Item Subscribed」 [画面](#) (6-13 ページ)
- ❖ 「Add Subscription」 [画面](#) (6-14 ページ)
- ❖ 「Select User」 [画面](#) (6-15 ページ)
- ❖ 「Select Alias」 [画面](#) (6-16 ページ)
- ❖ 「Subscribers」 [画面](#) (6-17 ページ)
- ❖ 「Subscription Detail」 [画面](#) (6-19 ページ)

「Repository Manager」：「Subscriptions」タブ



Repository Manager の「Subscriptions」タブは、基準サブスクリプションを作成および編集するときに使用します。このタブにアクセスするには、[Repository Manager のメイン画面](#)（5-6 ページ）でタブをクリックします。

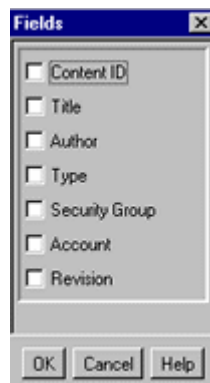
機能	説明
「Type」列	サブスクリプションに指定する名前。
「Field List」列	サブスクリプションに割り当てられたアクティブな基準フィールド。
「Description」列	サブスクリプションに対応する説明。
「Status」列	サブスクリプションの有効または無効のステータス。
「Add」ボタン	「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」 画面（6-9 ページ）を表示します。
「Edit」ボタン	「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」 画面（6-9 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	サブスクリプションをリストから削除します。
「Subscribers」ボタン	「Users Subscribed」 画面（6-11 ページ）を表示し、ここでサブスクリプションをサブスクライブするユーザーを追加または削除します。さらに、このサブスクリプションのファイルを表示するときにもこの画面を使用できます。

「Add New Subscription Type」 / 「Edit Subscription Type」画面

「Add New Subscription Type」画面または「Edit Subscription Type」画面は、サブスクリプションの追加または編集に使用されます。この画面にアクセスするには、[「Repository Manager」](#)：「[Subscriptions](#)」タブ（6-8 ページ）で「[Add](#)」または「[Edit](#)」をクリックします。

機能	定義
「Subscription Type」フィールド	サブスクリプションに指定する名前。
「Description」フィールド	サブスクリプションの説明。
「Notifications」チェック・ボックス	<p>Enabled: サブスクリプション基準を満たすコンテンツがチェックインまたは更新されると、電子メール・メッセージがサブスクライバに送信されます。</p> <p>Disabled: サブスクライバへの電子メール通知を停止します。これは、メール・サーバーが停止するか、過負荷になったときに便利です。</p>
「Criteria Fields」ボックス	サブスクリプションを定義するために使用されるメタデータ・フィールドを表示します。
「Fields」ボタン	「Fields」画面 （6-10 ページ）を表示し、これを使用してサブスクリプションのメタデータ・フィールドを定義します。

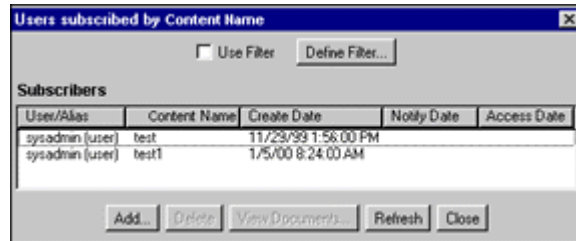
「Fields」画面



「Fields」画面は、サブスクリプションのメタデータ・フィールドを定義するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Add New Subscription Type](#)」 / 「[Edit Subscription Type](#)」画面（6-9 ページ）で「Fields」をクリックします。

機能	定義
チェック・ボックス	選択: メタデータ・フィールドは、サブスクリプション基準に含まれます。 選択解除: メタデータ・フィールドは、サブスクリプション基準に含まれません。

「Users Subscribed」画面



「Users Subscribed」画面は、サブスクリプションの特定のユーザーと別名を表示、追加および削除するときに使用します。この画面を使用すれば、サブスクリプション基準を満たすコンテンツ・アイテムも表示できます。この画面にアクセスするには、
「Repository Manager」：「Subscriptions」タブ（6-8 ページ）でサブスクリプションを選択して**「Subscribers」**をクリックします。

機能	説明
「Use Filter」チェック・ボックス	「Subscribers」リストを 「Show Columns」画面 （1-21 ページ）で定義したとおりに絞るには、このチェック・ボックスを選択します。
「Define Filter」ボタン	「Define Filter」画面 （6-12 ページ）を表示します。
「Subscribers」リスト	<p>フィルタ設定に一致するサブスクライブ・ユーザーおよび別名が表示されます。</p> <p>「User/Alias」列：サブスクリプションの特定のユーザー / 別名。</p> <p>「Criteria」列：サブスクリプション基準に含まれるメタデータ・フィールドごとに 1 列表示されます。</p> <p>「Create Date」列：ユーザーまたは別名がサブスクリプションに（有効 / 無効のステータスに関係なく）追加された日付。</p> <p>「Notify Date」列：サブスクライブされているコンテンツ・アイテムに対するリビジョンについて、ユーザーが電子メールで通知された最後の日付。（通知日は、別名には記録されません。）</p> <p>「Access Date」列：サブスクリプション基準で定義されているファイルに、ユーザーがアクセスした最後の日付。（アクセス日は、別名には記録されません。）</p>
「Add」ボタン	「Add Subscription」画面 （6-14 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	サブスクリプションからユーザーまたは別名を削除します。

機能	説明
「View Content Items」 ボタン	「Content Item Subscribed」 画面（6-13 ページ）を表示します。
「Refresh」 ボタン	最新データにより画面をリフレッシュします。

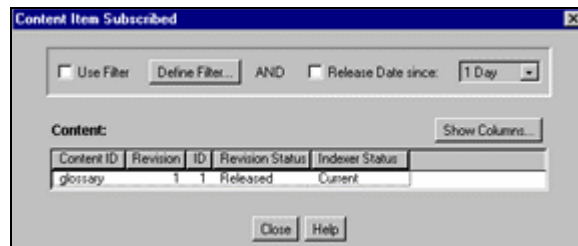
「Define Filter」 画面

「Define Filter」画面は、「Users Subscribed」画面に表示されるユーザーと別名のリストを絞るときに使用します。この画面にアクセスするには、「Users Subscribed」画面（6-11 ページ）で「Define Filter」をクリックします。

機能	説明
チェック・ボックス	フィルタ・フィールドをアクティブにするために、1つ以上のチェック・ボックスを選択します。
フィールド	<p>「Users Subscribed」画面（6-11 ページ）は、入力した基準に基づいてフィルタ処理されます。次のワイルドカードは、これらのフィールドで使用できます。</p> <p>MS Access または MSDE では、* は 1 つ以上の文字、? は 1 つの文字を表します。</p> <p>その他すべてのデータベースでは、% は 1 つ以上の文字、_ は 1 つの文字を表します。</p>

機能	説明
「Alias Type」フィールド	User: ユーザーのみを表示します。 Alias: 別名のみを表示します。
「User/Alias」フィールド	特定のユーザーまたは別名の名前。
「Creation Date」フィールド	ユーザーまたは別名がサブスクリプションに（有効 / 無効のステータスに関係なく）追加された日付。
「Last Notification Date」フィールド	サブスクライブされているコンテンツ・アイテムに対するリビジョンについて、ユーザーが電子メールで通知された最後の日付。
「Last User Access Date」フィールド	サブスクリプション基準で定義されているファイルに、ユーザーがアクセスした最後の日付。

「Content Item Subscribed」画面

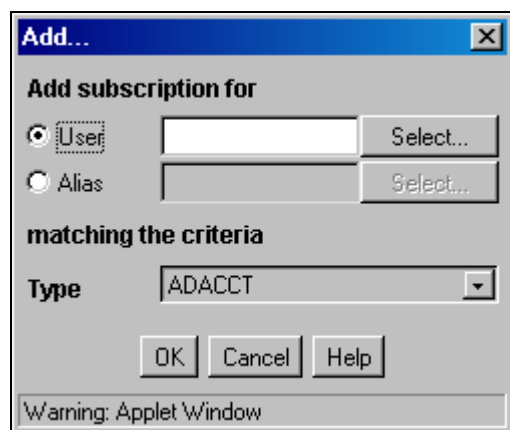


「Content Item Subscribed」画面は、サブスクリプションの基準に一致するコンテンツ・アイテムを表示するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Users Subscribed」画面](#)（6-11 ページ）で「**View Content Items**」をクリックします。

機能	説明
「Use Filter」チェック・ボックス	「Show Columns」画面 （1-21 ページ）で定義したフィルタを使用するときにこのボックスを選択します。
「Define Filter」ボタン	「Define Filter」画面 （1-15 ページ）を表示します。

機能	説明
「Release Date since」チェック・ボックスおよびリスト	「Content」リストを「Release Date」オプション・リストで定義したとおりに絞るには、このチェック・ボックスを選択します。
「Show Columns」ボタン	「Show Columns」画面を表示します。
「Content」リスト	フィルタ設定に一致するサブスクライブ・リビジョンが表示されます。 リストには、1 ページ当たり 50 リビジョンが表示されます。 リビジョンをダブルクリックすると、そのリビジョンの「Information」画面が表示されます。 列の説明は、1-15 ページの「 Define Filter 画面」を参照してください。

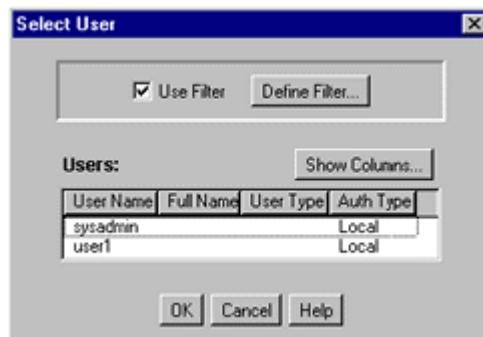
「Add Subscription」画面



「Add」画面は、ユーザーまたは別名の特定のサブスクリプションを追加するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Users Subscribed」画面](#)（6-11 ページ）で「Add」をクリックします。

機能	説明
「User」 オプション	指定したユーザーがサブスクリプションに追加されます。
「Alias」 オプション	指定した別名がサブスクリプションに追加されます。
「Select (User)」 ボタン	「Select User」 画面 (6-15 ページ) を表示します。
「Select (Alias)」 ボタン	「Select Alias」 画面 (6-16 ページ) を表示します。
基準のフィールド	選択したユーザーまたは別名がサブスクリブする特定のメタデータの値。サブスクリプションに指定したすべての基準フィールドが表示されます。

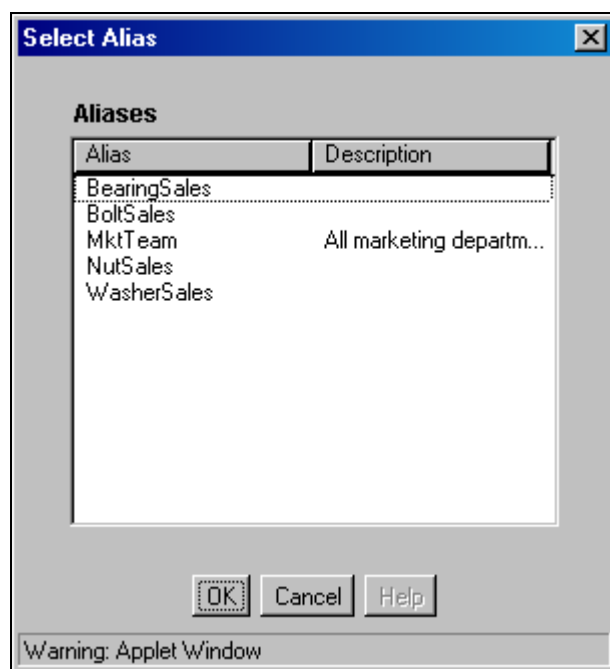
「Select User」 画面



「Select User」画面は、サブスクリプションを割り当てるユーザーを選択するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Add Subscription」画面](#) (6-14 ページ) で「User」オプションを選択して「Select」をクリックします。

機能	説明
「Use Filter」チェック・ボックス	「Users」リストを「 Define Filter 」画面（1-15 ページ）で定義したとおりに絞るには、このチェック・ボックスを選択します。
「Define Filter」ボタン	「 Define Filter 」画面（1-15 ページ）を表示します。
「Show Columns」ボタン	「 Show Columns 」画面（1-21 ページ）を表示します。
「Users」リスト	フィルタ設定に一致するユーザーが表示されます。 列の説明は、1-15 ページの「 Define Filter 」画面を参照してください。

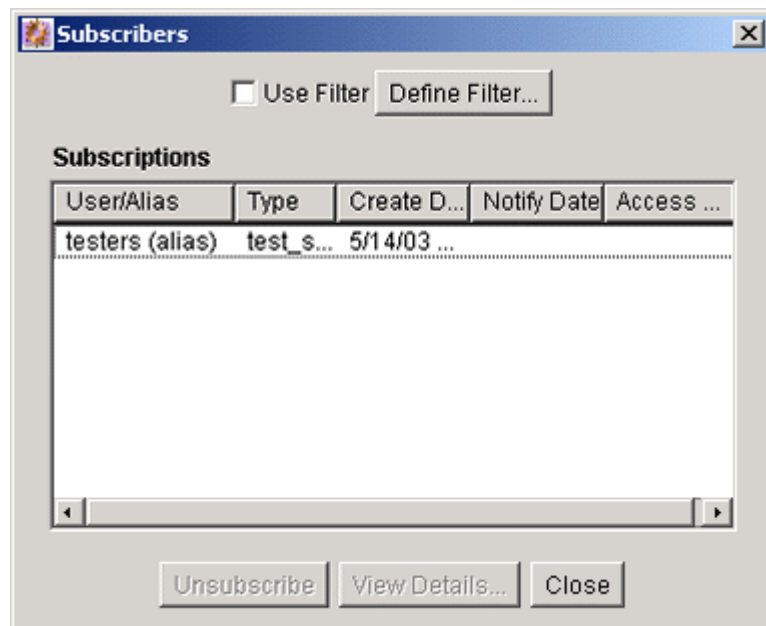
「Select Alias」画面



「Select Alias」画面は、サブスクリプションを割り当てる別名を選択するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Add Subscription](#)」画面（6-14 ページ）で「Alias」オプションを選択して「**Select**」をクリックします。

機能	説明
「Alias」列	使用可能な別名が表示されます。
「Description」列	別名の説明。

「Subscribers」画面



「Subscribers」画面は、特定のリビジョンに対するサブスクリプションのユーザーを表示し、サブスクライブを解除するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Repository Manager」](#)：「Content」タブ画面（5-8 ページ）で1つのリビジョンを選択し、次のいずれかを行います。

- ❖ 「Functions」→「Subscribers」を選択します。
- ❖ 右クリックして「Subscribers」を選択します。

機能	説明
「Use Filter」チェック・ボックス	「Subscriptions」リストを「 Show Columns 」画面（1-21 ページ）で定義したとおりに絞るには、このチェック・ボックスを選択します。
「Define Filter」ボタン	「 Define Filter 」画面（1-15 ページ）を表示します。
「User/Alias」列	リビジョンをサブスクライブするユーザーまたは別名。
「Type」列	サブスクリプション・タイプ。
「Create Date」列	ユーザーまたは別名がサブスクリプションに（有効 / 無効のステータスに関係なく）追加された日付。
「Notify Date」列	サブスクライブされているコンテンツ・アイテムに対するリビジョンについて、ユーザーが電子メールで通知された最後の日付。
「Access Date」列	サブスクリプション基準で定義されているファイルに、ユーザーがアクセスした最後の日付。
「Unsubscribe」ボタン	選択したサブスクリプションを取り消します。
「View Details」ボタン	「 Subscription Detail 」画面（6-19 ページ）を表示します。
「Close」ボタン	「Subscribers」画面を閉じます。

「Subscription Detail」画面

Subscription Detail for 000028

User: sysadmin

Subscription Type: Basic

Content ID: 000028

Subscription Dates

Subscribed At: 5/29/03 2:21 PM

Notification Last Sent At:

Notification Last Used At:

Close

「Subscription Detail」画面は、サブスクリプションの詳細を表示するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Subscribers](#)」画面（6-17 ページ）でユーザーまたは別名を選択し、「**View Details**」をクリックします。

機能	説明
「User」または「Alias」フィールド	リビジョンをサブスクライブするユーザーまたは別名。
「Subscription Type」フィールド	サブスクリプションのタイプ。
メタデータのフィールド	サブスクリプション基準を定義するフィールドと値。
「Subscribed At」フィールド	ユーザーまたは別名がサブスクリプションに（有効 / 無効のステータスに関係なく）追加された日付。
「Notification Last Sent At」フィールド	サブスクライブされているコンテンツ・アイテムに対するリビジョンについて、ユーザーが電子メールで通知された最後の日付。
「Notification Last Used At」フィールド	サブスクリプション基準で定義されているファイルに、ユーザーがアクセスした最後の日付。

ユーザーに対するコンテンツのサブスクライブ

7

メタデータをカスタマイズするためのスキーマの使用法

概要

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [DCL とメタデータ・スキーマ](#) (7-3 ページ)
- ❖ [スキーマの階層構造](#) (7-4 ページ)
- ❖ [表](#) (7-5 ページ)
- ❖ [ビュー](#) (7-6 ページ)
- ❖ [関係](#) (7-7 ページ)
- ❖ [スキーマベースのオプション・リストの例](#) (7-8 ページ)
- ❖ [スキーマの例: 動的オプション・リスト](#) (7-33 ページ)

作業

- ❖ [基本スキーマの作成](#) (7-10 ページ)
- ❖ [公開サイクルの間隔の変更](#) (7-12 ページ)

インタフェース

- ❖ 「Configuration Manager」：「Tables」タブ (7-14 ページ)
- ❖ 「Select Table」画面 (7-15 ページ)
- ❖ 「Create Table」 / 「Edit Table "name"」画面 (7-16 ページ)
- ❖ 「Add Column」 / 「Edit Column」画面 (7-17 ページ)
- ❖ 「Configuration Manager」：「Views」タブ (7-18 ページ)
- ❖ 「Add View」画面：表の選択 (7-19 ページ)
- ❖ 「Add View」画面：列の選択 (7-20 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Info」タブ (7-21 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：列の変更 (7-22 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Display」タブ (7-23 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Display」タブ：「Edit Display Rule」 (7-24 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Options」タブ (7-24 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Security」タブ (7-26 ページ)
- ❖ 「Configuration Manager」：「Relations」タブ (7-30 ページ)
- ❖ 「Add Relationship」 / 「Edit Relationship」画面 (7-31 ページ)
- ❖ 「Edit Values For View」画面 (7-27 ページ)
- ❖ 「Add Value」 / 「Edit Value」画面 (7-28 ページ)
- ❖ Edit Values: Edit Batch (7-29 ページ)
- ❖ 「Edit Tree」画面 (7-32 ページ)

DCL とメタデータ・スキーマ

Configuration Manager の「Information Fields」タブを使用すると、オプション・リスト付きのカスタム・メタデータ・フィールドを作成できます。さらに、情報フィールドを作成し、それに関連付けたオプション・リストを別の情報フィールドのオプション・リストに依存させることができます。この構成を依存選択リスト（DCL）と呼びます。

たとえば、Country 情報フィールド用のオプション・リストがあり、State 情報フィールド用の別のオプション・リストがあるとします。State オプション・リストで使用可能な選択肢は、Country オプション・リストからどの国が選択されたかに依存します。

メタデータ・スキーマ・マッピング機能は、依存選択リスト機能と同様に、情報フィールドのオプション・リスト用に階層構造を作成できます。ただし、メタデータ・スキーマ・マッピングの方が汎用性があります。オプション・リストのビューは、ローカライゼーションの要件に適應するよう簡単に調整できます。

Content Server メタデータ・スキーマ・マッピング機能には、情報リストおよび対応するオプション・リストを管理するために設定し、使用する構造が必要です。メタデータ・スキーマにより、オプション・リスト（データベース表に格納）、使用可能な選択肢（表の列にある値）、および選択肢とオプション・リスト間の依存性（関係）が定義されます。

スキーマは設定が複雑になる可能性があります。スキーマを設定する前に疑問がある場合は、コンサルティング・サービスに問い合わせて計画を確認してください。



注意：Internet Explorer 5.0 では DHTML がサポートされていないため、Content Server のスキーマ・マッピング機能を使用して作成した DCL には、オプション・リストの値が表示されません。Internet Explorer 6.0 ではこの問題はありません。

Content Publisher でスキーマを使用する場合、表に問合せページをラップすると、Internet Explorer でエラーが発生します。これは、スキーマとページとの相互作用が原因です。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [スキーマの階層構造](#) (7-4 ページ)
- ❖ [スキーマの要素](#) (7-5 ページ)
- ❖ [スキーマベースのオプション・リストの例](#) (7-8 ページ)
- ❖ [スキーマのディレクトリ構造](#) (7-8 ページ)

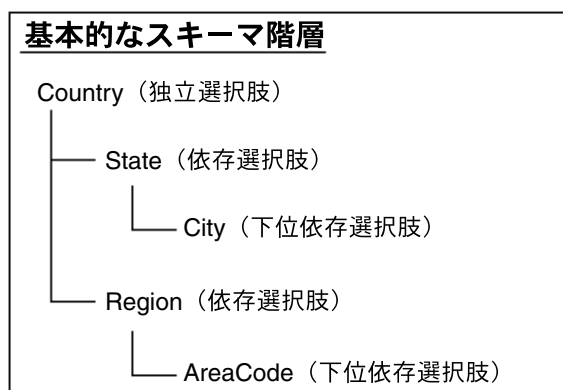
スキーマの階層構造

スキーマは、関連するスキーマ・オブジェクトの集合です。スキーマという用語は、**Content Server** のメタデータ・スキーマ・マッピング機能をサポートするために作成されるデータベース階層の図式的な描写のことも指します。スキーマ階層構造は、表とそれらの個別の列（またはフィールド）、データのビューおよびそれらの関係で構成されています。

引き続き **Country** と **State** の例で、スキーマ階層をより詳しく説明します。3 層の依存構造を示すために、追加の情報フィールド（**City**、**Region** および **Area Code**）が含まれています。

図 7-1 は、基本的なスキーマ階層の例で、1 つの独立フィールドに 2 つの依存フィールドがあります。各依存フィールドにも、1 つの依存フィールドがあります。これらの依存性は、親 / 子関係とも呼ばれます。

図 7-1 基本的なスキーマ階層の例



この 3 層のスキーマ階層には、**Country**、**State**、**City**、**Region** および **Area Code** の 5 つの別個のメタデータ・フィールドがあります。各フィールドは、ユーザーに対して固有のオプション・リストを提示します。

オプション・リストの内容は、その情報フィールドが依存型かそうでないかによって決まります。次のオプション・リストは、基本的な **Country/State/Zip** スキーマの例に基づいています。

- ❖ **Country** オプション・リストは独立しているので、選択肢は不変です。
- ❖ **State** オプション・リストで使用可能な選択肢は、**Country** オプション・リストからユーザーが選択する国によって決まります。
- ❖ **City** オプション・リストで使用可能な選択肢は、**State** オプション・リストからユーザーが選択する州によって決まります。

- ❖ Region オプション・リストで使用可能な選択肢は、Country オプション・リストからユーザーが選択する国によって決まります。
- ❖ Area Code オプション・リストで使用可能な選択肢は、Region オプション・リストからユーザーが選択する地域によって決まります。

スキーマの要素

スキーマは、次の要素で構成されます。

- ❖ [表](#) (7-5 ページ)
- ❖ [ビュー](#) (7-6 ページ)
- ❖ [関係](#) (7-7 ページ)

表

スキーマ表は、情報フィールド（メタデータ）のオプション・リストで表示される選択肢を格納するデータベース表です。

表とその列は、「Tables」タブを使用して作成します（7-14 ページの「[Configuration Manager](#)」：「[Tables](#)」タブを参照）。各表には複数の列を作成できますが、依存選択リストを作成するには、最低 2 つの列が不可欠です。

- ❖ 1 つのオプション・リストと、このリストで選択された選択肢に依存するもう 1 つのオプション・リストとの依存性を作成するために使用する共通の列名（たとえば、Country と State）。
- ❖ メタデータ・オプション・リストの選択肢を格納する列。

図 7-2 スキーマ表の例

スキーマ表				
Country	State	City	Region	AreaCode
countryID	stateID	cityID	regionID	areacodeID
countryName	countryID	stateID	countryID	regionID
	stateName	cityName	regionName	areacode

3 層から成るスキーマ階層の図式の例（Country、Stat、City、Region、Area Code）を使用すると、スキーマのツリー構造のブランチごとに、1 つの表を作成する必要があります。さらに、依存表（子表）には、それが従属する表（親表）にある列に対応する同一の列が含まれている必要があります。これらの対応する列は、2 つの表間の依存性を作成するために使用され、最終的には依存選択リストの生成に使用されます。

たとえば、図 7-3 の表は、Country および State の表の列に、どのように値が移入されるかを示しています。各 **name** 列のデータは、オプション・リストで使用可能な選択肢になります。Country 表と State 表で対応する列（countryID）間で作成される関係により、State のメタデータ・オプション・リストで表示される選択肢が決まります。

図 7-3 値が移入されたスキーマ表

Country		State		
countryID	countryName	countryID	stateID	stateName
1	United States	1	1A	Minnesota
2	Canada	1	1B	Wisconsin
		2	2A	Manitoba
		2	2B	Ontario

ビュー

ビューは、対応する表のカスタマイズされた表示です。ビューにはデータは格納されていませんが、それぞれの表からデータを導出します。ビューは、データベースを使用のために簡略化し、異なる見方でデータを表示するために使用されます。

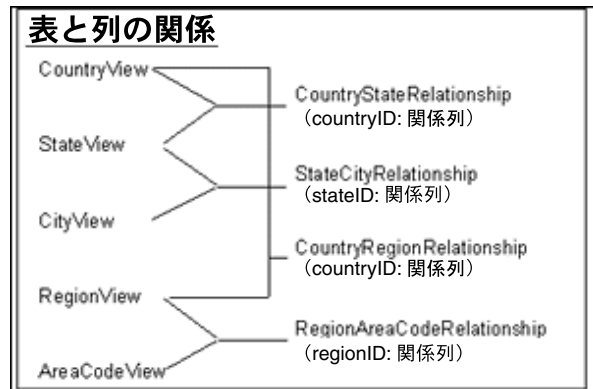
ビューは、プロパティのリストと、関連付けられた表示ルールで構成されます。スキーマ内の各表には、関連付けられたビューが必要です。ビューでは、次のアイテムに関する情報が提供されます。

- ❖ スキーマに含まれている表の特定の列。選択された列は、表間の依存性を設定するために使用される他、依存選択リストの生成にも使用されます。
- ❖ 内部および外部の列名。
- ❖ ユーザー・インタフェースの表示特性。
- ❖ 編集およびソート順序の基準。

関係

関係により表間の依存性が定義され、適切な依存選択リストの生成には不可欠です。それぞれの定義済の関係により、親表と子表との対応が成立します。この対応は、親表内の列に依存する子表内の列を指定することで作成します。したがって、子表の列のデータを使用して表示される選択肢は、親表の対応する列のデータから作成される選択肢次第です。

図 7-4 表と列の関係



たとえば、[図 7-4](#) では、CountryView (Country 表) と StateView (State 表) で、親の国リストと子の州リストを生成する関係を作成するために、countryID 列が使用されています。つまり、State メタデータ・オプション・リストで使用可能な選択肢は、Country メタデータ・オプション・リストで作成された選択肢に依存します。

スキーマベースのオプション・リストの例

スキーマ表、ビューおよび関係が作成され、正しく設定されると、オプション・リストに適切な選択肢が表示されます。たとえば、図 7-5 では、Country オプション・リストに、United States と Canada の 2 つの選択肢が表示されています。

図 7-5 オプション・リストの例



State メタデータ・フィールドは Country フィールド次第であるため、State オプション・リストには、Country オプション・リストで作成された選択肢に基づいたアイテムが含まれます。この場合、United States 選択肢が選択された場合、State オプション・リストには Minnesota と Wisconsin が選択肢として表示されます。Canada が選択されると、State オプション・リストには Ontario と Quebec が表示されます。

図 7-6 依存オプション・リストの例



スキーマのディレクトリ構造

スキーマ機能には、次の 3 つのサブディレクトリが関連付けられています。

- ❖ schema
- ❖ schema.work
- ❖ schema.old

これらは、<install_dir>/<instance>/weblayout/resources ディレクトリにあります。

スキーマ作業ディレクトリは、一時ディレクトリであるため、通常表示されません。スキーマ作成プロセスが完了すると、ディレクトリの名前は変更されます。このディレクトリが存在する場合、次のいずれかを表します。

- ❖ 大きなスキーマの再構築が進行中です。
- ❖ スキーマは作成されていますが、スキーマ構造に問題があります。



警告: スキーマのファイルおよびディレクトリを確認するために、ディレクトリ構造内で作業している場合は、必ずこれらのファイルにアクセス中のオープン・アプリケーションをすべて終了してください。処理の完了と同時に、ディレクトリの名前は変更されます。ただし、テキスト・エディタなどの外部アプリケーションでこれらのファイルを使用している場合、`schema.work` ディレクトリの名前は変更できません。

スキーマの作成

Configuration Manager の「Tables」、「Views」および「Relations」の各タブは、スキーマ構造を作成するときに使用します。

- ❖ 「Table」タブは、データベース表を選択または作成するときに使用します。
- ❖ 「Views」タブは、スキーマで使用されるビューを操作するときに使用します。
- ❖ 「Relations」タブは、依存性を操作するときに使用します。

「Information Fields」タブは、Content Server のページで使用されるメタデータ・フィールドを作成するときに使用します。メタデータ・フィールドは、オプション・リストを正しく表示するために表やビューに相互に関連付ける必要があります。

新規または変更されたスキーマは、それぞれにスケジュールされた公開サイクル中に自動的に更新されます。各公開サイクル間のデフォルトの間隔は 5 時間に設定されているため、新規または変更されたスキーマの結果は即時表示されません。ただし、各公開サイクル間の間隔は、構成変数のデフォルト値を変更することで調整できます。詳細は、7-12 ページの「[公開サイクルの間隔の変更](#)」を参照してください。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [基本スキーマの作成](#) (7-10 ページ)
- ❖ [公開サイクルの間隔の変更](#) (7-12 ページ)

基本スキーマの作成

この項では、Configuration Manager の該当するタブを使用してスキーマ構造を作成する簡単な手順の概要を説明します。スキーマの作成に使用する画面の図は、[スキーマのインタフェース画面](#) (7-13 ページ) を参照してください。

スキーマ用の表の選択

1. 「[Configuration Manager](#)」: 「[Tables](#)」 タブ (7-14 ページ) を選択します。
2. スキーマに表を追加するには、「[Add Tables](#)」を選択し、「[Select Table](#)」画面 (7-15 ページ) からスキーマに追加する表を選択します。新規の表を作成する場合は、「[Create Table](#)」を選択します。



重要: Content Server のコア・システム表 (Revisions、Alias、Documents および Users など) は使用できますが、編集 (列の削除、列長の変更など) はできません。

3. 使用する表を選択すると、「Table Column」名が埋まった「[Create Table](#)」 / 「[Edit Table "name"](#)」画面 (7-16 ページ) が表示されます。
4. 依存性を設定するための主キーとして使用される列を選択し、「[Edit](#)」を選択します。「[Add Column](#)」 / 「[Edit Column](#)」画面 (7-17 ページ) が表示されます。
5. 「Primary Key」チェック・ボックスを選択して「[OK](#)」をクリックします。表に推奨列を追加するために「[Add Recommended](#)」を選択します。

スキーマ内で一緒に使用するすべての表について、この手順を繰り返します。終了したら、「[OK](#)」をクリックします。

スキーマ・ビューの作成

1. 「[Configuration Manager](#)」: 「[Views](#)」 タブ (7-18 ページ) を選択します。構成されたビューの名前が表示されます。
2. 新規のビューを作成するには、「[Add](#)」をクリックして「[Add View](#)」画面: 表の選択 (7-19 ページ) ページを開きます。
3. ビューで使用する表を選択し、「[Next](#)」をクリックします。「[Add View](#)」画面: 列の選択 (7-20 ページ) ページが表示されます。
4. ビューに含める列を選択し、「[Finish](#)」をクリックします。「[Add View](#)」 / 「[Edit View](#)」画面: 「[Info](#)」タブ (7-21 ページ) が表示されます。
5. ビューの名前を選択し、説明の情報を追加します。ビューで使用する内部列 (データベース内の名前) を選択し、エンド・ユーザーに表示される列を選択します。オプション・リスト内の名前がどのように表示されるかを定める表示表現も設定できます。終了したら、「[OK](#)」をクリックします。
6. ビューに含まれるすべての表について、この手順を繰り返します。

スキーマ関係の作成

1. 表と関連のビューが完成したら、表と列との依存性を設定するために「[Configuration Manager](#)」:「[Relations](#)」タブ (7-30 ページ) を選択します。現在存在するスキーマ関係のリストが表示されます。
2. 新しいスキーマの関係を設定するために「[Add](#)」をクリックします。「[Add Relationship](#)」 / 「[Edit Relationship](#)」画面 (7-31 ページ) が表示されます。
3. 関係の名前を入力します (たとえば、Country 表と State 表の間の関係を示す Country_State)。「Parent Info」プルダウン・ボックスで、親情報が格納されている表 (たとえば、Country 表) と、依存性を設定するために使用される列 (たとえば、Country ID) を選択します。「Child Info」フィールドについても同じことをします (たとえば、表名として State を、関係として countryID を選択)。
4. 終了したら、「OK」をクリックします。新しい関係が「[Relations](#)」リストに表示されます。

メタデータ・フィールドの追加

スキーマ作成の最終フェーズは、列を使用し、それらで前に作成したビューおよび関係を使用するように構成するためにメタデータ・フィールドを設定することです。この手順の概要は、4-7 ページの「[メタデータ・フィールドの追加](#)」および 4-8 ページの「[オプション・リストの定義](#)」を参照してください。

これは、多少複雑な手順になる可能性があり、設定したフィールドのタイプによって異なります。依存選択リストのメタデータ・フィールド有効化の完全なチュートリアルは、SchemaDCLSample コンポーネントを参照してください。

スキーマの有効化

スキーマ、ビューおよび関係の構成が完了したら、データベース設計を更新し (Configuration Manager 画面の選択キー)、Configuration Manager のメニューから「Options」→「Publish Schema」をクリックする必要があります。

スキーマの再公開 (更新) が、次のものに基づいて自動的に発生します。

- ❖ data/schema/publishlock/publish.dat ファイルの存在。
- ❖ 自動公開時刻の内部スケジュール。詳細は、[公開サイクルの間隔の変更](#) (7-12 ページ) を参照してください。
- ❖ 最後にスキーマ公開にかかった時間。

新しいコンテンツ・タイプをすぐに表示する必要がなく、大きなオプション・リストが再公開されるときに発生する可能性のあるシステム上の負荷が気になる場合は、「Options」→「Publish Schema」を選択しないでください。

公開サイクルの間隔の変更

新規または変更されたスキーマは、自動スキーマ公開サイクル中に自動的に更新されます。ただし、デフォルトでは、公開サイクル間の間隔は4時間に設定されています。つまり、新規のスキーマまたは既存のスキーマに対する変更は、次の公開サイクルが完了するまで、対応するプルダウン・メニュー・リストには表示されません。ただし、`SchemaPublishInterval` 構成変数の値を変更することにより、公開サイクル間隔を調整できます。

スキーマ公開サイクルの間隔を変更するには、次のようにします。

1. テキスト・エディタで、`<install_dir>/config/config.cfg` ファイルを開きます。
2. 次の構成変数と値を追加します。

```
SchemaPublishInterval=300
```

値は秒で指定します。したがって、この構成の例では、オプション・リストは300秒（5分）ごとに再公開されます。



注意：オプション・リストの数と各リストのサイズおよび複雑さによっては、スキーマの自動再公開（更新）が、システムのパフォーマンスに重大な影響を及ぼすことがたびたび起こる可能性があります。

3. `config.cfg` ファイルを保存して閉じます。
4. Content Server を再起動して変更を適用します。



注意：スキーマ公開の間隔は、最高5分間キャッシュされます。したがって、より頻繁に公開しても、現行のキャッシュが期限切れになるまで、新しい値は取得されません。

メタデータ・フィールドに新しい値が追加された場合、次の公開サイクルが完了するまで、その値はコンテンツ・アイテムの「Content Information」ページで表示されません。

1つのコンテンツ・アイテムを一意的な値で動的オプション・リストにチェックインし、別のアイテムを同じ値で大文字と小文字を変えてチェックインした場合、その値はオプション・リストで1つの値として扱われます。使用される大文字小文字は、データベースのソート・スキームによって決まります。

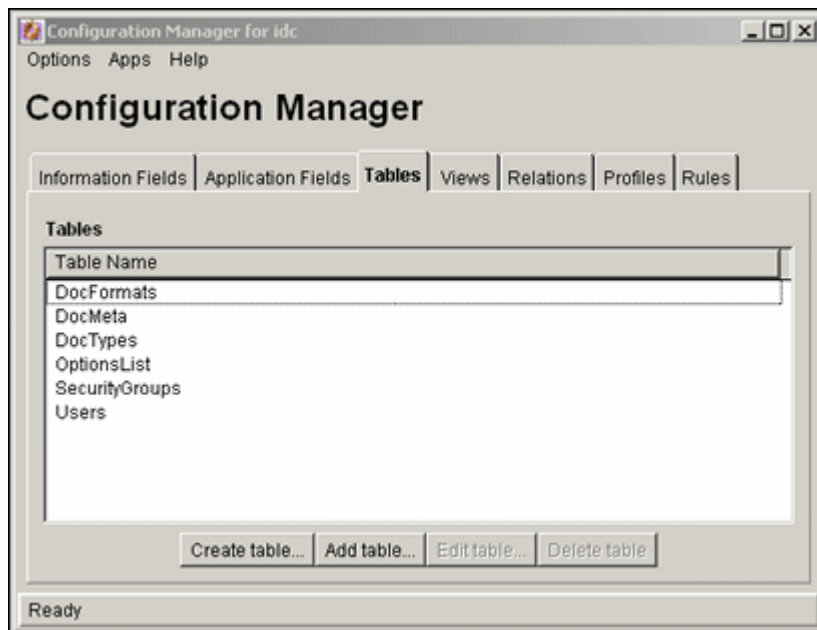
動的オプション・リストの作成の詳細は、7-33 ページの「スキーマの例：動的オプション・リスト」を参照してください。

スキーマのインタフェース画面

スキーマの作成に使用する画面は次のとおりです。

- ❖ 「Configuration Manager」：「Tables」タブ (7-14 ページ)
- ❖ 「Select Table」画面 (7-15 ページ)
- ❖ 「Create Table」 / 「Edit Table "name"」画面 (7-16 ページ)
- ❖ 「Add Column」 / 「Edit Column」画面 (7-17 ページ)
- ❖ 「Configuration Manager」：「Views」タブ (7-18 ページ)
- ❖ 「Add View」画面：表の選択 (7-19 ページ)
- ❖ 「Add View」画面：列の選択 (7-20 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Info」タブ (7-21 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：列の変更 (7-22 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Display」タブ (7-23 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Display」タブ：「Edit Display Rule」
(7-24 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Options」タブ (7-24 ページ)
- ❖ 「Add View」 / 「Edit View」画面：「Security」タブ (7-26 ページ)
- ❖ 「Edit Values For View」画面 (7-27 ページ)
- ❖ 「Add Value」 / 「Edit Value」画面 (7-28 ページ)
- ❖ Edit Values: Edit Batch (7-29 ページ)
- ❖ 「Configuration Manager」：「Relations」タブ (7-30 ページ)
- ❖ 「Add Relationship」 / 「Edit Relationship」画面 (7-31 ページ)
- ❖ 「Edit Tree」画面 (7-32 ページ)

「Configuration Manager」：「Tables」タブ



重要：Content Server のコア・システム表（Revisions、Alias、Documents および Users など）は使用できますが、（列の削除、列長の変更などを試みた場合）それらの表への編集の保存はできません。

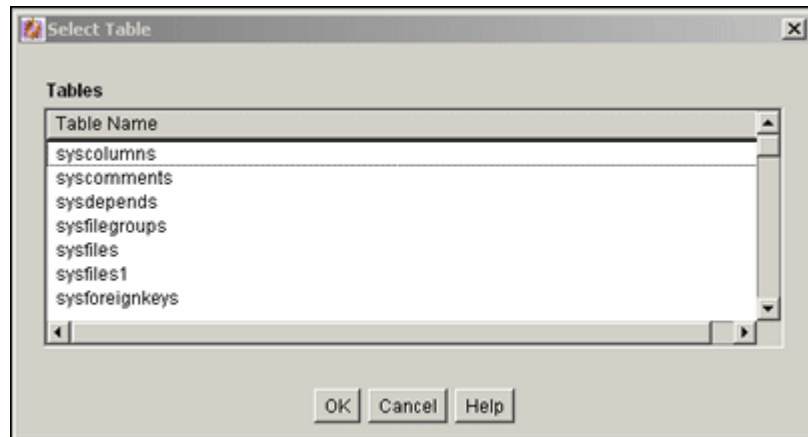
「Configuration Manager」の「Tables」タブは、スキーマで使用する表および列を作成または編集するときに使用します。この画面にアクセスするには、[Configuration Manager アプリケーション](#)（1-10 ページ）で「Tables」タブをクリックします。



注意：ビューや関係の設定時に既存の表を使用していない場合、レコードを生成し、「Tables」タブを使用して作成した表に移入するために外部ツールを使用する必要があります。

機能	説明
「Table Name」列	既存の表が表示されます。
「Create table」ボタン	「Create Table」 / 「Edit Table "name"」 画面 (7-16 ページ) を表示します。
「Add table」ボタン	「Select Table」 画面 (7-15 ページ) を表示します。
「Edit table」ボタン	「Create Table」 / 「Edit Table "name"」 画面 (7-16 ページ) を表示します。
「Delete table」ボタン	選択した表を削除できます。

「Select Table」画面



「Select Table」画面は、スキーマで使用する表を指定するときに使用します。この画面には、使用できる表のリストが表示されます。この画面には、[「Configuration Manager」](#) : [「Tables」](#) タブ (7-14 ページ) で [「Add Table」](#) をクリックするか、[「Add View」](#) 画面 : [表の選択](#) (7-19 ページ) ページで [「Add Table」](#) をクリックしてアクセスします。

機能	説明
「Table Name」リスト	リストの既存の Content Server データベース表が表示されます。

「Create Table」 / 「Edit Table "name"」 画面

この画面は、スキーマで使用する表の列を指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Tables](#)」タブ（7-14 ページ）で「[Create Table](#)」または「[Edit Table](#)」をクリックするか、「[Add View](#)」画面：表の選択（7-19 ページ） ページで「[Create Table](#)」をクリックします。

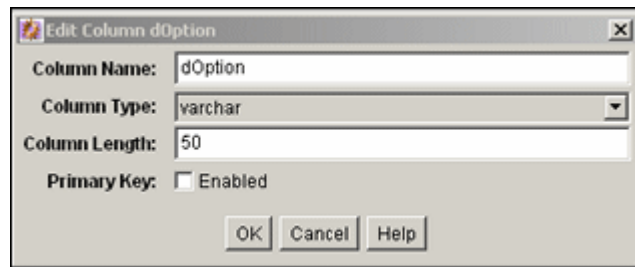


重要：Content Server のコア・システム表（Revisions、Alias、Documents および Users など）は使用できますが、それらの表への編集の保存はできません。


機能	説明
「Table Name」 フィールド	作成または編集する表の名前。
「Table Description」 フィールド	作成または編集する表の簡単な説明。
列のフィールド	この表に含まれる列およびそれらのプロパティが表示されます。
「Add」 ボタン	「Add Column」 / 「Edit Column」 画面 （7-17 ページ）を表示します。
「Edit」 ボタン	「Add Column」 / 「Edit Column」 画面 （7-17 ページ）を表示します。

機能	説明
「Delete」ボタン	選択した列を削除できます。
「Add Recommended」ボタン	表に追加される標準の推奨列。たとえば、schPrimaryKey、schCreateTimestamp、schModifyTimestamp および and schSourceID。
「Row Creation Timestamp Column」リスト	この列は、表のレプリケーションが正しく機能するように、表に追加する必要があります。このフィールドは、表の行が作成されたときのタイムスタンプを示します。
「Row Modification Timestamp Column」リスト	この列は、表のレプリケーションが正しく機能するように、表に追加する必要があります。このフィールドは、表の行が変更されたときのタイムスタンプを示します。
Synchronize definition	データベースから表の定義をロードし、現在表示されているものと同期化します。これは特に、2人のユーザーが表を同時に操作していて、表のコピーが古いことを示す警告が発行されたときに便利です。定義の同期化により、表は更新されます。

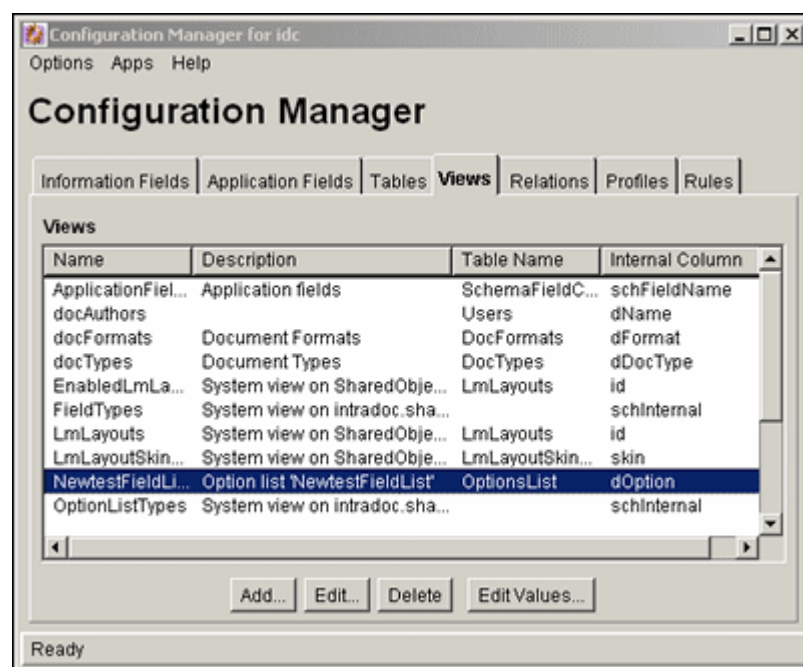
「Add Column」 / 「Edit Column」 画面



「Add Column」 / 「Edit Column」画面は、スキーマで主キーとなる列を選択するとき
に使用します。この画面にアクセスするには、[「Create Table」 / 「Edit Table "name"」画面](#)
(7-16 ページ) から列を選択し、「Edit」をクリックするか、新規の列を作成するた
めの「Add」をクリックします。

機能	説明
「Column Name」フィールド	作成または編集する列の名前。  注意: Content Server データベース表との潜在的な競合を回避するには、列名に必ず接頭辞を付けてください。たとえば、schColumnOne のようにします。
「Column Type」リスト	リストから列のデータ型を選択します（デフォルト値は varchar です）。
「Column Length」フィールド	列に格納される値の長さ。
「Primary Key」チェック・ボックス	選択すると、この列は表の主キーとして指定されます。

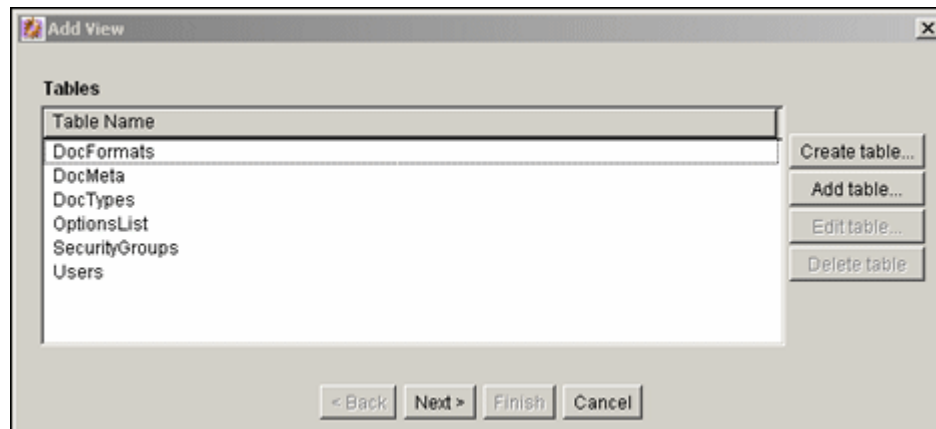
「Configuration Manager」：「Views」タブ



「Views」タブは、スキーマとともに使用されるビューを作成するときに使用します。この画面にアクセスするには、[Configuration Manager アプリケーション](#)（1-10 ページ）で「Views」タブをクリックします。

機能	説明
「Views」 リスト	既存のビューが表示されます。
「Add」 ボタン	「Add View」 画面 : 表の選択 (7-19 ページ) 画面を表示します。
「Edit」 ボタン	「Add View」 / 「Edit View」 画面 : 「Info」 タブ (7-21 ページ) を表示します。
「Delete」 ボタン	選択したビューを削除できます。
「Edit Values」 ボタン	ビューに関連付けられた表で値を追加または変更できる「Add Value」 / 「Edit Value」 画面 (7-28 ページ) または「Option List」 画面 (4-21 ページ) などの画面を表示します。表示される画面は、ビューに使用される表のタイプによって決まります。

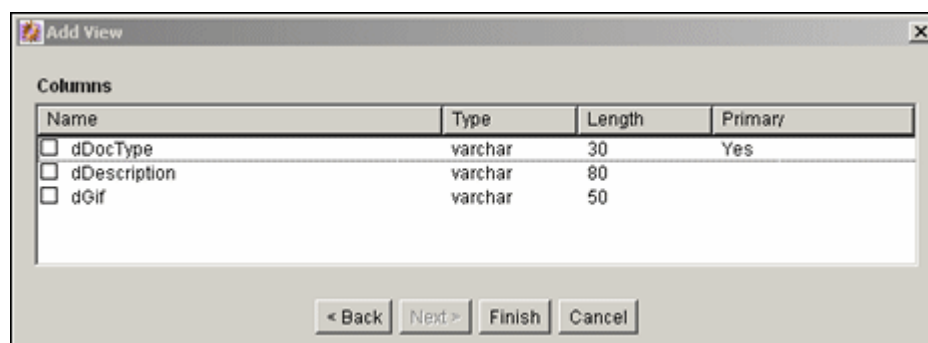
「Add View」 画面 : 表の選択



表の選択画面は、スキーマ用に新規のビューを作成するときに使用します。この画面にアクセスするには、「Configuration Manager」 : 「Views」 タブ (7-18 ページ) で「Add」をクリックします。

機能	説明
「Table Name」 リスト	作成されてまだビューのない表が表示されます。
「Create table」 ボタン	新規の表を作成するときに使用する「 Create Table 」 / 「 Edit Table "name" 」 画面（7-16 ページ）を表示します。
「Add table」 ボタン	ビューに表を追加するときに使用する「 Select Table 」 画面（7-15 ページ）を表示します。
「Edit table」 ボタン	表と主キーを変更するときに使用する「 Create Table 」 / 「 Edit Table "name" 」 画面（7-16 ページ）を表示します。
「Delete table」 ボタン	このスキーマで選択した表を削除できます。

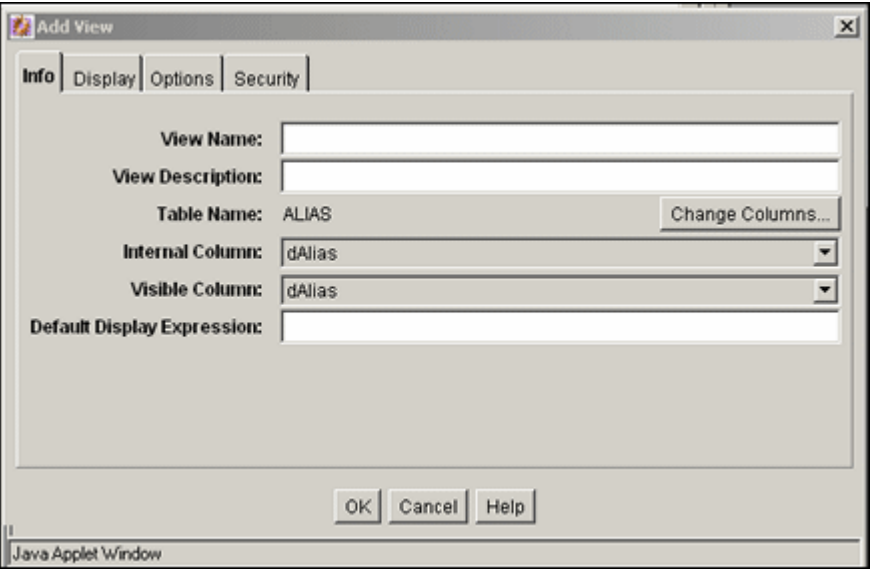
「Add View」 画面：列の選択



列の選択画面は、スキーマ・ビューの列を選択するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Add View](#)」 画面：表の選択（7-19 ページ） ページから表を選択し、「**Next**」をクリックします。


機能	説明
「Name」 リスト	ビューに含め、スキーマに公開するために選択できる既存の表の列名が表示されます。

「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Info」 タブ

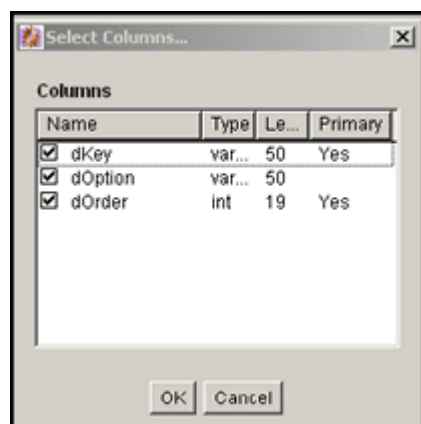


「Add View」画面の「Info」タブは、スキーマの新規ビューに名前を付けるときに使用します。この画面は、[「Add View」画面：列の選択](#)（7-20 ページ）ページでビューに使用する列を選択し、「Finish」をクリックした後か、[「Configuration Manager」：「Views」タブ](#)（7-18 ページ）で編集するビューを選択した場合に表示されます。

機能	説明
「View Name」フィールド	作成または編集するビューの名前。
「View Description」フィールド	作成するビューの簡単な説明。
「Table Name」フィールド	このビューと関連付けられる表。
「Change Columns」ボタン	「Add View」 / 「Edit View」画面：列の変更 （7-22 ページ）画面を表示します。最初を選択いた列を変更します。
「Internal Column」リスト	作成中のビューの列名（内部で使用）。
「Visible Column」リスト	システム・ユーザーに表示される列名。

機能	説明
「Default Display Expression」フィールド	<p>このフィールドにより、対応するオプション・リストで名前がどのように表示されるかが決まります。このフィールドの値は、テキストでも Idoc スクリプト式でもかまいません。</p> <p> 注意：このフィールドにどんな値が設定されても、「Content Information」ページには、フィールドに割り当てられた実際の値ではなく、このフィールド値が表示されます。これを回避するには、ビューの作成時にこのフィールドの値を消去します。</p>

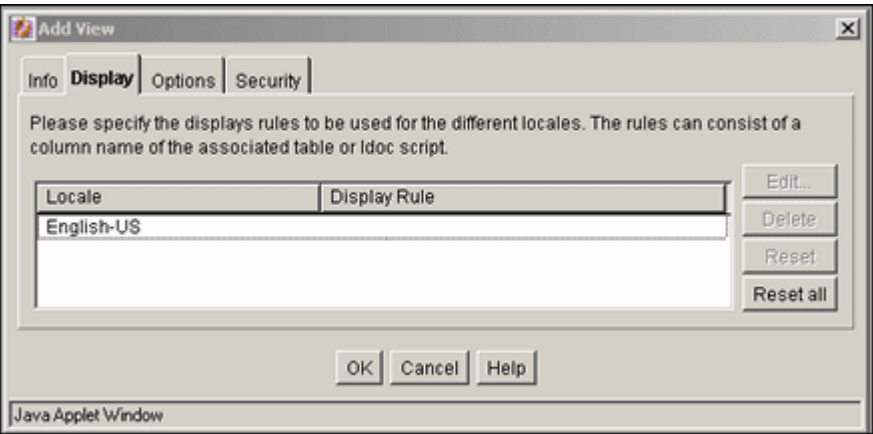
「Add View」 / 「Edit View」 画面：列の変更



列の変更画面は、スキーマで使用する列のリストを変更するときに使用します。この画面には、「Add View」 / 「Edit View」画面：「Info」タブ（7-21 ページ）の画面で表名の隣にある「Change Columns」ボタンをクリックしてアクセスします。

機能	説明
「Columns」リスト	<p>既存のビュー列が表示され、Add View Wizard を使用して最初を選択した列を変更するときに使用します。7-20 ページの「Add View」画面：列の選択」を参照してください。</p>

「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Display」タブ



「Add View」画面の「Display」タブは、スキーマ・データの表示ルールを指定するときに使用します。この画面は、[「Configuration Manager」：「Views」タブ](#)（7-18 ページ）でビューを選択して「Edit」をクリックした後、または [「Configuration Manager」：「Views」タブ](#)（7-18 ページ）で「Add」をクリックし、新規ビューを作成するために必要な手順に従った後に表示されます。この画面を表示するには、「Display」タブをクリックします。

機能	説明
「Locale」 / 「Display Rule」 リスト	ロケールの定義済表示ルールが表示されます。
「Edit」 ボタン	選択したルールの「Edit Display Rule」画面を表示します。 7-24 ページの 「「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Display」タブ：「Edit Display Rule」 を参照してください。
「Delete」 ボタン	選択したロケール / 表示ルールを削除できます。
「Reset」 ボタン	選択したロケールの表示ルールをリセットします。
「Reset all」 ボタン	それぞれのロケールの表示ルールをすべてリセットします。

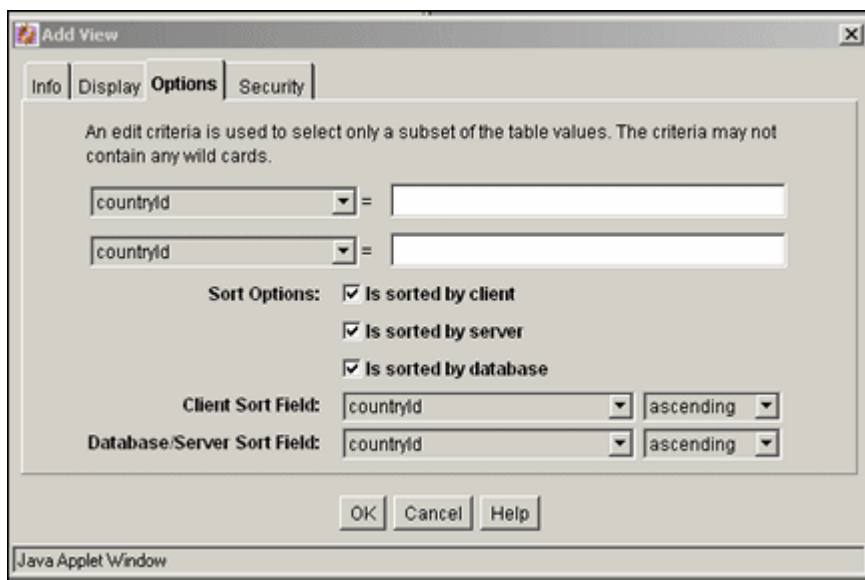
「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Display」 タブ： 「Edit Display Rule」



「Edit Display Rule」画面は、スキーマの表示ルールを変更するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Display」 タブ](#)（7-23 ページ）の画面で「Edit」ボタンをクリックします。

機能	説明
表示ルール・リスト	プルダウン・メニューには、 「Add View」 画面：列の選択 （7-20 ページ）画面で最初に選択した列が表示されます。

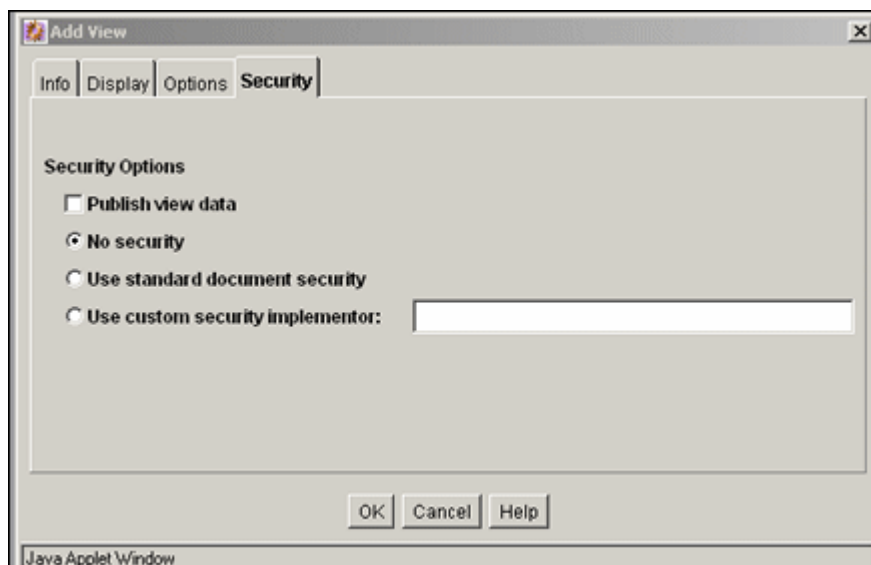
「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Options」 タブ



「Add View」画面の「Options」タブは、スキーマでデータのソートの順序および基準を設定するときに使用します。この画面は、「[Configuration Manager](#)」:「[Views](#)」タブ (7-18 ページ) で「**Edit**」をクリックした後、または「[Configuration Manager](#)」:「[Views](#)」タブ (7-18 ページ) で「**Add**」をクリックし、新規ビューを作成するために必要な手順に従った後に表示されます。この画面を表示するには、「Options」タブをクリックします。

機能	説明
列リスト	「Add View」画面:列の選択 (7-20 ページ) を使用して最初に選択した列が表示されます。
編集基準フィールド	ビューで使用する表の値を絞るための編集基準の文を入力または編集します。
「Sort Options」の チェック・ボックス	選択どおりに、サーバー、データベースまたはクライアント・データベースのいずれかが、ソート機能を提供します。
ソート・フィールドのリスト	ソートで使用する列が表示されます。
ソート順序	昇順または降順のいずれかでソートを行います。

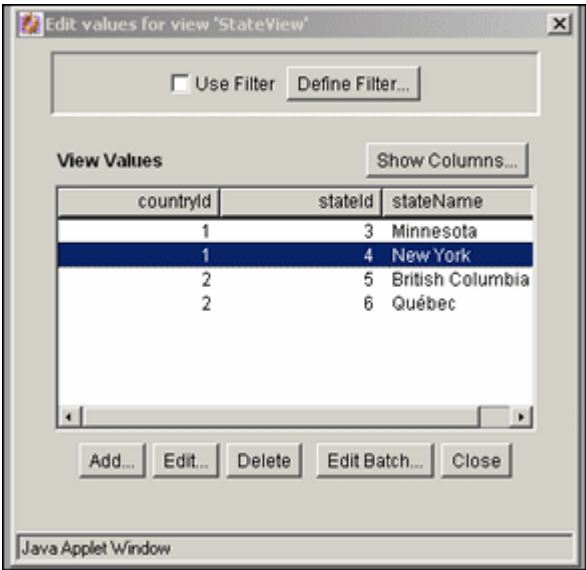
「Add View」 / 「Edit View」 画面：「Security」タブ



「Add View」 / 「Edit View」画面の「Security」タブは、スキーマに使用するセキュリティ・ルールを設定するときに使用します。この画面は、「[Configuration Manager](#)」：「[Views](#)」タブ（7-18 ページ）で「[Edit](#)」をクリックした後、または「[Configuration Manager](#)」：「[Views](#)」タブ（7-18 ページ）で「[Add](#)」をクリックし、新規ビューを作成するために必要な手順に従った後に表示されます。この画面を表示するには、「Security」タブをクリックします。

機能	説明
Publish view data	設定したビューを他のユーザーに見えるようにします。
No security	スキーマの標準フィルタ・セキュリティを無効にします。
Use standard document security	スキーマとスキーマ内のドキュメントに対して最低レベルのセキュリティを提供します。
Use custom security implementator	セキュリティ・フィルタを変更できます。

「Edit Values For View」画面



「Edit Value for View」画面は、ビューに割り当てる値を編集のために選択するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Configuration Manager」](#)：「[Views](#)」タブ（7-18 ページ）で「[Edit Values](#)」をクリックします。この画面は、[「Edit View Values」画面](#)（4-20 ページ）と同一で、[Configuration Manager](#) からアクセスできます。詳細は、4-8 ページの「[オプション・リストの定義](#)」を参照してください。



注意：この画面に表示される情報のタイプは、ビューに使用するために選択したオプション・リストのタイプによって決まります。

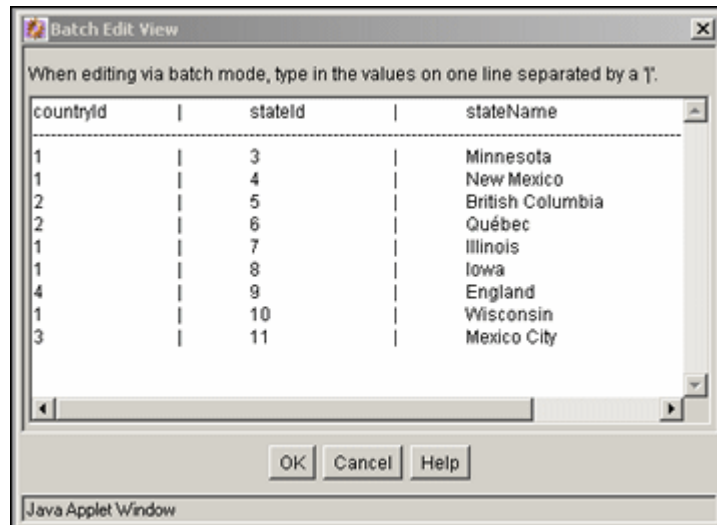
機能	説明
Use Filter/Define Filter	選択した列に表示される値を変更するときに使用します。
Show Columns	ビューで表示される列の数を制限します。 「Show Columns」画面 （1-21 ページ）を参照してください。
Add	ビュー内で値を編集するか、表に新規の列を追加するときに使用する「 Add Value 」 / 「 Edit Value 」画面（7-28 ページ）を表示します。
Edit	列内の値を変更できる「 Add Value 」 / 「 Edit Value 」画面（7-28 ページ）を表示します。

機能	説明
Delete	表から値を削除するときに使用します。削除の確認を求められます。
Edit Batch	値を変更するために大量の情報をコピー・アンド・ペーストするときに使用する Edit Values: Edit Batch (7-29 ページ) 画面を表示します。

「Add Value」 / 「Edit Value」 画面

この画面は、ビューで値を変更するとき、または新規のメタデータ・フィールドに関連付けられた表に新規の列を追加するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Edit Values For View」画面](#) (7-27 ページ) でビューに割り当てる値を選択し、「Edit」をクリックします。

Edit Values: Edit Batch

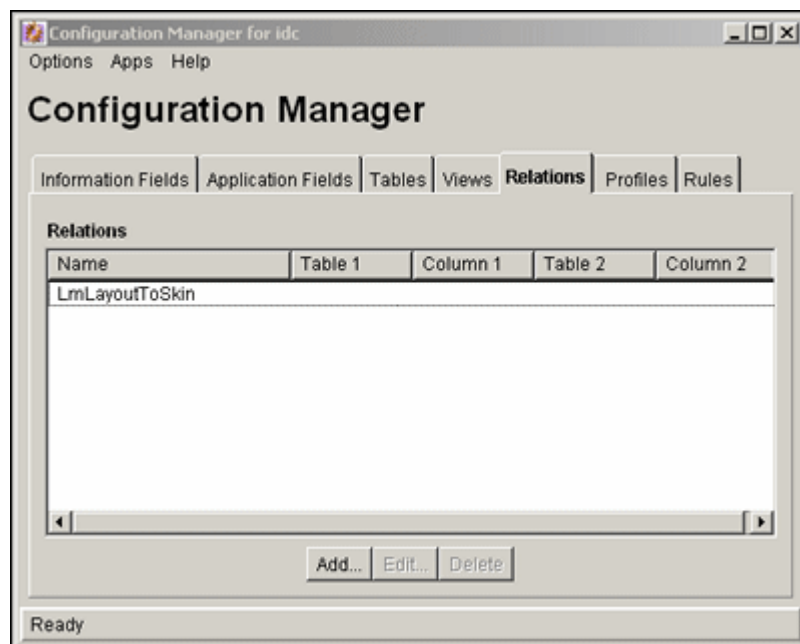


単一行の編集が「[Add Value](#)」 / 「[Edit Value](#)」画面（7-28 ページ）または「[Edit View Values](#)」画面（4-20 ページ）を使用して行われるのに対し、「[Edit Batch](#)」画面は、ライン・エディタで大量の情報を変更するときに使用します。

この画面にアクセスするには、「[Edit Values For View](#)」画面（7-27 ページ）で「[Edit Batch](#)」をクリックします。

表内の既存の列が表示されます。該当する列に、パイプ (|) 記号で区切ったデータを入力することで、表に値を追加できます。表内の各行は、改行して始まります。

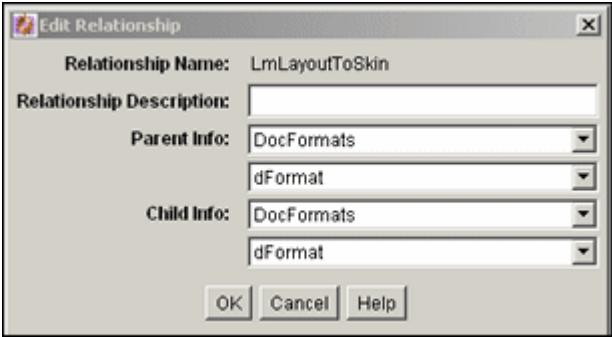
「Configuration Manager」：「Relations」タブ



「Configuration Manager」の「Relations」タブは、スキーマ・ビューとスキーマ表の関係を設定するときに使用します。この画面にアクセスするには、[Configuration Manager アプリケーション](#)（1-10 ページ）で「Relations」タブをクリックします。

機能	説明
「Relations」リスト	特定の表と列との既存の関係が表示されます。
「Add」ボタン	「Add Relationship」 / 「Edit Relationship」 画面（7-31 ページ）を表示します。
「Edit」ボタン	「Add Relationship」 / 「Edit Relationship」 画面（7-31 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	選択した関係を削除できます。

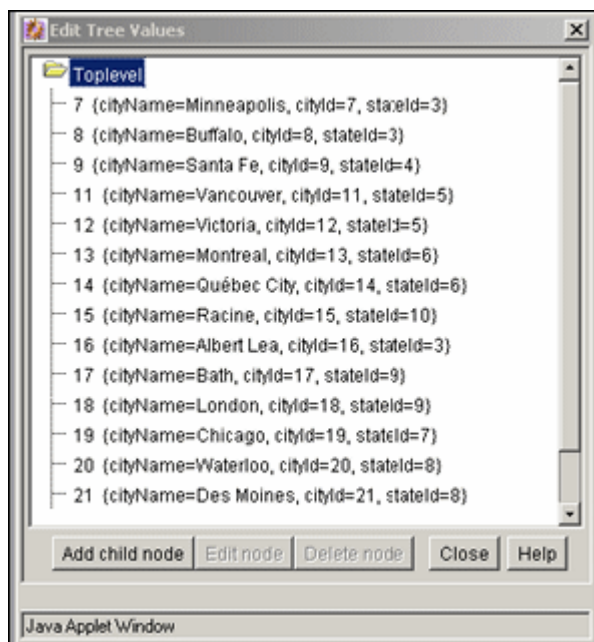
「Add Relationship」 / 「Edit Relationship」 画面



「Add Relationship」 / 「Edit Relationship」画面は、表とビューとのスキーマ関係を追加または変更するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Configuration Manager」](#)：「[Relations](#)」タブ（7-30 ページ）から「Add」または「Edit」を選択します。

機能	説明
「Relationship Name」フィールド	作成または編集する関係の名前。
「Relationship Description」フィールド	関係の簡単な説明。
「Parent Info」リスト	依存選択リストの選択肢を決定する表の名前。
フィールド・リスト	親表の列の名前。
「Child Info」リスト	親表からの選択に依存する表の名前。
フィールド・リスト	子表の列の名前。

「Edit Tree」画面



「Edit Tree」画面には、オプション・リストまたは表の値の階層ビューが表示されます。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Information Field](#)」タブ（4-11 ページ）で表に関連付けられたフィールドを選択し、「**Edit Tree**」を選択します。「[Option List](#)」画面（4-21 ページ）で作成したオプション・リストを使用している場合、ツリーの階層ビューではなく、このオプション・リストが表示されるので注意してください。

機能	説明
Add Child Node	親ノードを選択するとアクティブになります。「 Add Value 」 / 「 Edit Value 」画面（7-28 ページ）と同じ機能を持つ「Add Node」画面が表示されます。使用の詳細は、そのフィールドの説明を参照してください。
Edit Child Node	ノードを選択すると、「 Add Value 」 / 「 Edit Value 」画面（7-28 ページ）と同じ機能を持つ「Edit Node」画面が表示されます。使用の詳細は、そのフィールドの説明を参照してください。
Delete node	表からノードを削除するときに使用します。親を削除すると、その下の子も削除されます。

スキーマの例：動的オプション・リスト

動的オプション・リストを作成すると、ユーザーは、メタデータのドロップダウン・オプション・リストに値を追加できます。たとえば、オプション・リストにある値がすでに存在している場合、ユーザーはリストからその値を選択できます。ただし、それが新しい値の場合、ユーザーはその値をテキスト・フィールドに入力でき、値は次の公開サイクルの後にオプションとして使用可能になります。自動公開サイクルとその間隔の詳細は、7-12 ページの「[公開サイクルの間隔の変更](#)」を参照してください。

動的オプション・リストを作成するには、まずデータベースの表にビューを作成します。オプション・リストの値は、値がソートされるメタデータの列から直接取得されます。コンテンツ・アイテムがチェックイン、改訂および削除されると、それに応じてオプション・リストの値が変わり、更新されます。

動的オプション・リスト作成の例は、次のとおりです。

1. 「Administration」トレイで「**Admin Applets**」リンクをクリックします。
「Administration」ページが表示されます。
2. 「**Configuration Manager**」アイコンをクリックします。
「**Configuration Manager**」：「**Information Field**」タブ（4-11 ページ）が表示されます。
3. 「Information Fields」タブで「**Add**」をクリックします。
「**Add Metadata Field Name**」画面（4-13 ページ）が表示されます。
4. 動的オプション・リストのあるメタデータ・フィールドの名前を入力します。たとえば、TestMetadata などです。
5. 「**OK**」をクリックします。
TestMetadata の「**Add Metadata Field**」 / 「**Edit Metadata Field**」画面（4-14 ページ）が表示されます。
6. フィールドに希望する値を入力しますが、「**Enable Option List**」チェック・ボックスは選択しないでください。
7. 「**OK**」をクリックします。
画面が閉じられ、「**Configuration Manager**」：「**Information Field**」タブ（4-11 ページ）の「**Field Info**」リストにメタデータ・フィールドが追加されます。
8. 「**Update Database Design**」をクリックします。
「**Update Database Design**」画面（4-23 ページ）が表示され、TestMetadata が追加されることを知らせます。
9. 「**OK**」をクリックします。

10. 「[Configuration Manager](#)」：「[Views](#)」タブ（7-18 ページ）を開き、「[Add](#)」をクリックします。
「[Add View](#)」画面：表の選択（7-19 ページ）画面が表示されます。
11. 「[Add Table](#)」をクリックします。
「[Select Table](#)」画面（7-15 ページ）が表示されます。
12. 「[DocMeta](#)」表を選択します。
13. 「[OK](#)」をクリックします。
表の選択画面が閉じられ、DocMeta 表が「[Add View](#)」画面：表の選択（7-19 ページ）画面の「[Tables](#)」リストに追加されます。
14. 「[Next](#)」をクリックします。
「[Add View](#)」画面：列の選択（7-20 ページ）画面が列名とともに表示されます。
15. TestMetadata のオプション・リストの作成に使用する列を選択します。
16. 「[Finish](#)」をクリックします。
「[Add View](#)」 / 「[Edit View](#)」画面：「[Info](#)」タブ（7-21 ページ）のページが表示されます。
17. ビュー名を入力します。たとえば、TestMetadata_view などです。
18. 「[OK](#)」をクリックします。
19. 「[Configuration Manager](#)」：「[Information Field](#)」タブ（4-11 ページ）で「[Information Fields](#)」タブを開き、TestMetadata を選択します。
20. 「[Edit](#)」をクリックします。
TestMetadata の「[Add Metadata Field](#)」 / 「[Edit Metadata Field](#)」画面（4-14 ページ）が表示されます。
21. 「[Enable Option List](#)」チェック・ボックスを選択します。
22. 「[Configure](#)」をクリックします。
TestMetadata のカスタム情報フィールドの追加 / 編集：「[Configure Option List](#)」画面（4-16 ページ）が表示されます。
23. 「[Option List Type](#)」ドロップダウン・オプション・リストから「[Edit and Select List](#)」を選択します。
24. 「[Use View](#)」ラジオ・ボタンを選択し、ドロップダウン・オプション・リストからビューを選択します。たとえば、TestMetadata_view などです。
25. 「[OK](#)」をクリックします。
カスタム情報フィールドの追加 / 編集：「[Configure Option List](#)」画面（4-16 ページ）が閉じられます。

26. 「OK」をクリックします。

「Add Metadata Field」 / 「Edit Metadata Field」画面（4-14 ページ）が閉じられます。

27. 「Configuration Manager」: 「Information Field」タブ（4-11 ページ）の「Options」メニューから「Publish schema」を選択します。

このオプション・リストは、ドキュメントをチェックインし、新しい動的メタデータ・フィールドに値を入力することでテストできます。最初、TestMetadata フィールドに値が入っているドキュメントがチェックインされていないため、オプション・リストは空です。しかし、TestMetadata に値が入っているドキュメントがチェックインされるのに従い、オプション・リストにそれらが含まれます。

8

コンテンツ画面のカスタマイズ でのプロファイルの使用方法

概要

この章の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [コンテンツ・プロファイル](#) (8-4 ページ)
- ❖ [コンテンツ・プロファイル・ルール](#) (8-6 ページ)
- ❖ [コンテンツ・プロファイルとメタデータ編成](#) (8-15 ページ)
- ❖ [コンテンツ・プロファイル・トリガー](#) (8-73 ページ)
- ❖ [コンテンツ・プロファイルの例](#) (8-95 ページ)

作業

- ❖ [新規ルールの作成](#) (8-27 ページ)
- ❖ [既存ルールの編集](#) (8-27 ページ)
- ❖ [既存ルールの削除](#) (8-28 ページ)
- ❖ [新規グローバル・ルールの作成](#) (8-28 ページ)
- ❖ [既存グローバル・ルールの編集](#) (8-28 ページ)
- ❖ [既存グローバル・ルールの削除](#) (8-29 ページ)
- ❖ [ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#) (8-29 ページ)

- ❖ [メタデータ・フィールドのグループ化](#) (8-30 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールド・グループへのヘッダーの追加](#) (8-30 ページ)
- ❖ [新規アクティブ化条件の定義](#) (8-31 ページ)
- ❖ [既存アクティブ化条件の編集](#) (8-32 ページ)
- ❖ [既存アクティブ化条件の削除](#) (8-32 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの属性の定義](#) (8-33 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの属性の編集](#) (8-37 ページ)
- ❖ [必須フィールドの表示の設定](#) (8-39 ページ)
- ❖ [プロフィール・トリガー・フィールドの選択](#) (8-74 ページ)
- ❖ [プロフィール・トリガー・フィールドの無効化](#) (8-74 ページ)
- ❖ [新規プロフィールの作成および定義](#) (8-76 ページ)
- ❖ [既存プロフィールの編集](#) (8-77 ページ)
- ❖ [既存プロフィールの削除](#) (8-77 ページ)
- ❖ [プロフィールでのルール管理](#) (8-77 ページ)
- ❖ [プロフィールのプレビュー](#) (8-79 ページ)
- ❖ [プレビューするプロフィールのトラブルシューティング](#) (8-79 ページ)

インタフェース

- ❖ [「Configuration Manager」：「Rules」タブ](#) (8-40 ページ)
- ❖ [「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ](#) (8-41 ページ)
- ❖ [「Edit Group Header」画面](#) (8-44 ページ)
- ❖ [「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ](#) (8-46 ページ)
- ❖ [「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面](#) (8-47 ページ)
- ❖ [「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「General」タブ](#) (8-48 ページ)
- ❖ [「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「Clauses」タブ](#) (8-52 ページ)
- ❖ [「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ](#) (8-54 ページ)
- ❖ [「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「Fields」タブ](#) (8-57 ページ)
- ❖ [「Add Rule Field」画面](#) (8-59 ページ)
- ❖ [「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面](#) (8-61 ページ)
- ❖ [「Edit Default Value」：「Conditions」タブ](#) (8-65 ページ)

- ❖ 「Edit Default Value」：「Add Condition」画面（8-68 ページ）
- ❖ 「Edit Default Value」：「Select Field」画面（8-69 ページ）
- ❖ 「Edit Default Value」：「Custom」タブ（8-70 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Conditions」タブ（8-70 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Add Condition」画面（8-70 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Select Field」画面（8-71 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Custom」タブ（8-71 ページ）
- ❖ 「Edit Restricted List」画面（8-72 ページ）
- ❖ 「Edit Trigger Field」画面（8-75 ページ）
- ❖ 「Configuration Manager」：「Profiles」タブ（8-82 ページ）
- ❖ 「Add Profile」画面（8-84 ページ）
- ❖ 「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）
- ❖ 「Add Rule」画面（8-91 ページ）
- ❖ 「Preview Profile」画面（8-92 ページ）
- ❖ 「Preview Results」画面（8-94 ページ）

例

- ❖ 部門ベースのコンテンツ・プロファイル（8-95 ページ）
- ❖ 履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロファイル（8-101 ページ）
- ❖ ユーザー・ロールに基づくコンテンツ・チェックインを制限するグローバル・ルール（8-111 ページ）
- ❖ コンテンツ・タイプ・メタデータの変更を制限するグローバル・ルール（8-114 ページ）

コンテンツ・プロフィール

管理者は、コンテンツ・プロフィールを使用して、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページを、エンド・ユーザーが適切なメタデータ・フィールドのみを直接見られるように構成でき、その結果、基本ページが使い勝手のよいものとなります。

コンテンツ・プロフィールでは、コンテンツ・サーバー表の作成や変更は行われません。コンテンツ・プロフィールは、表示する情報を絞るためのある種のフィルタとして使用されるにすぎません。コンテンツ・プロフィールの情報はすべて、`<install_dir>/<instance_dir>/data/profiles/document/` ディレクトリにあるファイル・システムに格納されています。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [コンテンツ・プロフィールの要素](#) (8-4 ページ)
- ❖ [プロフィールのリンク](#) (8-5 ページ)

コンテンツ・プロフィールの要素

プロフィールは、ルールとトリガー値で構成されており、これらは「Configuration Manager」画面の「Profiles」タブと「Rules」タブで設定します。管理者は、複数のコンテンツ・プロフィールを作成でき、エンド・ユーザーはすべてを使用できます。プロフィールごとに、エンド・ユーザーは別個の「Check In」ページと「Search」ページを使用できます。ユーザーは全員すべてのプロフィールを見ることができますが、指定したプロフィールへのリンクを隠したり表示したりするために、各自のユーザー・インタフェースを構成できます。8-5 ページの「[プロフィールのリンク](#)」を参照してください。



注意：ドキュメントは、システム内の複数のプロフィールと関連付けることはできません。

コンテンツ・プロフィールは、次の要素で構成されています。

- ❖ [ルール](#) (8-5 ページ)
- ❖ [トリガー](#) (8-5 ページ)

ルール

ルールは、フィールドが編集可能か、必須か、非表示か、除外かまたは読取り専用かどうかを、特定の条件が満たされたときの基準に基づいて決める一連のメタデータ・フィールドで構成されます。ルールの動作は、入力、つまりアクティブ化の条件に基づいて変更できます。ルールは、すべてのプロフィールについて（グローバル）評価することも、特定のプロフィールについて評価することもできます。使用しやすいように、ルールにより 1 つのオプション・ヘッダーの下に複数のメタデータ・フィールドをグループ化することができます。

たとえば、プロフィールのルールによりユーザー・タイプを決め、チェックインされるドキュメント・タイプに応じて、特定のメタデータ・フィールドのみが表示されるようにできます。その他のフィールドは非表示になります。



注意：ルールは、プロフィールを作成する前に設定する必要があります。詳細は、8-6 ページの「[プロフィール・ルール](#)」を参照してください。

トリガー

トリガー・フィールドは、「[Configuration Manager](#)」：「[Profiles](#)」タブ（8-82 ページ）で定義されるメタデータ・フィールドです。ドキュメントがプロフィールのトリガー値と一致すると、そのプロフィールがドキュメントに対して評価されます。プロフィールの数に制限はありませんが、1 プロフィール当たりのトリガー値は 1 つのみです。



注意：トリガーやプロフィールを作成する前にルールを作成するにしても、ルール作成の前に、どんなトリガーを作成することになるかを承知しておく必要があります。

プロフィールのリンク

「Edit Content Profile Links」ページでプロフィールが有効になっている場合、そのプロフィールはツールバーの「Search」および「New Check In」ドロップダウン・メニューから使用できます。表示できるプロフィールがない場合、「Search」および「New Check In」メニューがそれぞれ、「Advanced Search」ページおよび標準の「Content Check In Form」の直接リンクとなります。

プロフィールを作成すると、ブラウザのセッションをリフレッシュしたときに、ツールバーの「Search」および「New Check In」ドロップダウン・メニューに表示されます。デフォルトでは、すべてのプロフィールは、両メニューの下にオプションとして表示されます。ただし、ユーザー全員に表示されたプロフィールすべてを使用する権限が与えられるわけではありません。「Edit Content Profile Links」ページで、ユーザーは該当するチェック・ボックスを選択または選択解除することで、表示するプロフィールを決定できます。

たとえば、営業部員には、会計プロフィールを使用するために必要な権限がないと考えられます。この場合、ユーザーは会計プロフィールのチェック・ボックスを選択解除し、「Search」および「New Check In」ドロップダウン・メニューの下にそのファイルが表示されないようにすることができます。一般のユーザー・インターフェースおよび特にコンテンツ・プロフィール・リンクの詳細は、『Content Server ユーザー・ガイド』を参照してください。

コンテンツ・プロフィール・ルール

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [プロフィール・ルール](#) (8-6 ページ)
- ❖ [グローバル・ルール](#) (8-7 ページ)
- ❖ [ルール内のメタデータ・フィールドと属性](#) (8-8 ページ)
- ❖ [ルールでのアクティブ化条件](#) (8-9 ページ)
- ❖ [定義済オプション・リストを変更するための制限付きリスト](#) (8-10 ページ)

プロフィール・ルール

プロフィールは、1つ以上のルールと1つのトリガー値で構成されます (8-4 ページの「[コンテンツ・プロフィールの要素](#)」を参照)。ルールにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでメタデータ・フィールドがどのように表示されるか、およびルールが使用されるかどうか (ルールに対する評価によって) が決まります。各ルールは、次のもので構成されます。

- ❖ 一連のメタデータ・フィールド: 8-8 ページの「[ルール内のメタデータ・フィールドと属性](#)」を参照。
- ❖ オプションのアクティブ化の条件: 8-9 ページの「[ルールでのアクティブ化条件](#)」を参照。
- ❖ ルールがグローバル・ルールであり、優先順位が指定されているかどうかを示すオプション。
- ❖ ルール内のメタデータ・フィールドをグループ化によって再配置できるかどうか、およびオプションのヘッダーを使用するかどうかを示すオプション。



注意: トリガーやプロフィールを作成する前にルールを作成するにしても、ルール作成の前に、どんなトリガーを作成することになるかを承知しておく必要があります。

グローバル・ルール

グローバル・ルールは、常に有効です（常に評価）。「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで表示されるメタデータ・フィールドは、たとえグローバル・ルールがプロフィールに含まれていなくても、あるいはプロフィールが作成されていなくても、グローバル・ルールの影響を自動的に受けます。定義されたグローバル・ルールが有効になり、イベント、アクションまたはワークフローの状態に適用されるには、システムにプロフィールが存在する必要はありません。ただし、グローバル・ルールをプロフィールに関連付けていないと、その影響をプレビューできません。

グローバル・ルールは最初に評価され、特定のプロフィール・ルールに置き換えることができます。ただし、グローバル・ルールの優先度を設定して、その優先順位を高めることができます。その結果、グローバル・ルールの優先度は特定のルールより高くなり、プロフィールの結果が異なる可能性があります。プロフィールをプレビューし、ルール選択の結果を見ることで、これらの結果を確認できます。プロフィールのプレビューと、プロフィールに対するルールの影響の表示の詳細は、8-92 ページの「[「Preview Profile」画面](#)」を参照してください。

グローバル・ルールは、次のガイドラインに従います。

- ❖ グローバル・ルールは常に有効で、プロフィールとは無関係であり、常に評価されます。
- ❖ ドキュメントとプロフィールによる検索では、グローバル・ルールが最初に評価されます。特定のプロフィール・ルールは、グローバル・ルールの後で評価されます。つまり、グローバル・ルールは、プロフィール・ルールに対して優先度が低くなります。
- ❖ グローバル・ルールには、優先番号が付いています（8-41 ページの「[「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面](#)：「General」タブ」を参照）。優先度により、ルールが評価される順序が決まります。優先度の低いルールほど先に実行され、優先度の高いルールは、優先度の低いルールによって加えられた変更を無効にできます。

ルール内のメタデータ・フィールドと属性

ルール内の各メタデータ・フィールドには、次の属性があります。

❖ フィールドの位置（必須）：

この属性には、「top」、「middle」、「bottom」の3つの一般的な配置選択肢があります。選択したオプションにより、メタデータ・フィールドの一般的な配置順序が調整されます。この属性は、「[Add Rule Field](#)」画面（8-59 ページ）を使用して割り当てます。

❖ 表示タイプ（必須）：

この属性の値には、「edit」、「Info Only」、「hidden」、「excluded」または「required」を指定できます。選択したオプションにより、「Check In」ページと「Search」ページでメタデータ・フィールドがどのように表示されるかが決まります。この属性は、「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）を使用して割り当てます。

❖ 必要なメッセージ（表示タイプが必要でなければオプション）：

メタデータ・フィールドが要求どおりに指定されている場合、必須メッセージを指定する必要があります。この属性は、「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）を使用して割り当てます。

❖ デフォルト値（オプション）：

この属性により、メタデータ・フィールドのデフォルト値を表示します。この属性は、「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）を使用してアクティブ化し、「Edit Default Value」画面のタブ（8-65 ～ 8-70 ページを参照）を使用して定義します。

❖ 導出値（オプション）：

この属性により、更新またはチェックイン時に、メタデータ・フィールドを指定した値に設定できます。この属性は、「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）を使用してアクティブ化し、「Edit Derived Value」画面のタブ（8-70 ～ 8-71 ページを参照）を使用して定義します。

❖ 制限付きリスト（オプション）：

提示時に、この属性により、オプション・リストのメタデータ・フィールドを、特定の値リストかフィルタ処理された値リストのいずれかに制限できます。この属性は、「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）を使用してアクティブ化し、「[Edit Restricted List](#)」画面（8-72 ページ）を使用して定義します。詳細は、8-10 ページの「[定義済オプション・リストを変更するための制限付きリスト](#)」を参照してください。

ルールでのアクティブ化条件

アクティブ化条件により、様々な異なる入力に基づいて、プロフィールの動作を変更できます。たとえば、あるルールは検索ページに対してアクティブになりません。コントリビュータには、一部のフィールドが非表示になるか、チェックインで値が置き換えられます。また、プロフィールはチェックイン・プロセス中にアクティブ化するため、ブラウザ・チェックインとバッチ・ロード・チェックインが区別されます。

プロフィールは、プロフィール・ルールに含まれている可能性のあるアクティブ化条件の妥当性を評価するために、プレビューできます。プレビュー画面を使用すれば、既存のプロフィールをチェックすると同時に、アクティブ化条件の選択肢を変更し、結果を評価することで、**what-if** シナリオを実行できます。詳細は、8-92 ページの「[「Preview Profile」画面](#)」を参照してください。「Edit Activation Condition」画面についてのドキュメントに、アクティブ化条件の選択肢と、それらの作成および定義方法の詳細が記述されています（8-46 ～ 8-54 ページを参照）。

ルールのアクティブ化条件は次のものを基準にできます。

❖ システム・イベント

システム・イベントに基づくアクティブ化条件の選択肢には、「on request events」、「on submit events」および「on import events」があります。

❖ ユーザー・アクション

ユーザー・アクションに基づくアクティブ化条件の選択肢には、「check in new」、「check in selected」、「content information」、「content update」および「search」があります。

❖ ワークフローの状態

状態に基づくアクティブ化条件は、コンテンツ・アイテムがワークフロー内にあるかどうか条件となります。

❖ ドキュメント・タイプ

アクティブ化条件句では、ドキュメント・メタデータ・フィールドに基づくコンポーネントを使用できます。

❖ ユーザー・タイプ

アクティブ化条件句では、ユーザー・メタデータ・フィールドに基づくコンポーネントを使用できます。



警告：条件選択肢の 1 つ以上の組合せを含むアクティブ化条件を使用するときには、十分に注意してください。アクティブ化条件選択肢は、すべてが有効とは限らず、場合によっては互いに排他的であるものもあります。たとえば、アクティブ化条件に、インポートのイベントと、ドキュメント情報ページ・リクエストのアクションが必要な場合、アクティブ化は決して **true** にはならず、ルールはアクティブになりません。

定義済オプション・リストを変更するための制限付きリスト

制限付きリストは、ルール内でメタデータ・フィールドに対して定義できるオプション属性です。オプション・リストとして定義されているメタデータ・フィールド用のユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストを変更するには、次の2つの方法を使用できます。

❖ 固定リストの指定：

制限付きリストを使用すると、オプション・リストとして定義されたメタデータ・フィールド用の実際のマスター・リストに置き換わる明示的な値セットを指定できます。マスター・オプション・リストにすでにあるそれらのアイテムのみが、ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示されます。

❖ 正規表現評価の使用：

オプション・リストの評価に正規表現の使用を選択することもできます。リストには、文字列パターン一致および評価のプロセス用の、ワイルド・カードやその他の特殊文字を含めることができます。ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示されるアイテムは、正規表現を満たす値です。



注意：この項では、オプション・リスト・メタデータ・フィールド用に変更されたユーザー・インタフェースのドロップダウンを生成するために、正規表現の評価を使用する方法の簡単な概要のみを説明します。正規表現は、現在のところ制限付きリストでサポートされています。正規表現の複雑さのため、システム管理者は、正規表現、パターンの作成、正規表現メソッドの実装に精通している必要があります。そうでない場合は、制限付きリストの定義を支援する Oracle コンサルティング・サービスを利用してください。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [正規表現](#) (8-10 ページ)
- ❖ [一般的に使用される Java 正規表現の要素](#) (8-11 ページ)
- ❖ [制限付きリストの定義の例](#) (8-12 ページ)

正規表現

正規表現は、テキスト操作に適しており、文字列の書式を説明します。最も単純な形の正規表現は、一致させるテキストです。

たとえば、正規表現 ABC は、文字列 ABC には一致しますが、文字列 DEF には一致しません。アスタリスク (*) などのワイルド・カード文字は、さらに多くの文字列と一致させるために使用できます。たとえば、正規表現 A*B は、文字列 B、AB、AAB、AAAB などと一致します。アスタリスク (*) は、先行する文字に対する修飾子です。

一般的に使用される Java 正規表現の要素

次の表は、正規表現評価用のパターン作成で最も一般的に使用される修飾子、メタ文字および特殊文字のリストです。

要素	定義
修飾子:	
g	グローバル・パターン一致。
i	大 / 小文字を区別しないパターン一致。
m	特殊文字 ^ と \$ を 1 つの文字列内で複数回一致させます。
s	特殊文字 . を改行に一致させます。
x	パターン内の空白を無視します。
メタ文字:	
\s	空白（タブや改行も含む）に一致します。
\S	空白以外の何にでも一致します。
\b	語境界にのみ一致します。
\B	非語境界にのみ一致します。
\d	数字 0 ～ 9 に一致します。
\D	非数値文字にのみ一致します。
\w	英字、数字またはアンダースコアにのみ一致します。
\W	英字、数字またはアンダースコアでない文字にのみ一致します。
\A	文字列の初めにのみ一致します。
\Z	文字列の終わりにのみ一致します。
特殊文字:	
*	先行文字のゼロ回以上の出現に一致します。
+	先行文字の 1 回以上の出現に一致します。
?	任意の文字のゼロ回または 1 回の出現に一致します。
.	改行を除く任意の 1 文字に一致します。
^	\A メタ文字と同様に、文字列の初めに一致します。
\$	\Z メタ文字と同様に、文字列の終わりに一致します。
	「または」の条件を加えます。

制限付きリストの定義の例

この項に含まれる例は、「[Edit Restricted List](#)」画面（8-72 ページ）での指定に応じて、ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示される結果を説明しています。定義中の制限リストでは、オプション・リストとして定義したメタデータ・フィールドを使用します。そのマスター・リストの値は、アルファベット順の米国の州です。次の 2 つの依存性が含まれています。

- ❖ テキスト・ペインに入力されたアイテムまたは式
- ❖ 「Allow Java Regular Expressions」チェック・ボックス（選択または選択解除）

例 1:

この例では、テキスト値がテキスト・ペインに入力され、「Allow Java Regular Expressions」チェック・ボックスは選択されていません。この場合、オプションの NoState と Carolina は、州のフルネームではないので、結果のリストには含まれません。順序がテキスト領域への入力どおりに維持されていることにも注意してください。

次の値がテキスト・ペインに入力される場合：

Alabama
Minnesota
NoState
Utah
Carolina

ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示される結果：

Alabama
Minnesota
Utah

例 2:

この例では、例 1 と同じテキスト値がテキスト・ペインに入力されています。ただし、「Allow Java Regular Expressions」チェック・ボックスが選択されています。

次の値がテキスト・ペインに入力される場合：

Alabama
Minnesota
NoState
Utah
Carolina

ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示される結果：

Alabama
Minnesota
Utah
North Carolina
South Carolina

この場合、North Carolina と South Carolina はどちらも正規表現 Carolina に一致するため、結果のリストには両方含まれます。

例 3:

この例では、「Allow Java Regular Expressions」チェック・ボックスが選択され、前の例と同様のテキスト値を入力するかわりに、アルファベット文字とともに特殊文字 ^ が使用されています。

この場合、2 つの正規表現があります。最初の正規表現では、マスター・リストの C で始まるすべてものを選択することを指定し、2 番目の正規表現では、AI で始まるすべてものを選択することを指定します。結果の順序は、テキスト・ペインでリストがどのように入力されたかによって決まることに注意してください。

次の値がテキスト・ペインに入力される場合：

^C
^AI

ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示される結果：

California
Colorado
Connecticut
Alabama
Alaska

例 4:

この例では、例 3 と同じ値がテキスト・ペインに入力されています。ただし、両方の値は同じ行に入力されており、**or** として評価されるパイプ（|）特殊文字で区切られています。この場合、リストは **A1** または **C** のいずれかで始まる値について正確に 1 回フィルタ処理が行われるため、値は正しい順序で維持されます。

次の値がテキスト・ペインに入力される場合：

^C | ^A1

ユーザー・インタフェースのドロップダウン・リストに表示される結果：

Alabama
Alaska
California
Colorado
Connecticut

コンテンツ・プロフィールとメタデータ編成

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [メタデータ・フィールドのグループ化でのルール of 使用方法](#) (8-15 ページ)
- ❖ [再編成されたメタデータ・フィールドの結果の表示](#) (8-19 ページ)

メタデータ・フィールドのグループ化でのルールの使用方法

「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで表示されるメタデータ・フィールドは、1 つのグループとしてルールに追加でき、グループには適切なヘッダーでラベルを付けることができます。ルールを編集しても、グループ内で個々のメタデータ・フィールドを並べ替えることができます。フィールドは、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで、グループ内での配列に応じて表示されます。

メタデータ・グループは、「[Add Rule "name" / "Edit Rule "name" 画面：「General」タブ](#) (8-41 ページ) の「Is group」チェック・ボックスを選択することによって設定します。個々のメタデータ・フィールドは、「[Add Rule "name" / "Edit Rule "name" 画面：「Fields」タブ](#) (8-57 ページ) を使用してグループに追加します。フィールドを並べ替えるには、この画面の「Up」ボタンと「Down」ボタンを使用します。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [メタデータ・フィールドの再編成](#) (8-15 ページ)
- ❖ [グループ間でのメタデータ・フィールドの競合](#) (8-16 ページ)
- ❖ [解決ルール](#) (8-17 ページ)

メタデータ・フィールドの再編成

特定のメタデータ・フィールドをグループ化し、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでそれらのフィールドをどのように表示するかを決めるルールを作成できます。たとえば、[図 8-1](#) では、左側のルールの結果が、右側の「Check In」ページでのメタデータ・フィールド・リストになることを示しています。この例では、Content ID が、グループ・リスト内の最初の要素であることから、グループの先導要素です。Content ID の後に含まれるメタデータ・フィールドは、グループの後続要素です。

図 8-1 ルールから生成されたメタデータ・フィールド

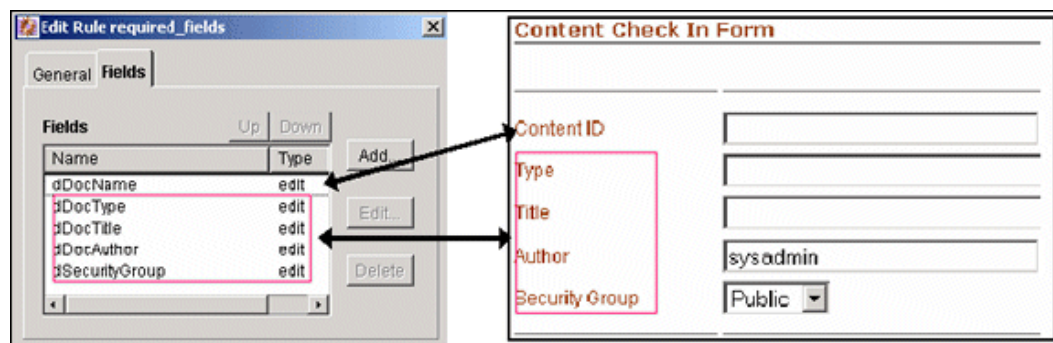
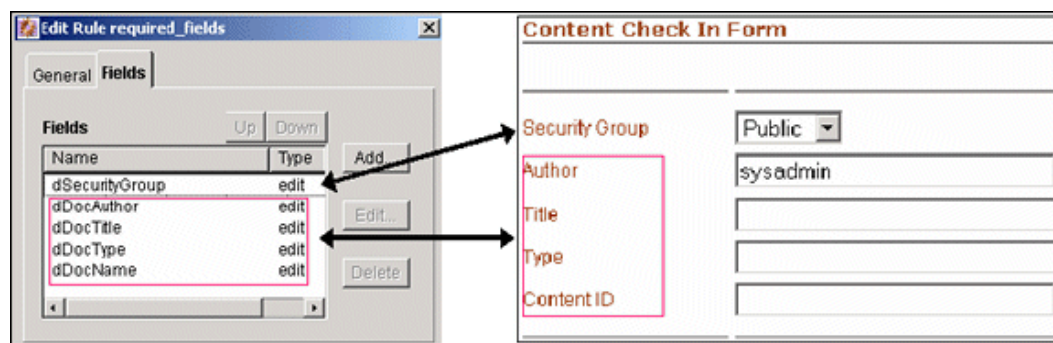


図 8-2 では、同じルールを示していますが、グループ内のメタデータ・フィールドは、「Up」ボタンと「Down」ボタンを使用して並べ替えられています。この再編成の結果、「Check In」ページで同じメタデータ・フィールドの異なるリストが表示されることになります。この場合、Security Group がグループの先導要素となり、その他のフィールドが今度はグループの後続要素となります。

図 8-2 再編成されたメタデータ・フィールド

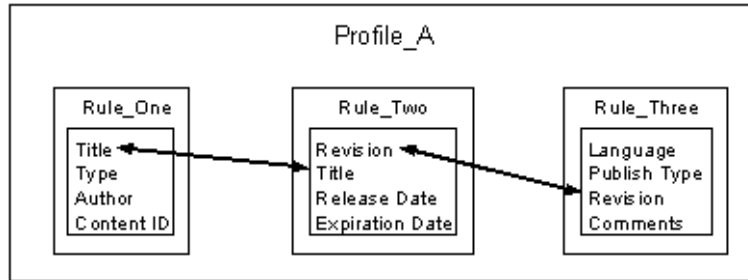


グループ間でのメタデータ・フィールドの競合

1 つのグループ内にある 1 つ以上のメタデータ・フィールドが、グループ化されたメタデータ・フィールドを使用する他のルールで複数のグループに属するということが考えられます。その結果、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでのメタデータ・フィールドの表示について競合が生じる可能性があります。

図 8-3 では、1 つのプロファイルに、グループ化されたメタデータ・フィールドを持つ 3 つのルールが含まれています。各グループには、別のグループに属するフィールドが 1 つあります。この場合、システムでは解決ルールを使用して、競合を調整します。詳細は、8-17 ページの「[解決ルール](#)」を参照してください。

図 8-3 メタデータ・フィールドをグループ化する複数のルールを持つプロフィール



警告：追加のプロファイルとこれらのメタデータ・フィールドを1つ以上含むグローバル・ルールのシステムによる評価と実装の結果、グループ化の競合が生じる可能性があります。プロファイル内での優先度や優先順位に応じて、後から実行される一部のルールが、先に実行されたルールに置き換わる場合があります。その結果、これがグループ化されたメタデータ・フィールドがどう解決されるかに影響を与えかねません。ルールの評価の詳細は、8-6 ページの「[プロファイル・ルール](#)」および8-7 ページの「[グローバル・ルール](#)」を参照してください。

解決ルール

メタデータのグループ化の競合を解決するために、次のルールが順次使用されます。

1. リスト内の最初の要素は、グループの先導要素です。
2. 最初の要素に続く要素はすべて、グループの後続要素です。
3. グループの先導要素が、別のグループのリストではグループの先導要素でない場合、任意のグループの後続要素を、そのグループの先導要素の下に割り当てます。
4. グループの先導要素が優先グループのリストではグループの後続要素である場合、新しいグループ・リストは前のグループ・リストに次のようにマージされます。
 - a. 本来のグループ先導要素（優先グループの先導要素）を見つけます。
 - b. 本来のグループ先導要素のグループの後続要素リストで、グループの先導要素の後に新しいグループの後続要素を挿入します。
5. 複数のグループの先導要素を持つグループの後続要素がないことを確認します。ある場合、その後続要素を優先グループの先導要素のリストから削除します。
6. あるグループ化で設定した後続要素をその後別のグループ化で先導要素とした場合、このルールは無効で、エラーが報告され、ルールは評価されません。（これが許されると、非グループの先導要素（グループの後続要素）がグループの先導要素に昇格することになります。）

例 1:

条件 1: A、B、C はメタデータ・グループ

要素: A はグループの先導要素で、B および C は A のグループの後続要素

条件 2: B、D、E は別のメタデータ・グループ

要素: B はグループの先導要素で、D および E は B のグループの後続要素

結果: A、B、D、E、C

例 2:

条件 1: A、B、C はメタデータ・グループ

要素: A はグループの先導要素で、B および C は A のグループの後続要素

条件 2: A、D、E は別のメタデータ・グループ

要素: A はグループの先導要素で、D および E は A のグループの後続要素

結果: A、D、E、B、C

例 3:

条件 1: A、B、C はメタデータ・グループ

要素: A はグループの先導要素で、B および C は A のグループの後続要素

条件 2: C、B、D は別のメタデータ・グループ

要素: C はグループの先導要素で、B および D は C のグループの後続要素

結果: A、C、B、D

例 4:

条件 1: A、B はメタデータ・グループ

要素: A はグループの先導要素で、B は A のグループの後続要素

条件 2: B、A、C は別のメタデータ・グループ

要素: B はグループの先導要素で、A および C は B のグループの後続要素

結果: 理論上、この状況は B、A、C と解決できますが、これでは A、B のグループ化が無意味になります。したがって、他のグループ化の混乱を避けるために、これはエラーとして扱われます。

例 5:

条件 1: A、B、C はメタデータ・グループ

要素: A はグループの先導要素で、B および C は A のグループの後続要素

条件 2: D、A、E は別のメタデータ・グループ

要素: D はグループの先導要素で、A および E は D のグループの後続要素

結果: エラー: このグループ化の競合を解決することは不可能です。

再編成されたメタデータ・フィールドの結果の表示

コンテンツ・プロフィールを使用すれば、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで、メタデータ・フィールドを並べ替えられます。カスタム・メタデータ・フィールドはシステム固有の情報フィールドと同様に、特定の要求に合うように再編成できます。この項では、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでの、並べ替えられたカスタムおよびシステム情報フィールドの表示結果について、より明確に説明します。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [メタデータ・フィールドの位置指定](#) (8-19 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの移動](#) (8-25 ページ)

メタデータ・フィールドの位置指定

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [Content Server](#) のページでのグループ化されたメタデータ・フィールドの一般的順序 (8-20 ページ)
- ❖ [グループ内でのメタデータ・フィールドの位置指定](#) (8-21 ページ)
- ❖ [グループ化されたメタデータ・フィールドの「Check In」、「Update」および「Check In Selected」ページでの表示結果](#) (8-22 ページ)
- ❖ [グループ化されたメタデータ・フィールドの「Search」ページでの表示結果](#) (8-23 ページ)
- ❖ [グループ化されたメタデータ・フィールドの「Content Information」ページでの表示結果](#) (8-24 ページ)
- ❖ [グループ化されたメタデータ・フィールドの「Folder Information」ページでの表示結果](#) (8-24 ページ)

Content Server のページでのグループ化されたメタデータ・フィールドの一般的順序

グループ化されたシステムおよびカスタム・メタデータ・フィールドの Content Server のページでの位置指定は、グループ内の最初のメタデータ・フィールドの優先度によって決まります。カスタム・メタデータ・フィールドをシステムに追加するとき、その位置指定の順序（フィールドの順序）を設定します。

「[Configuration Manager](#)」：「[Information Field](#)」タブ（4-11 ページ）を使用してカスタム・メタデータ・フィールドを追加し、「[Add Metadata Field](#)」 / 「[Edit Metadata Field](#)」画面（4-14 ページ）の「Order」フィールドで順序番号を割り当てます。

カスタム・メタデータ・フィールドがグループ内の最初のフィールドであるとき、そのグループは、カスタム・メタデータ・フィールドに割り当てられたフィールド順序に従ってページに配置されます。システム・メタデータ・フィールドがグループ内の最初のフィールドであるとき、そのグループは、設定済のそれらの優先順位に従って配置されます。

Content Server ページによっては、一般的な表示順序に追加のシステム・メタデータ・フィールドが含まれる場合があります。または、システム・メタデータ・フィールドの中には、表示順序に含まれないものもあります。たとえば、「Search」ページには、「Release Date」および「Expiration Date」システム・メタデータ・フィールドは表示されますが、「Revision」は除外されます。

デフォルトでは、システム・メタデータ・フィールドの一般的な順序は、次のとおりです。

Content ID (dDocName)
Type (dDocType)
Title (dDocTitle)
Author (dDocAuthor)
Security Group (dSecurityGroup)
Account (dDocAccount)
Revision (dRevLabel)



注意：一般に、システム・メタデータ・フィールドが最初のフィールドになっているグループは、デフォルトの順序で表示されます。たとえば、「Author」がカスタム・メタデータ・フィールドのグループで最初のフィールドである場合、そのグループは「Content ID」、「Type」または「Title」を最初のフィールドとして含むグループの下に表示されます。

グループ内でのメタデータ・フィールドの位置指定

8-15 ページの「[メタデータ・フィールドのグループ化でのルールの使用方法](#)」では、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで、カスタムおよびシステム・メタデータ・フィールドを便利にグループ化するためのルールの定義方法について説明します。メタデータ・フィールドのグループ化に加えて、それらをアプリケーションに合うように順序付けることができます。

メタデータ・フィールドの順序付けには、次の2つのオプションを使用できます。

❖ オプション 1: Field Position

3つの位置指定オプション（top、middle、bottom）がある「Field Position」ドロップダウン・リストを使用できます。このオプションは、「[Add Rule Field](#)」画面（8-59 ページ）を使用して、ルールにメタデータ・フィールドを追加しているときに使用できます。このオプションは、相対的に機能します。たとえば、次のメタデータ・フィールドを追加するとします。

xRegion (Top)

xSubDept (Bottom)

xDept を Middle のフィールド位置で追加すると、次のように追加されます。

xRegion (Top)

xDept (Middle)

xSubDept (Bottom)

次に xContinent を Top のフィールド位置で追加すると、次のように追加されます。

xRegion (Top)

xContinent (Top)

xDept (Middle)

xSubDept (Bottom)

同様に、xManager を Middle のフィールド位置で追加すると、次のように追加されます。

xRegion (Top)

xContinent (Top)

xDept (Middle)

xManager (Middle)

xSubDept (Bottom)

「Field Position」オプションの詳細は、「[Add Rule Field](#)」画面（8-59 ページ）の「[Field Position](#)」リスト（8-60 ページ）機能を参照してください。



注意: フィールドをグループ化した場合は、この順序付けオプションにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでの表示結果が作成されます。つまり、フィールドをルールに追加するときには、「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「**General**」タブ（8-41 ページ）で「Is Group」チェック・ボックスを選択する必要があります。

❖ オプション2: 「Up」ボタンと「Down」ボタン

「Up」ボタンと「Down」ボタンを使用すれば、フィールドを並べ替えることができます。このオプションは、「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「**Fields**」タブ（8-57 ページ）を使用して、ルールにメタデータ・フィールドを追加しているときに使用できます。この方法は、すでに追加されているフィールドを並べ替える場合、または同じフィールド位置で追加されたフィールドを並べ替える場合に便利です。

たとえば、フィールド位置が **Top** の3つのフィールドを追加すると、これらのフィールドはルールに追加された順に配置されます。しかし、3つのフィールドのうちの1つを一番上に移動する必要がある場合は、「Up」ボタンを使用すれば移動できます。同様に、追加時に正しく配置されていないフィールドがある場合も、「Up」ボタンと「Down」ボタンを使用して、フィールドをより正確に並べ替えることができます。

「Up」ボタンと「Down」ボタンの詳細は、「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「**Fields**」タブ（8-57 ページ）の「Up」ボタン（8-58 ページ）および「Down」ボタン（8-58 ページ）の機能を参照してください。

グループ化されたメタデータ・フィールドの「Check In」、「Update」および「Check In Selected」ページでの表示結果

次のルールにより、「Check In」、「Update」および「Check In Selected」の各ページでメタデータ・グループがどのように表示されるかが指定されます。

- ❖ グループの最初のフィールドがシステム・フィールド（Content ID、Type、Title など）である場合、そのグループは常に「Primary File」フィールドの上に表示されます。
- ❖ Content ID の自動生成が無効の場合、「Content ID」フィールドは、ページでは常に最初のフィールドとして表示され、その後にグループの残りのフィールドが続きます。また、別のグループに他のシステム・フィールド（Title や Type など）が含まれている場合、そのグループは「Content ID」グループの後ではあるが、「Primary File」フィールドの上に表示されます。

- ❖ Content ID の自動生成が有効の場合、「Content ID」フィールドは、フィールド順序が 1 であるカスタム・メタデータ・フィールドのように機能します。この場合、「Content ID」がグループ内で最初のフィールドである場合、グループは「Primary File」フィールドと「Alternate File」フィールドのすぐ下に表示されます。また、「Revision」システム・メタデータ・フィールドは、「Content ID」グループの最後のフィールドの後に表示されます。（デフォルトでは、「Revision」は「Alternate File」フィールドの下に表示されます。）
- ❖ グループの最初のフィールドがカスタム・メタデータ・フィールドである場合、そのグループは、リード・メタデータ・フィールドと他のグループのリード・メタデータ・フィールドのフィールド順序番号の関連によって決まる順序で表示されます。これは、システム・メタデータ・フィールドがカスタム・メタデータ・フィールドとグループ化されている場合でも有効です。
- ❖ 「Release Date」フィールドと「Expiration Date」フィールドは、より上（より小さい番号）のフィールド順序値を持つカスタム・メタデータ・フィールドとグループ化されていなければ、常にページの最後に表示されます。または、「Release Date」と「Expiration Date」がシステム・メタデータ・フィールドとグループ化されている場合、これらのフィールドは「Primary File」フィールドの上に表示されます。

グループ化されたメタデータ・フィールドの「Search」ページでの表示結果

次のルールにより、「Search」ページでメタデータ・グループがどのように表示されるかが指定されます。

- ❖ 「Content ID」フィールドは、グループに属し、最初のフィールドでなければ、常に最初に配置されます。しかし、「Content ID」がグループの最初のフィールドである場合、そのグループが最初に表示されます。
- ❖ システム・メタデータ・フィールド（Content ID 以外）がグループ内の最初のフィールドである場合、そのグループは「Content ID」フィールドまたは「Content ID」グループの後に表示されます。
- ❖ 最初のフィールドとしてカスタム・メタデータ・フィールドがあるその他すべてのグループは、リード・フィールドとしてシステム・メタデータ・フィールドを持つグループの後に表示されます。グループに最初のフィールドとしてカスタム・メタデータ・フィールドがある場合、これらのグループの順序付けは、相互に関連するグループのリード・メタデータ・フィールドのフィールド順序番号によって決まります。



注意：メタデータ・フィールドを検索ページに表示するには、「[Add Metadata Field](#)」 / 「[Edit Metadata Field](#)」画面（4-14 ページ）で「[Enable for Search Index](#)」を設定する必要があります。

グループ化されたメタデータ・フィールドの「Content Information」ページでの表示結果

次のルールにより、「Content Information」ページでメタデータ・グループがどのように表示されるかが指定されます。

- ❖ 「Content ID」フィールドは、グループに属し、最初のフィールドでなければ、常に最初に配置されます。
- ❖ 「Checked Out By」、「Status」および「Formats」フィールドは、常に一番下に表示されます。
- ❖ 「Security Group」フィールド、または「Security Group」が最初のフィールドであるグループは、「Checked Out By」、「Status」および「Formats」フィールドの上に表示されます。これは、次の場合を除いて有効です。
 - アカウントが無効の場合。アカウントが有効である場合、「Security Group」は「Checked Out By」フィールドの上に表示されます。「Security Group」は、「Account」フィールドの上に表示されます。
 - 「Security Group」フィールドが、属するグループで最初のフィールドではなく、リード・メタデータ・フィールドのフィールド順序番号が、他のカスタム・メタデータ・フィールドの上に配置される番号の場合。この場合、「Security Group」フィールドは、グループのリード・メタデータ・フィールドのフィールド順序番号によって決まる順序で表示されます。
- ❖ 「Release Date」フィールドおよび「Expiration Date」フィールドは、「Revision History」表の一部としてページの一番下に表示されます。
- ❖ カスタム・メタデータ・フィールドが最初のフィールドであるその他すべてのグループは、相互に関連するグループのリード・メタデータ・フィールドのフィールド順序番号によって決まります。

グループ化されたメタデータ・フィールドの「Folder Information」ページでの表示結果

次のルールにより、「Folder Information」ページでメタデータ・グループがどのように表示されるかが指定されます。

- ❖ 「Content ID」フィールドは、グループに属していない場合は表示されません。現在のところ、「Content ID」が最初のフィールドであるグループは表示されません。これは、グループ内で別のシステムまたはカスタム・メタデータ・フィールドをリード・フィールドとして定義することにより防げます。

- ❖ システム・メタデータ・フィールドがリード・フィールドであるすべてのグループが表示されます（割り当てられた表示属性が **Edit**、**Label** または **Required** である場合）。**Hidden** または **Excluded** 表示属性が割り当てられたシステムまたはカスタム・メタデータ・フィールドがある場合、そのフィールドは表示されません。メタデータ・フィールドに割り当てられる表示属性の詳細は、「[Add Rule Field "name" / Edit Rule Field "name" 画面](#)（8-61 ページ）の「**Type**」リスト（8-62 ページ）機能を参照してください。
- ❖ カスタム・メタデータ・フィールドが最初のフィールドであるその他すべてのグループは、相互に関連するグループのリード・メタデータ・フィールドのフィールド順序番号によって決まります。

メタデータ・フィールドの移動

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ 「[Primary File](#)」フィールドの下での位置へのシステム・メタデータ・フィールドの移動（8-25 ページ）
- ❖ 「[Primary File](#)」フィールドの上での位置へのカスタム・メタデータ・フィールドの移動（8-26 ページ）

「Primary File」フィールドの下での位置へのシステム・メタデータ・フィールドの移動

システム・メタデータ・フィールドを「Primary File」フィールドの下に強制的に表示させるには、次のようにします。

1. 希望するシステム・メタデータ・フィールドを、カスタム・メタデータ・フィールドを含むグループに追加します。
2. そのグループの最初のフィールドがカスタム・メタデータ・フィールドであることを確認します。

これにより、グループは確実に「Primary File」フィールドの下に表示されます。グループは、リード・フィールドのフィールド順序番号に基づいて配置されます。

「Primary File」フィールドの上の位置へのカスタム・メタデータ・フィールドの移動

カスタム・メタデータ・フィールドを「Primary File」フィールドの上に強制的に表示させるには、次のようにします。

1. 希望するカスタム・メタデータ・フィールドを、システム・メタデータ・フィールドを含むグループに追加します。
2. そのグループの最初のフィールドがシステム・メタデータ・フィールドであることを確認します。

これにより、グループは確実に「Primary File」フィールドの上に表示されます。グループは、どのシステム・メタデータ・フィールドがリード・フィールドであるかに基づいて配置されます。

ルールの管理

ルールの管理には、次の作業があります。

- ❖ [新規ルールの作成](#) (8-27 ページ)
- ❖ [既存ルールの編集](#) (8-27 ページ)
- ❖ [既存ルールの削除](#) (8-28 ページ)
- ❖ [新規グローバル・ルールの作成](#) (8-28 ページ)
- ❖ [既存グローバル・ルールの編集](#) (8-28 ページ)
- ❖ [既存グローバル・ルールの削除](#) (8-29 ページ)
- ❖ [ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#) (8-29 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドのグループ化](#) (8-30 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールド・グループへのヘッダーの追加](#) (8-30 ページ)
- ❖ [新規アクティブ化条件の定義](#) (8-31 ページ)
- ❖ [既存アクティブ化条件の編集](#) (8-32 ページ)
- ❖ [既存アクティブ化条件の削除](#) (8-32 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの属性の定義](#) (8-33 ページ)
- ❖ [メタデータ・フィールドの属性の編集](#) (8-37 ページ)
- ❖ [必須フィールドの表示の設定](#) (8-39 ページ)

新規ルール作成

新規ルールを作成するには、次のようにします。

1. Configuration Manager の「Rules」タブで、「Add」をクリックします。
「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されます。
2. 新規ルールの名前と説明情報を入力します。
3. 「OK」をクリックします。

次のリストは、新規ルールの構成方法を説明する項への参照を示しています。

- ❖ グローバル・ルールを作成するには、8-28 ページの「[新規グローバル・ルールの作成](#)」を参照してください。
- ❖ あるルールに属するフィールドをグループ化するには、8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」を参照してください。
- ❖ ルールにアクティブ化条件を含めるには、8-32 ページの「[既存アクティブ化条件の編集](#)」を参照してください。
- ❖ ルールにメタデータ・フィールドを追加し、属性を定義するには、それぞれ 8-30 ページの「[メタデータ・フィールドのグループ化](#)」と 8-33 ページの「[メタデータ・フィールドの属性の定義](#)」を参照してください。

既存ルールの編集

既存ルールを編集するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブで、「Rules」リスト・ペインから編集するルールを選択し、「Edit」をクリックします。
「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されると、フィールドには選択したルールに対して前に設定した値が移入されています。
2. フィールドの値を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

既存ルール削除

既存ルールを削除するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブで、「Rules」リスト・ペインから削除するルールを選択し、「Delete」をクリックします。
ルールを削除する決定に確認を求められます。
2. 「OK」をクリックします。
選択したルールが削除されます。

新規グローバル・ルールの作成

グローバル・ルールを作成するには、次のようにします。

1. 新規ルールを追加するか、既存ルールを編集のため選択する（8-27 ページの「[新規ルールの作成](#)」または 8-27 ページの「[既存ルールの編集](#)」を参照）ことで、「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）を開きます。
2. 「General」タブで、「Is global rule with priority」チェック・ボックスを選択します。
3. オプションで、デフォルトの優先番号を変更します。デフォルトでは、優先番号として 10 が表示されています。ルールの評価および解決の詳細は、8-6 ページの「[プロフィール・ルール](#)」を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。

既存グローバル・ルールの編集

既存グローバル・ルールを編集するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブで、「Rules」リスト・ペインから編集するグローバル・ルールを選択し、「Edit」をクリックします。

「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されると、フィールドには選択したグローバル・ルールに対して前に設定した値が移入されています。
2. フィールドの値を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

既存グローバル・ルール削除

既存グローバル・ルールを削除するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブで、「Rules」リスト・ペインから削除するグローバル・ルールを選択し、「Delete」をクリックします。

ルールを削除する決定に確認を求められます。

2. 「OK」をクリックします。
選択したルールが削除されます。

ルールへのメタデータ・フィールドの追加

ルールにメタデータ・フィールドを追加するには、次のようにします。

1. 新規ルールまたはグローバル・ルールを追加するか、既存ルールまたはグローバル・ルールを編集のため選択することで、「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）を開きます。



注意：詳細は、8-27 ページの「新規ルールの作成」、8-28 ページの「新規グローバル・ルールの作成」、8-27 ページの「既存ルールの編集」または 8-28 ページの「既存グローバル・ルールの編集」を参照してください。

2. 「Fields」タブを開き、「Add」をクリックします。
「Add Rule Field」画面（8-59 ページ）が表示されます。
3. 「Field Name」オプション・リストからメタデータ・フィールドを選択します。
4. 「Field Position」オプション・リストから、メタデータ・フィールドの一般的な配置選択肢を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面（8-61 ページ）が表示されます。
6. メタデータ・フィールドに関する情報を入力します。
7. 「OK」をクリックします。
8. ルールに追加するメタデータ・フィールドごとに、手順 2 ～ 7 を繰り返します。

次のリストは、メタデータ・ルール構成方法を説明する項への参照を示しています。

- ❖ デフォルト値、導出値および制限付きリストの詳細は、8-61 ページの「[「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面](#)」を参照してください。
- ❖ メタデータ・フィールドへのこれらの属性の追加に関する一般的な手順は、8-34 ページの「[メタデータ・フィールドのデフォルト値の設定](#)」、8-35 ページの「[メタデータ・フィールドの導出値の設定](#)」および 8-37 ページの「[メタデータ・フィールドの制限付きリスト条件の設定](#)」を参照してください。

メタデータ・フィールドのグループ化

メタデータ・フィールドをグループ化するには、次のようにします。

1. [「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面](#)：「General」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
 2. 「General」タブで、「Is group」チェック・ボックスを選択します。
 3. 「OK」をクリックします。
- 「Edit Rule "name"」画面が閉じられます。

メタデータ・フィールド・グループへのヘッダーの追加

メタデータ・グループにラベル（ヘッダー）を追加するには、次のようにします。

1. [「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面](#)：「General」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
 2. 「General」タブで、「Has group header」チェック・ボックスを選択します。
 3. 対応する「Edit」ボタンをクリックします。
- [「Edit Group Header」画面](#)（8-44 ページ）が表示されます。
4. ヘッダーのテキストを入力し、「OK」をクリックします。
- ヘッダーはグループ化されたメタデータ・フィールドの上に表示されます。

新規アクティブ化条件の定義

ルールにアクティブ化条件を追加するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「[General](#)」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
2. 「[General](#)」タブで、「[Use rule activation condition](#)」チェック・ボックスを選択します。
3. 対応する「[Edit](#)」ボタンをクリックします。「[Edit Activation Condition](#)」：「[Conditions](#)」タブ（8-46 ページ）が表示されます。
4. 「[Add](#)」をクリックします。「[Edit Activation Condition](#)」：「[Add Condition](#)」画面（8-47 ページ）が表示されます。
5. 「[Name](#)」フィールドにアクティブ化条件の名前を入力し、「[OK](#)」をクリックします。「[Edit Activation Condition](#)」：「[Conditions](#)」タブ / 「[General](#)」タブ（8-48 ページ）が表示されます。
6. 「[General](#)」タブと「[Clauses](#)」タブを使用して、アクティブ条件を定義するための情報を入力します。オプションで、「[Custom](#)」タブを使用すれば、[Idoc](#) スクリプトを記述できます。アクティブ化条件の定義の詳細は、次の項を参照してください。
 - 「[Edit Activation Condition](#)」：「[Conditions](#)」タブ / 「[General](#)」タブ（8-48 ページ）
 - 「[Edit Activation Condition](#)」：「[Conditions](#)」タブ / 「[Clauses](#)」タブ（8-52 ページ）
 - 「[Edit Activation Condition](#)」：「[Custom](#)」タブ（8-54 ページ）
 - 「[Edit Activation Condition](#)」：「[Side Effects](#)」タブ（8-55 ページ）
7. 「[OK](#)」をクリックします。

既存アクティブ化条件の編集

既存アクティブ化条件を編集するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「[General](#)」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
2. アクティブ化条件のチェック・ボックスに対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
「[Edit Activation Condition](#)」：「[Conditions](#)」タブ（8-46 ページ）が表示されます。
3. 「[Conditions](#)」タブで、「[Conditions](#)」リストから編集するアクティブ化条件を選択します。
4. フィールドの値を編集します。
5. 「**OK**」をクリックします。

既存アクティブ化条件の削除

既存アクティブ化条件を削除するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「[General](#)」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
2. アクティブ化条件のチェック・ボックスに対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
「[Edit Activation Condition](#)」：「[Conditions](#)」タブ（8-46 ページ）が表示されます。
3. 「[Conditions](#)」タブで、「[Conditions](#)」リストから削除するアクティブ化条件を選択します。
4. 「**Delete**」をクリックします。
アクティブ化条件が削除されます。

メタデータ・フィールドの属性の定義

ルールに属する各メタデータ・フィールドには、必須の属性（フィールドの位置やタイプ）を割り当てる必要があります。必須メッセージ、デフォルト値、導出値または制限付きリストなどのオプション属性を定義することもできます。ルール内のメタデータ・フィールド属性の詳細は、8-8 ページの「[ルール内のメタデータ・フィールドと属性](#)」を参照してください。

メタデータ・フィールドの属性を定義するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「[General](#)」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
2. 「Fields」タブを開き、「Add」をクリックします。
「[Add Rule Field](#)」画面（8-59 ページ）が表示されます。
3. 「Field Name」オプション・リストからメタデータ・フィールドを選択します。
4. 「Field Position」オプション・リストから、メタデータ・フィールドの一般的な配置選択肢を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）が表示されます。
6. 「Type」オプション・リストから表示タイプを選択します。
7. 必要に応じて、必要なメッセージを入力します。
8. デフォルト値、導出値または制限付きリストを設定して、追加の属性を定義します。詳細は、次の項を参照してください。
 - [メタデータ・フィールドのデフォルト値の設定](#)（8-34 ページ）
 - [メタデータ・フィールドの導出値の設定](#)（8-35 ページ）
 - [メタデータ・フィールドの制限付きリスト条件の設定](#)（8-37 ページ）
9. 「OK」をクリックします。

メタデータ・フィールドのデフォルト値の設定

デフォルト値フィールド属性を設定するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）で、「Use default value」チェック・ボックスを選択します。
2. 対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
「[Edit Default Value](#)」：「[Conditions](#)」タブ（8-65 ページ）が表示されます。
3. 「[Conditions](#)」タブで、「**Add**」をクリックします。
「[Edit Default Value](#)」：「[Add Condition](#)」画面（8-68 ページ）が表示されます。
4. このデフォルト値属性の名前を入力し、「**OK**」をクリックします。
「[Add Condition](#)」画面が閉じられ、デフォルト属性名が「[Conditions](#)」リストに追加されます。
5. オプション・リストから「**Field**」と「**Operator**」の値を選択します。「**Field**」リストから選択した値に応じて、「**Value**」フィールドは次のものになります。
 - データを入力するための編集可能なフィールド
 - 適切なオプションの選択リスト
 - 対応する「**Select**」ボタンのある編集可能なフィールド
6. 該当する場合は、上の「**Value**」フィールドの値を入力または選択します。
 - a. 次の場合は「**Select**」をクリックします。
 - 「**Field**」の値が「**Content ID**」：「[Edit Default Value](#)」：「[Select Field](#)」画面（8-69 ページ）が表示されます。
 - 「**Field**」の値が「**Author**」：「[User View](#)」画面（1-14 ページ）が表示されます。
 - b. コンテンツを選択するために、必要に応じてフィルタを使用します。
 - c. 「**OK**」をクリックします。
「[Content Item View](#)」画面（1-12 ページ）または「[User View](#)」画面が閉じられ、選択したコンテンツの値が、デフォルト値の「[Conditions](#)」タブにある上の「**Value**」フィールドに追加されます。
7. 「**Add**」をクリックします。
式ペインには、文が追加されます。
8. 「**Compute**」をクリックします。
「[Edit Default Value](#)」：「[Select Field](#)」画面（8-69 ページ）が表示されます。

9. フィールドがスキーマ・ビューにリンクしている場合は、列を選択できます。リンクしていない場合は、「OK」をクリックします。

「Select Field」画面が閉じられ、計算された値が、デフォルト値の「Conditions」タブにある下の「Value」フィールドに追加されます。

10. 「OK」をクリックします。

「Edit Default Value」画面が閉じられ、「Add Rule Field <name>」画面のデフォルト値のテキスト・ペインに Idoc スクリプト文が表示されます。

11. メタデータ・フィールドの属性の追加が終了したら、「OK」をクリックします。また終了していない場合は、属性の追加を続行します。8-35 ページの「[メタデータ・フィールドの導出値の設定](#)」と 8-37 ページの「[メタデータ・フィールドの制限付きリスト条件の設定](#)」を参照してください。

メタデータ・フィールドの導出値の設定

導出値フィールド属性を設定するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面 (8-61 ページ) で、「Is derived field」チェック・ボックスを選択します。
2. 対応する「Edit」ボタンをクリックします。
「[Edit Derived Value](#)」: 「[Conditions](#)」タブ (8-70 ページ) が表示されます。
3. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
「[Edit Derived Value](#)」: 「[Add Condition](#)」画面 (8-70 ページ) が表示されます。
4. この導出値属性の名前を入力し、「OK」をクリックします。
「Add Condition」画面が閉じられ、導出値属性名が「Conditions」リストに追加されます。
5. オプション・リストから「Field」と「Operator」の値を選択します。「Field」リストから選択した値に応じて、「Value」フィールドは次のものになります。
 - データを入力するための編集可能なフィールド
 - 適切なオプションの選択リスト
 - 対応する「Select」ボタンのある編集可能なフィールド

6. 該当する場合は、上の「Value」フィールドの値を入力または選択します。
 - a. 次の場合は「Select」をクリックします。
 - 「Field」の値が「Content ID」: 「Edit Derived Value」: 「Select Field」画面 (8-71 ページ) が表示されます。
 - 「Field」の値が「Author」: 「User View」画面 (1-14 ページ) が表示されます。
 - b. コンテンツを選択するために、必要に応じてフィルタを使用します。
 - c. 「OK」をクリックします。

「Content Item View」画面 (1-12 ページ) または「User View」画面が閉じられ、選択したコンテンツの値が、デフォルト値の「Conditions」タブにある上の「Value」フィールドに追加されます。
7. 「Add」をクリックします。

式ペインには、文が追加されます。
8. 「Compute」をクリックします。

「Edit Derived Value」: 「Select Field」画面 (8-71 ページ) が表示されます。
9. フィールドがスキーマ・ビューにリンクしている場合は、列を選択できます。リンクしていない場合は、「OK」をクリックします。

「Select Field」画面が閉じられ、計算された値が、導出値の「Conditions」タブにある下の「Value」フィールドに追加されます。
10. 「OK」をクリックします。

「Edit Derived Value」画面が閉じられ、「Add Rule Field <name>」画面のデフォルト値のテキスト・ペインに Idoc スクリプト文が表示されます。
11. メタデータ・フィールドの属性の追加が終了したら、「OK」をクリックします。また終了していない場合は、属性の追加を続行します。8-34 ページの「メタデータ・フィールドのデフォルト値の設定」と 8-37 ページの「メタデータ・フィールドの制限付きリスト条件の設定」を参照してください。

メタデータ・フィールドの制限付きリスト条件の設定

メタデータ・フィールドに制限付きリストを使用するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）で、「Has restricted list」チェック・ボックスを選択します。
2. 対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。

「[Edit Restricted List](#)」画面（8-72 ページ）が表示されます。

3. ルールに直接関連付けられている値のリストを使用するには、「Is filtered list」オプションを選択します。

それ以外の場合、特定の値のリストを使用するには、「Is strict list」オプションを選択し、「Restricted value」のテキスト・ペインに特定のアイテムを入力します。

4. 「**OK**」をクリックします。

「Edit Restricted List」画面が閉じられ、厳密なリスト・オプションを使用する場合は、「Add Rule Field <name>」画面の制限付きリストのテキスト・ペインにアイテムが表示されます。

メタデータ・フィールドの属性の編集

メタデータ・フィールドの属性を編集するには、次のようにします。

1. 「[Add Rule "name"](#)」 / 「[Edit Rule "name"](#)」画面：「**General**」タブ（8-41 ページ）を開きます。8-29 ページの「[ルールへのメタデータ・フィールドの追加](#)」の手順の手順 1 を参照してください。
2. 「Fields」タブを開き、編集する属性のメタデータ・フィールドを選択します。
3. 「**Edit**」をクリックします。

「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）が表示されます。

4. 編集する属性の対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
 - デフォルト値属性を編集する場合は、「[Edit Default Value](#)」：「**Conditions**」タブ（8-65 ページ）が表示されます。
 - 導出値属性を編集する場合は、「[Edit Derived Value](#)」：「**Conditions**」タブ（8-70 ページ）が表示されます。
 - 制限付きリスト属性を編集する場合は、「[Edit Restricted List](#)」画面（8-72 ページ）が表示されます。

5. デフォルト値または導出値のいずれかの場合、「Conditions」テキスト・ペインで編集する値を選択します。
 - a. 希望する新しい「Field」または「Operator」のフィールド（あるいはその両方）の値を選択します。
 - b. 句の削除や再定義を行わずに、上の「Value」フィールドの値を編集するには、次のようにします。
 1. 「Clause」ペインで句を選択します。
 2. 上の「Value」フィールドで値を編集します。
 3. 「Update」をクリックします。
新規の値が更新され、「Clause」ペインに表示されます。
 - c. 「Compute」をクリックします。
 - d. 「OK」をクリックします。
「Edit Default Value」または「Derived Value」画面が閉じられ、「Edit Rule Field <name>」画面のデフォルトまたは導出値のテキスト・ペインに変更した値が表示されます。
4. 制限付きリスト属性の場合は、次のようにします。
 - a. 「Edit Restricted List」画面で希望のリスト・オプションを選択し、必要に応じてテキスト・ペインを編集します。
 - b. 「OK」をクリックします。
「Edit Restricted List」画面が閉じられ、「Edit Rule Field <name>」画面の制限付きリストのテキスト・ペインに変更された制限付きリストの情報が表示されます。
5. 「OK」をクリックします。
「Edit Rule Field <name>」画面が閉じられます。

必須フィールドの表示の設定

2つの構成変数により、「Check In」ページでの必須メタデータ・フィールドの表示を制御します。これらの変数は、<install_dir>/config/config.cfg ファイルで手動によって設定する必要があります。詳細は、Content Server の『Idoc スクリプト・リファレンス・ガイド』を参照してください。

- ❖ 必須フィールドに赤い文字を使用するには、次の構成変数と値を使用します。

`StyleForRequiredFields=requiredField`

- ❖ 必須フィールドに任意の記号でマークを付けるには、次の構成変数と値を使用します。

`NotationForRequiredFields=*`

この例では、必須フィールドにマークを付けるためにアスタリスクを使用しています。

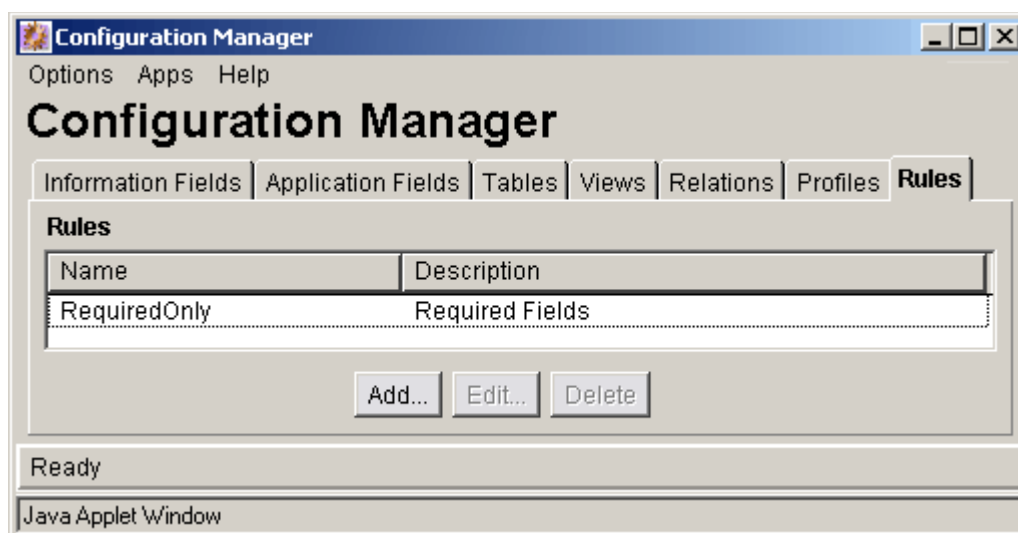
プロファイル・ルールインタフェース画面

プロファイル・ルールの作成に使用する画面は次のとおりです。

- ❖ 「Configuration Manager」：「Rules」タブ (8-40 ページ)
- ❖ 「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ (8-41 ページ)
- ❖ 「Edit Group Header」画面 (8-44 ページ)
- ❖ 「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ (8-46 ページ)
- ❖ 「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面 (8-47 ページ)
- ❖ 「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「General」タブ (8-48 ページ)
- ❖ 「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「Clauses」タブ (8-52 ページ)
- ❖ 「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ (8-54 ページ)
- ❖ 「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「Fields」タブ (8-57 ページ)
- ❖ 「Add Rule Field」画面 (8-59 ページ)
- ❖ 「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面 (8-61 ページ)
- ❖ 「Edit Default Value」：「Conditions」タブ (8-65 ページ)
- ❖ 「Edit Default Value」：「Add Condition」画面 (8-68 ページ)
- ❖ 「Edit Default Value」：「Select Field」画面 (8-69 ページ)
- ❖ 「Edit Default Value」：「Custom」タブ (8-70 ページ)

- ❖ 「Edit Derived Value」：「Conditions」タブ（8-70 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Add Condition」画面（8-70 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Select Field」画面（8-71 ページ）
- ❖ 「Edit Derived Value」：「Custom」タブ（8-71 ページ）
- ❖ 「Edit Restricted List」画面（8-72 ページ）

「Configuration Manager」：「Rules」タブ



「Configuration Manager」の「Rules」タブは、コンテンツ・プロフィールで使用するルールを作成、定義、編集および削除するときに使用します。アクティブ化条件は定義して各ルールに含めることができ、情報フィールド（メタデータ）の表示と値もカスタマイズできます。

機能	説明
「Name」列	作成された既存のルール名が表示されます。
「Description」列	各ルールの説明が表示されます。ルールの説明は、「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）および「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「Fields」タブ（8-57 ページ）を使用してルールを定義するときに表示されます。
「Add」 / 「Edit」ボタン	「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	選択したルールを削除できます。

「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ

「Add Rule」 / 「Edit Rule」画面の「General」タブは、グローバル・ルールの指定、オプション・ヘッダー付きのルール・グループの定義、およびアクティブ化条件の定義を行うときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Rules](#)」タブ（8-40 ページ）で「Add」または「Edit」をクリックします。

機能	説明
「Name」フィールド	定義または編集中のルール名。既存ルールの名前は編集できません。
「Description」フィールド	定義または編集中のルールの説明。既存ルールの説明は編集できます。
「Is global rule with priority」チェック・ボックス / 優先度フィールド	<p>チェック・ボックス：</p> <p>選択：ルールをグローバル・ルールとして有効にします。グローバル・ルールおよびそのプロパティの詳細は、8-6 ページの「プロフィール・ルール」を参照してください。</p> <p>選択解除：ルールをグローバル・ルールとして無効にします。</p> <p>優先度フィールド：</p> <p>グローバル・ルールの優先番号を表示し、ルールが評価される順序を決定します。優先番号が低いと、優先順位が低くなるということです。優先度の低いルールは、より優先度の高いルールの前に実行されます。その結果、優先度の低いルールによって加えられた変更を優先度の高いルールは無視できます。</p>
「Is group」チェック・ボックス	<p>選択：定義または編集中のルールに属するメタデータ・フィールドのグループへの再配置を有効にします。グループおよびその解決ルールの詳細は、8-15 ページの「メタデータ・フィールドのグループ化でのルールの使用方法」を参照してください。</p> <p>選択解除：定義または編集中のルールに対するカスタム・メタデータ・フィールドのグループ化を無効にします。</p>
「Has group header」チェック・ボックス / 「Edit」ボタン	<p>チェック・ボックス：</p> <p>選択：定義または編集中のルールに属するメタデータ・フィールドのグループへのラベル付けを有効にします。</p> <p>選択解除：グループのラベル付けを無効にします。</p> <p>「Edit」ボタン：</p> <p>「Edit Group Header」画面（8-44 ページ）を表示します。</p>

機能	説明
「Use rule activation condition」チェック・ボックス	<p>選択: 特定の条件を満たした場合に適用または抑止するルールに基づいてプロフィールが変わるようにします。定義または編集するルールのアクティブ化条件を設定します。アクティブ化条件とその設定定義の詳細は、8-9 ページの「ルールでのアクティブ化条件」を参照してください。</p> <p>選択解除: 定義または編集集中のルールのアクティブ化条件の使用を無効にします。</p>
「Edit」ボタン	<p>「Edit Activation Condition」: 「Conditions」タブ (8-46 ページ) を表示します。</p>
アクティブ化条件のテキスト・ペイン	<p>定義または編集集中のルールに作成されたアクティブ化条件ごとに、計算された Idoc スクリプトが表示されます。スクリプト文は、条件が追加され、そのプロパティが定義された後、自動的に生成されます。8-48 ページの「「Edit Activation Condition」: 「Conditions」タブ / 「General」タブ」と 8-52 ページの「「Edit Activation Condition」: 「Conditions」タブ / 「Clauses」タブ」を参照してください。</p> <p>「Edit Activation Condition」: 「Custom」タブ (8-54 ページ) のカスタム・テキスト・ペインに入力されたカスタマイズ済テキストも表示されます。</p>

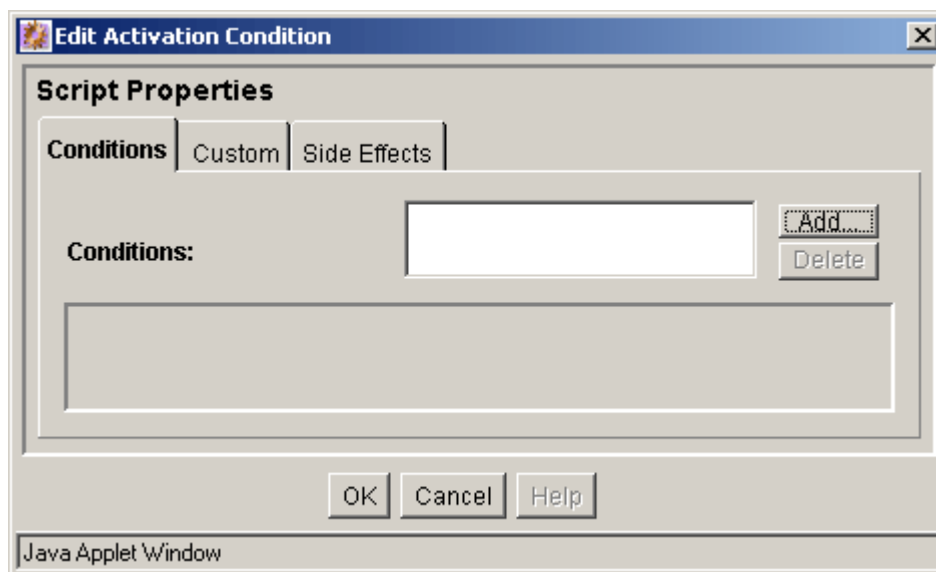
「Edit Group Header」画面

「Edit Group Header」画面は、定義または編集するルールに属するメタデータ・フィールドのグループに、ヘッダーを追加または編集するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Add Rule "name"」](#) / [「Edit Rule "name"」画面](#)：「**General**」タブ (8-41 ページ) で「**Is group**」および「**Has group header**」を選択し、対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。

機能	説明
Hide Group by default	<p>選択：グループ・メタデータ・フィールドを非表示にし、ページがロードされるときに、表示リンクを持つグループ・ヘッダーのみを表示します。表示リンクをクリックすると、メタデータ・フィールドが表示されます。</p> <p>選択解除（デフォルト）：ページがロードされるときに、グループ・メタデータ・フィールドと非表示リンク付きのグループ・ヘッダーを表示します。非表示リンクをクリックすると、メタデータ・フィールドが非表示になります。</p>

機能	説明
Start Include	<p>Standard separator: ヘッダーの上に標準の水平罫線を配置して、ページ上でグループを区別します。</p> <p>Start HTML table: グループ・ヘッダーの上で標準の表の枠線を開始します。End HTML 表と一緒に使用するとき、グループは、行ごとに標準の枠線が入り、ヘッダーの上から始まり、グループ化された最後のメタデータ・フィールドの後で終わる HTML 表に表示されます。</p> <p>表示なし (デフォルト) : グループ・ヘッダー以外に、ページ上でグループ化されたフィールドを分けるための区別は行われません。</p>
End Include	<p>Standard separator: 最後のメタデータ・フィールドの下に標準の水平罫線を配置して、ページ上でグループを区別します。</p> <p>End HTML table: グループ化された最後のメタデータ・フィールドの下で標準の表の枠線を終了します。Begin HTML 表と一緒に使用するとき、グループは、行ごとに標準の枠線が入り、ヘッダーの上から始まり、グループ化された最後のメタデータ・フィールドの後で終わる HTML 表に表示されます。</p> <p>表示なし (デフォルト) : グループ・ヘッダー以外に、ページ上でグループ化されたフィールドを分けるための区別は行われません。</p>
<div data-bbox="391 1276 451 1333"></div> <p>注意：「Start Include」および「End Include」ドロップダウン・リストに表示される標準の組込みオプションは、std_resources.htm ファイルの DpDisplayIncludes 表で定義されています。その他の組込みオプションを追加するには、新しい組込みを定義し、それらを DpDisplayIncludes 表にマージして、カスタム・コンポーネントを作成する必要があります。カスタム・コンポーネントの作成の詳細は、『Working with Content Server Components』を参照してください。</p>	
ヘッダーのテキスト・ペイン	定義または編集集中のルールに属するメタデータ・フィールドのグループに関連付けられたヘッダーを表示します。

「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ



「Edit Activation Condition」画面は、満たされたときに関連プロフィールの動作に影響を与えるルールの特定の条件を定義するときに使用します。

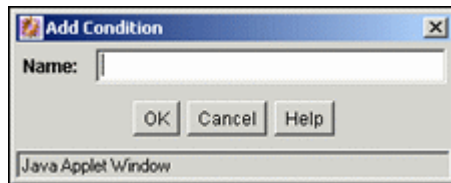
「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。「Conditions」タブがルールの条件を定義するために使用される場合、「Custom」タブは現行ルールに対して無効となり、またその逆も同様です。8-54 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ](#)」を参照してください。

「Edit Activation Condition」画面の「Conditions」タブは、アクティブ化条件を追加し、最初の条件が追加された後に表示される「General」タブと「Clauses」タブを使用してそれらを定義するときに使用します。8-48 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「General」タブ](#)」と 8-52 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「Clauses」タブ](#)」を参照してください。

「Edit Activation Condition」画面にアクセスするには、[「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ](#)（8-41 ページ）で「Use rule activation condition」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Conditions」リスト・ペイン	定義または編集中のルールに作成されたアクティブ化条件の名前が表示されます。
「Add」ボタン	「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面（8-47 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	選択したアクティブ化条件を削除し、定義または編集中のルールから除外します。

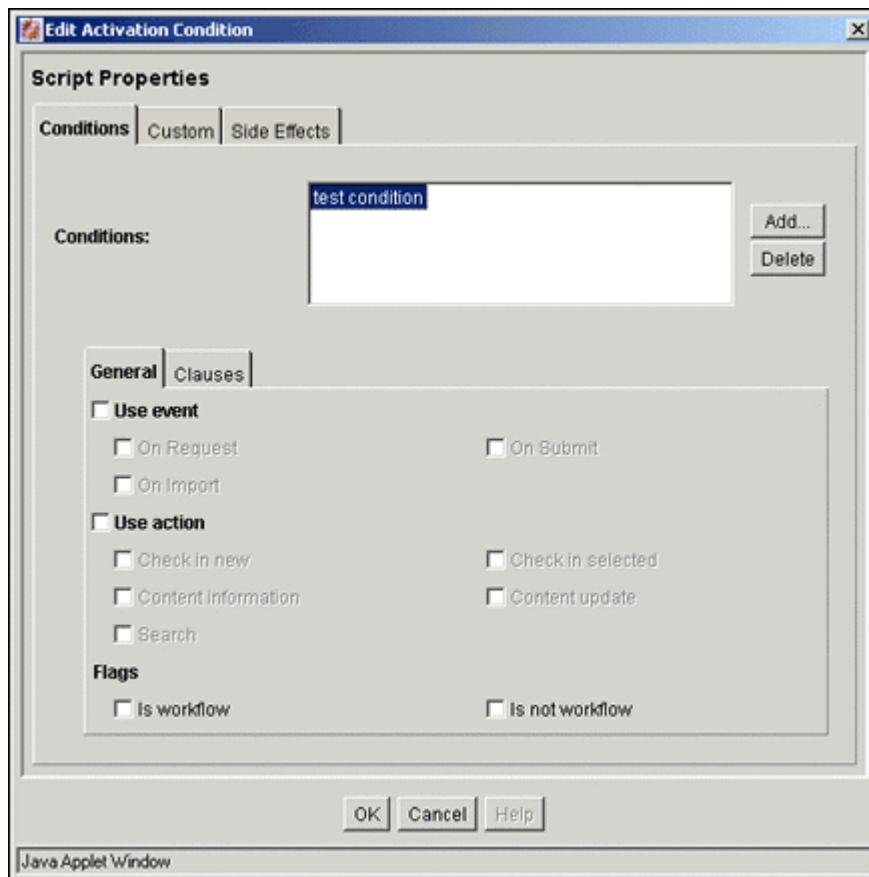
「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面



「Add Condition」画面は、現行ルールに追加する新規のアクティブ化条件の名前を指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ（8-46 ページ）で「Add」をクリックします。

機能	説明
「Name」フィールド	作成されるアクティブ化条件の名前が表示されます。

「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「General」タブ



「General」タブ（「Condition」タブ上）は、定義または編集集中のルールのアクティブ化条件をトリガーするイベント、アクションまたは状態を指定するときに使用します。「General」タブと「Clauses」タブは、[「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面](#)（8-47 ページ）を使用してアクティブ化条件を追加すると表示されます。

機能	説明
「Use event」 チェック・ ボックス	<p>選択すると、システムによって検出されたイベント認識に基づくアクティブ化条件を使用して、プロフィールまたはルール（あるいはその両方）が異なる動作をするようになります。イベントに応じて、一部のプロフィール・ルールはアクティブ化しますが、その他はアクティブ化しません。</p> <p>選択：イベントベースのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にし、「On Request」、「On Import」および「On Submit」のチェック・ボックス・オプションをアクティブにします。</p> <p>選択解除：イベントドリブンのプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「On Request」 チェック・ ボックス	<p>選択：リクエスト・イベントによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除：このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「On Import」 チェック・ ボックス	<p>選択：インポート・イベントによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除：このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「On Submit」 チェック・ ボックス	<p>選択：送信イベントによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除：このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>

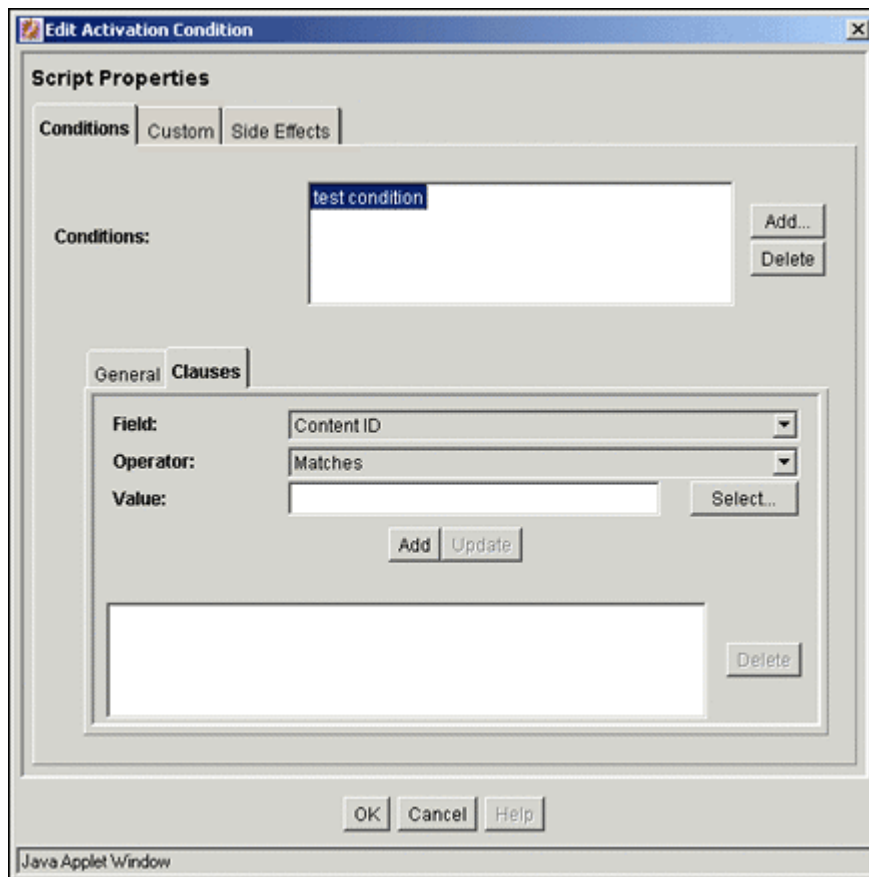
機能	説明
「Use action」 チェック・ ボックス	<p>選択すると、システムによって検出されたユーザー・アクションに基づくアクティブ化条件を使用して、プロフィールまたはルール（あるいはその両方）が異なる動作をするようになります。アクションに応じて、一部のプロフィール・ルールはアクティブ化しますが、その他はアクティブ化しません。</p> <p>選択: アクションベースのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にし、「Check in new」、「Content Information」、「Search」、「Check in selected」および「Content update」のチェック・ボックス・オプションをアクティブにします。</p> <p>選択解除: アクションドリブンのプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「Check in new」 チェック・ ボックス	<p>選択: 新規のコントリビューション・アクションによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除: このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「Content Information」 チェック・ ボックス	<p>選択: 情報ページ表示アクションによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除: このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「Search」 チェック・ ボックス	<p>選択: 検索アクションによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除: このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「Check in selected」 チェック・ ボックス	<p>選択: コンテンツ・アイテム・リビジョン・アクションによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除: このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>

機能	説明
「Content update」 チェック・ボックス	<p>選択: リビジョン・アクションによって定義されたアクティブ化条件に依存するプロフィールまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を有効にします。</p> <p>選択解除: このタイプのプロファイルまたはルール（あるいはその両方）の動作変更を無効にします。</p>
「Is in Workflow」 チェック・ボックス	<p>選択すると、ドキュメントのワークフロー状態に基づくアクティブ化条件を使用して、プロフィールまたはルール（あるいはその両方）が異なる動作をするようになります。状態に応じて、一部のプロフィール・ルールはアクティブ化しますが、その他はアクティブ化しません。ドキュメントがワークフロー内にある場合、異なる「Content Information」ページを表示できます。</p> <p>選択: このアクティブ化条件の in workflow フラグを有効にします。</p> <p>選択解除: このアクティブ化条件の in workflow フラグを無効にします。</p>
「Is not workflow」 チェック・ボックス	<p>選択: このアクティブ化条件の not in workflow フラグを有効にします。</p> <p>選択解除: このアクティブ化条件の not in workflow フラグを無効にします。</p>



注意: どちらのワークフロー・チェック・ボックスも選択されていない場合、ワークフローの状態はアクティブ化の基準としては無視されます。

「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「Clauses」タブ

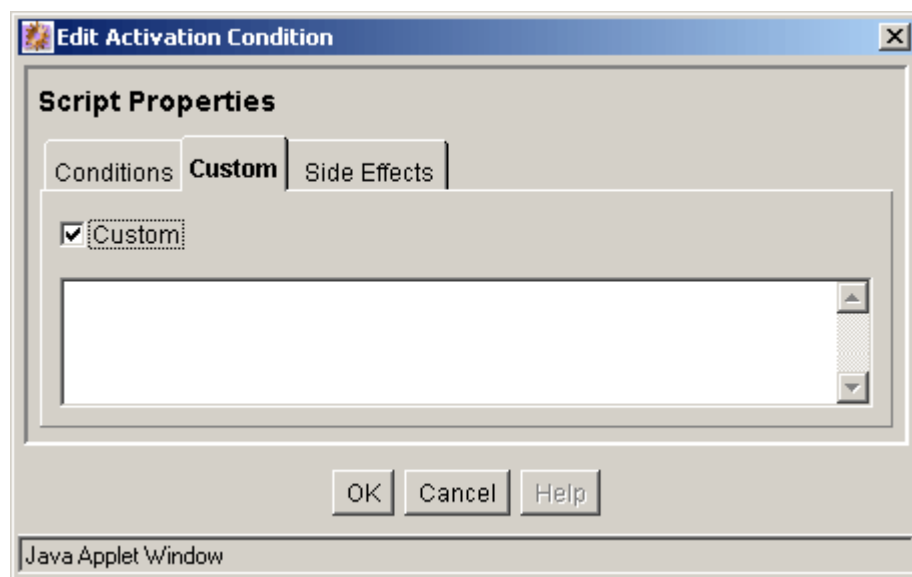


「Clauses」タブ（「Condition」タブ上）は、定義または編集集中のルールのアクティブ化条件のカスタム Idoc スクリプト句を生成するときに使用します。「General」タブと「Clauses」タブは、[「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面](#)（8-47 ページ）を使用してアクティブ化条件を追加すると表示されます。「Clauses」タブは、実質的に Idoc スクリプト・ウィザードです。これは主として Idop スクリプト文の処理を自動化するために使用します。

機能	説明
「Field」リスト	メタデータ・オプションの選択肢リストが表示されます。
「Operator」リスト	<p>演算子は、メタデータ・フィールドの検索方法を指定します。選択したフィールドによって、使用可能な値のセットが決まります。「Release Date」と「Expiration Date」を除くすべてのフィールドで、次の演算子を使用できます。</p> <p>Matches: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストが「Value」で指定したメタデータ値と一致します。</p> <p>Contains Word: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストに「Value」のメタデータ値が含まれます。</p> <p>Begins With: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストが「Value」のメタデータ値で始まります。</p> <p>「Release Date」演算子と「Expiration Date」演算子：</p> <p>Is Date Before: 指定したメタデータ・フィールドの日付は「Value」の日付の前になります。</p> <p>Is Date After: 指定したメタデータ・フィールドの日付は「Value」の日付の後になります。</p>
「Value」フィールド / 「Select」ボタン	<p>「Value」フィールド：</p> <p>「Field」で選択したメタデータ・フィールドに応じて、「Value」フィールドは次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> データを入力するための編集可能なフィールド 適切なオプションの選択リスト 対応する「Select」ボタンのある編集可能なフィールド <p>「Select」ボタン：</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Field」の値が「Content ID」の場合、「Select」ボタンをクリックすると「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ（8-54 ページ）が表示されます。 「Field」のメタデータ・フィールドが「Author」の場合、「Select」ボタンをクリックすると「User View」画面（1-14 ページ）が表示されます。
「Add」ボタン	完成した句（Field+Operator+Value）を「Clause」ペインに追加します。

機能	説明
「Update」ボタン	句を削除または再定義することなく、完成した句を編集するときに使用します。「Clause」ペインで句を選択し、「Value」フィールドを編集して、「Update」をクリックします。修正した句は、「Clauses」ペインに表示されます。
「Clauses」ペイン	現在定義または編集中のアクティブ化条件の既存の句が表示されます。
「Delete」ボタン	選択した句を削除できます。

「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ



「Edit Activation Condition」画面は、満たされたときに関連プロファイルの動作に影響を与えるルールの特定の条件を定義するときに使用します。「Custom」タブと「Conditions」タブは、相互に排他的です。「Custom」タブがルールの条件を定義するために使用される場合、「Conditions」タブは現行ルールに対して無効となり、またその逆も同様です。[「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ](#)（8-46 ページ）を参照してください。

「Edit Activation Condition」画面の「Custom」タブは、カスタム Idoc スクリプト文を手動で作成するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Add Rule "name"」](#) / [「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ](#)（8-41 ページ）で「Use rule activation condition」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Custom」 チェック・ ボックス	<p>選択: カスタム・テキスト・ペインをアクティブにし、カスタム Idoc スクリプト文を作成できるようになります。「Custom」タブを使用すると、「Condition」タブは無効になります。</p> <p>選択解除: カスタム・テキスト・ペインが無効になり、「Conditions」タブが有効になります。</p>
カスタム・ テキスト・ ペイン	<p>「Custom」チェック・ボックスを選択したときに、カスタマイズしたテキストを入力するために使用します。情報は、「Add Rule "name" / Edit Rule "name" 画面 : 「General」タブ (8-41 ページ) のアクティブ化条件のテキスト・ペインに表示されます。</p>

「Edit Activation Condition」 : 「Side Effects」タブ

The screenshot shows a Java Applet Window titled "Edit Activation Condition". It has three tabs: "Conditions", "Custom", and "Side Effects", with "Side Effects" currently selected. The main area contains a text box with the following text: "The side effect script is only evaluated when the activation condition evaluates to true. In general, side effects are name/value pairs that are pushed into the local data using idoc script. Once in the local data these values become available to subsequent rules can be used to control their activation." Below this text are two input fields labeled "Key:" and "Value:". To the right of the "Value:" field is an "Add" button. At the bottom of the dialog are "OK", "Cancel", and "Help" buttons. The status bar at the very bottom says "Java Applet Window".

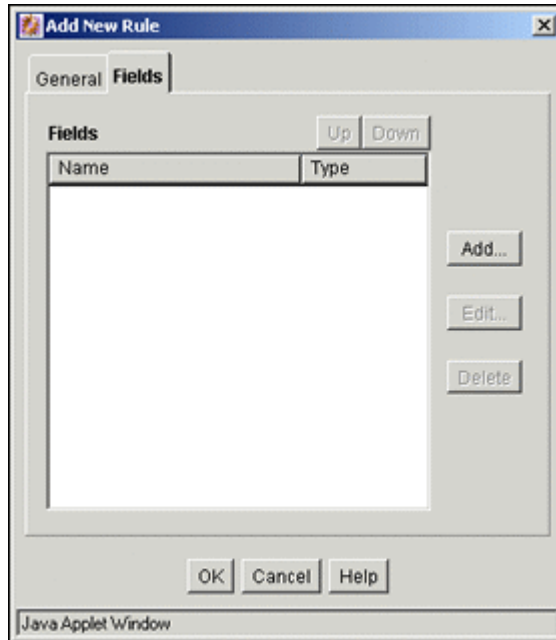
「Add Activation Conditions」 / 「Edit Activation Conditions」画面の「Side Effects」タブでは、次の2つのことができます。

- ❖ アクティブ化条件が当てはまる場合、Idoc スクリプトを使用するローカル・データに送信される名前: 値ペアを Idoc スクリプト変数として簡単に追加します。
- ❖ アクティブ化条件が当てはまる場合のみ評価されるカスタム Idoc スクリプトをルールに追加します。

つまり、副作用は Idoc スクリプトで、ルールがアクティブになるとすぐに評価されます。like if、elseif および else 文のような論理文も含めることができ、任意の Idoc スクリプト関数を実行できます。たとえば、他のルールのアクティブ化を制御できるルールを設定できます。Idoc スクリプトでのスクリプト記述の詳細は、『Idoc スクリプト・リファレンス・ガイド』を参照してください。

機能	説明
Key	Idoc スクリプト変数として使用する名前。
Value	Idoc スクリプト変数に相当するリテラル文字列。
Add	入力したキーと値を Idoc スクリプトに変換し、Idoc スクリプト・ペインに表示します。
Idoc スクリプト・ペイン	入力したキーと値の Idoc スクリプトが表示され、Idoc スクリプトを直接入力できます。ここに入力した Idoc スクリプト関数と論理は、アクティブ化条件が満たされた後で実行されます。

「Add Rule "*name*"」 / 「Edit Rule "*name*"」 画面： 「Fields」 タブ

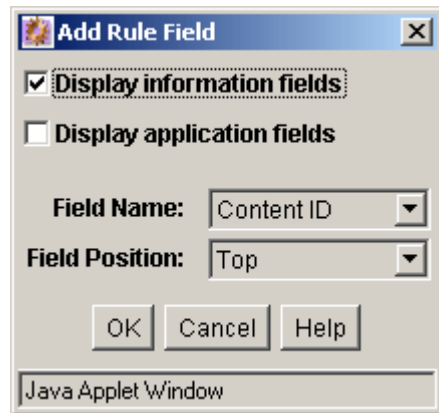


「Add Rule」 / 「Edit Rule」画面の「Fields」タブは、定義または編集集中のルールで使用する特定のメタデータ・フィールドを選択および追加するときに使用します。各メタデータ・フィールドには、ルール内のフィールドのリストにおける一般的な位置や表示タイプなど、特定の属性が割り当てられます。各メタデータ・フィールドには、必須メッセージ、デフォルト値、導出機能または制限付きリストなど、オプション属性を割り当てることもできます。


ルールに属するメタデータ・フィールドの詳細は、8-8 ページの「[ルール内のメタデータ・フィールドと属性](#)」を参照してください。ルール内のメタデータ・フィールドへの属性の割当ての詳細は、8-59 ページの「[「Add Rule Field」画面](#)」および8-61 ページの「[「Add Rule Field "*name*"」 / 「Edit Rule Field "*name*"」画面](#)」を参照してください。「Fields」タブにアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Rules](#)」タブ（8-40 ページ）で「Add」または「Edit」をクリックし、「Fields」タブをクリックします。

機能	説明
「Up」ボタン	リスト内でメタデータ・フィールドの特定の配置順序を調整します。リスト内の各メタデータ・フィールドの位置は、評価プロセスにおけるその優先度に関連します。リスト内の一般的な位置（ top 、 middle または bottom ）は、フィールドがルールに最初に追加されるときに設定されます。8-59 ページの「 Add Rule Field 画面」を参照してください。ただし、「Up」ボタンで、メタデータ・フィールドをさらに上の正確な位置に移動することにより、位置を調整します。
「Down」ボタン	リスト内でメタデータ・フィールドの特定の配置順序を調整します。リスト内の各メタデータ・フィールドの位置は、評価プロセスにおけるその優先度に関連します。リスト内の一般的な位置（ top 、 middle または bottom ）は、フィールドがルールに最初に追加されるときに設定されます。8-91 ページの「 Add Rule 画面」を参照してください。ただし、「Down」ボタンで、メタデータ・フィールドをさらに下の正確な位置に移動することにより、位置を調整します。
「Name」列	作成または編集中のルールに属するメタデータ・フィールド名が表示されます。
「Type」列	各メタデータ・フィールドに割り当てられた表示属性の種類が表示されます。
「Add」ボタン	Add Rule Field 画面（8-59 ページ）を表示します。
「Edit」ボタン	編集中のメタデータ・フィールドの以前に定義した属性値が入った Add Rule Field "name" / Edit Rule Field "name" 画面（8-61 ページ）画面を表示します。
「Delete」ボタン	選択したメタデータ・フィールドを削除し、このルールから除外できます。

「Add Rule Field」画面



「Add Rule Field」画面は、作成または編集中のルールに1つ以上のメタデータ・フィールドを含めるときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Add Rule "name"」](#) / [「Edit Rule "name"」](#) 画面：「Fields」タブ（8-57 ページ）で「Add」をクリックします。

機能	説明
Display information fields	<p>選択（デフォルト）：「Field name」ドロップダウン・リストにメタデータ・フィールドを表示し、標準のチェックイン・ページや検索ページで表示できるようにします。</p> <p>選択解除：「Field name」ドロップダウン・リストでメタデータ・フィールドを非表示にします。</p>
Display application fields	<p>選択：「Field name」ドロップダウン・リストにカスタム・アプリケーション・フィールドを表示し、標準のチェックイン・ページや検索ページで表示できるようにします。</p> <p>選択解除（デフォルト）：「Field name」ドロップダウン・リストでカスタム・アプリケーション・フィールドを非表示にします。</p> <p> 重要：ルールの使用により表示用のアプリケーション・フィールドを選択することで、そのフィールドを表示するために通常使用されるアプリケーションに対して定義されているとおりに、フィールドの動作を変更します。詳細は、4-2 ページの「アプリケーション・フィールド」を参照してください。</p>
「Field Name」リスト	定義または編集中のルールに追加できる使用可能なメタデータ・フィールドの選択肢リストが表示されます。

機能	説明
「Field Position」 リスト	<p>追加するメタデータ・フィールドごとに位置属性が必要です。選択したオプションにより、「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「Fields」タブ（8-57 ページ）のリストでのメタデータ・フィールドの一般的な配置順序が調整されます。リスト内の各メタデータ・フィールドの位置は、評価プロセスにおけるその優先度に関連します。配置は、「Up」ボタン（8-58 ページ）または「Down」ボタン（8-58 ページ）のいずれかを使用して、さらに調整できます。</p> <p>Top: メタデータ・フィールドを相対的に高い位置に移動します。</p> <p>Middle: メタデータ・フィールドを相対的に中央の位置に移動します。</p> <p>Bottom: メタデータ・フィールドを相対的に低い位置に移動します。</p>


「Add Rule Field "*name*"」 / 「Edit Rule Field "*name*"」画面

The screenshot shows a Java Applet Window titled "Add Rule Field dDocName". The window contains the following elements:

- Type:** A dropdown menu currently set to "Edit".
- Required Message:** A text input field.
- Use custom label:** An unchecked checkbox with an associated text input field.
- Use custom include:** An unchecked checkbox with an associated dropdown menu.
- Exclude field from the group count:** An unchecked checkbox.
- Use default value:** An unchecked checkbox, followed by a text input field with up/down arrows and an "Edit..." button.
- Is derived field:** An unchecked checkbox, followed by a text input field with up/down arrows and an "Edit..." button.
- Has restricted list:** An unchecked checkbox, followed by a text input field with up/down arrows and an "Edit..." button.
- Buttons:** "OK", "Cancel", and "Help" buttons at the bottom.
- Footer:** "Java Applet Window".

「Add Rule Field "*name*"」 / 「Edit Rule Field "*name*"」画面は、作成または定義中のルールに属するメタデータ・フィールドに、必須およびオプションの属性を追加および定義するときに使用します。この画面は、[「Add Rule Field」画面](#)（8-59 ページ）を使用してメタデータ・フィールドを追加した後に表示されます。[「Add Rule "*name*"」 / 「Edit Rule "*name*"」画面：「Fields」タブ](#)（8-57 ページ）のリストから選択した既存のメタデータ・フィールドを編集している場合、この画面は「Edit」ボタンをクリックした後に表示されます。

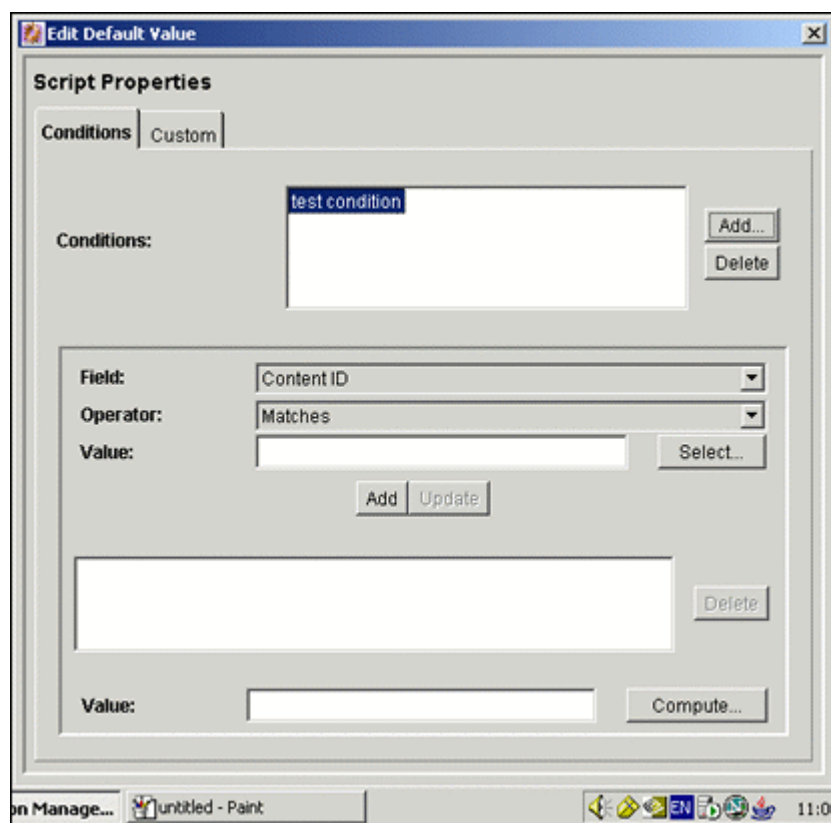
機能	説明
「Type」リスト	<p>各メタデータ・フィールドには、表示属性を割り当てる必要があります。選択したオプションにより、「Check In」ページと「Search」ページでメタデータ・フィールドがどのように表示されるかが決まります。</p> <p>Edit: 選択すると、メタデータ・フィールドは、デフォルト値が指定されていても編集できます。</p> <p>Label: 選択すると、メタデータ・フィールドは読取り専用です（固定ですが表示されます）。</p> <p>Hidden: 選択すると、フィールドは表示されません。ただし、ユーザーがコンテンツ・アイテムを送信するとき、このメタデータ・フィールドの値は一緒に送信され、ソース・ページに残ります。</p> <p>Excluded: 選択すると、フィールドは表示されません。非表示のメタデータ・フィールドと異なり、除外された値はソース・ページに残りません。</p> <p>Required: 選択すると、メタデータ・フィールドは必須になります。メタデータ・フィールド名の書式を区別して設定するために、2つの構成変数を設定できます。</p>
「Required Message」フィールド	<p>必須メッセージ・フィールド属性は、Required タイプ以外すべてのタイプ属性ではオプションです。メタデータ・フィールドが要求どおりに指定されている場合、必須メッセージを指定する必要があります。</p>
Use custom label	<p>このフィールドで、ルールに含めるフィールドに対して Content Server インタフェースで表示されるラベルを変更します。このフィールドにより、異なるコンテンツ・プロフィールで、メタデータにユーザー固有の言葉でラベルを付け、表示することができます。</p>

機能	説明
Use custom include	<p>このオプションにより、ページ上でのフィールドの移動を容易にする方法として、ページの表示にカスタム組込みを挿入する方法を指定します。これは、標準フィールドを簡単に再配置する方法を提供します。たとえば、プレースホルダ・フィールドとタイトル・フィールドを含むグループを作成すると、ページ上でタイトル・フィールドは他の標準フィールドの下に移動します。カスタム組込みを使用すれば、プレースホルダ・フィールドでその表示方法や、表示するかどうかを制御できます。</p> <p>選択: カスタム組込みを使用することで、ページ表示でフィールドを置換できます。指定できる組込みは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Standard Separator: ページ上の本来フィールドが配置される場所に標準の水平罫線を配置します。 • Display Nothing: ページが表示されるときにフィールドは非表示になります。 <p>選択解除 (デフォルト): フィールドは表示されます。</p>
	<p>注意: 「Start Include」および「End Include」ドロップダウン・リストに表示される標準の組込みオプションは、std_resources.htm ファイルの DpDisplayIncludes 表で定義されています。その他の組込みオプションを追加するには、新しい組込みを定義し、それらを DpDisplayIncludes 表にマージして、カスタム・コンポーネントを作成する必要があります。カスタム・コンポーネントの作成の詳細は、『Working with Content Server Components』を参照してください。</p>
Exclude field from the group count	<p>グループ内のフィールド数が 1 以上の場合、グループ・ヘッダーが表示されます。たとえば、提示用に使用される プレースホルダ・フィールドは、グループ内で表示される唯一のフィールドになる場合があります。このチェック・ボックスを有効にすると、プレースホルダ・フィールドの提示プロパティを維持しながら、グループ・ヘッダーが表示されないようにすることができます。</p> <p>選択: フィールドがグループの一部としてカウントされないようにします。</p> <p>選択解除 (デフォルト): グループ内のフィールド数をカウントするときにそのフィールドを含めます。</p>

機能	説明
「Use default value」 チェック・ボックス	<p>デフォルト値フィールド属性はオプションです。この属性により、デフォルト値は「Content Check In Form」ページまたは「Search」ページで表示されます。デフォルト値は、On Request イベントの用に計算されます。このフィールド属性は、Idoc スクリプト対応です。選択したメタデータ・フィールドがスキーマ・ビューと関連付けられている場合、その他のスキーマ値も値の作成に使用できます。これは、「Edit Default Value」:「Select Field」画面 (8-69 ページ) を使用して行います。スキーマ・ビューの詳細は、7-18 ページの「Configuration Manager」:「Views」タブを参照してください。</p> <p>選択: 対応する「Edit」ボタンがアクティブになり、メタデータ・フィールドでデフォルト値を使用できます。</p> <p>選択解除 (デフォルト): デフォルト値フィールド属性を無効にします。</p>
デフォルト値テキスト・ペイン / 「Edit」ボタン	<p>デフォルト値フィールド属性用に計算された Idoc スクリプトが表示されます。スクリプト文は、デフォルト値属性が追加され、そのプロパティが定義された後、自動的に生成されます。8-65 ページの「Edit Default Value」:「Conditions」タブ および 8-70 ページの「Edit Default Value」:「Custom」タブを参照してください。</p>
「Is derived field」 チェック・ボックス	<p>導出値フィールド属性はオプションです。この属性により、メタデータ・フィールドは、更新またはチェックインで指定した値に設定されるようにします。On Submit イベントおよび On Import イベント用に導出値が計算されます。このフィールド属性は、Idoc スクリプト対応です。また、選択したメタデータ・フィールドがスキーマ・ビューと関連付けられている場合、その他のスキーマ値も値の作成に使用できます。これは、「Edit Derived Value」:「Select Field」画面 (8-71 ページ) を使用して行います。スキーマ・ビューの詳細は、7-18 ページの「Configuration Manager」:「Views」タブを参照してください。</p> <p>選択: 対応する「Edit」ボタンがアクティブになり、メタデータ・フィールドで導出値を使用できます。</p> <p>選択解除: 導出値フィールド属性を無効にします。</p>
導出フィールド・テキスト・ペイン / 「Edit」ボタン	<p>導出値フィールド属性用に計算された Idoc スクリプトが表示されます。スクリプト文は、導出値属性が追加され、そのプロパティが定義された後、自動的に生成されます。8-70 ページの「Edit Derived Value」:「Conditions」タブ と 8-71 ページの「Edit Derived Value」:「Custom」タブを参照してください。</p>

機能	説明
「Has restricted list」 チェック・ボックス	<p>制限付きリスト・フィールド属性はオプションです。提示時に、この属性により、オプション・リストのメタデータ・フィールドを、特定の値リストかフィルタ処理された値リストのいずれかに制限できます。</p> <p>選択: 対応する「Edit」ボタンがアクティブになり、メタデータ・フィールドで制限付きリストを使用できます。</p> <p>選択解除: 制限付きリスト・フィールド属性を無効にします。</p>
制限付きリスト・テキスト・ペイン / 「Edit」ボタン	<p>制限付きリスト・フィールド属性用に計算された Idoc スクリプトが表示されます。スクリプト文は、制限付きリスト属性が追加され、そのプロパティが定義された後、自動的に生成されます。8-72 ページの「「Edit Restricted List」画面」を参照してください。</p>

「Edit Default Value」：「Conditions」タブ



「Edit Default Value」画面は、デフォルト値フィールド属性を追加および定義するときに使用します。「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。

「Conditions」タブがデフォルト値フィールド属性を定義するために使用される場合、「Custom」タブが無効になり、またその逆も同様です。8-70 ページの「[「Edit Default Value」：「Custom」タブ](#)」を参照してください。「Edit Default Value」画面の「Conditions」タブが最初に表示されるとき、「Conditions」リスト・ペインのみが表示されます。

「Edit Default Value」：「[Add Condition](#)」画面（8-68 ページ）を使用して新規デフォルト値を追加した後、下の式ペインが表示されます。既存のデフォルト値を選択すると、編集に使用可能な値の入ったフィールドとともに、下の式ペインも表示されます。下の式ペイン内のフィールドは、Idoc スクリプト対応のデフォルト値フィールド属性を作成および定義するときに使用します。

デフォルト値フィールド属性を定義するために「Edit Default Value」画面にアクセスするには、「[Add Rule Field "name"](#)」 / 「[Edit Rule Field "name"](#)」画面（8-61 ページ）で「Use default value」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Conditions」テキスト・ペイン	メタデータ・フィールド属性値用に作成した条件の名前が表示されます。
「Add」ボタン	「Edit Default Value」：「 Add Condition 」画面（8-68 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	メタデータ・フィールド属性値用に選択した条件を削除できます。
「Field」リスト	メタデータ・オプションの選択肢リストが表示されます。

機能	説明
「Operator」リスト	<p>演算子は、メタデータ・フィールドの検索方法を指定します。選択したフィールドによって、使用可能な値のセットが決まります。「Release Date」と「Expiration Date」を除くすべてのフィールドで、次の演算子を使用できます。</p> <p>Matches: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストが「Value」で指定したメタデータ値と一致します。</p> <p>Contains Word: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストに「Value」のメタデータ値が含まれます。</p> <p>Begins With: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストが「Value」のメタデータ値で始まります。</p> <p>「Release Date」演算子と「Expiration Date」演算子：</p> <p>Is Date Before: 指定したメタデータ・フィールドの日付は「Value」の日付の前になります。</p> <p>Is Date After: 指定したメタデータ・フィールドの日付は「Value」の日付の後になります。</p>
「Value」フィールド / 「Select」ボタン	<p>「Value」フィールド：</p> <p>「Field」で選択したメタデータ・フィールドに応じて、「Value」フィールドは次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> データを入力するための編集可能なフィールド 適切なオプションの選択リスト 対応する「Select」ボタンのある編集可能なフィールド <p>「Select」ボタン：</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Field」の値が「Content ID」の場合、「Select」ボタンをクリックすると「Edit Default Value」：「Select Field」画面（8-69 ページ）が表示されます。 「Field」のメタデータ・フィールドが「Author」の場合、「Select」ボタンをクリックすると「User View」画面（1-14 ページ）が表示されます。
「Add」ボタン	<p>完成した句（Field+Operator+Value）を「Clause」ペインに追加します。</p>
「Update」ボタン	<p>句を削除または再定義することなく、完成した句を編集するときに使用します。「Clause」ペインで句を選択し、「Value」フィールドを編集して、「Update」をクリックします。修正した句は、「Clauses」ペインに表示されます。</p>

機能	説明
条件式ペイン	メタデータ・フィールド属性値の既存の句が表示されます。
「Delete」ボタン	選択した句を削除できます。
「Value」フィールド	この画面の「 Compute 」ボタンをクリックし、「 Edit Default Value 」 : 「 Select Field 」画面（8-69 ページ）の「 OK 」ボタンをクリックすると、計算された値が表示されます。
「Compute」ボタン	「 Edit Default Value 」 : 「 Select Field 」画面（8-69 ページ）を表示します。

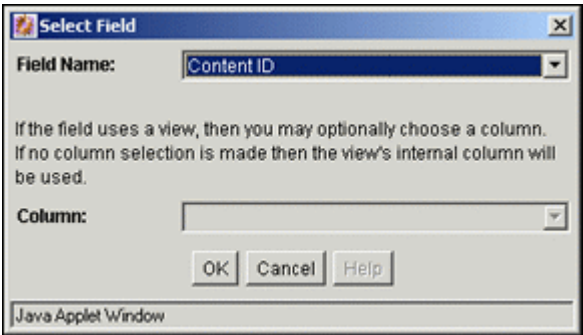
「Edit Default Value」 : 「Add Condition」画面

「Add Condition」画面は、新規のデフォルト値フィールド属性の名前を指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Edit Default Value](#)」 : 「[Conditions](#)」タブ（8-65 ページ）で「**Add**」をクリックします。



注意：この画面は、新規アクティブ化条件を追加するときに使用する「Add Condition」画面と同じです。「Add Condition」画面の例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-47 ページの「[Edit Activation Condition](#)」 : 「[Add Condition](#)」画面を参照してください。

「Edit Default Value」：「Select Field」画面



「Select Field」画面は、完成したデフォルト値句（フィールド+演算子+値）を処理するときに含めるデフォルト・メタデータ値を選択するときに使用します。また、メタデータ・フィールドがスキーマ・ビューに関連付けられている場合、スキーマ値はデフォルト値フィールド属性を作成するときに使用できます。この画面にアクセスするには、「Edit Default Value」：「Conditions」タブ（8-65 ページ）で「Compute」をクリックします。スキーマ・ビューの詳細は、7-18 ページの「Configuration Manager」：「Views」タブを参照してください。

機能	説明
「Field Name」リスト	メタデータ・オプションの選択肢リストが表示されます。
「Column」リスト	表の列の選択肢リストが表示されます。列は、メタデータ・フィールドがスキーマ・ビューに関連付けられている場合にのみ表示されます。この場合、表から列の値を選択し、それを計算で使用できます。スキーマ・ビューの詳細は、7-18 ページの「Configuration Manager」：「Views」タブを参照してください。

「Edit Default Value」：「Custom」タブ

「Edit Default Value」画面は、デフォルト値フィールド属性を追加および定義するときに使用します。「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。「Custom」タブがデフォルト値フィールド属性を定義するために使用される場合、「Conditions」タブが無効になり、またその逆も同様です。8-65 ページの「[「Edit Default Value」：「Conditions」タブ](#)」を参照してください。



注意：この画面は、ルールに特定のアクティブ化条件属性を定義するときに使用する「Custom」タブと同じです。「Custom」タブの例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-54 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Custom」タブ](#)」を参照してください。

「Edit Derived Value」：「Conditions」タブ

「Edit Derived Value」画面は、導出値フィールド属性を追加および定義するときに使用します。「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。「Conditions」タブが導出値フィールド属性を定義するために使用される場合、「Custom」タブが無効になり、またその逆も同様です。「Edit Derived Value」画面の「Conditions」タブが最初に表示されるとき、「Conditions」リスト・ペインのみが表示されます。

「[Edit Derived Value」：「Add Condition」画面](#)（8-70 ページ）を使用して新規導出値を追加した後、下の式ペインが表示されます。または、既存の導出値を選択すると、編集に使用可能な値の入ったフィールドとともに、下の式ペインが表示されます。下の式ペイン内のフィールドは、Idoc スクリプト対応の導出値フィールド属性を作成および定義するときに使用します。導出値フィールド属性を定義するために「Edit Default Value」画面にアクセスするには、8-61 ページの「[「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面](#)」で「Use derived value」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。



注意：この画面は、デフォルト値フィールド属性を追加および定義するときに使用する「Edit Default Value」画面の「Conditions」タブと同じです。「Custom」タブの例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-65 ページの「[「Edit Default Value」：「Conditions」タブ](#)」を参照してください。

「Edit Derived Value」：「Add Condition」画面

「Add Condition」画面は、新規の導出値フィールド属性の名前を指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Edit Derived Value」：「Conditions」タブ](#)（8-70 ページ）で「Add」をクリックします。



注意：この画面は、新規アクティブ化条件を追加するときに使用する「Add Condition」画面と同じです。「Add Condition」画面の例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-47 ページの「[「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面](#)」を参照してください。

「Edit Derived Value」：「Select Field」画面

「Select Field」画面は、完成した導出値句（フィールド+演算子+値）を処理するときに組み込むデフォルト・メタデータ値を選択するときに使用します。メタデータ・フィールドがスキーマ・ビューに関連付けられている場合、スキーマ値はデフォルト値フィールド属性を作成するときに使用できます。この画面にアクセスするには、「[Edit Derived Value](#)」：「[Conditions](#)」タブ（8-70 ページ）で「[Compute](#)」をクリックします。スキーマ・ビューの詳細は、7-18 ページの「[Configuration Manager](#)」：「[Views](#)」タブを参照してください。



注意：この画面は、処理するデフォルト値句に含めるデフォルト・メタデータ値を選択するときに使用する「Select Field」画面と同じです。「Select Field」画面の例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-69 ページの「[Edit Default Value](#)」：「[Select Field](#)」画面を参照してください。

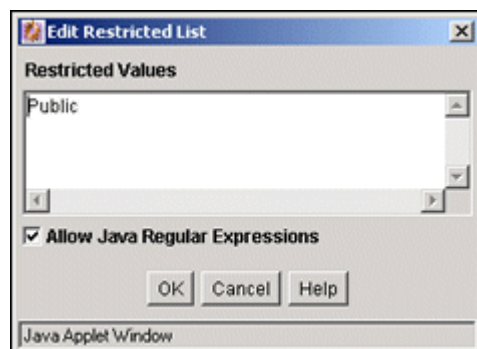
「Edit Derived Value」：「Custom」タブ

「Edit Derived Value」画面は、デフォルト値フィールド属性を追加および定義するときに使用します。「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。「Custom」タブがデフォルト値フィールド属性を定義するために使用される場合、「Conditions」タブが無効になり、またその逆も同様です。8-70 ページの「[Edit Derived Value](#)」：「[Conditions](#)」タブを参照してください。



注意：この画面は、ルールに特定のアクティブ化条件属性を定義するときに使用する「Custom」タブと同じです。「Custom」タブの例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-54 ページの「[Edit Activation Condition](#)」：「[Custom](#)」タブを参照してください。

「Edit Restricted List」画面



「Edit Restricted List」画面は、オプション・リスト・メタデータ・フィールドを（提示時に）、特定の値リストか、1つ以上の正規表現の評価プロセスによってフィルタ処理された値リストのいずれかに制限するときに使用します。正規表現の詳細は、8-10 ページの「[定義済オプション・リストを変更するための制限付きリスト](#)」を参照してください。

正規表現を使用するオプションを選択するか、しないかによって、テキスト・ペインに入力した値がシステムでどのように解釈されるかが決まります。この画面にアクセスするには、「[Add Rule Field "name" / "Edit Rule Field "name" 画面](#)（8-61 ページ）で「**Has restricted list**」チェック・ボックスを選択し、対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Restricted value」テキスト・ペイン	変更したオプション・リストに含める特定のアイテムを入力できます。この制限付きリストのメタデータ・フィールドがオプション・リストとして定義されている場合、このペインに入力した値が、マスター・オプション・リストにもあれば、ユーザー・インタフェースのドロップダウンに表示される結果に含まれます。
「Allow Java Regular Expressions」チェック・ボックス	<p>選択: 1つ以上の正規表現の評価に基づいてフィルタ処理された値のリストが表示されるようにします。式にワイルド・カードやその他の特殊文字を使用すると、メタデータ・フィールドの通常のオプション・リストで評価された正規表現に一致するすべての値のサブセットが表示されます。</p> <p>選択解除: それぞれの値がマスター・リストにあれば、テキスト・ペインに指定されているとおりに、実際値の特定セットが表示されます。この選択により、メタデータ・フィールドのマスター・オプション・リストは無効になり、リストを指定した値のセットに設定します。値は評価されないため、テキスト・ペインに何が入力されても表示されます。</p>

コンテンツ・プロファイル・トリガー

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [トリガー](#) (8-73 ページ)
- ❖ [プロファイル・トリガー・フィールドの選択](#) (8-74 ページ)
- ❖ [プロファイル・トリガー・フィールドの無効化](#) (8-74 ページ)
- ❖ [「Edit Trigger Field」画面](#) (8-75 ページ)

トリガー

トリガー・フィールドは、[「Configuration Manager」：「Profiles」タブ](#) (8-82 ページ) で定義されるメタデータ・フィールドです。ドキュメントがプロファイルのトリガー値と一致すると、そのプロファイルがドキュメントに対して評価されます。プロファイルの数に制限はありませんが、1 プロファイル当たりのトリガー値は1つのみです。

たとえば、トリガー・フィールドが dDocType の場合、Profile1 は ADACCT のトリガー値を、Profile2 は ADSALES のトリガー値を使用できます。詳細は、8-84 ページの [「Add Profile」画面](#) を参照してください。

選択したトリガー・フィールドは、次の基準を満たす必要があります。

- ❖ オプション・メタデータ・フィールドであることが必要です。オプション・リストとして定義されるメタデータ・フィールドは、トリガー・フィールドを選択するためのドロップダウン・リストに含まれます。8-84 ページの [「Add Profile」画面](#) を参照してください。
- ❖ トリガー・フィールドは定義されると、システムから削除できません。
- ❖ トリガー・フィールドを未定義にするか、無効にすることはできます。管理者は、トリガー・フィールドを未指定の状態に戻すことができます。これによりすべてのプロファイルが無効になります。8-74 ページの [「プロファイル・トリガー・フィールドの無効化」](#) を参照してください。
- ❖ トリガー・フィールドは変更できます。8-74 ページの [「プロファイル・トリガー・フィールドの無効化」](#) を参照してください。変更すると、プロファイルが無効になる可能性があり、その状況を解決するのは管理者の責任です。ただし、どのプロファイルが無効であるかに関しては、ユーザー・インタフェースのヒントが表示されます。



注意：トリガーやプロファイルを作成する前にルールを作成するにしても、ルール作成の前に、どんなトリガーを作成することになるかを承知しておく必要があります。

プロフィール・トリガー・フィールドの選択

コンテンツ・サーバーの各インスタンスに選択できるトリガー・フィールドは1つのみです。

現行のプロファイル・トリガー・フィールドを選択または変更するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「**Select**」をクリックします。
「[Add Profile](#)」画面（8-84 ページ）が表示されます。
2. 「Field Name」フィールドのオプション・リストから新規トリガー・フィールドを選択します。
3. 「OK」をクリックします。



注意: 1つ以上のプロフィールがすでに作成されていて、その後でトリガー・フィールドを変更する場合、新規トリガー・フィールドにより既存のプロファイルが無効になる可能性があります。

プロフィール・トリガー・フィールドの無効化

トリガー・フィールドを完全に無効にし、すべてのプロフィールも実質的に無効にするには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「**Select**」をクリックします。
「[Add Profile](#)」画面（8-84 ページ）が表示されます。
2. 「Field Name」フィールドのオプション・リストから「**none specified**」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。

「Edit Trigger Field」画面



「Edit Trigger Field」画面は、トリガー・フィールドを選択または変更するときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Profiles](#)」タブ (8-82 ページ) で「**Select**」をクリックします。



警告：トリガー・フィールドは変更できます。ただし、変更すると、プロファイルが無効になる可能性があります、その状況を解決するのはシステム管理者の責任です。ユーザー・インタフェースには、無効なプロファイルについてのヒントが表示されます。

機能	説明
「Field Name」リスト	オプション・リストとして定義されているメタデータ・フィールドは、このドロップダウン・リストに含まれます。メタデータ・フィールドを選択すると、「 Add Profile 」 / 「 Edit Profile 」画面 (8-84 ページ) の「Trigger」フィールド・ドロップダウン・リストに適切なオプション・リスト値が表示されます。 none specified: 選択すると、すべてのプロファイルが実質的に無効になります。

コンテンツ・プロフィールの管理

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [新規プロフィールの作成および定義](#) (8-76 ページ)
- ❖ [既存プロフィールの編集](#) (8-77 ページ)
- ❖ [既存プロフィールの削除](#) (8-77 ページ)
- ❖ [プロフィールでのルール管理](#) (8-77 ページ)
- ❖ [プロフィールのプレビュー](#) (8-79 ページ)
- ❖ [プレビューするプロフィールのトラブルシューティング](#) (8-79 ページ)

新規プロフィールの作成および定義

新規プロフィールを作成するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「Add」をクリックします。
[「Add Profile」画面](#) (8-84 ページ) が表示されます。
2. 「Profile Name」フィールドに新規プロフィール名を入力します。
3. 「OK」をクリックします。
[「Add Profile」](#) / [「Edit Profile」画面](#) (8-84 ページ) が表示されます。
4. 「Add Profile "name"」画面で、新規プロフィールに関する情報を入力します。
5. 新規プロフィールにルールを含めるために「Add」をクリックします。
[「Add Rule」画面](#) (8-91 ページ) が表示されます。



注意：ルールは、「Configuration Manager」：「Rules」タブ (8-40 ページ) を使用して作成および定義するまで、プロフィールに追加できません。

6. オプション・リストからルールを選択し、一般的な配置優先度の値を割り当てます。
7. 「OK」をクリックします。
「Profiles」タブの「Profiles」リストに新規プロフィールが含まれます。

既存プロファイルの編集

既存プロファイルを編集するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「Profiles」リスト・ペインから編集するプロファイルを選択し、「Edit」をクリックします。
[「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面](#)（8-84 ページ）が表示されると、フィールドには選択したプロファイルに対して前に設定した値が移入されています。
2. フィールドの値を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

既存プロファイルの削除

既存プロファイルを削除するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで削除するプロファイルを選択し、「Delete」をクリックします。
プロファイルを削除する決定に確認を求められます。
2. 「OK」をクリックします。
選択したプロファイルが削除されます。

プロファイルでのルールの管理

プロファイルに属するルールの管理とは、必要に応じて、プロファイルのルールを次のように追加、効果的に優先順位付け、または削除できることを意味します。

- ❖ [既存プロファイルへのルールの追加](#)（8-78 ページ）
- ❖ [既存プロファイルでのルールの優先順位付け](#)（8-78 ページ）
- ❖ [既存プロファイルからのルールの削除](#)（8-78 ページ）

既存プロフィールへのルールの追加

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「Profiles」リストから適切なプロフィールを選択し、「Edit」をクリックします。
「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）が表示されます。
2. 「Add」をクリックします。
「Add Rule」画面（8-91 ページ）が表示されます。
3. 「Name」オプション・リストからルールを選択します。
4. 「Rule Priority」オプション・リストからルールに対する一般的な配置選択肢を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
選択したルールが「Rules」リストに追加されます。

既存プロフィールでのルールの優先順位付け

1. 「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）で、再配置するルールを選択します。
2. ルールの優先度を上げるには「Up」を、優先度を下げるには「Down」をクリックしてルールを移動します。
ルールの配置が変わり、その優先順位は評価プロセスで適切に調整されます。

既存プロフィールからのルールの削除

1. 「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）で、削除するルールを選択します。
2. 「Delete」をクリックします。
選択したルールは、プロフィールから削除されます。

プロファイルのプレビュー

検証または確認のためにプロファイルをプレビューするには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「Profiles」リストからプレビューするプロファイルを選択し、「**Preview**」をクリックします。

「[Preview Profile](#)」画面（8-92 ページ）が表示されます。

2. 現行プロファイルをコンパイルした結果を確認するには、「Preview Profile」画面でフィールド値を変更しないでください。「**Compute results**」をクリックします。

「[Preview Results](#)」画面（8-94 ページ）が表示されます。

3. 計算された結果を確認し、「**OK**」をクリックします。

プレビューするプロファイルのトラブルシューティング

プロファイルのコンパイルした結果のプレビューに加えて、「[Preview Profile](#)」画面（8-92 ページ）は、無効なプロファイルのトラブルシューティングと任意のプロファイルに対する分析を行うときにも使用します。

what-if シナリオを使用するトラブルシューティングは対話型プロセスで、プロファイルのルールを評価するための入力の組合せを試すことで構成されます。異なる入力値を使用する他、フィルタ処理したドキュメントの選択を含めることができます。

異なる基準（フィルタあり、またはなし）の変更や結果の計算により、様々な入力の組合せがルールの評価にどのような影響を与えるかを確認することができます。システムでプロファイルのルールが評価されるとき、計算結果は、標準のダイアログ・テキスト・ペインにスクリプト文字列文（SQL または Idoc スクリプト）として、またはシミュレートされた「Check In」ページまたは「Search」ページとして（「Event field」値として「On Request」オプションを選択した場合）表示されます。what-if 分析プロセスの柔軟性を利用すると、プロファイルのデバッグや最適化に役立ちます。

what-If 分析を実行するための入力およびフィルタの使用 方法

入力とフィルタの様々な組合せを使用して what-if シナリオを実行するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「Profiles」リストから確認およびテストするプロファイルを選択し、「**Preview**」をクリックします。
[「Preview Profile」画面](#)（8-92 ページ）が表示されます。
2. 「Event」、「Action」および「Is workflow」オプション・リストから、適切なフィールド値を選択します。
3. 「Content ID」フィールド用にフィルタ処理された選択肢を含めるには、対応する「**Select**」ボタンをクリックします。
[「Content Item View」画面](#)（1-12 ページ）が表示されます。
4. 適切なコンテンツ・アイテム・フィルタ・オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。「Preview Profile」画面に戻ります。
5. 「User Name」フィールド用にフィルタ処理された選択肢を含めるには、対応する「**Select**」ボタンをクリックします。
[「User View」画面](#)（1-14 ページ）が表示されます。
6. 適切なユーザー・フィルタ・オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。「Preview Profile」画面に戻ります。



注意：新規の入力を使用してルールを評価し、結果をスクリプト文字列文としてダイアログで確認するには、8-80 ページの「[ダイアログでのスクリプト文字列としての結果の評価](#)」を参照してください。

新規の入力を使用してルールを評価し、メタデータの結果をシミュレートされた「Check In」または「Search」ページとしてダイアログで確認するには、8-81 ページの「[ブラウザでのシミュレートされたページとしての結果の評価](#)」を参照してください。

ダイアログでのスクリプト文字列としての結果の評価

評価されたルールをコード化文として表示するには、次のようにします。

1. what-if 分析の実行：8-80 ページの「[what-If 分析を実行するための入力およびフィルタの使用方法](#)」を参照してください。
2. 「**Compute results**」をクリックします。
[「Preview Results」画面](#)（8-94 ページ）が表示され、評価されたルールのコード化文がダイアログ・テキスト・ペインに表示されます。
3. 計算結果を確認し、「**OK**」をクリックして「Preview Profile」画面に戻り、その他の what-if プロファイル・シナリオのテストを続行します。

ブラウザでのシミュレートされたページとしての結果の評価



注意：「Preview Profile」画面の「Event」フィールドで「On Request」オプションを選択した場合、「Show」ボタンでブラウザ・ウィンドウを開き、処理したメタデータ・フィールドの結果を示す再構成ページのイメージを表示します。また、ブラウザ・ウィンドウで実行されるプレビューでは、「User Name」フィールド値は使用されません。

評価済のルールと結果メタデータ・フィールドを、「Check In」ページまたは「Search」ページでエンド・ユーザーに表示されたとおりに表示するには、次のようにします。

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブで、「Profiles」リストから確認およびテストするプロファイルを選択し、「Preview」をクリックします。
「Preview Profile」画面（8-92 ページ）が表示されます。
2. 「Event」フィールドで、「On Request」オプションを選択します。
3. 「Action」および「Is workflow」オプション・リストから、適切なフィールド値を選択します。
4. フィルタ処理された「Content ID」フィールドの選択肢を含めるには、8-80 ページの「[what-If 分析を実行するための入力およびフィルタの使用方法](#)」の手順 3 と 4 を参照してください。
5. 「Preview Profile」画面で「Show」をクリックします。

システムにより、シミュレートした「Check In」または「Search」ページに結果のメタデータ・フィールドを表示するブラウザ・ウィンドウが起動します。このウィンドウには、エンド・ユーザーが見ることになるグラフィック・ビューが表示されます。

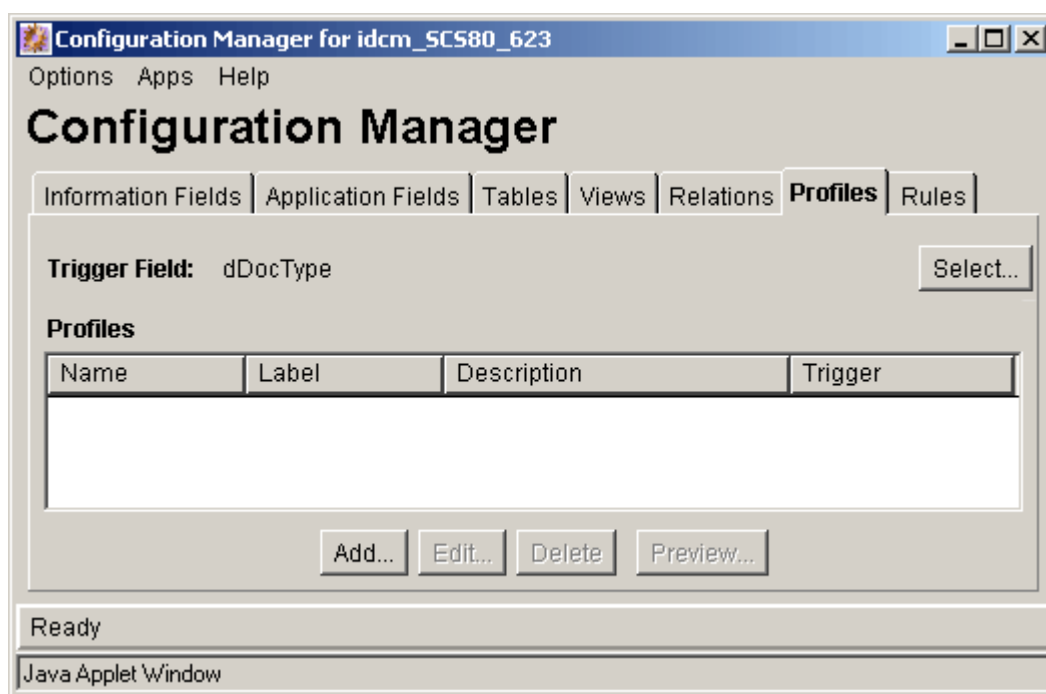
6. 計算結果を確認し、その他の what-if シナリオのテストを続行するには、ブラウザ・ウィンドウを閉じて、「Preview Profile」画面に戻ります。

コンテンツ・プロフィールのインタフェース画面

次の画面は、コンテンツ・プロフィールの作成で使います。

- ❖ 「Configuration Manager」：「Profiles」タブ (8-82 ページ)
- ❖ 「Add Profile」画面 (8-84 ページ)
- ❖ 「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面 (8-84 ページ)
- ❖ 「Add Rule」画面 (8-91 ページ)
- ❖ 「Preview Profile」画面 (8-92 ページ)
- ❖ 「Preview Results」画面 (8-94 ページ)

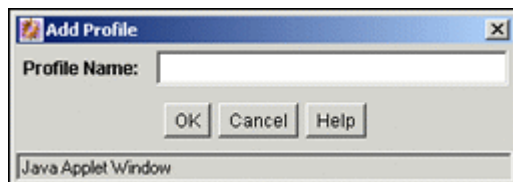
「Configuration Manager」：「Profiles」タブ



「Configuration Manager」の「Profiles」タブは、プロフィールを作成、編集、削除およびプレビューするときに使います。このタブは、プロフィール・トリガー値を定義するときや、選択したフィルタおよび列のオプションなど、関連のプロフィール・トリガー・フィールド値を変更または無効にするときにも使えます。

機能	説明
「Select」ボタン	「Add Profile」画面（8-84 ページ）を表示します。
「Name」列	作成した既存のプロファイル名が表示されます。
「Description」列	各プロファイルの説明が表示されます。プロファイルの説明は、「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）を使用してプロファイルを定義するときに表示されます。
「Trigger」列	チェックインしたドキュメントを識別するために使用するオプション・リスト値が表示されます。これは、このプロファイル用に「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）を使用して「Trigger」リストから選択した値です。
「Add」ボタン	「Add Profile」画面（8-84 ページ）を表示します。
「Edit」ボタン	「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	選択したプロファイルを削除できます。
「Preview」ボタン	「Preview Profile」画面（8-92 ページ）を表示します。

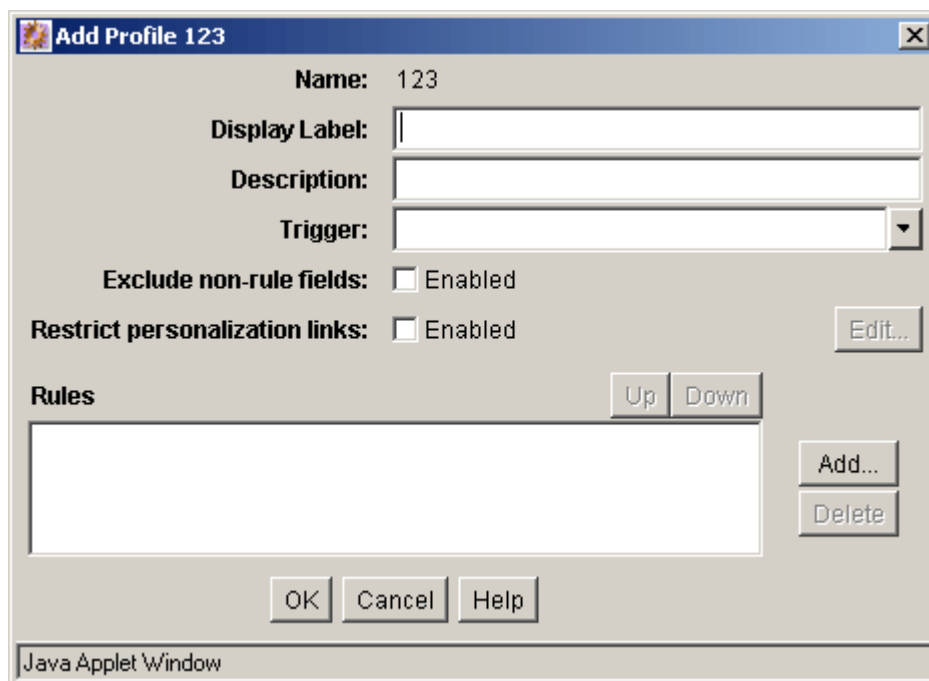
「Add Profile」画面



「Add Profile」画面は、新規プロファイルを作成し、名前を付けるときに使用します。
この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Profiles](#)」タブ（8-82 ページ）で「Add」をクリックします。

機能	説明
「Profile Name」フィールド	作成するプロファイルの名前。

「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面

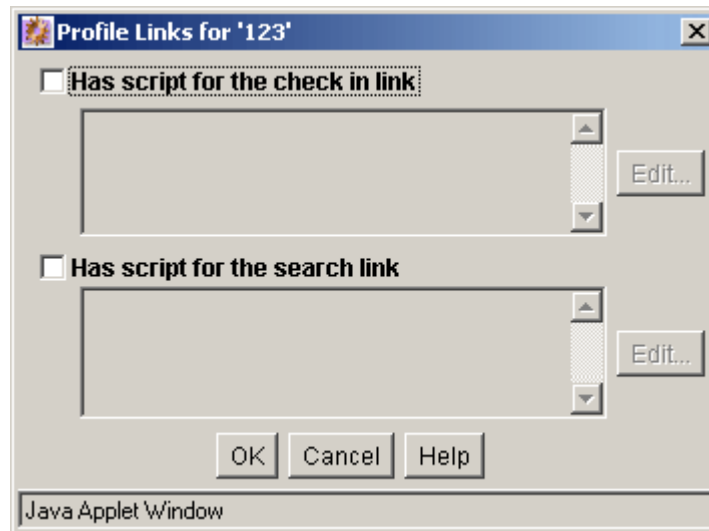


「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面は、プロフィールを定義または編集するときに使用します。この画面は、「Add Profile」画面（8-84 ページ）で「OK」をクリックした後、または「Configuration Manager」: 「Profiles」タブ（8-82 ページ）でプロフィールを選択し、「Edit」をクリックします。

機能	説明
Name	定義または編集中のプロファイルに割り当てられた名前が表示されます。これは、「Add Profile」画面（8-84 ページ）を使用して新規に作成したプロファイルに割り当てた名前です。
「Display Label」フィールド	Content Server のナビゲーション領域の「My Oracle」トレイに含まれる「My Check ins」や「My Searches」のドキュメント・プロファイル・リンクで表示されるプロファイル名として使用します。
「Description」フィールド	現在定義中のプロファイルの説明。
「Trigger」リスト	「Add Profile」画面（8-84 ページ）で選択した「Trigger」フィールドのオプション・リスト値が表示されます。選択肢は、プロファイル・トリガーに関連付けられた適切なオプション・リスト値で構成されます。
「Exclude non-rule fields」チェック・ボックス	<p>選択: プロファイルに含まれるルールに属さないすべてのメタデータ・フィールドを除外します。</p> <p>選択解除: すべてのルールに属するすべてのメタデータ・フィールドが含まれます。</p>
Restrict personalization links	<p>選択: 管理者ユーザーは、特定のユーザーまたはユーザー・グループに対して、任意またはすべてのチェックイン・リンクや検索リンクを抑止できます。選択すると、ユーザー情報に基づく Idoc スクリプトが「Profile Links」画面（8-87 ページ）に入力され、リンクが表示される前に true であることを評価する必要があります。</p> <p>選択解除 (デフォルト): 別のプロファイルによって処理されていない場合、すべてのチェックイン・リンクまたは検索リンクが、ユーザー全員に表示されます。</p>
「Edit」ボタン	「Profile Links」画面（8-87 ページ）を表示します。
「Rules」ペイン	現在定義中のプロファイルに含まれるルールが表示されます。

機能	説明
「Up」ボタン	リスト内でルールの特定の配置順序を調整します。リスト内の各ルールの位置は、評価プロセスにおけるその優先度に関連します。リスト内の一般的な位置（top、middle または bottom）は、ルールがプロファイルに最初に追加されるときに設定されます。詳細は、8-91 ページの「 Add Rule 画面」を参照してください。ただし、「Up」ボタンで、ルールをさらに上の正確な位置に移動することにより、位置を調整します。
「Down」ボタン	リスト内でルールの特定の配置順序を調整します。リスト内の各ルールの位置は、評価プロセスにおけるその優先度に関連します。リスト内の一般的な位置（top、middle または bottom）は、ルールがプロファイルに最初に追加されるときに設定されます。詳細は、8-91 ページの「 Add Rule 画面」を参照してください。ただし、「Down」ボタンで、ルールをさらに下の正確な位置に移動することにより、位置を調整します。
「Add」ボタン	プロファイルにシステムに追加し、 Configuration Manager : Profiles タブ（8-82 ページ）でプロファイルのリストに加えます。
「Delete」ボタン	選択したルールを削除し、このプロファイルから除外できます。

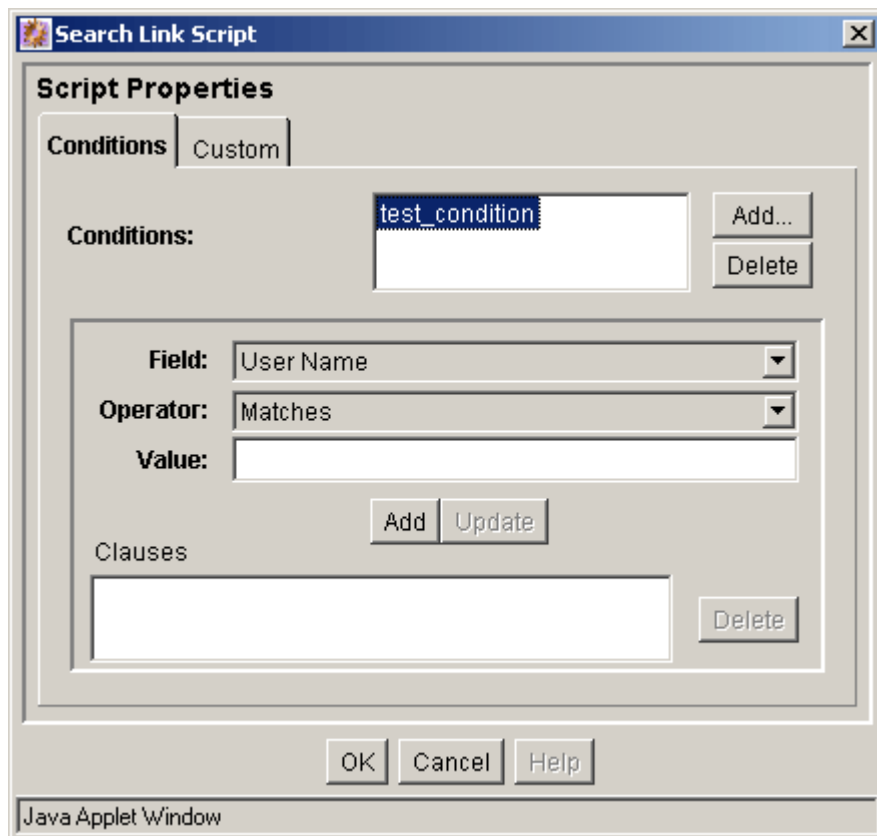
「Profile Links」画面



「Profile Links」画面を使用すれば、管理ユーザーは、リンクがブラウザで表示される前に **true** であることを評価する必要がある **Idoc** スクリプトを追加することにより、特定のユーザーまたはユーザー・グループに対して、任意またはすべてのチェックイン・リンクや検索リンクを抑止できます。「Profile Links」画面にアクセスするには、[「Add Profile」](#) / [「Edit Profile」](#) 画面で [「Restrict personalization links」](#) チェック・ボックスを選択し、[「Edit」](#) をクリックします。

機能	説明
Has script for the check in link	<p>選択: 「Content Check In Form」でリンクを表示できるようにする前に true であることを評価する必要がある関連の Idoc スクリプトを有効にします。</p> <p>選択解除 (デフォルト): 関連の Idoc スクリプトを無効にします。</p>
Has script for the search link	<p>選択: 「Advanced Search Form」でリンクを表示できるようにする前に true であることを評価する必要がある関連の Idoc スクリプトを有効にします。</p> <p>選択解除 (デフォルト): 関連の Idoc スクリプトを無効にします。</p>
Edit	<p>チェックインまたは検索リンクのいずれかの 「Check In Link」 / 「Search Link」 画面を表示します。</p>

「Check In Link」 / 「Search Link」 画面：「Conditions」タブ



「Check In Link」 / 「Search Link」画面は、「Check In」ページや検索ページで、任意またはすべてのチェックイン・リンクや検索リンクを表示するかどうかを決める条件を追加するときに使用します。「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。「Conditions」タブが条件を定義するために使用される場合、「Custom」タブが無効になり、またその逆も同様です。8-90 ページの「[「Check In Link」 / 「Search Link」画面：「Custom」タブ](#)」を参照してください。「Check In Link」 / 「Search Link」画面の「Conditions」タブが最初に表示されるとき、「Conditions」リスト・ペインのみが表示されます。

「[Check In Link](#)」 / 「[Search Link](#)」 : 「[Add Condition](#)」画面（8-90 ページ）を使用して新規デフォルト値を追加した後、下の式ペインが表示されます。既存の条件を選択すると、編集に使用可能な値の入ったフィールドとともに、下の式ペインも表示されます。下の式ペイン内のフィールドは、条件句を作成および定義するときに使用します。

チェックイン・リンクと検索リンクの表示または抑止の条件を定義するために、「[Check In Link](#)」 / 「[Search Link](#)」画面にアクセスするには、「[Profile Links](#)」画面（8-87 ページ）で「**Has script for the check in link**」チェック・ボックスまたは「**Has script for the search link**」チェック・ボックスを選択し、対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「 Conditions 」テキスト・ペイン	リンクの表示または抑止のために作成した条件の名前が表示されます。
「Add」ボタン	「 Check In Link 」 / 「 Search Link 」 : 「 Add Condition 」画面（8-90 ページ）を表示します。
「Delete」ボタン	選択した条件を削除できます。
「Field」リスト	メタデータ・オプションの選択肢リストが表示されます。
「Operator」リスト	<p>演算子は、メタデータ・フィールドの検索方法を指定します。選択したフィールドによって、使用可能な値のセットが決まります。</p> <p>Matches: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストが「Value」で指定したメタデータ値と一致します。</p> <p>Contains Word: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストに「Value」のメタデータ値が含まれます。</p> <p>Begins With: 指定したメタデータ・フィールド内のテキストが「Value」のメタデータ値で始まります。</p>
「Value」フィールド	<p>「Field」で選択したメタデータ・フィールドに応じて、「Value」フィールドは次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> データを入力するための編集可能なフィールド 適切なオプションの選択リスト 対応する「Select」ボタンのある編集可能なフィールド

機能	説明
「Add」ボタン	完成した句（Field+Operator+Value）を「Clauses」ペインに追加します。
「Update」ボタン	句を削除または再定義することなく、完成した句を編集するときに使用します。「Clauses」ペインで句を選択し、「Value」フィールドを編集して、「Update」をクリックします。修正した句は、「Clauses」ペインに表示されます。
「Clauses」ペイン	メタデータ・フィールド属性値の既存の句が表示されます。
「Delete」ボタン	選択した句を削除できます。

「Check In Link」 / 「Search Link」 : 「Add Condition」画面

「Add Condition」画面は、新規条件名を指定するときに使用します。この画面にアクセスするには、[「Check In Link」 / 「Search Link」画面 : 「Conditions」タブ](#)（8-88 ページ）で「Add」をクリックします。



注意：この画面は、新規アクティブ化条件を追加するときに使用する「Add Condition」画面と同じです。「Add Condition」画面の例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-47 ページの[「Edit Activation Condition」 : 「Add Condition」画面](#)を参照してください。

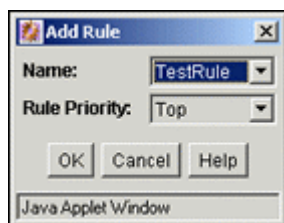
「Check In Link」 / 「Search Link」画面 : 「Custom」タブ

「Check In Link」 / 「Search Link」画面は、チェックイン・ページや検索ページで、任意またはすべてのチェックイン・リンクや検索リンクを表示するかどうかを決める条件を追加するときに使用します。「Conditions」タブと「Custom」タブは、相互に排他的です。「Custom」タブが表示条件を定義するために使用される場合、「Conditions」タブが無効になり、またその逆も同様です。8-88 ページの[「Check In Link」 / 「Search Link」画面 : 「Conditions」タブ](#)を参照してください。



注意：この画面は、ルールに特定のアクティブ化条件属性を定義するときに使用する「Custom」タブと同じです。「Custom」タブの例を見て、適用可能なフィールドの説明を読むには、8-54 ページの[「Edit Activation Condition」 : 「Custom」タブ](#)を参照してください。

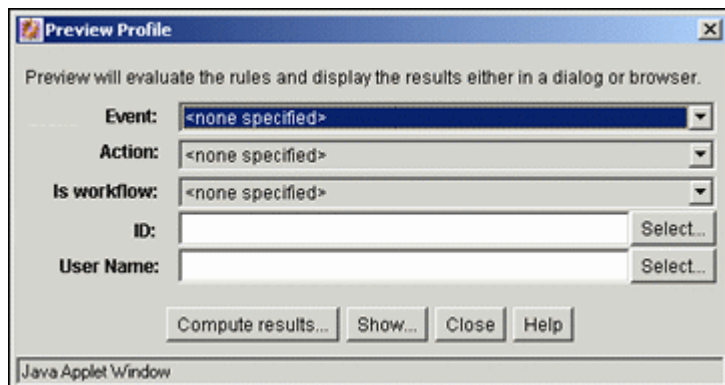
「Add Rule」画面



「Add Rule」画面は、プロファイルに1つ以上のルールを含めるときに使用します。この画面にアクセスするには、「[Add Profile](#)」 / 「[Edit Profile](#)」画面（8-84 ページ）で「Add」をクリックします。

機能	説明
「Name」リスト	現在定義中のプロファイルに追加できる使用可能なルール名が表示されます。
「Rule Priority」リスト	<p>選択したオプションにより、「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）のリストでのルールの一般的な配置順序が調整されます。リスト内の各ルールの位置は、評価プロセスにおけるその優先度に関連します。配置は、「Up」ボタン（8-86 ページ）または「Down」ボタン（8-86 ページ）のいずれかを使用して、さらに調整できます。</p> <p>Top: ルールを相対的に高い位置に移動します。</p> <p>Middle: ルールを相対的に中央の位置に移動します。</p> <p>Bottom: ルールを相対的に低い位置に移動します。</p>

「Preview Profile」画面



「Preview Profile」画面は、選択したプロフィールを構成するルールおよびトリガー・フィールドを確認するときに使用します。メタデータ・フィールド・リストから異なるオプションを選択することにより、プロフィールがシミュレートされ、様々な選択肢に基づいて何が発生するかをプレビューできます。

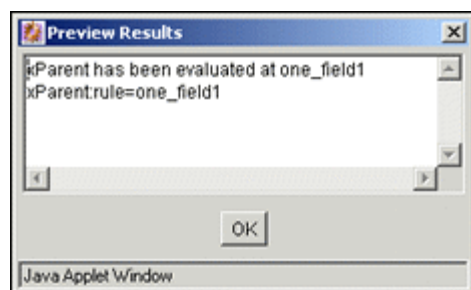
評価結果は、「**Compute results**」ボタンまたは「**Show**」ボタンを使用して、ダイアログまたはブラウザ・ウィンドウのいずれかに表示されます。この画面は、ルールの評価プロセス中に、ルールがメタデータ・フィールドにどのように影響を与えるかを評価するときに便利です。この画面にアクセスするには、「[Configuration Manager](#)」：「[Profiles](#)」タブ（8-82 ページ）で「**Preview**」をクリックします。

機能	説明
「Event」リスト	<p>none specified: プロファイル評価にイベントが含まれません。</p> <p>On Request: Content Server ページの表示を求めるユーザーのリクエストの結果生じる内部イベントが含まれます。</p> <p>On Submit: コンテンツ・アイテム・コントリビューション・プロセスの結果生じる内部イベントが含まれます。</p> <p>On Import: バッチ・ローディングまたはアーカイブ手順の結果生じる内部イベントが含まれます。ルールのアクティブ化条件に「On Import」が必要な場合、ルールはアーカイバ、バッチ・ローディング、または特殊なチェックイン・サービスを使用するその他のプロセス（たとえば、Content Publisher）に対してのみアクティブになります。</p>

機能	説明
「Action」リスト	<p>none specified: プロファイル評価にユーザー・アクションは含まれません。</p> <p>Check in new: 新規コンテンツ・アイテムをコントリビュートするユーザー・アクションが含まれます。</p> <p>Check in selected: 既存のチェックイン済ドキュメントにリビジョンを送信するユーザー・アクションが含まれます。</p> <p>Content information: ドキュメント情報ページの表示をリクエストするユーザー・アクションが含まれます。</p> <p>Content update: ドキュメント情報ページにリビジョンを送信するユーザー・アクションが含まれます。</p> <p>Search: 検索ページの表示をリクエストするユーザー・アクションが含まれます。</p>
「Is workflow」リスト	<p>none specified: プロファイル評価にワークフローは含まれません。ドキュメントがワークフロー内にある場合もない場合がありますが、そのワークフロー状態は指定されていません。</p> <p>Yes: ドキュメントがワークフロー内にあり、異なる「Content Information」ページを表示できます。</p> <p>No: ドキュメントがワークフロー内にありません。</p>
「Content ID」フィールド / 「Select」ボタン	<p>「Content ID」フィールドには、プロファイルの妥当性を評価する評価プロセスで使用するために選択したドキュメントのコンテンツ ID が表示されます。この値は、選択したフィルタ基準に基づいて取得されます。</p> <p>対応する「Select」ボタンをクリックすると、「Content Item View」画面 (1-12 ページ) が表示されます。</p>
「User Name」フィールド / 「Select」ボタン	<p>「User Name」フィールドには、プロファイルの妥当性を評価する評価プロセスで使用するために選択したユーザーが表示されます。この値は、選択したフィルタ基準に基づいて取得されます。このフィールドは、「Compute results」ボタンでのみ使用され、「Show」ボタンでは使用されません。</p> <p>対応する「Select」ボタンをクリックすると、「User View」画面 (1-14 ページ) が表示されます。</p>
「Compute Results」ボタン	<p>「Preview Results」画面 (8-94 ページ) を表示します。</p>

機能	説明
「Show」ボタン	エンド・ユーザーが見ることになるページの複製を表示するブラウザ・ウィンドウを起動します。「Event」フィールド値として「On Request」を選択し、「Action」の値を1つ選択し、「User Name」フィールドは空白のままにする必要があります。

「Preview Results」画面



「Preview Results」画面は、「Preview Profile」画面で行った選択を計算および確認するときに使用します。この画面には、予備評価の結果であるコード化ルール文（スクリプト文字列）が表示され、様々なプロフィール・シナリオのプレビューを容易にするために加えられたフィールド値の変更を反映します。この画面にアクセスするには、[「Preview Profile」画面](#)（8-92 ページ）で「**Compute results**」をクリックします。

コンテンツ・プロフィールの例

次のプロフィール例は、ユーザーによる便利なプロフィールの開発を助けるために含まれています。

- ❖ [部門ベースのコンテンツ・プロフィール](#) (8-95 ページ)
- ❖ [履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロフィール](#) (8-101 ページ)
- ❖ [ユーザー・ロールに基づくコンテンツ・チェックインを制限するグローバル・ルール](#) (8-111 ページ)
- ❖ [コンテンツ・タイプ・メタデータの変更を制限するグローバル・ルール](#) (8-114 ページ)

部門ベースのコンテンツ・プロフィール

この例では、グローバル・ルール 1 つと標準プロフィール・ルール 1 つを含む部門ベースのプロファイルの計画および作成方法を示しています。

目的は、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで、ルールによって管理されるメタデータ・フィールドがどのように表示されるかを制御することです。部門固有のフィールドのみが表示されるのが理想です。これにより、ユーザーに見えるメタデータ・フィールド数が最小限になります。

この例では、実際のプロファイルの作成プロセスで、プロフィールにルールが追加されるため、まず適切なルールを、次にプロフィールを作成します。

この例は、次の主な手順に分かれています。

- ❖ 次の特性を持つグローバル・ルールを作成します。
 - チェックインするすべての新規および更新済コンテンツ・アイテムに、確実にコメントが関連付けられるようにします。オプションのコメント・メタデータ・フィールドは、必須フィールドに変更されます。
 - コンテンツ・アイテム・タイトル・メタデータ・フィールドを編集可能にします。

8-96 ページの「[グローバル・ルールの作成](#)」を参照してください。

- ❖ 次の特性を持つプロフィール・ルールを作成します。
 - コメント・メタデータ・フィールドのデフォルト値を指定しますが、これも編集可能にします。デフォルト・メッセージは、営業固有のドキュメントによりトリガーされます。
 - 公開タイプおよびリビジョン・ラベル・メタデータ・フィールドの読取り専用テキストのデフォルト値を指定します。

8-98 ページの「[プロフィール・ルールの作成](#)」を参照してください。

- ❖ 次の特性を持つ部門ベースのプロフィールを作成します。
 - 「Check In」、「Update」、「Content Information」 および 「Search」 の各ページで非表示にする、または表示するメタデータ・フィールドを編成します。
 - 営業部門関連のフィールドのみを表示します。
 - 営業ベースのグループ・ヘッダーを使用して、メタデータ・フィールドをグループ化します。

8-100 ページの「[部門ベースのプロフィールの作成](#)」を参照してください。

グローバル・ルールの作成

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブを開き、「Add」を選択します。
「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されます。
2. 「General」タブで、「Name」フィールドにグローバル・ルール名を入力します（たとえば、CmtsRqd）。
3. オプションで、グローバル・ルールの説明を入力します。
4. 「Is global rule with priority」チェック・ボックスを選択します。（オプションで優先番号を変更できます。）
5. 「Comments」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
「Add Rule Field」画面（8-59 ページ）が表示されます。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Comments」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します（たとえば、「top」）。
 - d. 「OK」をクリックします。
「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面（8-61 ページ）が表示されます。

- e. 「Type」 オプション・リストから「**Required**」表示タイプを選択します（これにより、ユーザーがチェックイン中のコンテンツ・アイテムに関するコメントを必ず入力するようにします）。
 - f. 「Required Message」フィールドに文を入力します。（これは、「Required」タイプを除くすべてのルール・フィールド・タイプの場合オプションです。）
 - g. 「Use default value」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
「Edit Default Value」：「Conditions」タブ（8-65 ページ）が表示されます。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
「Edit Default Value」：「Add Condition」画面（8-68 ページ）が表示されます。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、UserMsg）。
 - j. 「OK」をクリックします。
「Add Condition」画面が閉じられ、「Conditions」タブの下のパインに句生成フィールドが表示されます。
 - k. 画面の一番下（「Compute」ボタンの近く）にある下の「Value」フィールドに短い文を入力します。この文は、「Comment」フィールドのデフォルト値になります。
 - l. 「OK」をクリックします。
「Edit Default Value」画面が閉じられ、「UserMsg」フィールド条件のデフォルトのIdoc スクリプト句が「Default Value」テキスト・ペインに追加されます。
 - m. 「OK」をクリックします。
「Add Rule Field」画面が閉じられ、「Comments」メタデータ・フィールドが「Fields」リストに追加されます。
6. 「Document Title」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
- a. 「Add Rule」 / 「Edit Rule」画面の「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Title」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します（たとえば、「bottom」）。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Edit」表示タイプを選択します（これにより、「Check In」ページと「Search」ページでこのメタデータ・フィールドを編集可能にします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに注記を入力します。

g. 「OK」をクリックします。

「Title」メタデータ・フィールドが「Fields」リストに追加されます。

7. 「OK」をクリックします。

「Add Rule」 / 「Edit Rule」画面が閉じられます。

プロフィール・ルールの作成

1. 「Rules」タブで、「Add」を選択します。

2. 「General」タブで、「Name」フィールドにプロフィール・ルール名を入力します（たとえば、DefaultMktComment）。

3. オプションで、プロフィール・ルールの説明を入力します。

4. 「Is group」チェック・ボックスを選択します。

5. 「Has group header」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

[「Edit Group Header」画面](#)（8-44 ページ）が表示されます。

6. グループ化したメタデータ・フィールドのヘッダーとして使用するテキストを入力します（たとえば、Marketing-Specific Information）。

7. 「OK」をクリックします。

8. 「Comments」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。

a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。

b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Comments」を選択します。

c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します（たとえば、「top」）。

d. 「OK」をクリックします。

e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Edit」表示タイプを選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドを編集可能にします）。

f. オプションで、「Required Message」フィールドに注記を入力します。

g. 「Use default value」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。

i. フィールド条件名を入力します（たとえば、CurrentMktgDocs）。

j. 「OK」をクリックします。

- k. 画面の一番下（「**Compute**」ボタンの近く）にある下の「**Value**」フィールドに **These are Current Marketing Docs** と入力します。
 - l. 「**OK**」をクリックします。
7.5MktgDocs フィールド条件のデフォルト値 Idoc スクリプト句が「**Default Value**」テキスト・ペインに追加されます。
 - m. 「**OK**」をクリックします。
「**Comments**」メタデータ・フィールドが「**Fields**」リストに追加されます。
9. 「**Publish Type**」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
- a. 「**Fields**」タブで、「**Add**」をクリックします。
 - b. 「**Field Name**」ドロップダウン・オプション・リストから「**Publish Type**」を選択します。
 - c. 「**Field Position**」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します（たとえば、「**middle**」）。
 - d. 「**OK**」をクリックします。
 - e. 「**Type**」ドロップダウン・オプション・リストから「**Label**」表示タイプを選択します（これにより、「**Check In**」、「**Update**」、「**Content Information**」および「**Search**」の各ページでこれを読み取り専用メタデータ・フィールドにします）。
 - f. オプションで、「**Required Message**」フィールドに注記を入力します。
 - g. 「**Use default value**」チェック・ボックスを選択し、対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
 - h. 「**Conditions**」タブで、「**Add**」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、**MktgDocsOnly**）。
 - j. 「**OK**」をクリックします。
 - k. 画面の一番下（「**Compute**」ボタンの近く）にある下の「**Value**」フィールドに **@dDocName** を入力します。
 - l. 「**OK**」をクリックします。
MktgDocsOnly フィールド条件のデフォルト値 Idoc スクリプト句が「**Default Value**」テキスト・ペインに追加されます。
 - m. 「**OK**」をクリックします。
「**Publish Type**」メタデータ・フィールドが「**Fields**」リストに追加されます。
10. 「**Revision Label**」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
- a. 「**Fields**」タブで、「**Add**」をクリックします。
 - b. 「**Field Name**」ドロップダウン・オプション・リストから「**Revision**」を選択します。
 - c. 「**Field Position**」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します（たとえば、「**bottom**」）。

- d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」 ドロップダウン・オプション・リストから「Label」表示タイプを選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこれを読み取り専用メタデータ・フィールドにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに注記を入力します。
 - g. 「Use default value」チェック・ボックスを選択します。
 - h. 「OK」をクリックします。
「Revision Label」メタデータ・フィールドが「Fields」リストに追加されます。
11. 「OK」をクリックします。
「Add Rule」 / 「Edit Rule」画面が閉じられます。

部門ベースのプロファイルの作成

1. 「Configuration Manager」の「Profiles」タブを開き、「Select」をクリックします。
「Add Profile」画面（8-84 ページ）が表示されます。
2. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Type」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. 「Profiles」タブで「Add」をクリックします。
「Add Profile」画面（8-84 ページ）が表示されます。
5. プロファイル名を入力します（たとえば、MktgDoc）。
6. 「OK」をクリックします。
「Add Profile」 / 「Edit Profile」画面（8-84 ページ）が表示されます。
7. 「Description」フィールドにプロファイルの説明を入力します（たとえば、Current Mktg docs）。
8. その用途を明確に識別するプロファイルのラベルを入力します（たとえば、MarketingSpecific）。
9. 「Trigger」ドロップダウン・オプション・リストから「ADMKT」（または同等の営業オプション）を選択します。
10. このプロファイルにルールを含めるために「Add」をクリックします。
「Add Rule」画面（8-91 ページ）が表示されます。
11. 「Name」ドロップダウン・オプション・リストから「DefaultMktComment」ルールを選択します。
12. 「Rule Priority」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な優先度の位置を選択します（たとえば、「top」）。

13. 「OK」をクリックします。

14. 「Add」をクリックします。

15. 「OK」をクリックします。

16. 「OK」をクリックします。

「Add Profile」画面が閉じられ、プロフィールが「Profiles」タブ上のプロフィール・リストに追加されます。

履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロフィール

この例では、人事部への履歴書送信に使用されるブラックホール・チェックイン・プロフィールを計画し、作成する方法を示しています。

目的は、このプロフィールを使用する際に、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページに表示される使用可能なメタデータ・フィールドを制限することです。履歴書が最初にチェックインされると、潜在的に検索可能なすべてのメタデータ・フィールド用に導出された設定により、権限のないユーザーがドキュメントを取得するのを防ぎます。この例では、実際のプロファイルの作成プロセスで、プロフィールにルールが追加されるため、まず適切なルールを、次にプロフィールを作成します。

この例は、カスタマイズされていない Content Server インスタンスを使用して表示されるデフォルトのメタデータ・フィールドに基づいています。このプロフィールで表示されるメタデータ・フィールドは、「Type」、「Primary File」、「Alternate File」および「Comments」に制限されます。「Type」フィールドでは、読取り専用ラベルが使用されます。値は送信時に、ドキュメントの機密保護を確実にするための人事（HR）アクセス可能値にリセットされます。「Comments」フィールドのみが編集可能です。残りのメタデータ・フィールドは非表示になり、送信時にやはり値がリセットされます。この例では、非表示メタデータ・フィールドに「Title」、「Author」、「Security Group」、「Content ID」、「Revision」、「Release Date」および「Expiration Date」があります。



注意：「Hidden」および「Excluded」表示属性はどちらも選択すると、定義したメタデータ・フィールドが非表示になります。「Hidden」タイプを使用すると、フィールド値をソース・ページに残せる利点があります。したがって、コントリビュータにはドキュメントのチェックイン時に Hidden フィールドは見えませんが、割り当てられたフィールド値は、認可済ユーザーにはまだ見えます。「Excluded」タイプを使用すると、ソース・ページでフィールド値が除外されます。



注意: ブラックホール・チェックイン・プロフィールでは、不要なメタデータ・フィールドを非表示にするために、「Exclude non-rule fields」チェック・ボックスに依存することはお薦めできません（8-85 ページの「[Exclude non-rule fields](#)」チェック・ボックス」を参照）。このチェック・ボックスを選択すると、プロフィールのルールに属さないすべてのメタデータ・フィールドの表示が抑止されます。したがって、コントリビュータにはこれらのフィールドは見えません。ただし、デフォルト値はソース・ページで割り当てられ、その後格納されます。そのため、権限のないユーザーでも、除外されたメタデータ・フィールドで検索することにより、ブラックホール・ドキュメントを見つけることができます。

この例は、次の主な手順に分かれています。

❖ 次のプロフィール・ルールを作成します。

- 不要なメタデータ・フィールドを非表示にし、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで表示しません。
- 非表示の各メタデータ・フィールドのデフォルト値をリセットし、権限のないユーザーが非表示フィールドを使用してドキュメントを検索および取得できないようにします。

8-103 ページの「[非表示メタデータ・フィールドのプロファイル・ルールの作成](#)」を参照してください。

❖ 次のプロフィール・ルールを作成します。

- 履歴書のチェックイン関連の特定のメタデータ・フィールドを表示できるようにします。
- 表示される各メタデータ・フィールドの値をリセットし、権限のないユーザーがこれらのフィールドを使用してドキュメントを検索および取得できないようにします。

8-109 ページの「[可視メタデータ・フィールドのプロファイル・ルールの作成](#)」を参照してください。

❖ 次のブラックホール・チェックイン・プロフィールを作成します。

- 「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページで非表示にする、または表示するメタデータ・フィールドを編成します。
- 社内の職位に対して履歴書をチェックインしている従業員に関連するフィールドのみを表示します。

8-110 ページの「[履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロフィールの作成](#)」を参照してください。

非表示メタデータ・フィールドのプロファイル・ルールの作成

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブを開き、「Add」を選択します。
[「Add Rule "name"」](#) / [「Edit Rule "name"」](#) 画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されます。
2. 「General」タブで、「Name」フィールドにルール名を入力します（たとえば、NoExtraFields）。
3. オプションで、プロフィール・ルールの説明を入力します。
4. 「Title」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
[「Add Rule Field」](#) 画面（8-59 ページ）が表示されます。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Title」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
[「Add Rule Field "name"」](#) / [「Edit Rule Field "name"」](#) 画面（8-61 ページ）が表示されます。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Hidden」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。
 - g. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
[「Edit Derived Value」](#)：「Conditions」タブ（8-70 ページ）が表示されます。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
[「Edit Derived Value」](#)：「Add Condition」画面（8-70 ページ）が表示されます。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly）。
 - j. 「OK」をクリックします。
「Add Condition」画面が閉じられ、「Conditions」タブの下のパインに句生成フィールドが表示されます。
 - k. 下の「Value」フィールドに、機密文字列を入力します（たとえば、No specific title）。これは、権限のないユーザーがこのプロフィールを使用してチェックインしたドキュメントの検索および取得に「Title」メタデータ・フィールドを使用できないようにするのに役立ちます。

- l. 「OK」をクリックします。
「Edit Derived Value」画面が閉じられ、計算された Idoc スクリプト句が導出フィールド・テキスト・ペインに追加されます。
- m. 「OK」をクリックします。
「Add Rule Field」画面が閉じられ、「Title」メタデータ・フィールドが「Fields」リストに追加されます。
5. 「Author」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Author」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Hidden」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。
 - g. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly2）。
 - j. 「OK」をクリックします。
 - k. 「Field」ドロップダウン・オプション・リストから「Author」を選択します。
 - l. 「Operation」ドロップダウン・オプション・リストから「Matches」を選択します。
 - m. 「Select」をクリックします。
「User View」画面（1-14 ページ）が表示されます。適切なユーザー名を選択します。（たとえば、人事部の従業員、またはこのプロファイルを使用してチェックインしたドキュメントを表示する権限を与えられた人を選択します。これは、権限のないユーザーが「Author」メタデータ・フィールドを使用してこれらのドキュメントを検索および取得できないようにするのに役立ちます。）
 - n. 「OK」をクリックします。
「User View」画面が閉じられ、上の「Value」フィールドに選択したユーザーが入力されます。
 - o. 「Add」をクリックします。
句ペインには、句が追加されます。

- p. 「OK」をクリックします。
- q. 「OK」をクリックします。
- 6. 「Security Group」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Security Group」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Hidden」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。
 - g. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly3）。
 - j. 「OK」をクリックします。
 - k. 「Field」ドロップダウン・オプション・リストから「Security Group」を選択します。
 - l. 「Operation」ドロップダウン・オプション・リストから「Matches」を選択します。
 - m. 「Value」ドロップダウン・オプション・リストから適切な選択肢を選択します。
たとえば、このプロファイルを使用してチェックインしたドキュメントを表示する権限を与えられた人事部またはその他の部門を選択します。これは、権限のないユーザーが「Security Group」メタデータ・フィールドを使用してこれらのドキュメントを検索および取得できないようにするのに役立ちます。
 - n. 「Add」をクリックします。
 - o. 「OK」をクリックします。
 - p. 「OK」をクリックします。

7. 「Content ID」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Content ID」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Hidden」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。
 - g. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly4）。
 - j. 「OK」をクリックします。
 - k. 「Field」ドロップダウン・オプション・リストから「Content ID」を選択します。
 - l. 「Operation」ドロップダウン・オプション・リストから「Begins With」を選択します。
 - m. 機密文字列を入力するか、オプションで「Select」をクリックします。

「Edit Derived Value」: 「Select Field」画面（8-71 ページ）が表示されます。リストからコンテンツ・アイテムを選択できます。ただし、セキュリティを確実に高めるために、一意の文字列（たとえば、Res）を入力する必要があります。これは、権限のないユーザーが「Content ID」メタデータ・フィールドを使用してこれらのドキュメントを検索および取得できないようにするのに役立ちます。
 - n. 「OK」をクリックします（「Content Item View」画面（1-12 ページ）からコンテンツ・アイテムを選択した場合）。
 - o. 「Add」をクリックします。
 - p. 「OK」をクリックします。
 - q. 「OK」をクリックします。

8. 「Revision」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Revision」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Hidden」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。
 - g. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly5）。
 - j. 「OK」をクリックします。
 - k. 「Field」ドロップダウン・オプション・リストから「Revision」を選択します。
 - l. 「Operation」ドロップダウン・オプション・リストから「Begins With」を選択します。
 - m. 上の「Value」フィールドに機密文字列を入力します（たとえば、Res）。これは、権限のないユーザーが「Revision」メタデータ・フィールドを使用してこれらのドキュメントを検索および取得できないようにするのに役立ちます。
 - n. 「Add」をクリックします。
 - o. 「OK」をクリックします。
 - p. 「OK」をクリックします。
9. 「Release Date」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Release Date」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Hidden」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。

- g. 「**Is derived field**」チェック・ボックスを選択し、対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
 - h. 「**Conditions**」タブで、「**Add**」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly6）。
 - j. 「**OK**」をクリックします。
 - k. 下の「**Value**」フィールドに、機密文字列を入力します（たとえば、No specific release date）。これは、権限のないユーザーがこのプロフィールを使用してチェックインしたドキュメントの検索および取得に「**Release Date**」メタデータ・フィールドを使用できないようにするのに役立ちます。
 - l. 「**OK**」をクリックします。
 - m. 「**OK**」をクリックします。
10. 「**Expiration Date**」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
- a. 「**Fields**」タブで、「**Add**」をクリックします。
 - b. 「**Field Name**」ドロップダウン・オプション・リストから「**Expiration Date**」を選択します。
 - c. 「**Field Position**」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「**OK**」をクリックします。
 - e. 「**Type**」ドロップダウン・オプション・リストから「**Hidden**」を選択します（これにより、「**Check In**」、「**Update**」、「**Content Information**」および「**Search**」の各ページでこのメタデータ・フィールドが表示されないようにします）。
 - f. オプションで、「**Required Message**」フィールドに文を入力します。
 - g. 「**Is derived field**」チェック・ボックスを選択し、対応する「**Edit**」ボタンをクリックします。
 - h. 「**Conditions**」タブで、「**Add**」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、HRsEyesOnly7）。
 - j. 「**OK**」をクリックします。
 - k. 下の「**Value**」フィールドに、機密文字列を入力します（たとえば、No specific expiration date）。これは、権限のないユーザーがこのプロフィールを使用してチェックインしたドキュメントの検索および取得に「**Expiration Date**」メタデータ・フィールドを使用できないようにするのに役立ちます。
 - l. 「**OK**」をクリックします。
 - m. 「**OK**」をクリックします。
11. 「**OK**」をクリックします。
- 「Add Rule」画面が閉じられます。

可視メタデータ・フィールドのプロファイル・ルールの作成

1. 「Rules」タブで、「Add」を選択します。
2. 「General」タブで、「Name」フィールドにプロファイル・ルール名を入力します（たとえば、VisibleFields）。
3. オプションで、プロファイル・ルールの説明を入力します。
4. 「Type」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Type」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Label」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこれを読み取り専用メタデータ・フィールドにします）。
 - f. オプションで、「Required Message」フィールドに文を入力します。
 - g. 「Use default value」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - h. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - i. フィールド条件名を入力します（たとえば、ResumeType）。
 - j. 「OK」をクリックします。
 - k. 下の「Value」フィールドに、「Resume」を入力します。
 - l. 「OK」をクリックします。
 - m. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - n. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - o. フィールド条件名を入力します（たとえば、ResumeType2）。
 - p. 「OK」をクリックします。
 - q. 下の「Value」フィールドで、「Value」ドロップダウン・オプション・リストから適切なドキュメント・タイプを選択します（たとえば、HRresumes）。
 - r. 「OK」をクリックします。
 - s. 「OK」をクリックします。

5. 「Comments」メタデータ・フィールドを次のように追加し、定義します。
 - a. 「Fields」タブで、「Add」をクリックします。
 - b. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Comments」を選択します。
 - c. 「Field Position」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な位置を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Type」ドロップダウン・オプション・リストから「Edit」を選択します（これにより、「Check In」、「Update」、「Content Information」および「Search」の各ページでこのメタデータ・フィールドを編集可能にします）。
 - f. 「Use default value」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。
 - g. 「Conditions」タブで、「Add」をクリックします。
 - h. フィールド条件名を入力します（たとえば、PositionAppliedFor）。
 - i. 「OK」をクリックします。
 - j. 下の「Value」フィールドに、機密文字列を入力します（たとえば、Please specify the position title）。
 - k. 「OK」をクリックします。
 - l. 「OK」をクリックします。
 - m. 「OK」をクリックします。

履歴書用のブラックホール・チェックイン・プロフィールの作成

1. 「Configuration Manager」の「Profile」タブを開き、「Select」をクリックします。
[「Add Profile」画面](#)（8-84 ページ）が表示されます。
2. 「Field Name」ドロップダウン・オプション・リストから「Type」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. 「Profiles」タブで「Add」をクリックします。
[「Add Profile」画面](#)（8-84 ページ）が表示されます。
5. プロファイル名を入力します（たとえば、BlackHoleResumeCheckIn）。
6. 「OK」をクリックします。
[「Add Profile」](#) / [「Edit Profile」画面](#)（8-84 ページ）が表示されます。
7. 「Description」フィールドにプロフィールの説明を入力します（たとえば、For internal user resumes only）。

8. 「Trigger」ドロップダウン・オプション・リストから「HRresumes」（または同等のオプション）を選択します。
9. このプロフィールにルールを含めるために「Add」をクリックします。
「Add Rule」画面（8-91 ページ）が表示されます。
10. 「Name」ドロップダウン・オプション・リストから「NoExtraFields」ルールを選択します。
11. 「Rule Priority」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な優先度の位置を選択します。
12. 「OK」をクリックします。
13. 「Add」をクリックします。
14. 「Name」ドロップダウン・オプション・リストから「VisibleFields」ルールを選択します。
15. 「Rule Priority」ドロップダウン・オプション・リストから一般的な優先度の位置を選択します。
16. 「OK」をクリックします。
17. 「OK」をクリックします。
「Add Profile」画面が閉じられ、プロフィールが「Profiles」タブ上のプロフィール・リストに追加されます。

ユーザー・ロールに基づくコンテンツ・チェックインを制限するグローバル・ルール

この例では、ユーザーがコンテンツをチェックインするときにメタデータ・フィールドを検証できるグローバル・ルールを作成する方法を示しています。グローバル・ルールは、リクエスト内のデータを検証し、データが正しくなければ、エラー・メッセージを返します。特にこの例では、管理者のみに、「Content Type」として「ADACCT」を指定するコンテンツのチェックインを許可する方法を示しています。

Content Server でのグローバル・ルール違反に対する致命的エラー発行の有効化

1. テキスト・エディタで、次の config.cfg ファイルを開きます。

```
<install_dir>/config/config.cfg
```

2. 次の構成設定を追加します。

```
IsDpSubmitErrorFatal=true
```

3. ファイルを閉じて保存します。
4. Content Server を再起動します。

コンテンツ・タイプのチェックインを制限するグローバル・ルールの作成

このグローバル・ルールは、dDocType の値を検証し、管理者が ADACCT ドキュメントをチェックイン中であることを確認します。ただし、ルールは、「Check In」ページと「Update」ページのみに影響を与えるように構成されています。

1. Configuration Manager の「Rules」タブを開き、「Add」をクリックします。

[「Add Rule "name"」](#) / [「Edit Rule "name"」](#) 画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されます。

2. 「General」タブで、「Name」フィールドにグローバル・ルール名を入力します（たとえば、FailOnCheckInError）。
3. オプションで、グローバル・ルールの説明を入力します。
4. 「Is global rule with priority」チェック・ボックスを選択します。（オプションで優先番号を変更できます。）
5. 「Use rule activation condition」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

[「Edit Activation Condition」](#)：「Conditions」タブ（8-46 ページ）が表示されます。

6. 「Add」をクリックします。

[「Edit Activation Condition」](#)：「Add Condition」画面（8-47 ページ）が表示されます。

7. 「Name」フィールドに条件名を入力します（たとえば、CheckIn）。
8. 「OK」をクリックします。

「Add Condition」画面が閉じられ、[「Edit Activation Condition」](#)：「Conditions」タブ / 「General」タブ（8-48 ページ）が表示されます。句生成タブが、下のペインに表示されます。

9. 「Use event」チェック・ボックスを選択します。

10. 「**On Submit**」 チェック・ボックスを選択します。
11. 「**Use action**」 チェック・ボックスを選択します。
12. 「**Check in new**」、 「**Check in selected**」 および 「**Content update**」 チェック・ボックスを選択します。
13. 「**OK**」 をクリックします。
「**Edit Activation Condition**」 画面が閉じられ、「**Use rule activation condition**」 テキスト・ペインにアクティブ化条件句が入力されます。
14. 「**Fields**」 タブをクリックします。
「**Add Rule "name"**」 / 「**Edit Rule "name"**」 画面：「**Fields**」 タブ（8-57 ページ）が表示されます。
15. 「**Add**」 をクリックします。
「**Add Rule Field**」 画面（8-59 ページ）が表示されます。
16. 「**Field Name**」 ドロップダウン・リストから 「**Type**」 を選択します。
17. オプションで、「**Field Position**」 ドロップダウン・リストから一般的な位置を選択します。
18. 「**OK**」 をクリックします。
「**Add Rule Field "name"**」 / 「**Edit Rule Field "name"**」 画面（8-61 ページ）が表示されます。
19. 「**Is derived field**」 チェック・ボックスを選択し、対応する 「**Edit**」 ボタンをクリックします。
「**Edit Derived Value**」：「**Conditions**」 タブ（8-70 ページ）が表示されます。
20. 「**Custom**」 タブをクリックします。
「**Edit Derived Value**」：「**Custom**」 タブ（8-71 ページ）が表示されます。
21. 「**Custom**」 チェック・ボックスを選択し、次の **Idoc** スクリプトを入力します。

```
<$if dDocType like "ADACCT" and not userHasRole("admin")$>
<$abortToErrorPage("Only administrators can use ADACCT.")$>
<$endif$>
```
22. 「**OK**」 をクリックします。
23. 「**OK**」 をクリックします。
24. 「**OK**」 をクリックします。
ルールが「**Rules**」 リストに追加されます。

コンテンツ・タイプ・メタデータの変更を制限するグローバル・ルール

この例では、ユーザーがコンテンツをチェックインするときにメタデータ・フィールドを検証できるグローバル・ルールを作成する方法を示しています。グローバル・ルールは、リクエスト内のデータを検証し、データが正しくなければ、エラー・メッセージを返します。特にこの例では、管理者のみに、チェックイン・ドキュメントのコンテンツ・タイプの変更を許可する方法を示しています。

Content Server でのグローバル・ルール違反に対する致命的エラー発行の有効化

1. テキスト・エディタで、次の config.cfg ファイルを開きます。

```
<install_dir>/config/config.cfg
```

2. 次の構成設定を追加します。

```
IsDpSubmitErrorFatal=true
```

3. ファイルを閉じて保存します。
4. Content Server を再起動します。

コンテンツ・タイプの変更を制限するグローバル・ルールの作成

このグローバル・ルールは、dDocType の値を検証し、管理者がチェックイン・ドキュメントのコンテンツ・タイプを変更中であることを確認します。ただし、ルールは「Check In」ページにのみ影響を与えるように構成されています。

1. 「Configuration Manager」の「Rules」タブを開き、「Add」をクリックします。
「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「General」タブ（8-41 ページ）が表示されます。
2. 「General」タブで、「Name」フィールドにグローバル・ルール名を入力します（たとえば、FailOnCheckInError）。
3. オプションで、グローバル・ルールの説明を入力します。
4. 「Is global rule with priority」チェック・ボックスを選択します。（オプションで優先番号を変更できます。）
5. 「Use rule activation condition」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ（8-46 ページ）が表示されます。

6. 「Add」をクリックします。

「Edit Activation Condition」：「Add Condition」画面（8-47 ページ）が表示されます。

7. 「Name」フィールドに条件名を入力します（たとえば、CheckIn）。

8. 「OK」をクリックします。

「Add Condition」画面が閉じられ、「Edit Activation Condition」：「Conditions」タブ / 「General」タブ（8-48 ページ）が表示されます。句生成タブが、下のペインに表示されます。

9. 「Use event」チェック・ボックスを選択します。

10. 「On Submit」チェック・ボックスを選択します。

11. 「Use action」チェック・ボックスを選択します。

12. 「Content update」チェック・ボックスを選択します。

13. 「OK」をクリックします。

「Edit Activation Condition」画面が閉じられ、「Use rule activation condition」テキスト・ペインにアクティブ化条件句が入力されます。

14. 「Fields」タブをクリックします。

「Add Rule "name"」 / 「Edit Rule "name"」画面：「Fields」タブ（8-57 ページ）が表示されます。

15. 「Add」をクリックします。

「Add Rule Field」画面（8-59 ページ）が表示されます。

16. 「Field Name」ドロップダウン・リストから「Type」を選択します。

17. オプションで、「Field Position」ドロップダウン・リストから一般的な位置を選択します。

18. 「OK」をクリックします。

「Add Rule Field "name"」 / 「Edit Rule Field "name"」画面（8-61 ページ）が表示されます。

19. 「Is derived field」チェック・ボックスを選択し、対応する「Edit」ボタンをクリックします。

「Edit Derived Value」：「Conditions」タブ（8-70 ページ）が表示されます。

20. 「Custom」タブをクリックします。

「Edit Derived Value」：「Custom」タブ（8-71 ページ）が表示されます。

21. 「**Custom**」 チェック・ボックスを選択し、次の **Idoc** スクリプトを入力します。

```
<$oldType = getValue("DOC_INFO", "dDocType")$>  
<$newType = getValue("#local", "dDocType")$>  
<$if not (newType like oldType) and not (userHasRole("admin"))$>  
<$abortToErrorPage("Only administrators can change dDocType.")$>  
<$endif$>
```

22. 「**OK**」 をクリックします。

23. 「**OK**」 をクリックします。

24. 「**OK**」 をクリックします。

ルールが「**Rules**」 リストに追加されます。



LINK MANAGER によるリンク付きコンテンツの管理

概要

Link Manager は、Content Server 付属のオプション・コンポーネントです。インストールされると、索引付きコンテンツ・アイテムの URL リンクを、データベース表 (ManagedLinks) への格納のために抽出する前に、評価、フィルタ処理および解析します。ManagedLinks 表に抽出された URL リンクが移入されると、Link Manager コンポーネントではこの表を参照して、リンク検索結果、「Content Information」ページのリンク参照リストおよび「Link Info」ページのリソース情報を生成します。Link Manager コンポーネントを使用すると、次のことができます。

- ❖ 特定の検索基準を使用してリンクのリストを表示
- ❖ 特定のリンクに関する詳細な情報を表示
- ❖ リンクを再評価および検証するための再計算とリフレッシュ
- ❖ 特定のコンテンツ・アイテム内にある他のコンテンツへのリンクを表示
- ❖ 特定のコンテンツ・アイテムに戻るリンクを表示

検索結果、リンク参照リストおよび「Link Info」ページは、コンテンツの追加、変更またはリビジョン削除にどのコンテンツ・アイテムが影響を受けるかを確認するときに便利です。たとえば、コンテンツ・アイテムを削除する前に、そこに含まれている URL 参照が重要でないことを確認できます。コンテンツ・アイテムがどのように使用されているかを監視するためにも使用できます。



注意：Link Manager コンポーネントでは、Content Server の索引付けサイクル中に URL リンクを抽出するため、リリースされたコンテンツ・アイテムの URL リンクのみが抽出されます。複数のリビジョンを持つコンテンツ・アイテムの場合、データベース表では最近リリースされたリビジョンにのみエントリが入ります。コンテンツ・アイテムをチェックインした後に Link Manager コンポーネントをインストールする場合、ManagedLinks 表にすべてのリンクが確実に含まれるように、再構築を実行することが必要になります。



Link Manager では索引付けサイクル中にすべての作業を実行するため、コンテンツ・アイテムへの索引付けやコレクションの再構築に必要な時間が増えます。再構築サイクル中における Link Manager の無効化については、『Idoc スクリプト・リファレンス・ガイド』の LkDisableOnRebuild と LkReExtractOnRebuild に関する項を参照してください。

ただし、時間の大半がコレクションでのコンテンツ・アイテムの索引付けに費やされるため、かかる時間はそれほど目立たない可能性があります。それでも、必要な時間は、関連するコンテンツ・アイテムのタイプとサイズによって決まります。つまり、ファイルに変換が必要な場合、テキストベース（HTML）のファイルよりも時間がかかります。

ファイル形式、変換およびリンク抽出の詳細は、A-3 ページの「[リンク抽出プロセス](#)」および A-4 ページの「[ファイル形式と変換](#)」を参照してください。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [管理対象リンク](#) (A-3 ページ)
- ❖ [リンクの管理](#) (A-5 ページ)
- ❖ [Link Manager データベース表](#) (A-9 ページ)
- ❖ [Link Manager のフィルタ](#) (A-10 ページ)
- ❖ [Site Studio の統合](#) (A-12 ページ)
- ❖ [リンク管理](#) (A-14 ページ)

管理対象リンク

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [リンク抽出プロセス](#) (A-3 ページ)
- ❖ [ファイル形式と変換](#) (A-4 ページ)
- ❖ [リンク・ステータス](#) (A-5 ページ)

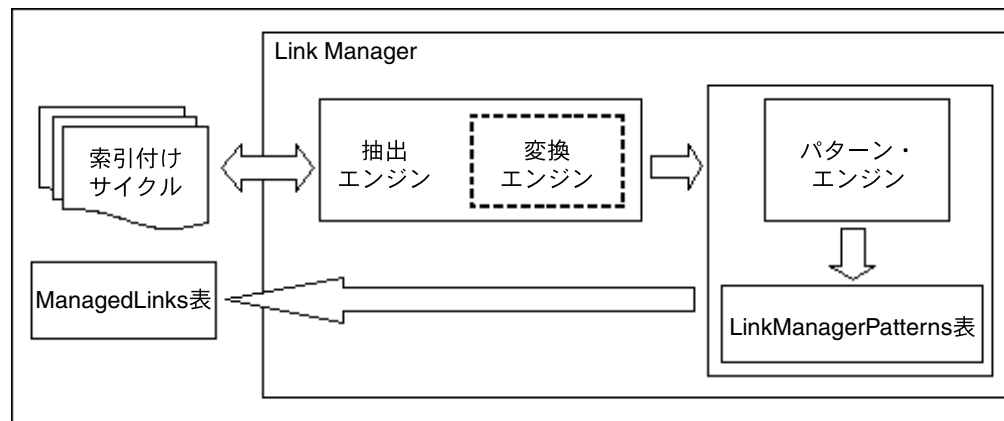
リンク抽出プロセス

Link Manager は、抽出エンジンとパターン・エンジンで構成されています。抽出エンジンには、変換エンジン (HtmlExport) が含まれています。変換エンジンは、抽出エンジンでは本来テキストベースのファイル形式 (HTML) に解析できないファイルの変換に使用されます。

Link Manager では、ファイル形式に hcs、htm、image、text、xml、jsp および asp の文字列のいずれかが含まれるファイルの変換に HtmlExport が使用されません。これらのテキストベースのファイルは、変換の必要なく Link Manager で処理されます。

索引付けサイクル中に、Link Manager コンポーネントは、URL リンクを見つけるために、チェックインされたコンテンツ・アイテムを検索します。これは次のように行われます。

1. 抽出エンジンでは、変換エンジンを使用して（必要な場合）ファイルを変換します。
2. 抽出エンジンは次にパターン・エンジンを使用して、LinkManagerPatterns 表で定義されているリンク評価ルールにアクセスします。
3. 評価ルールにより、抽出エンジンはコンテンツ・アイテム内の承認 URL リンクのソート、フィルタ処理、評価および解析の方法を判断します。
4. 承認 URL リンクは、ManagedLinks 表で挿入または更新されます。





警告: このリリースでは、Link Manager コンポーネントは、ファイル変換に HtmlExport 8 (Content Server の現行リリースに付属) を使用します。Link Manager コンポーネントには、リンク・エクストラクタ・テンプレート・ファイルが含まれています。HtmlExport 8 にはこのテンプレートが必要です。このファイルは編集しないでください。



重要: 実行を成功させるには、HtmlExport に仮想または物理ビデオ・インタフェース・アダプタ (VIA) のいずれかが必要です。たとえば、ほとんどの Windows 環境には、フレーム・バッファへの HtmlExport アクセスを提供するグラフィック機能が備わっています。ただし、UNIX システムにはグラフィック・カードがない場合があります、HtmlExport で使用する X-Windows サーバーが稼働していません。グラフィック・カードのないシステムの場合、仮想フレーム・バッファ (VFB) をインストールして使用できます。

ファイル形式と変換

リンクを抽出する前に、変換エンジン (HtmlExport) で変換する必要がある様々なファイル形式 (Word など) があります。ただし、テキストベースのファイル (HTML) 内のリンクは、HtmlExport で変換する必要なく Link Manager によって抽出できます。したがって、Link Manager では、ファイル形式に hcs、htm、image、text、xml、jsp および asp の文字列のいずれかが含まれるファイルの変換に HtmlExport が使用されません。

さらに、Link Manager では、これらのファイル形式のすべての変種を処理します。たとえば、hcs 文字列は、動的サーバー・ページ文字列の hcst、hcsp および hcsf と一致します。また、image 文字列は、image/gif、image/jpeg、image/rgb、image/tiff など、類似のすべての変種に一致します。これらに加えて、変換を希望しないその他のファイル・タイプがある場合があります。この場合、構成変数を使用して、それらの変換を防ぐことができます。詳細は、『Idoc スクリプト・リファレンス・ガイド』の LkDisallowConversionFormats に関する項を参照してください。

Link Manager では、次のファイル形式でリンクを認識します。

- ❖ テキストベース形式 (txt、html、xml、jsp、asp、csv、hcst、hcsf および hcsp)
- ❖ 電子メール (msg および eml)
- ❖ Microsoft Word
- ❖ Microsoft Excel
- ❖ OpenOffice Writer
- ❖ OpenOffice Calc

リンク・ステータス

新規および既存のリンクはすべて、索引付けサイクル中に管理されます。コンテンツ・アイテムをチェックインすると、これらのコンテンツ・アイテムの承認リンクが **ManagedLinks** 表に追加されます。さらに、既存リンクは、コンテンツ・アイテムのチェックインや削除の結果生じる変更に対して評価されます。リンクには、追加または監視されるときに、有効または無効のマークが付けられます。

システム内の 1 つのコンテンツ・アイテムがシステム内の別のコンテンツ・アイテムを参照すると、その結果生じるリンクには有効のマークが付きます。既存リンクが削除されたコンテンツ・アイテムを参照すると、そのリンクは再評価され、ステータスは有効から無効に変わります。ステータスは、**ManagedLinks** 表 (A-9 ページ) の「dLkState」列に「Y」(有効) または「N」(無効) として記録され、ユーザー向けに「Link Info」ページの「State」列に「Valid」または「Invalid」として表示されます。「Link Info」ページの詳細は、『Content Server ユーザー・ガイド』を参照してください。

リンクの管理

Link Manager コンポーネントでは、リソース表 (**LinkManagerPatterns**) で定義されているリンク・パターンを参照する抽出エンジンを使用します。これらのリンク・パターンは、様々なリンクのソート方法、フィルタで除去するリンク、承認するリンク、詳細を得るためにリンクを解析する方法を、抽出エンジンに伝えるルールです。



注意: **LinkManagerPatterns** 表は、他のコンポーネントから容易にアクセスできる hda 表です。**LinkManagerPatterns** 表は、次のファイルにあります。


```
<install_dir>/<instance_dir>/custom/LinkManager/resources/linkmanager_resource.htm
```

この項の内容は次のとおりです。


- ❖ **LinkManagerPatterns** 表 (A-6 ページ)
- ❖ **リンク・パターンとカスタマイズの例** (A-8 ページ)

LinkManagerPatterns 表

LinkManagerPatterns 表には次の列があります。

列名	説明
lkpName	パターンの名前を示し、表の主キーとみなされます。主にエラー処理に使用され、指定したルール of 指定変更を他のコンポーネントで直接できるようにします。
lkpDescription	パターンの目的の説明を示します。
lkpType	<p>タイプは、URL の初期スクリーニングを指定します。サポートされているタイプには次のものがあります。</p> <p>prefix: 指定したパラメータの URL のパス（またはアドレス）を調べます。パスが指定したパラメータの 1 つで始まる場合、条件は満たされます。</p> <p>contains: 指定したパラメータの URL のパス（またはアドレス）を調べます。パスに指定したパラメータの 1 つが含まれる場合、条件は満たされます。</p> <p>service: URL の問合せ文字列を調べます。URL に IdcService の値が含まれる場合、およびこの値がパターンの 1 つに一致する場合、条件は満たされます。</p> <p> 注意: 抽出エンジンは実際には 2 ステップ・エンジンで、前述の 3 タイプは 2 つの異なるグループに分かれます。prefix および contains タイプが URL のパス部分で使用されるのに対し、service タイプは、URL の問合せ文字列部分で使用されます。</p>

列名	説明
lkpParameters	<p>タイプで使用するパターンまたはパラメータのカンマで区切られたリスト。パラメータは Idoc スクリプト対応で、Idoc スクリプトに対して最初に評価されます。エンジンでは、パラメータからパターンを抽出するために次のルールを使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パラメータ文字列は、Idoc スクリプトに対して評価されます。 2. パラメータは、カンマ・セパレータを使用して解析されます。結果は、パターンのリストです。 3. 各パターンは、デコードされた XML です。 <p>したがって、lkpParameters を <\$HttpRelativeWebRoot\$> に設定することにより、1 つのルールで <\$HttpRelativeWebRoot\$> に対して解決された値で始まる URL を検索します。次のルールでは、パラメータを &lt;\$HttpRelativeWebRoot\$&gt; に設定することにより、<\$HttpRelativeWebRoot\$> で始まる URL を検索します。</p>
lkpAccept	<p>パターンが一致する場合、この値により URL が承認されるかどうかが決まります。指定可能な値は次のとおりです。</p> <p>accept: パターンが一致する場合、URL は承認されます。</p> <p>filter: パターンが一致する場合、URL は却下されます。この値は通常、処理を停止するために「false」に設定された「lkpContinue」と組み合わせられます。</p> <p>pass: パターンが指定した値に対して一致する場合、決定は行われません。この URL をどのように処理するかを決めるには、「action」を使用します。</p>
lkpContinue	<p>値は、パターン処理エンジンが URL の解析を続行するかどうかを決定します。</p> <p>true: 処理は続きます。</p> <p>false: 処理は停止します。</p>
lkpLinkType	このリンクに決定した URL タイプを指定します。

列名	説明
lkpAction	<p>これは、LinkHandler クラスで定義された関数です。URL をさらに解析し評価するために使用される LinkImplementor クラスのメソッドを参照します。</p> <p> 注意: LinkImplementor は、別名の付いたクラス、または拡張されたクラス場合があります。</p>
lkpOrder	パターンが評価される順序。
lkpEnabled	この値は、Idoc スクリプト対応で、このルールを評価すべきかどうかを決定します。これは、パターンがロードされる起動時に計算され、評価されます。

リンク・パターンとカスタマイズの例

Link Manager コンポーネントには、コンポーネント・リソース表 (LinkManagerPatterns) が含まれています。リンク評価ルールの例は、この表を参照してください。この表は、

`<install_dir>/<instance_dir>/custom/LinkManager/resources/linkmanager_resource.htm` ファイルにあります。表は、新規ルールを追加するか、既存のデフォルト・ルールを編集することによりカスタマイズできます。LinkManagerPatterns 表は、標準コンポーネント・アーキテクチャを使用してカスタマイズできます。

LINK MANAGER データベース表

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [ManagedLinks 表](#) (A-9 ページ)
- ❖ [LinkReferenceCount 表](#) (A-10 ページ)

ManagedLinks 表

2:Data in Table 'ManagedLinks' in 'stellent' on '(local)'

dLkGUID	dLkC	dDocName	dLkType	dLkOriginalUrl	dLkResource	dLkF	dLkR	dLkH	dLkState	dLkCreateTs	dLkUpdateTs
168F-387C-48D1-F	20	SCSTEMP_001005	cs_service	http://dburketest/s	SCSTEMP_001008		doc	N	N	8/4/2005 1:04:57 F	8/5/2005 10:2:
19AA-FE23-E940-F	10	SCSTEMP_001006	external	http://dburketest/s				N	Y	8/4/2005 10:03:52	8/4/2005 2:51:
18E9-BA6D-86E3-4	4	SCSTEMP_001005	external	http://dburketest/s				N	Y	8/3/2005 2:45:37 F	8/4/2005 2:51:
1CF9-138C-4EF3-F	5	SCSTEMP_001005	cs_service	http://dburketest/s	SCSTEMP_001002		doc	N	Y	8/3/2005 2:45:37 F	8/4/2005 2:51:
2355-645E-0AA8-6	21	SCSTEMP_001005	cs_service	http://dburketest/s	SCSTEMP_001008		doc	N	N	8/4/2005 1:04:57 F	8/5/2005 10:2:
43F9-D09D-413C-C	3	SCSTEMP_001005	cs_service	http://dburketest/s	SCST_0027_EN		doc	N	Y	8/3/2005 2:45:37 F	8/4/2005 2:51:
8C09-B50D-5B01-B	9	SCSTEMP_001005	cs_service	http://dburketest/s	OCTEMP_PPOINT		doc	N	Y	8/3/2005 2:45:37 F	8/4/2005 2:51:



重要: 問合せ実行パフォーマンスを高めるために、標準索引が ManagedLinks 表の「dDocName」列と「dLkResource」列に追加されています。システム管理者は、様々なシステム環境で特定のデータベース・チューニング要件に対応するために、これらの索引を調整する責任があります。

パターン・エンジンでリンクの処理に成功し、リンクが承認可能と判断されると、そのリンクは ManagedLinks 表に格納されます。表内の各リンクには一意のクラス ID (dLkClassId) が割り当てられ、表内の各行には一意の GUID (dLkGUID) があります。1 つのリンクが複数のリソースで定義され、各リソースが単独でリンクを中断できる場合、そのリンクは、表内の複数の行で構成されている可能性があります。

これは特に、1 つのリンクがノードとコンテンツ・アイテムの両方で定義されている可能性がある Site Studio リンクの場合に当てはまります。ノードが見つからない場合、リンクは中断されます。コンテンツ・アイテムが見つからない場合、リンクは中断されます。この場合、互いに依存しない 2 つのリソースがあり、それぞれがリンクを中断できます。その結果、各リソースは ManagedLinks 表で別々に管理されます。Site Studio のリンクの詳細は、A-12 ページの「[Site Studio の統合](#)」を参照してください。



注意: コンテンツ・アイテムがチェックインされ、リンクがそれを参照するとき、リンクには有効のマークが付きます。リンクが削除されたコンテンツ・アイテムを参照すると、そのリンクには無効のマークが付きます。「dLkState」列には、リンクのステータスが「Y」(有効) または「N」(無効) として示されます。

LinkReferenceCount 表

dDocName	dkRefCount
DCTEMP_PPOINT	2
SCST_0005_EN	2
SCST_0027_EN	2
SCSTEMP_001002	2
SCSTEMP_001005	2
SCSTEMP_001006	2
SCSTEMP_001008	2

LinkReferenceCount 表では、コンテンツ・アイテムが、それぞれが ManagedLinks 表で参照される回数にマップされます。この表内のコンテンツ・アイテムは、現在 Content Server で管理されているコンテンツ・アイテムではない可能性があります。この表にコンテンツ・アイテムのエントリがある場合、ManagedLinks 表内のリンクが、パターン・エンジンによって解析されたときに、コンテンツ・アイテムを doc リソースとして参照したことを示しています。

LINK MANAGER のフィルタ

Link Manager コンポーネントには、パターン・エンジンの部品用に、いくつかの非常に特殊な動作をカスタマイズできるフィルタが用意されています。一般に、パターン・エンジンのルールは、最も変更されやすいものです。ただし、ある特定の状況では、Link Manager により標準の動作を強化するためのフィルタが明示的に作成および使用されます。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [extractLinks フィルタ](#) (A-11 ページ)
- ❖ [linkParseService フィルタ](#) (A-11 ページ)
- ❖ [sortAndDecodeLinks フィルタ](#) (A-11 ページ)

extractLinks フィルタ

extractLinks フィルタは、抽出エンジンで承認 URL リンクが解析されるときに [リンク抽出プロセス](#) (A-3 ページ) 中に使用されます。リンクの抽出中に、Link Manager は特定の HTML タグを探します。ただし、他の HTML タグにも関連のリンクを含めることを決定してもかまいません。この場合、このフィルタを使用して、これらの追加リンクを抽出できます。

タグは、キー HtmlTag とともに、キャッシュされたオブジェクトとしてフィルタに渡されます。値（つまりリンク）は、キー HtmlValue とともに、解析に戻されます。フィルタにより追加情報が抽出された場合、渡されたバインダが、パターン・エンジンに渡される前にフラッシュされることを承知しておいてください。service.setCachedObject および service.getCachedObject メソッドはそれぞれ、追加情報を渡し、取得する必要があります。



注意: デフォルトでは、<a>、<link>、<iframe>、、<script> および <frame> の HTML タグを探します。

linkParseService フィルタ

linkParseService フィルタは、パターン・エンジンがリンクを評価するときの [リンク抽出プロセス](#) (A-3 ページ) 中に使用されます。特に、IdcService パラメータを使用すると識別されるリンクの場合です。評価後、リンク・バインダとサービスは、linkParseService フィルタに提供されます。

サービスには、解析済の URL と情報マップのバインダが含まれています。特定のパラメータを調整して、解析済 URL バインダで値をカスタマイズすることを選択できます。または、parseService メソッドに URL バインダから抽出するパラメータや、データをリソース・タイプにマップする方法を指示する情報マップをカスタマイズすることを決定してもかまいません。

sortAndDecodeLinks フィルタ

sortAndDecodeLinks フィルタは、「refresh」オプションからのみ使用できます。つまり、ユーザーがリンクをリフレッシュしているときにのみコールされます。Link Manager のリフレッシュ・オプションの詳細は、A-14 ページの「[Managed Links Administration](#)」ページを参照してください。サービスには、ManagedLinks 表に格納されているリンクのソート済リスト含む LinkSetMap が含まれています。リフレッシュにより、Site Studio のリンクと、doc リソースを参照するすべてのリンクの存在を検証します。ただし、標準の検証を強化するコンポーネントの作成を決定することもできます。

SITE STUDIO の統合



重要：Site Studio を使用している場合、HasSiteStudio 構成変数値を **true** に設定する必要があります。この変数により、パターン・エンジンにとってフレンドリな URL の解析用の Site Studio 固有のパターンを有効にします。HasSiteStudio 変数の詳細は、『Idoc スクリプト・リファレンス・ガイド』を参照してください。

Site Studio とともに機能するように構成されると、Link Manager では、Site Studio で識別されたリンクの解析を直接リクエストすることにより、Site Studio からリンクを取得します。かわりに、Site Studio は、リンクの状態やコンポーネントに関する情報を提供します。特に、Site Studio は、ノード / セクション、コンテンツ・アイテムが使用されるかどうか、コンテンツ・アイテムの状態、リンクのタイプ（フレンドリ、ページまたはノード）およびリンクが有効かどうかに関する情報を提供します。



注意：Site Studio では、スタンドアロン・アプリケーションの起動時に、プロジェクト情報がロードされません。したがって、スタンドアロン・アプリケーションによって再構築または索引更新サイクルが開始または完了される場合、Site Studio リンクは正しく評価されません。

ユーザーが Site Studio によってリンクを変更するとき、Link Manager はフィルタ・イベントをリスニングします。その結果、ノードが削除されると、Link Manager では、削除されたノードを使用するすべてのリンクに無効のマークを付けます。これは、Link Manager でノード ID を直接参照するリンクをうまく管理できるということです。さらに、Site Studio から提供された情報により、Link Manager はリンクの状態を正確に判断できます。

ただし、フレンドリ URL（つまり、ノード ID または dDocName を参照しないリンク）は、管理や正確さの保証がより難しくなります。ノードのプロパティが変わると、Link Manager は、このノードを使用するすべてのフレンドリ・リンクを無効で中断したものとしてマークを付けます。これには絶対リンクと相対リンクの両方が含まれます。実際にはそのとおりでなくても、Link Manager では、リンクのどの部分に変更されたか、その修正の方法、または実際に中断しているかどうかを判断するために、親のチェーンをさかのぼって調べることはできません。

Site Studio で管理されるリンクのタイプ

Site Studio では、2 タイプの管理対象リンクを使用します。

❖ 完全な管理対象リンク：

- SS_GET_PAGE IdcService を使用するリンク
- 次のものを含むノードへのリンク：
 - javascript:nodelink (ノード、サイト)
 - javascript:nodelink (ノード)
 - ssNodeLink (ノード、サイト)
 - ssNodeLink (ノード)
 - ssNODELINK/ サイト / ノード
 - ssNODELINK/ ノード
- 次のものを含むページへのリンク：
 - javascript:link (ドキュメント、ノード、サイト)
 - javascript:link (ドキュメント、ノード)
 - javascript:link (ドキュメント)
 - ssLink (ドキュメント、ノード、サイト)
 - ssLink (ドキュメント、ノード)
 - ssLink (ドキュメント)
 - ssLINK/ サイト / ノード / ドキュメント
 - ssLINK/ ノード / ドキュメント
 - ssLINK/ ドキュメント

❖ 条件付きの管理対象リンク：次の Site Studio リンクは、Site Studio ノードの変更次第で管理されます。リンクの状態は、「[Managed Links Administration](#)」ページ (A-14 ページ) から「refresh」オプションを使用することで判断できます。リンクの大部分がこの形で、ノードが劇的に変化した場合、リンクをリフレッシュまたは再計算することをお勧めします。

- 絶対 (または完全 URL) : `http://site/node/doc.htm`
- ノードへのフレンドリ・リンク
 - `<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->dir/dir/index.htm`
 - `[!--$ssServerRelativeSiteRoot--]dir/dir/index.htm`
 - `<%=ssServerRelativeSiteRoot%>dir/dir/index.htm`

- ページへのフ렌ドリ・リンク

```
<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->dir/dir/doc.htm
```

```
[!--$ssServerRelativeSiteRoot--]dir/dir/doc.htm
```

```
<%=ssServerRelativeSiteRoot%>dir/dir/doc.htm
```

リンク管理

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ 「[Managed Links Administration](#)」 ページ (A-14 ページ)
- ❖ [リフレッシュ・アクティビティのステータス](#) (A-16 ページ)
- ❖ [リフレッシュの代替方法](#) (A-16 ページ)
- ❖ [ManagedLinks 表のリンクの再計算](#) (A-17 ページ)
- ❖ [ManagedLinks 表のリンクのリフレッシュ](#) (A-17 ページ)
- ❖ [参照カウントのリフレッシュ](#) (A-17 ページ)
- ❖ [リフレッシュ・アクティビティの中断](#) (A-18 ページ)

「Managed Links Administration」 ページ

Managed Links Administration	
Status	
Ready	
Options	
Recompute links	Go
The managed links are recomputed using the pattern engine. Each link in the ManagedLinks table will be parsed and reevaluated according to the pattern rules. Links are not reextracted from the containing documents.	
Refresh links	Go
Refresh the managed links as they are in the ManagedLinks table. Links are determined to be good or broken, but they are not recomputed using the pattern engine.	
Refresh references counts	Go
This option counts the content references as they are in the managed links table. Each content item referenced in the table will be tallied and stored in the reference table.	
Abort refresh activity	Go
Aborts the current refresh activity at the earliest possible moment.	

「Managed Links Administration」ページでは、ManagedLinks 表と LinkReferenceCount 表を更新するために、リフレッシュ・アクティビティを実行できます。「Managed Links Administration」ページには、「Administration」トレイで「Managed Links Administration」リンクをクリックすればアクセスできます。

機能	説明
Status	ステータスは、Content Server がリフレッシュ・アクティビティを実行中かどうかを示します。アイドル時、ステータスは「Ready」です。それ以外の場合、ステータスには、実行中のリフレッシュの種類、処理されたリンク数および発生したエラー数が表示されます。リフレッシュ・ステータス情報の例は、A-16 ページの「 リフレッシュ・アクティビティのステータス 」を参照してください。
「Recompute links」オプション	このリフレッシュ・アクティビティは ManagedLinks 表の各リンクを取得し、パターン・エンジンに再送信します。リンクは、パターン・ルールに従って評価され、表内で更新されます。リンクは、有効または無効になったパターンに応じて、別のタイプのリンクに分類しなおされる場合があります。パターン・ルールが変更された場合、このオプションを使用します。
「Refresh links」オプション	<p>このリフレッシュ・アクティビティは ManagedLinks 表の各リンクを取得し、リンクが有効かどうかの判断を試みます。Site Studio リンクの特別な場合では、リンクが Site Studio のデコード・メソッドに送信されます。これによって、どのノードやコンテンツ・アイテムがリンクで使用されるかが判断されます。リンクが有効かどうか、確かに Site Studio リンクかどうかも判断されます。</p> <p>Site Studio のノードまたはセクションのプロパティに多数の変更があったときには、このオプションを使用します。</p> <p>LinkManager では、Site Studio のフレンドリ・リンクに対する変更を完全に追跡できません。リンクをリフレッシュするか、強制的に検証を実行することにより、Link Manager はより正確にどのリンクが中断し、どのリンクが有効かを判断できます。</p>

機能	説明
「Refresh references counts」オプション	このリフレッシュ・アクティビティは、LinkReferenceCount 表をフラッシュし、ManagedLinks 表にコンテンツ・アイテム参照を問い合わせます。表の再計算とリフレッシュのアクティビティはどちらも、LinkReferenceCount 表をメンテナンスしようとするアクティビティです。ただし、ときどき、この表は同期がずれてしまうことがあり、このオプションを静止したシステムで使用すると、表が再構築されます。
「Abort refresh activity」オプション	このオプションは、現行のリフレッシュ・アクティビティを中断します。どの時点でも、アクティブにできるリフレッシュ・アクティビティは1つのみです。

リフレッシュ・アクティビティのステータス

次の画面は、リフレッシュ・アクティビティ中に生成されたステータス・メッセージの例を示しています。

Status
The refresh activity refresh counters has completed 10 out of 12 links with 0 errors. Updating reference counters for link 11 of 12.

リフレッシュの代替方法

「[Managed Links Administration](#)」 ページ (A-14 ページ) で使用可能なリフレッシュ・アクティビティの他に、ManagedLinks 表と LinkReferenceCount 表の更新に使用できる代替方法もあります。

- ❖ Repository Manager を使用して、コレクションの再構築を実行します。このプロセスにより検索索引全体が再構築され、再構築が無事完了すると、古い索引コレクションが新しい索引コレクションに置き換えられます。

Repository Manager をスタンドアロン・アプリケーションとして開くと、HasSiteStudio 構成変数が無効のときにしか、この代替リフレッシュ方法を使用できません。Site Studio から情報がリクエストされ、Repository Manager がスタンドアロン・モードである場合、Site Studio は完全に初期化されず、正確な情報を返しません。これは、Repository Manager アプレットを開いた場合には、問題になりません。

- ❖ コンテンツがシステム内にある間にカスタム・フィールドが追加された場合、「Rebuild Search Index」ボタンが有効になっているため、Configuration Manager を使用して更新を実行できます。これにより、検索索引全体が再構築されます。

ManagedLinks 表のリンクの再計算

ManagedLinks 表でリンクを再評価するには、次のようにします。

1. 「Administration」トレイで「**Managed Links Administration**」リンクをクリックします。「Managed Links Administration」ページが表示されます。
2. 「Recompute links」オプションの隣にある「**Go**」をクリックします。「Status」領域には、処理されたリンク数と発生したエラー数が示されます。



注意: どの時点でも、アクティブにできるリフレッシュ・アクティビティは1つのみです。別のリフレッシュ・アクティビティを試行するには、リフレッシュ・アクティビティが完了し、「Ready」ステータスが表示されるまで待つ必要があります。

ManagedLinks 表のリンクのリフレッシュ

ManagedLinks 表でリンクを更新するには、次のようにします。

1. 「Administration」トレイで「**Managed Links Administration**」リンクをクリックします。「Managed Links Administration」ページが表示されます。
2. 「Refresh links」オプションの隣にある「**Go**」をクリックします。「Status」領域には、処理されたリンク数と発生したエラー数が示されます。



注意: どの時点でも、アクティブにできるリフレッシュ・アクティビティは1つのみです。別のリフレッシュ・アクティビティを試行するには、リフレッシュ・アクティビティが完了し、「Ready」ステータスが表示されるまで待つ必要があります。

参照カウントのリフレッシュ

LinkReferenceCount 表でリンクを更新するには、次のようにします。

1. 「Administration」トレイで「**Managed Links Administration**」リンクをクリックします。「Managed Links Administration」ページが表示されます。
2. 「Refresh references counts」オプションの隣にある「**Go**」をクリックします。「Status」領域には、処理されたリンク数と発生したエラー数が示されます。



注意: どの時点でも、アクティブにできるリフレッシュ・アクティビティは1つのみです。別のリフレッシュ・アクティビティを試行するには、リフレッシュ・アクティビティが完了し、「Ready」ステータスが表示されるまで待つ必要があります。

リフレッシュ・アクティビティの中断

選択したリフレッシュ・アクティビティを中断するには、次のようにします。

1. 「Administration」トレイで「**Managed Links Administration**」リンクをクリックします。「Managed Links Administration」ページが表示されます。
2. 「Abort refresh activity」オプションの隣にある「**Go**」をクリックします。リフレッシュ・アクティビティが停止し、「Status」領域は「Ready」ステータスに戻ります。

索引

A

「Abort refresh activity」オプション
「Managed Links Administration」ページ, A-16
「Account」フィールド, 4-5
「Add Custom Info」画面, 4-13
「Add File Extensions」画面, 3-8
「Add New Content Item」画面, 5-16
「Add New Content Type」画面, 2-6
「Add New File Format」画面, 3-7
「Add New Revision」画面, 5-28
「Add New Subscription Type」画面, 6-9
「Add Profile "name"」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-85
「Add Profile」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-84
「Add Rule "name"」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-41
「Add Rule "name"」画面: 「Fields」タブ
 コンテンツ・プロファイル, 8-57
「Add Rule Field "name"」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-61
「Add Rule Field」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-59
「Add Rule」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-91
「Add」画面, 6-14
「Approve Revision」画面, 5-30
「Author」フィールド, 4-4

C

「Check In Link」/ 「Search Link」: 「Add Condition」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-90
「Check In Link」/ 「Search Link」: 「Custom」タブ
 コンテンツ・プロファイル, 8-90
「Check In Link」/ 「Search Link」画面: 「Conditions」
 タブ

 コンテンツ・プロファイル, 8-88
「Check Out Item」画面, 5-23
「Comments」フィールド, 4-5
Configuration Manager, 1-7
 「Content Types」タブ, 2-4
 「File Formats」タブ, 3-5
 「Profiles」タブ, 8-82
 「Rules」タブ, 8-40
 コンテンツ・タイプの削除, 2-4
 コンテンツ・タイプの作成, 2-3
 コンテンツ・タイプの設定, 2-1
 コンテンツ・タイプの編集, 2-3
 メタデータの設定, 4-1
 メタデータ・フィールドの編集, 4-7
「Content ID」フィールド, 4-4
「Content Item Subscribed」画面, 6-13
「Content Item View」画面
 コンテンツ・プロファイル, 1-12
Content Server
 目的, 1-5

D

DCL, 7-3
「Define Filter」画面, 5-10
「Delete All Revisions」画面, 5-27
「Delete Revision」画面, 5-26

E

Edit and Multiselect List, 4-17
Edit and Select List, 4-17
「Edit Content Type」画面, 2-6
「Edit Default Value」: 「Add Condition」画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-68
「Edit Default Value」: 「Conditions」タブ
 コンテンツ・プロファイル, 8-66

「Edit Default Value」: 「Custom」タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-70
「Edit Default Value」: 「Select Field」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-69
「Edit Derived Value」: 「Add Condition」画面タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-70
「Edit Derived Value」: 「Conditions」タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-70
「Edit Derived Value」: 「Custom」タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-71
「Edit Derived Value」: 「Select Field」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-71
「Edit File Extension」画面, 3-8
「Edit File Format」画面, 3-7
「Edit Filter」画面, 6-12
「Edit Group Header」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-44
「Edit Profile "name"」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-85
「Edit Restricted List」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-72
「Edit Rule "name"」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-41
「Edit Rule "name"」画面: 「Fields」タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-57
「Edit Rule Field "name"」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-61
「Edit Subscription Type」画面, 6-9
「Edit Trigger Field」画面
コンテンツ・プロファイル, 8-75
「Expiration Date」フィールド, 4-6
extractLinks
Link Manager のフィルタ, A-11

F

「Fields」画面, 6-10

I

Inbound Refinery
ファイルの再送信, 5-30
「Information」画面, 5-30

J

Java アプレット, 1-8

L

Link Manager
概要, A-1
検索オプション, A-1
フィルタ, A-10
リンク抽出プロセス, A-3
LinkManagerPatterns
「IkpAccept」列, A-7
「IkpAction」列, A-8
「IkpContinue」列, A-7
「IkpDescription」列, A-6
「IkpEnabled」列, A-8
「IkpLinkType」列, A-7
「IkpName」列, A-6
「IkpOrder」列, A-8
「IkpParameters」列, A-7
「IkpType」列, A-6
表内のデフォルトの例, A-8
表の説明, A-5
表の列, A-6
linkParseService
Link Manager のフィルタ, A-11
LinkReferenceCount 表
概要, A-10
IkpAccept
ルール表内の列, A-7
IkpAction
ルール表内の列, A-8
IkpContinue
ルール表内の列, A-7
IkpDescription
ルール表内の列, A-6
IkpEnabled
ルール表内の列, A-8
IkpLinkType
ルール表内の列, A-7
IkpName
ルール表内の列, A-6
IkpOrder
ルール表内の列, A-8
IkpParameters
ルール表内の列, A-7
IkpType
ルール表内の列, A-6

M

「Managed Links Administration」 ページ
 「Abort refresh activity」 オプション, A-16
 「Recompute links」 オプション, A-15
 「Refresh links」 オプション, A-15
 「Refresh references counts」 オプション, A-16
 「Status」 フィールド, A-15
 概要, A-15
 ManagedLinks 表
 概要, A-9
 MIME タイプ, 3-2

N

NotificationIntervallnDays, 5-14
 NotificationMaximum, 5-14
 NotifyExtras, 5-14
 NotifyTime, 5-14

O

「Option List」 画面, 4-21
 Oracle, 4-4

P

passthru, 3-4
 「Preview Profile」 画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-92
 「Preview Results」 画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-94
 「Profile Links」 画面
 コンテンツ・プロファイル, 8-87
 「Profiles」 タブ
 概要と説明, 8-82

R

「Recompute links」 オプション
 「Managed Links Administration」 ページ, A-15
 「Refresh links」 オプション
 「Managed Links Administration」 ページ, A-15
 「Refresh references counts」 オプション
 「Managed Links Administration」 ページ, A-16
 「Reject Revision」 画面, 5-31
 「Release Date」 フィールド, 4-6

RepMan 権限, 5-3
 Repository Manager, 5-1
 「Content」 タブ, 5-3, 5-4
 「Subscriptions」 タブ, 6-4
 機能, 5-10, 5-28
 コンテンツ・アイテムのすべてのリビジョンの削除,
 5-21
 サブスクライブ解除, 6-8
 サブスクリプション基準の指定, 6-4
 サブスクリプションの表示, 5-28
 新規コンテンツ・アイテムの追加, 5-10
 新規リビジョンの追加, 5-28
 チェックアウト, 5-28
 チェックアウトの取消し, 5-19
 ファイルの表示, 5-3
 フィルタを使用したファイルの表示, 5-4
 変換のためのファイルの再送信, 5-30
 メタデータの更新, 5-11
 メタデータの表示, 5-11
 リビジョンの削除, 5-20
 ワークフロー・リビジョンの却下, 5-29
 ワークフロー・リビジョンの承認, 5-28
 Repository Manager 機能の実行, 5-10, 5-28
 「Revision」 フィールド, 4-5
 「Rules」 タブ
 概要と説明, 8-40

S

「Security Group」 フィールド, 4-4
 「Select Alias」 画面, 6-16
 Select List Not Validated, 4-17
 Select List Validated, 4-17
 「Select User」 画面, 6-15
 「Show Columns」 画面, 1-21
 Site Studio
 Link Manager との統合, A-12
 完全な管理対象リンク, A-13
 条件付きの管理対象リンク, A-13
 リンク管理, A-12
 sortAndDecodeLinks
 Link Manager のフィルタ, A-11
 「Status」 フィールド
 「Managed Links Administration」 ページ, A-15
 「Subscribers」 画面, 5-28
 「Subscription Detail」 画面, 6-19
 「Subscriptions Filter」 画面, 6-19

T

「Title」フィールド, 4-4

「Type」フィールド, 4-4

U

「Undo Check Out」画面, 5-24

UNIX

サービス, 1-9

「Update Content Info」画面, 5-17

「Update Database Design」画面

メタデータ・フィールド, 4-23

URL リンク

検索オプション, A-1

URL リンクの抽出

プロセス概要, A-3

URL リンク・パターン

概要, A-5

デフォルトの例, A-8

表の列, A-6

「User View」画面

コンテンツ・プロファイル, 1-14

「Users Subscribed」画面, 6-11

アクティブ化条件 - 「Custom」タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-54

アクティブ化条件 - 「General」タブ
コンテンツ・プロファイル, 8-48

アプリケーション

アプレットとしての実行, 1-7

スタンドアロン・モードでの実行, 1-8

アプリケーション・フィールド

概要, 1-3, 4-2

アプレット, アプリケーションの実行, 1-7

い

依存選択リスト, 7-3

インデкса

ステータス, 1-17

お

オプション・リスト

タイプ, 4-17

追加, 4-8

親 / 子関係, 7-4

か

カウン트의更新

「Managed Links Administration」ページを使用する
リフレッシュ・アクティビティ, A-16

手順, A-17

カスタム情報フィールドの追加画面, 4-14

カスタム情報フィールドの編集画面, 4-14

カスタム・フィールド, 4-2

管理, 4-6

カスタム・フィールドの作成, 4-2

カスタム変換, 3-4

管理

ツール, 1-7

管理アプリケーション

アプレットとしての実行, 1-7

管理者, 1-6

ドキュメント, 1-4

管理者のドキュメント, 1-4

き

基準, サブスクリプションの指定, 6-4

基準サブスクリプション, 6-3

あ

アイコン, コンテンツ・タイプ, 2-6

アクティブ化条件

コンテンツ・プロファイル, 8-9

コンテンツ・プロファイルでの編集, 8-32

コンテンツ・プロファイルの削除, 8-32

コンテンツ・プロファイルの定義, 8-31

アクティブ化条件 - 「Add Condition」画面

コンテンツ・プロファイル, 8-47

アクティブ化条件 - 「Clause」タブ

コンテンツ・プロファイル, 8-52

アクティブ化条件 - 「Conditions」タブ

コンテンツ・プロファイル, 8-46

規則, 1-5
 基本サブスクリプション, 6-3
 却下
 ワークフロー・リビジョン, 5-29

く

グローバル・ルール
 コンテンツ・プロファイル, 8-7

け

権限
 RepMan, 5-3
 検索オプション
 Link Manager, A-1
 検索索引
 再構築, 4-9

こ

公開サイクルの間隔, 7-12
 更新
 データベース, 4-9
 メタデータ, 5-11
 構成変数
 プロファイルでのメタデータ・フィールドの書式設定, 8-39
 コンシューマ, 1-6
 コンテンツ・アイテム
 削除, 5-20
 サブスクリプション解除, 6-8
 すべてのリビジョンの削除, 5-21
 チェックアウト, 5-28
 チェックイン, 5-10
 追加, 5-10
 変換のための再送信, 5-30
 リビジョンのチェックイン, 5-28
 コンテンツ・タイプ, 2-2
 削除, 2-4
 作成, 2-3
 設定, 2-1
 編集, 2-3
 コンテンツ・フィールド
 タイプ, 4-1
 コンテンツ・プロファイル
 「Add Profile "name"」画面, 8-85
 「Add Profile」画面, 8-84

「Add Rule "name"」画面, 8-41
 「Add Rule "name"」画面: 「Fields」タブ, 8-57
 「Add Rule Field "name"」画面, 8-61
 「Add Rule Field」画面, 8-59
 「Add Rule」画面, 8-91
 「Check In Link」/「Search Link」: 「Add Condition」画面, 8-90
 「Check In Link」/「Search Link」: 「Custom」タブ, 8-90
 「Check In Link」/「Search Link」画面: 「Conditions」タブ, 8-88
 「Content Item View」画面, 1-12
 「Edit Default Value」: 「Add Condition」画面, 8-68
 「Edit Default Value」: 「Conditions」タブ, 8-66
 「Edit Default Value」: 「Custom」タブ, 8-70
 「Edit Default Value」: 「Select Field」画面, 8-69
 「Edit Derived Value」: 「Add Condition」画面, 8-70
 「Edit Derived Value」: 「Conditions」タブ, 8-70
 「Edit Derived Value」: 「Custom」タブ, 8-71
 「Edit Derived Value」: 「Select Field」画面, 8-71
 「Edit Group Header」画面, 8-44
 「Edit Profile "name"」画面, 8-85
 「Edit Restricted List」画面, 8-72
 「Edit Rule "name"」画面, 8-41
 「Edit Rule "name"」画面: 「Fields」タブ, 8-57
 「Edit Rule Field "name"」画面, 8-61
 「Edit Trigger Field」画面, 8-75
 「Preview Profile」画面, 8-92
 「Preview Results」画面, 8-94
 「Profile Links」画面, 8-87
 「Profiles」タブ, 8-82
 「Rules」タブ, 8-40
 「User View」画面, 1-14
 アクティブ化条件, 8-9
 アクティブ化条件 - 「Add Condition」画面, 8-47
 アクティブ化条件 - 「Clause」タブ, 8-52
 アクティブ化条件 - 「Conditions」タブ, 8-46
 アクティブ化条件 - 「Custom」タブ, 8-54
 アクティブ化条件 - 「General」タブ, 8-48
 アクティブ化条件の削除, 8-32
 アクティブ化条件の定義, 8-31
 概要, 8-4
 既存アクティブ化条件の編集, 8-32
 グローバル・ルール, 8-7
 グローバル・ルールの削除, 8-29
 グローバル・ルールの作成, 8-28
 グローバル・ルールの編集, 8-28
 構成変数の書式設定, 8-39
 新規プロファイルの作成, 8-76

- トラブルシューティング, 8-79
- トリガー・フィールド - 定義, 8-4
- トリガー・フィールドの選択, 8-74
- トリガー・フィールドの無効化, 8-74
- プレビュー, 8-79
- プロファイルの削除, 8-77
- プロファイルの編集, 8-77
- プロファイル・ルール, 8-6
- プロファイル・ルールの管理, 8-77
- メタデータの並替えに使用, 8-19
- メタデータ・フィールド・グループへのヘッダーの追加, 8-30
- メタデータ・フィールドのグループ化, 8-15, 8-30
- メタデータ・フィールドの属性の定義, 8-33
- メタデータ・フィールドの属性の定義 - 制限付きリスト, 8-37
- メタデータ・フィールドの属性の定義 - デフォルト値, 8-34
- メタデータ・フィールドの属性の定義 - 導出値, 8-35
- メタデータ・フィールドの属性の編集, 8-37
- ルール内のメタデータ・フィールドと属性, 8-8
- ルールの削除, 8-28
- ルールの作成, 8-27
- ルールの編集, 8-27
- ルールへのフィールドの追加, 8-29
- コントリビュータ, 1-6

さ

- サービス
 - UNIX, 1-9
- 再構築
 - 検索索引, 4-9
- 再送信
 - 変換のためのファイル, 5-30
- 索引
 - 再構築, 4-9
- 削除
 - 基準サブスクリプション, 6-6
 - コンテンツ・アイテムのすべてのリビジョン, 5-21
 - コンテンツ・タイプ, 2-4
 - リビジョン, 5-20
- 作成
 - コンテンツ・タイプ, 2-3
- サブスクライブ解除, 6-8
- サブスクリプション, 6-2
 - 基準, 6-3
 - 基準の指定, 6-4

- 基本, 6-3
- 削除, 6-6
- 追加, 6-4
- 表示, 5-28
- 編集, 6-5
- ユーザーの追加, 6-5

し

- システム管理者
 - ドキュメント, 1-4
- 事前定義のメタデータ・フィールド, 4-4
- 実行
 - アプレットとしてのアプリケーション, 1-7
 - スタンドアロン・モードのアプリケーション, 1-8
- 指定
 - サブスクリプション基準, 6-4
 - ネイティブ・ファイルの変換方法, 2-4, 3-1
- 承認
 - ワークフロー・リビジョン, 5-28

す

- スキーマ
 - DCL, 7-3
 - インタフェース画面, 7-13
 - 親 / 子関係, 7-4
 - 階層構造, 7-4
 - 概要, 7-3
 - 関係, 7-7
 - 関係の作成, 7-11
 - 公開サイクル, 7-9
 - 公開サイクルの変更, 7-12
 - 構造の作成, 7-10
 - 作成, 7-9
 - スキーマの有効化, 7-11
 - スキーマ・ビューの作成, 7-10
 - ディレクトリ構造, 7-8
 - 動的オプション・リスト, 7-33
 - ビュー, 7-6
 - 表, 7-5
 - 表の選択, 7-10
 - マッピング機能, 7-3
 - メタデータ・フィールドの追加, 7-11
 - 例, 7-8
- スキーマで使用される表, 7-5
- スタンドアロン・モード, アプリケーションの実行, 1-8

せ

設定

- コンテンツ・タイプ, 2-1
- メタデータ, 4-1

た

タイプ

- オプション・リスト, 4-17
- コンテンツ, 2-2
- コンテンツの設定, 2-1
- 削除, 2-4
- 作成, 2-3
- 編集, 2-3

ち

- チェックアウト, 5-28
 - 取消し, 5-19
- チェックアウトの取消し, 5-19
- チェックイン
 - 新規コンテンツ・アイテム, 5-10
 - 新規リビジョン, 5-28

つ

追加

- オプション・リスト, 4-8
- 基準サブスクリプション, 6-4
- サブスクリプションへのユーザー, 6-5
- 新規コンテンツ・アイテム, 5-10
- 新規リビジョン, 5-28
- ツール, 管理, 1-7

て

データベース

- 更新, 4-9

と

動的オプション・リスト

- 作成, 7-33
- ドキュメント
 - システム管理者のドキュメント, 1-4
- トリガー・フィールド
 - コンテンツ・プロファイルでの選択, 8-74

- コンテンツ・プロファイルでの無効化, 8-74
- トリガー・メタデータ・フィールド
 - 基準, 8-73
 - コンテンツ・プロファイル, 8-4

ね

- ネイティブ・ファイルの変換, 2-4, 3-1, 3-2

ひ

- ビュー, 7-6
- 表示
 - サブスクリプション, 5-28
 - メタデータ, 5-11

ふ

- ファイル
 - 表示, 5-3
 - 変換のための再送信, 5-30
- ファイル形式
 - 命名, 3-2
- ファイル・タイプ, 変換プログラムとの関連付け, 3-4
- ファイル・タイプと変換プログラムとの関連付け, 3-4
- ファイルの表示, 5-3
 - Repository Manager フィルタ, 5-4
- ファイルの変換, ネイティブ, 3-2
- フィールド
 - タイプ, 4-14, 4-27
 - 編集, 4-7
- フィールドの順序, 4-15
- フィルタ
 - extractLinks, A-11
 - Link Manager 用, A-10
 - linkParseService, A-11
 - sortAndDecodeLinks, A-11
- 副管理者, 1-6
- プロファイル・ルール
 - コンテンツ・プロファイル, 8-6

へ

変換

- カスタム, 3-4
- ステータス, 1-18
- ネイティブ・ファイル, 3-2
- ネイティブ・ファイルの指定, 2-4, 3-1

ファイル・タイプとプログラムとの関連付け, 3-4
ファイルの再送信, 5-30

編集

基準サブスクリプション, 6-5
コンテンツ・タイプ, 2-3
メタデータ・フィールド, 4-7

め

命名

ファイル形式, 3-2

メタデータ

更新, 5-11
コンテンツ・サーバーのページでの並替え, 8-19
表示, 5-11

メタデータの並替え

コンテンツ・プロファイルの使用, 8-19

メタデータ・フィールド, 4-1, 4-2

概要, 4-3
事前定義, 4-4
順序, 4-15
タイプ, 4-14, 4-27
編集, 4-7

も

目的, Content Server, 1-5

ゆ

ユーザー, 1-6

サブスクリプションへの追加, 6-5

り

リビジョン

削除, 5-20
すべての削除, 5-21
チェックアウト, 5-28
追加, 5-28
変換のための再送信, 5-30
ワークフローの却下, 5-29
ワークフローの承認, 5-28

リビジョン・ステータス, 1-17

リフレッシュ・アクティビティ

「Managed Links Administration」ページの使用,
A-15
sortAndDecodeLinks フィルタ, A-11

カウントの更新, A-16
カウントを更新する手順, A-17
ステータス, A-15
ステータスの例, A-16
代替方法の使用, A-16
中断, A-16
中断の手順, A-18
リンクの検証, A-15
リンクの再計算, A-15
リンクを検証する手順, A-17
リンクを再計算する手順, A-17

リフレッシュ・アクティビティの中断

「Managed Links Administration」ページの使用,
A-16
手順, A-18

リンク管理

Site Studio, A-12

リンク・ステータス

有効または無効, A-5

リンク抽出

プロセス, A-3

リンクの検証

「Managed Links Administration」ページを使用する
リフレッシュ・アクティビティ, A-15
手順, A-17

リンクの再計算

「Managed Links Administration」ページを使用する
リフレッシュ・アクティビティ, A-15
手順, A-17

リンク評価ルール

概要, A-5
デフォルトの例, A-8
表の列, A-6

る

ルール

コンテンツ・プロファイル - グローバル・ルールの
削除, 8-29
コンテンツ・プロファイル - グローバル・ルールの
作成, 8-28
コンテンツ・プロファイル - グローバル・ルールの
編集, 8-28
コンテンツ・プロファイル - 削除, 8-28
コンテンツ・プロファイル - 作成, 8-27
コンテンツ・プロファイル - 属性, 8-8
コンテンツ・プロファイル - 編集, 8-27
コンテンツ・プロファイル - メタデータ・フィール
ド, 8-8

コンテンツ・プロファイル - メタデータ・フィールドの追加, 8-29
コンテンツ・プロファイルの管理, 8-77
デフォルトの例, A-8
表の列, A-6
リンク・パターンの概要, A-5

わ

ワークフロー
リビジョンの却下, 5-29
リビジョンの承認, 5-28

